

東洋大学 FD・SD 活動報告書

(2020 年度)

東洋大学高等教育推進センター

2021 年 4 月

コロナ禍のなかの高等教育推進センターの1年

高等教育推進センター長 村田奈々子

2020年度は、大学のあらゆる組織で、新型コロナウイルス感染症対策におわれた1年となった。高等教育推進センターもその例外ではない。感染拡大への懸念から、対面授業の実施は不可能となり、否応なくICTを活用した授業への転換がはかられることとなった。高等教育推進センターの4つの部会それぞれが、学生の学びを止めないために、質の保証が担保されたICT教育のありかたを模索する一年となった。

本年度のセンターの具体的な活動としては、以下の取り組みがあげられる。第一に、授業評価アンケート内容に変更を加え、コロナ禍のICT教育の実態の把握と分析を試みた。第二に、新型コロナウイルス感染症について正しい知識を持ち、「正しく恐れる」ために、学内有識者を招いて全教職員向けの講演を2回おこなった。第三に、FD・SDチャンネルを開設して、ICT教育と学生サポートのさらなる推進にむけて、全教職員への啓蒙活動をはじめた。第四に、コロナ禍で実際教育に携わる教員や学生をサポートしている職員の声を拾い上げるだけでなく、海外教育機関のコロナ禍における教育事情についてもメールマガジンを通して発信して、広く学内に周知する活動をおこなった。第五に、これからの教育のDX（デジタル・トランスフォーメーション）化を見据えた検討がなされた。

2020年6月、学長の諮問機関として発足した「遠隔授業の高度化と質保証に係る将来構想検討会議」では、高等教育推進委員会や全学カリキュラム委員会などの複数の先生方に参加していただいた。ここでの検討は、文科省の大学改革推進等補助金事業である「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」の採択に結実した。これから本学は、教育におけるDX化の一層の推進を目指すことになる。その際に、この「検討会議」で交わされたさまざまな意見は、中長期的な本学の教育の理想的なありかたの道標となっていくことが期待される。

今年度末の段階で、新型コロナウイルス感染拡大は収束の兆しをみせていない。私たちはもうしばらくコロナと共存しつつ、大学教育を継続していかなければならないだろう。高等教育推進センターは、コロナ禍のこの1年で得た経験と知見を十分に生かして、ポスト・コロナ時代の教育がどうあるべきかということも常に念頭におきながら、学生を主体とする高等教育の実現に貢献したいと考える。

目次

学部 FD・SD 活動報告	1
文学部.....	2
経済学部.....	5
経営学部.....	8
法学部.....	11
社会学部.....	15
理工学部.....	19
生命科学部.....	22
ライフデザイン学部.....	26
総合情報学部.....	31
食環境科学部.....	35
国際学部.....	38
国際観光学部.....	42
情報連携学部.....	61
研究科/センターFD・SD 活動報告	62
文学研究科.....	66
経済学研究科.....	68
経営学研究科.....	82
法学研究科.....	85
社会学研究科.....	90
理工学研究科.....	114
生命科学研究科.....	118
ライフデザイン学研究科.....	122
総合情報学研究科.....	126
食環境科学研究科.....	130
国際学研究科.....	133
国際観光学研究科.....	136
学際・融合科学研究科.....	138
社会福祉学研究科.....	144
情報連携学研究科.....	152
国際教育センター	154
高等教育推進センターFD・SD 活動報告	158
高等教育推進委員会	161

教育方法改善部会.....	165
FD・SD 研修部会.....	167
高等教育研究部会.....	171
教育開発・改革部会.....	173
付録	175
高等教育推進センター刊行物.....	176
東洋大学高等教育推進センター規程.....	180
東洋大学高等教育推進センターニュースレター VOL.3 アーカイブ.....	183

学部 FD・SD 活動報告

作成者 大豆生田 稔
松浦 和也

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

1) 『各年度データブック』による情報公開

例年、文学部における授業実績や教育に関わる各種取り組みについて、各年度の「データブック」として作成し、学部教育の基礎的な資料を共有している。この資料は各学科や関係部局からの情報提供に基づき構成され、ガルーンやホームページを通じて学内外に広く公開されている。

2) F D 講演会・研修会

例年 2 回程度、学内外の講師を招いて、講演会・研修会を実施している。講演・研修テーマは、学部内自己点検・評価委員会での検討をもとに、教員が共通に学ぶべき課題であり、かつ時機を捉えた内容を意識して設定されている。なお、2019 年度は海外大学との協定に向けた海外視察報告会、文学部授業評価アンケート分析報告会など、多様な視点を盛り込んだ講演会・研修会を実施した。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①『文学部自己点検・評価報告書（2019 年度データブック）』の公開

活動実績

例年通り、2019 年度の文学部の教育研究活動情報を各学科から収集し、「データブック」としてまとめ、ガルーンやホームページに公開した。

成果・課題

継続的な FD 活動を進めるためには、この「データブック」から得られたデータを分析して学科・学部の改善につなげる方法を模索する必要がある。また、改善のためのデータとして各学科からいかなる項目を収集するべきか、文学部全体で統一すべきか、それとも各学科に任せるべきか、といった課題は今後の検討課題である。

なお、今年度も紙媒体での印刷製本を行わず、ホームページ等で電子媒体による公開のみとし、刊行経費の削減を行った。

②FD 講演会・研修会

活動実績

【PROG テスト結果報告会】

就職・キャリア支援部で実施した PROG テストの結果が、テスト依頼先の株式会社リアセック担当者によりオンデマンド形式で報告された。

【FD 研修会】

株式会社 Libry 代表取締役 CEO 後藤匠氏による、ブレンディッド・ラーニングの活用をテーマとした Web 講演会が開催された。また、文学部ハラスメント研修会として、厚井久弥弁護士によるオンデマンド形式の Web 講演会が開催された。

成果・課題

PROG テスト結果の報告は、学生のジェネリックスキルを可視化する一助ではあるものの、そのデータ自体を文学部全体として実際の FD 向上に落とし込むための方策の検討が必要である。

他方、FD 研修会は、コロナ禍における高等教育の実践方法に向けたヒントとなるものであった。次年度以降に講義環境がどのように変化するかは予測できないが、現在の状況が仮に続いたとしても、各教員がより適切な講義のやり方に挑戦することに繋がると思われる。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/10/7 15:00-15:30 (オンデマンド) ※1	FD 研修会「PROG テスト 結果報告会」	FD	—	—	—	×
2020/12/2 15:00～16:00	FD 研修会「コロナを経験 した学校教育の変化」	FD	85	13	98	×
2021/1/22-3/31 (オンデマンド) ※2	FD 研修会「ハラスメント 防止研修」	FD	—	—	—	×

※1 オンデマンド形式につき、参加者数不明

※2 現在実施中

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2021 年度は、2020 年度の FD 活動を踏襲しつつ、学部長のイニシアティブの下、2021 年度文学部自己点検・評価委員会委員を中心に推進していくこととなる。

ただし、新型コロナウイルスによる今後の社会状況を予測することが困難であることから、具体的な FD 活動についてはある程度臨機応変に対応していく必要があると思われる。たとえば、これまで引き続いできたグローバル化に対応するための学生の海外派遣や、研究交流を推進する研修会・交流会等については、日本のみならず、相手方の国や都市の感染者状況を確認しなければならないし、実施するにしても、感染症対策とセットで計画・実施方法を策定することになる。

学生からの各種アンケートや適正テスト等の分析結果等についても、2020 年度のデータはこれまでのデータとはおそらく異なった傾向を見せると予想される。それゆえ、データの解釈にはこれまで以上に慎重な態度が求められるだろう。また、こちらも社会状況次第であるが、現状の環境下において学生満足度を向上し、学修環境を改善するためには、各教員に新たな講義スタイルに関するノウハウを獲得できるような研修会を弾力的に企画していく。

他方、緊急時ではあるものの、学生に適正な学修環境を提供するためには、引き続き ST 比や SS 比の改善も取り組むべき課題として残されている。この課題についても、同委員会を中心に検討を重ねていく。

以上

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

経済学部では授業評価アンケートを中心にして FD 会合・FD 研修会・FD 視察等の様々な組織的な取組を行っている。こうした活動によって学部の教育力は毎年着実に向上している。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①授業評価アンケート

活動実績

講義科目は全学方式，ゼミアンケートは学部独自方式で実施した。実施科目：講義科目（春学期 148，秋学期：集計中），ゼミ（春学期 19、秋学期 154）。

成果・課題

アンケート結果に基づいて授業改善に取り組むことができた。アンケート結果について経年的に集約し今後の資料としていきたい。今年度はコロナ禍における非対面講義に関して重要な学生の反応を得ることができた。

②FD 会合

活動実績

今年度は新型コロナウイルス蔓延による影響を踏まえ，春学期の会合は中止にして秋学期に非対面で実施した。また，春学期の講義経験を踏まえ，全ての分科会で遠隔講義をテーマにその課題と工夫等を共有することとした。

経済学科専門科目「遠隔授業に伴う問題点とその対応」

国際経済学科専門科目「遠隔授業に伴う問題点とその対応」

総合政策画家専門科目「春学期の遠隔講義の取り組みと課題についての共有」

基盤科目「非対面講義に関する問題点や工夫の共有」

英語：「2020 年度の授業の進め方・問題点」

初習外国語：「非対面授業における工夫や問題点について」

成果・課題

各分科会での議論の内容は報告会と報告書の作成を通じて共有をおこなった（11月5日実施定例教授会）。知見のさらなる共有や行動に向けたワーキンググループ化などを検討していきたい。

③FD・SD 研修会

活動実績

今年度は1回のFD研修会を実施した。矢野智子氏（高等教育推進支援室）による「学生の評価から非対面授業を振り返るー2020年度授業評価アンケート報告ー」を2021年3月4日にWebexで開催した。

成果・課題

本学で実施した授業評価アンケートに基づき、学生により伝わる遠隔講義の特徴等についてご講演いただいた。その後の質疑応答を含めて知見を深めることができた。

研修会等の参加状況

開催日	研修会名	参加者数（人）			HP掲載
		教員	職員	計	
2021/3/4	学生の評価から非対面授業を振り返るー2020年度授業評価アンケート報告ー	53	4	57	×

③学生との意見交換会

活動実績

コロナ禍での対応として、秋学期にオンラインで実施した。

日時：10月14日（水）12時15分～12時50分 ※Webex ミーティングによる実施

成果・課題

教員等を通じて周知を試みたが、学生の参加者はゼロであった。この点については今後周知の方法を検討していきたい。

3) 2021年度FD・SD活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

コロナ禍におけるFD・SD活動となり、規模の縮小ややり方の変更を余儀なくされたものがあつた。2021年度は、これら活動をどのように遂行していくのかを検討していく必要がある。

一方でFD 会合や講演会などを通じて、遠隔講義の課題や工夫の共有を行うなどポジティブな対応もできている。これら知見を 2021 年度の活動に生かし、さらに知見の蓄積と共有化を進めていきたい。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

新型コロナウイルス感染拡大により、2020 年度に予定していた対面の FD・SD 活動は、内容の再検討や非対面形式への変更を余儀なくされた。しかしながら、オンライン形式で実施した学部内 FD 活動は、非対面授業の方法共有や意見交換を通じて、学部教育全体の質の向上につながったと考えている。

FD 委員会では、学部の各教員が非対面授業という新しい形態に対応し円滑な授業運営をしていけるよう、特に春学期には教員間の情報共有や意見交換の場を多く設けた。また、秋学期には、前年度に計画した通り授業公開などを推進し、学部外の講師を招いての FD 講演会もオンラインで開催することができた。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 非対面授業に関する情報共有

活動実績

非対面授業の実施が決定された直後に、FD 委員会から学部内の教員に情報を提供するスレッドと、学部内教職員が自由に情報や意見の交換ができるスレッドの 2 本をガルーン上に開設した。両方共積極的に利用され、特に情報・意見交換のスレッドには開設後半年間で 300 件近い質問、意見、情報などが寄せられた。

成果・課題

非対面授業に関する学内外の最新情報を学部内教職員に周知でき、同時に、学部内の教員がお互いに情報交換しながら授業運営することができ有効であった。今後も継続して活用されることが望まれる。

② 授業公開

活動実績

授業公開は、例年通り各学科を主体として行った。例えば、経営学科ではガルーン上で 8 件の授業公開をしたのに加えて ToyoNet-ACE でも授業コースの公開を実施し、計 16 科目に延べ 93 名の教員（非常勤講師を含む）が登録した。マーケティング学科では、授業公開率 100%（16/16 名）で授業参観・視聴率は 100%（16/16 名）であった。

これらに加え、2020年度は初めて学部全体のFD活動としてガールーン上で授業公開を行い、有志の教員による延べ19本の授業動画やスライドが公開されて学部教職員に視聴された。

成果・課題

より良い授業運営を行うために教員同士が授業を公開して学び合うことは常に必要であるが、今年度は特にその意義が大きかったと考える。

③学部内FD研修会・講演会

活動実績

2020年度は3回の学部FD研修会・講演会をいずれもオンラインにより開催した。春学期には、授業開始直後と終了直後に学部内の複数教員が講師となり、非対面授業に必要な情報やスキルの共有、意見交換を行った。また、2月には本学総合情報学部から島田裕次先生を講師にお迎えし、「非対面授業における情報セキュリティ」というタイトルで講演をしていただいた。

成果・課題

いずれの研修会・講演会も、教員が非対面授業を行う上で直面する重要な内容を取り上げたので、円滑な授業の実施に貢献することができた。オンラインの開催ではあったが、多くの教職員が参加し、講演後には活発な質疑応答も行われた。今後は、HPによる積極的な周知を行いたい。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/4/29 14:30～15:30 (Webex)	FD 研修会 「第1回 非対面授業に関する情報交換会」	FD・SD	45	4	49	×
2020/7/29 16:30～17:30 (Webex)	FD 研修会 「第2回 非対面授業に関する情報交換会」	FD・SD	51	4	55	×
2021/2/24 15:00～16:30 (Webex)	FD 講演会（島田裕次先生） 「非対面授業における情報セキュリティ」	FD・SD	48	4	52	×

④ 学生アンケートの活用

活動実績

全学実施の在校生・卒業生アンケートの結果を活用するだけでなく、学科ごとに学期末アンケート等を実施し、その結果を学科会議で共有して教育の質向上に取り組んだ。経営学科では7月に新入生 322 名に対して実施し、回答率は 48.1%で例年とほぼ同じであった。

成果・課題

学生に対して適正な教育環境・内容を提供するために、アンケートの結果は学部・学科教員で共有し、学習到達目標に即した教育方法の工夫やアイデアを交換し合っている。

⑤ 授業改善のためのワーキンググループ

活動実績

今年度も各学科が主体となって授業ごとのワーキンググループを設け、教員間で教育手法を共有して授業内容の改善を図った。経営学科の基礎演習入門及び基礎実習講義 WG がこの例であるが、英語教育分野でも教育検討委員会を7回開催し、非常勤講師を含めた懇談会も毎学期行って非対面授業や新カリキュラムについて話し合った。

成果・課題

授業担当者による WG では、それぞれのティーチングスキルや解決すべき課題を共有することにより授業改善がなされ、教育の質向上に向けて大きな成果をあげた。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2021 年度 FD・SD 活動も引き続き、各学科と FD 委員会を中心に推進していく。授業に関する研修は、今後も非常に重要度の高いものと位置付ける。特に、ICT・デジタル活用による遠隔授業法や個人情報・プライバシーに関する情報のセキュリティ対策などについては、直接的・間接的に学生満足度の向上につながる要素となるため、計画的に立案する事が重要である。一過性のものとならないように、継続して専門的な知識やスキルを持った外部講師を招聘し、学部教職員の能力を組織的に高められるように期待するものである。同時に、学生アンケート等の活動についても継続的に実施し、学生にとってより良い学修環境を整備していく必要がある。2020 年度入学生に対しては、初年次教育が対面から非対面となった経緯より、直接的な指導が不十分であったと感じられるため、2021 年度では、4 年間の学びを実りのあるものとするためのサポート体制を整備したいと考える。学内外で実施されている FD・SD 講演会・講習会については、学部教職員へ積極的に情報を提供するだけでなく、参加を促す事が重要であると考え。そこで得られた知見を学部内で共有することにより、カリキュラムや自己点検・評価などの学部・学科の教育に対する関心や意識の向上となることを期待する。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

法学部では教育の質を高めるべく、全学の取り組みである授業評価アンケートやシラバス・チェックなどの FD 活動に積極的に参画するとともに、学部内での独自の工夫もしてきた。とくに、FD 学習会や学期末試験受験者代替措置の実施、単位僅少者面接などでは学部内の他の各種委員会との連携の下、課題を確認してきた。さらに、保護者との連携を視野に入れた活動を基本的な柱とする学部独自の FD 活動を実施した。継続的な活動を毎年実施しつつ、適宜工夫や改善を盛り込み、学部全体の教育能力の向上に努めた。

加えて、特に 2020 年度はオンライン授業の実施という新たな課題を遂行する際に、教員が FD 活動の枠をこえた自発的な情報交換の場をもち、教職員全体で教育の質保証に向けて取り組んだことも、ここに挙げておきたい。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 授業評価アンケートの実施

活動実績

春・秋の各学期に本学高等教育推進センターによる全学統一フォーマットを用いた授業評価アンケートを実施した（春学期：177 授業、秋学期：165 授業）。授業評価アンケートの実施後には、学生にフィードバックできるように授業担当者からのコメントをまとめ、公表した。2020 年度は、オンラインでの非対面授業の実施や試験の実施にあたり、学生の意見を収集し、学習成果、志望進路（公務員志望など）に関する質問項目を設け、どのような学生が履修しているのか担当教員が把握できるように工夫している。

成果・課題

前年度（春学期 172 科目、秋学期 169 科目）とほぼ同程度の科目数について授業評価アンケートを実施することができた。前年度の 2019 年度は、2018 年度より実施対象の科目数を一割以上増加したが、2020 年度も引き続き、相対的に多くの科目をアンケートの対象にすることができた。本アンケートにより各教員が自分の授業を客観的に振り返る良い機会となった。アンケートの回答率を増加させることができるように引き続き取り組むことが課題である。

②単位僅少者面接の実施（学部 FD 委員会、学生生活委員会合同）

活動実績

留年率や退学率の低下につなげるべく、修得単位が少ない学生に対する個別面談を、前年度は 4 月に学部 FD 委員会委員と学生生活委員会委員が実施し、教員が学生の相談に乗るとともに助言を行った。今年度は、秋学期の開始前の 9 月中旬に、オンラインでの個別面談を行った。

面接の時期及び実施方法は異なるとはいえ、面接後に、面接担当教員の報告を基に、課題を確認し、教務課と密接な連携の下、前年度と同様に対応した。オンライン授業に取り組む環境整備の要望も学生からだされ、それに対応し、適切な学習環境を整備した。また、面接対象者の保証人に「単位僅少者面接結果通知」（欠席者には欠席通知）と「修学状況調査書」を送付した。欠席学生には「修学状況調査書」を後日教務課まで提出させ、学修状況の把握や学生との面接といったフォローアップを教務課で行った。

成果・課題

教員に直接悩みや状況を話し、アドバイスを得ることにより、学生の勉学へのモチベーション向上につながったケースが多々見られた。今後も、面接に欠席する学生数をどのようにしたら減らすことができるのか、また、欠席学生をどのようにフォローするのかということに対して引き続き取り組むことが課題である。

③保護者との連携を視野に入れた取り組み

活動実績

法学部生の保護者に「14（とーよー）メール」と題したメールマガジンを毎月 14 日に配信し、教育活動の紹介や行事予定の案内、各種事務手続きなど様々な情報提供を教職員が行っている。2020 年度の配信件数は延べ 14,728 件（2019 年度 17,683 件）となっている。

成果・課題

大学側から直接保護者に連絡することで、保護者が大学の様子を身近に感じられる一助となっている。保護者のニーズに応える情報をさらに多く提供することが今後の課題である。

④法学部 FD 学習会の開催

活動実績

教員主体の FD 学習会を 11 月に開催し、今年度着任した教員による基礎演習についての授業内容の紹介に引き続き、課題についての率直な報告をうけた。基礎演習は 1 年生を対象に春学期に学部全体でも授業の進め方について検討しており、FD 学習会の報告後に質疑応答を通じて情報を共有し、次年度の課題も明確にできた。詳細は「研修会等の参加状況」を参照。

なお、FD 委員会としての活動ではないが、2020 年度に実施した非対面（オンライン）授業の運営方法や取り組み方についての意見交換が、学部全体でもたれたことは今年度の特徴であり、

実質的に授業の改善に寄与するものであるため、報告しておきたい。1つは、教授会後に、非対面授業の意見交換会が3度開催され（1回目 6月2日、参加者数：51名、2回目 7月7日、参加者数：51名、3回目 10月6日 参加者数：50名）、授業の運営・課題、また学期末試験の対応などについて、課題を共有し、要望への対応も確認した。2つは、教員により、自発的な意見交換会がガルーンを通じて活発におこなわれたことである。

成果・課題

2020年度の新任教員により、1年生の春学期に開講した基礎演習について、その運営方法や工夫、そして課題について教員間で議論した。2020年度はオンラインでの授業実施であったため、演習形式の授業を、相互に対面していない新入生に実施するのは、新任教員のみならず他の教員にとっても、工夫を要するものであった。今年度は、FD学習会の実施回数自体は例年よりも少なかったが、質的には実りのある内容となった。新任教員は、授業運営についてアドバイスを受けることができた一方、参加した教員もまた、報告者から学ぶことで、自らの授業のさらなる改善を図る契機となった。

そして、先述の「活動実績」にあるように、非対面授業等に関する意見交換会が複数回もたれ、春学期にFD学習会をあらためて実施する形式的な必要はないほどであったことは2020年度の成果であるといえる。

今後もFD委員会としては、教員のニーズや現実に応じた、より実用的な内容をFD学習会として企画していきたい。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/11/24 15:30～16:30	FD学習会 根岸講師：オンラインでの法 学基礎演習の実施内容と課 題・悩み」 北岡講師：法学基礎演習(2020 前記)講義の実践例と来期に 向けた課題と対応	FD	50名	5名	55名	無

3) 2021年度FD・SD活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

今年度の実績を踏まえ、2021年度も適宜工夫を凝らしながらFD活動を引き続き実施していく。その際、単位僅少者面接では2020年度にも行ったように、学生生活委員会と緊密に連携し

て進めていくことを予定している。さらに、2021 年度は、教職員からの要望に応じて学部 FD 委員会を中心に企画を立てることに努めたい。FD 学習会を一層充実させ、教職員全体で教育の質保証に向け、取り組みたい。

また、学部 FD の活動を大学のホームページで報告する体制を整えることも計画したい。

作成者 箕曲在弘（社会学部 FD 推進委員長）

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2019 年度は、4 月の FD 推進委員会を皮切りに社会学部における FD 活動を開始した、主な行事としては、5 月の社会学部新任教員 FD 昼食会、7 月の英語による授業ノウハウを学ぶための講演会、12 月の初年次教育の取り組みと課題に関する各学科からの報告といった試みを実施するなど、年間にわたって活動を展開した。一方、3 月に予定していたキャリア委員会との合同研修企画である「対話の教室」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて延期となった。

2019 年度の反省を踏まえて、2020 年度は基本的にはこれまでの取り組みを継承しつつ、新任教員 FD 昼食会と年間 3 回の研修会を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、具体的な計画を立てるための委員会を開催することすらまならなかった。しかし、オンライン授業への対応という新たな課題が浮上し、以下 3 点の計画を立てた。

- ① ガルーンスペース上におけるオンライン授業に関する情報交換の場を開設する計画を立てた（社会学部全教員と一部の職員が参加）。
- ② 外部講師を招いて、昨年度延期となった「対話の教室」をオンラインによる対話という主題に変えて実施する計画を立てた。
- ③ 春学期の授業に対する学生からのアンケート結果を踏まえ、評価の高かった授業の担当者にオンライン授業の運営方法についてノウハウを共有してもらう計画を立てた。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① ネット授業の実施方法についての情報共有

活動実績

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、2020 年度春学期はすべてオンラインによる授業となった。この結果、各教員は未知のオンライン授業への対応に追われた。社会学部では 4 月 7 日に「4 月 27 日からの授業開始に向けて、質の高いネット授業を実施できるように、利用システムごとに情報を提供し合い、アイデアを共有」することを目的として、ガルーンスペース上に教員間の意見交換ができるスレッドが立ち上がった。

成果・課題

同スペース内には、話題ごとに以下のスレッドが立ち上がった。

- ・ ネット授業全般についての情報交換（76）

- ・ ToyoNet-Ace 利用の一般的問題に関する情報交換（16）
- ・ ToyoNet-Ace 上のコンテンツに関する情報交換（11）
- ・ YouTube によるライブ配信の活用法（18）
- ・ Webex Meeting の利用方法や問題点（53）
- ・ Webex Teams の利用方法や問題点（32）
- ・ フォルダに設定されたテーマ以外のシステムの利用（33）
- ・ ネット授業の運営方法についてアイデア交換（3）

* 括弧内は、書き込みの数。

参加者は社会学部全教員および社会学部教務課職員、情報システム課職員の合計 86 名である。

この仕組みをつくり、活発な意見交換が行われた結果、オンライン授業の実施における混乱はいくらか緩和できたといえる。書き込みの数が増えると、知りたい情報がすでに話し合われたものなのかどうかを検索するのに時間がかかるという問題が起きる。しかし、新たな話題が生まれたところで学部長が新たにスレッドを立て、話題ごとに小グループを作るということをこまめにしていたために、この問題はかなりの程度、改善したといえる。

②対話の教室

活動実績

実施日：2020 年 11 月 17 日（火）18:15 ～ 19:45

キャリア委員会との共同で、教育機関や企業向けに「対話の授業」を行ってきた鈴木篤司氏（特定非営利法人 THOUSAND-PORT 代表理事）から専門的な知識・指導方法を伝授いただくセッションを行った。セッションは講義、議論、ロールプレイから成り、それを教員が経験した。セッションの様子をビデオ撮影し、対話の授業実施の際に、視聴できるようにした。鈴木氏によるセッションの内容は以下の通りである。学部教授会における呼びかけの結果、教員 7 名が参加した。

以下の 3 つフェーズに分けて実施内容を記す。

1. 準備編（オンデマンド：90 分）

何故「対話（Dialogue）」が求められているのか？（15min）

→官僚も白旗を揚げる「VUCA ワールド」／「脱正解」へ。「対話」が「アンラーニング」を加速する

対話とは何か？（30min）

→「対話」が産む「新しい関係性」／「正」から「善」へ。

対話講座（授業）の設計（45 分）

→まずは「場」づくり／対話の質を決める「良質な問い」／対話に「失敗」はない

2. 実践編（90 分）（同時双方向）：11 月 17 日（火）

対話の授業のロールプレイと指導

3. 振り返り編（60分）（自身の講座への実装に向けて）

今後、セッションの内容をもとに「対話」を行うための学生向け教材を鈴木氏と参加教員とで開発する。

成果・課題

Zoom のブレイクアウトセッション内での学生同士の対話の様子を教員が観察する時間があった。学生の様子がよくわかり、勉強になった。ここでは学生の発言を「待つこと」の重要性を実感した。とくこの試みについて課題は見つからなかったが、もっと多くの教員に参加してもらいたかった。

③オンライン授業における GOOD PRACTICE の共有

活動実績

実施日：2020 年 12 月 9 日（月）17:00 ～ 18:00

春学期に行われたオンライン授業について、学生へのアンケートを 9 月に実施し、その中で「よかったと思う授業方法」を尋ねた。結果をもとに、方法の異なる 3 人の先生方に、実践された授業方法を紹介していただく機会を、12 月 7 日（月）の教授会終了後に設けることにした。当日は、下記 3 名の先生方に、それぞれの内容についてご説明いただいた。

① 須田木綿子（社会福祉学科）：音声付きパワーポイントを用いた実践

学部開放科目の「高齢者福祉論 B」（履修者数 304 名）の授業運営の経験をもとに、学生を飽きさせない授業の仕方について解説していただいた。

② 米原あき（社会学科）：大人数授業における Zoom のブレイクアウトを用いた実践

学部開放科目の「国際社会学 A」（履修者数 285 名）の授業運営の経験をもとに、大人数授業にも関わらず、学生を巻き込んで少人数グループを複数作り、学生同士の対話を促す工夫について解説していただいた。

③ 尾崎由佳（社会心理学科）：YouTube を用いたオンデマンド授業の実践

学部開放科目の「認知心理学 B」（履修者数 519 名）の授業運営の経験をもとに、YouTube を用いたオンデマンド授業のスタイルにおいて学生を飽きさせない内容にする工夫について解説していただいた。

また、ガールズスペースの「ディスカッション」を利用して、まず先生方に紹介文とファイルをアップしていただき、各ディスカッション内でのコメントの入力により質疑応答等を行うことにした。

成果・課題

春学期に急ぎょ全教員がオンライン授業への対応を求められたが、春学期を通して様々なノウハウが蓄積されていった。今回 3 名の教員のタイプの異なる授業づくりについての解説を聞

き、自分の授業にも取り入れたいと思える要素が多々あった。全員試行錯誤している中で、こうした実践例を数多く共有していくことは、今後のオンラインの活用に向けて意義あることであると実感した。

一方で、3名の教員の話しか聞く時間が取れなかったのは残念であった。ほかにも多くの教員の試行錯誤の様子を聞きたかった。また、ガールスペースに「ディスカッション」の場を設けたが、ほとんど書き込みがなかったのでは残念であった。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/4/9～7/31	ネット授業の実施方法についての情報共有	FD・SD	79	7	86	×
2020/11/17 18:15 ～ 19:45	対話の教室	FD	7	0	7	×
2020/12/9 17:00 ～ 18:00	オンライン授業における GOOD PRACTICE の共有	FD	79	8	87	×

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大のあおりを受けて、これまで通りの FD 推進活動ができなかった。しかし、次年度はまた例年通りの活動ができるようにしたい。以下、予定している計画である。

① FD 委員会の定期的な開催

社会学部 FD 委員会を年 4 回開催することを目標とする。

- ・ 5 月上旬 年間計画の再確認
- ・ 7 月下旬～8 月上旬 次年度予算要求のための計画の立案
- ・ 12 月上旬 年内の計画の進捗状況の確認および報告書の作成
- ・ 1 月下旬 報告書作成と当該年度の活動内容の反省及び次年度への引継ぎ事項の確認

② 新任教員に対する FD

新年度開始時に、社会学部新任教員との交流を深め、本学の授業に関する FD 研修を実施。

③ FD 講演会の開催

当該年度の FD 講演会の実施の具体案を第 1 回 FD 委員会で企画する。

④ 年間活動報告書作成

報告書の作成に向けてスケジュールを確認し、各委員の担当部分を決定する。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

今年度は新型コロナウイルスの影響により、対面による教育および学習支援は制限されることとなったが、理工学部では学士力の質を保証し、学生に専門教育を提供するように努めた。そこで 2020 年度は非対面を中心としながら従来の FD・SD 活動を継続できるように取り組んだ。講義の多くが遠隔授業となり、特に初年次教育における学士力の保証は不透明であったが、春学期における 1 年生の平均修得単位数は約 20 単位、平均 GPA は 3（平均評価 B）を超えており、例年より高い修得率であった。この結果は理工学部教職員の努力により例年の水準を維持できたものと捉えている。また理工学部生の学修意欲を向上させ教員の教育力を高めるために、アクティブラーニングに関する講習会を検討していたが、遠隔授業が中心となったことから教員・学生が留意すべき情報セキュリティについて学ぶ機会を設けた。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①川越キャンパス FD 講演会

活動実績

日 時 2020 年 12 月 22 日以降（オンライン配信）

講 師 島田裕次

テーマ 遠隔授業とセキュリティ

成果・課題

総合情報学部教授 島田裕次先生が「遠隔授業とセキュリティ」と題して講演された。講演ではコロナ禍での非対面授業実施において、教員・学生が留意すべき点を、最新の事例を交えて解説して頂いた。理工学部教職員 116 名が視聴した。遠隔授業におけるセキュリティ対策について、本学教員が知る機会となった。

②基盤教育科目の学習支援

活動実績

基礎科目学習支援室

英語学習支援室・GCS 講座

成果・課題

基礎科目学習支援室では、支援体制の整備に時間を要したため、5月下旬から学生のサポートをオンラインで開始することができた。9月に行われた微分積分学の補講期間では、昨年よりも支援室の利用回数が大幅に超える値となった。学習支援の成果として、微分積分学の合格率は2020年度春学期履修者577名中、合格者519名(89.9%)であり、2019年度春学期履修者630名中、合格者は397名(63.0%)よりも高い水準であった。秋学期から予約制による対面での学習支援を開始した。最も利用回数が多い試験期間中(1, 2月)を除くと例年の1/3程度の利用回数に留まったが、3密を回避しつつ学習支援体制を維持できたものと捉えている。

英語学習支援室およびGCS講座では、春学期から9月末までWebex(旧 Webex Teams)を利用したオンラインでの学修支援を行った。この期間の利用者数は346名であった。これは昨年の6%と大きく減少したが、一方で、1, 2年生の利用者数は8割以上を占めており、例年の76%よりも高い利用率であった。秋学期以降もリモートを中心として学習支援を行っており、対面での実施は原則として予約制で対応した。

次年度は状況を踏まえて、学生の学習支援に取り組みたい。

③グローバル化への取り組み

活動実績

英語による授業科目の開講 ⇒外国語で行う授業科目数：97科目
外国語で行う授業科目実施率8.9%

成果・課題

外国語で行う授業科目は殆どが遠隔授業であったが、例年と同程度の開講コース数を維持することができた。しかし授業科目の実施率は10%未満であり、履修者数が少ない状況を改善するには時間を要すると思われる。外国語に対して学生の学修意欲を高める工夫を情報共有することで、実施率を向上に努めたい。

2020年度は理工学部卒業生からTGLゴールド認定者が2名、シルバー認定者が6名、ブロンズ認定者が11名であり、今までで最も認定者が多い年となった。

3) 2021年度FD・SD活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

新型コロナウイルスの影響により、大学講義、学習支援の多くが非対面形式であった。今年度、各教員が遠隔授業において経験した課題、授業改善に取り組んだ工夫を情報共有して、2021年度の講義に活かす考えである。平常の学習支援・履修指導は非対面でも実施可能であり、細やかな指導が実現できるかもしれないと捉えている。また今年度は対面形式での学修相談会を開催できなかったが、単位僅少者の保証人に文書を郵送し、各学科の担当者の連絡先を

記載することで、フォローを行った。2021 年度以降は、遠隔での面談の可能性も検討したいと考えている。

2021 年度は例年取り組んでいる FD・SD 活動を継続し、理工学部教員と川越事務部職員が学生の学士力保証を目指した教育に努める。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2020 年度の FD 活動を構想するにあたっては、次の 3 点に留意した計画を立てる予定であった。

- ・ 生命科学分野との関連が深い FD・SD 研修会等の実施
- ・ 教員の学生理解力や対応力を増進するための取組の実施
- ・ FD 研修会等への教員の出席率の向上

ところが、2019 年度末頃より大きな問題となった新型コロナウイルスの感染拡大のため、大学内外の環境が大きく変化することを余儀なくされた。“平時”とは異なる先行き不透明な状況の下、2020 年度の FD 活動は大幅な見直し・変更を迫られ、周囲の状況を見ながら手探りで進めていくこととなった。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① TA・SA 研修会

活動実績

新型コロナウイルスへの対応として、4 月 6 日より学生のキャンパス入構が禁止となった。そこで TA・SA の募集および応募書類の配布はメールや大学 HP 等で行い、応募書類の提出は郵送で行うといった措置をとった。希望学生の集約も含めて、板倉事務課が先導的に動いてくれスムーズに対応できた。

採用者に対して実施する講習会については、今年度は 4 月中に高等教育推進センターが学年歴および「非対面授業（メディア授業）実施ガイドライン」に則りながら、1 時間に相当する非対面での研修を ToyoNet-ACE 上で実施した。本学部の TA・SA もその研修に参加している。

また、組織的な研修活動ではないが、各授業担当者等からその授業に参加する TA・SA らに個別・具体的な指示や助言がなされており、特に今年度のような場合はそうした機会が数少ない実践的な支援として有効に機能している。

成果・課題

春学期は対面授業が全面的に中止となったことから、TA・SA も活動をする機会がほとんど無かった。また秋学期も対面授業は部分的にしか再開していない。よって「成果」について明確に述べることは難しいが、特段の問題等なく推移している。

本学部は理系の学部であるため、教育活動における実習や実験の意義や役割が大きい。またそれに費やす労力や時間等も文系学部の比ではない。こうした事情から T A や S A の資質・能力の向上は極めて重要である。特に実習や実験では安全管理の問題が大きく関わってくることから、T A ・S A の研修については一層の充実が求められる。よってそうした見地からのオンライン研修に関する振り返りが必要で、今後活かされることが求められよう。

② 授業評価アンケート

活動実績

高等教育推進センターによる全学的な取り組みとして「授業評価アンケート」がある。生命科学部も春学期・秋学期のそれぞれに参加・実施を行った。自己の担当科目の中から、専任教員は春・秋それぞれ2科目以上、非常勤講師はそれぞれ1科目以上を実施科目として選定している。

高等教育推進センターが策定する全学共通の質問項目（春学期は5つ、秋学期は9つ）に加えて、生命科学部独自の質問項目として次の6つを設定した：

1. あなたはこの授業の予習や復習をして意欲的に学習しましたか。
2. 教員は授業時間内・外の質問に快く応じ、適切な説明をしましたか。
3. あなたはこの分野の知識を身に付けましたか。
4. 教員から自主的な学習を促すための工夫や助言がありましたか。
5. 教員は学生の反応・理解度を確認しながら授業を進行しましたか。
6. 教員は学生の理解を深めよう、能力を高めようとの熱意・努力が感じられましたか。

これらの質問項目は昨年度のを踏襲しているが、今年度は非対面授業が大幅に増加したために遠隔授業のアンケートとしても使用できるかどうかの検討が必要となった。学部の教員から意見を募ったところ、5番目の質問についてはオンデマンド型の授業の場合に低評価が集中する可能性が指摘された。そこで高等教育推進センターに照会の上で、5番目の質問は対面型および同時双方型の授業の受講者のみが回答をすることとした。

なお、春学期の授業評価アンケートについては、全学での有効回答率が39.49%であったことが報告されている。また、春学期・秋学期の結果についての詳細は、2021年3月頃に各学部長宛に送付の予定とのことである（2020年度第4回高等教育推進委員会より）。

成果・課題

結果についての詳細がまだ出ていないため、ここで成果等について記すのは難しい。ただ、今年度は非対面式の授業を前提とした授業評価アンケートが初めて本格的に実施された年で、次年度以降も対面式を主流としながらも非対面式の授業も取り込んで学習の高度化が目指されている。よって、今年度の授業評価アンケートからは多くの知見や気づき期待でき、それらを1つでも多く次年度の教育活動へ反映させて質の向上を図ることが課題である。

③ F D ・ S D 研修会

活動実績

コロナ禍で人の移動が制限されたため、従来のように講師を招聘しての研修会の開催見通しが立たなくなった。春学期は様子見の状態で推移したが、コロナ禍での大学活動に皆が慣れてきた秋学期に講演会を2本開催した。内容はコロナ禍での学生指導・対応に必要なものとし、いずれもオンライン形式で実施した。また実施にあたっては、生命科学研究科 F D 委員会と連携しながら共催という形で行っている。

成果・課題

コロナ禍では大学教職員だけでなく学生にも大きな負担が掛かった。具体的には、就職活動や学生生活といった、人との関わりが本質的に求められる場面での活動に大きな困難が発生するようになった。そうした学生へのサポート能力の向上のため、以下のような講演会を計画・実施した。

活動記録一覧

日程	活動内容	F D ・ S D 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/1/18 13:15～14:45	「コロナ禍／ポストコロナ禍における学生の就職活動と就活支援のポイント」（講師：ベネッセ i-キャリア教育事業本部・矢竹秀行氏）	F D ・ S D	25	1	26	×
2021/3/24 13:00～14:00	「コロナ禍における学生の困難と心理的支援」（講師：慶応義塾大学学生相談室・中村麻里子先生）	F D ・ S D	26	8	34	×

Zoom や Webex を使った遠隔開催であり、実行にあたっての不安もあったが、春学期に各大学が一斉にオンライン化へ舵をきった事情もあってか、通信アプリもしっかりと機能し特段の問題もなくスムーズに開催できた。講師にも板倉キャンパスまでご足労を掛ける必要もない。また教職員にとっても参加しやすい上に、参加できなくても講演会を動画記録しておけば後で視聴することもできる（1 本目の講演会は録画して Youtube 上に限定公開している）。こうした開催方法は今後も採用されて良いと考える。

ただ、通信機器への負担軽減や誤作動防止のため、講演会中は発言者以外のカメラやマイクはオフとしている。互いの顔が見えないことからの不安や不確実性をどう解消するか、今後の課題となろう。

④ 全国私立大学 FD 連携フォーラム・オンデマンド講義

活動実績

本学が加盟している「全国私立大学 FD 連携フォーラム」は、立命館大学にサーバーを設置して FD・SD 活動用のさまざまなビデオ教材をオンデマンド方式で提供している。今年度はコロナ禍で人の移動に大きな制限が加えられることから、オンラインで受講できる JPFF のオンデマンド講義への期待が高まった。そこで生命科学部では、高等教育推進支援室に支援をいただきながら全教員揃っての団体申し込みを行い受講できる体制をとった。

成果・課題

教員各自が各自の必要やペースに応じてできるのがこの種の学習のメリットである。コロナ禍でも全く安心して利用できる F D 機会であり、各教員がうまく活用していることと期待したい。

一方で、成果や課題は各教員の自己分析や自己判断に委ねられて、可視化・客観化が図りにくいのが考慮すべき課題でもある。これから何らかの対応が必要になる可能性がある。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

新型コロナウイルスの収束／終息が見えない中、次年度以降も大学の状況や社会環境を見ながら臨機応変に対応することが求められよう。よって事前の計画のもとに FD・SD 活動を進めることは困難と考えられる。

その一方で、こうした状況の中で大学教員に求められる新たな資質や能力などもクローズ・アップされるようになった。そこで以下のような点に注意を払いながら FD・SD 活動を展開していきたい。

- ・ ICT や非対面授業の運営や実施に関する力量を伸ばす
- ・ 理系学部の特質である実習・実験授業の多さに起因する諸課題へ対応する
- ・ コロナ禍による不利益を学生が抱え込まないよう的確にサポートする

(以 上)

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2019 年度までは、①FD 研修会の開催（年に 2 回）、②学生との意見交換会、③シラバス点検、④授業評価アンケート、⑤TA 研修会の実施を主な活動とした。2020 年度については、コロナ禍のため、授業方法を大きく見直すことが求められ、すべての教員が新たな授業準備と実施に追われることとなった。春学期については、原則すべて非対面、秋学期については、講義については原則すべて非対面、演習と実習については、原則、対面・非対面授業を隔週で交互に実施することとなった。2020 年度の FD 活動については、まずは、教員の負担とならない範囲で実施することとし、基本的には 2019 年度までの活動を継続させることを主眼とした。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①WEB 授業研修会（古川和稔教授主導）

活動実績

2020 年 3 月 28 日に、生活支援学科の古川和稔先生（当時は FD 推進委員）主導により、Web 授業準備を呼びかけるメールが学部の全教員に配信され、Web 授業に関する情報交換が教員間でメールにより行われた。また、4 月 6 日（月）11 時より、Webex Training 研修会を Web 会議システム Webex Training により開催。その後も、「ライフデザイン学部 FD 研修会」の Google 共有ドライブをつくり、共有ドライブ内で情報共有を行った。この共有ドライブの参加者は、教員、職員合わせて 71 名。また、情報システム部の藤原喜仁氏や朝霞情報教育支援室の南真樹氏にもサポートいただいた。

成果・課題

この研修及び情報共有により、何とか Web 会議システムによる授業に漕ぎつけることができた教員も多く、大変、有意義で、ありがたい機会であった。

②授業方法を共有する会（健康スポーツ学科）

活動実績

2020 年 10 月 7 日（水）13 時 30 分より、Webex Meeting にて、健康スポーツ学科教員による、春学期の授業方法について共有する機会を持った。

成果・課題

春学期に実施した非対面の授業方法を参加者で共有することができた。講義、演習、実習においての工夫や学生の反応、失敗などを知ることができ、秋学期の授業に大いに生かすことができた。

③ポストコロナ時代に向けて授業方法を考える

活動実績

* 日時 2020年12月2日(水) 15:10~16:40

* 場所 Webex Meeting によるオンライン開催

* 講演者と講演内容

渡辺裕美(生活支援学専攻)・・・ハイブリッド介護実習Ⅱの試み

内田千春(子ども支援学専攻)・・・ToyoNet-ACEをベースにした学生相互交流の試み

鈴木智子(健康スポーツ学科)

・・・双方向型実習系オンライン授業「エアロビクス指導法」の試み

勝平純司(人間環境デザイン学科)

・・・Googleアプリを活用したリモート授業を充実させるための試み

ライフデザイン学部 F D推進委員会主催

ポストコロナ時代に向けて 授業方法を考える

本学部では秋学期以降、対面授業を積極的に実施していますが、しかしながら非対面授業との併用やハイブリッド型の授業展開など、まだまだ目の前の課題は山積み状況です。
今回はこのコロナ禍のなかで、各学科・専攻にて実践してきた授業方法や内容を紹介し、今後の授業実施におけるさらなる可能性を探っていきます。

日時 12月2日(水) 15:10~16:40
場所 オンライン開催(Webex利用)
発表者 (敬称略)

- ◎生活支援学専攻・・・渡辺裕美
～ハイブリッド介護福祉実習Ⅱの試み～
- ◎子ども支援学専攻・・・内田千春
～ToyoNet-ACEをベースにした学生相互交流の試み～
- ◎健康スポーツ学科・・・鈴木智子
～双方向型実習系オンライン授業「エアロビクス指導法」の試み～
- ◎人間環境デザイン学科・・・勝平純司
～Googleアプリを活用したリモート授業を充実させるための試み～

対象 本学教職員

☆事前の参加申込は不要です。
☆Webex招待等は追ってガールーンにてお知らせします。

問合せ先 朝霞事務課(内線:6407)



成果・課題

他学科・他専攻の試みを知ることができ、とても良い機会であった、参考になったとの意見を多数得ることができた。また、ToyoNet-ACE のプロジェクトや Google Classroom のループリックなど、新たな機能を知ることができたとの意見もあった。加え、方法を紹介いただくだけでなく試す時間も欲しいとの要望もあり、今後の研修会の課題としたい。さらに、多くの先生方が、学生の不安を取り除いたり、学修意欲を引き出すために、非対面であっても、コミュニケーションを取ることを心がけており、100 人以上の履修生に毎回コメントを返すなど多大な苦勞をされている先生もいらっしゃることはより良い授業づくりを考えるにあたって大変刺激になった。一方、手をかけるだけでなく、効率化も目指さなければと自身の授業の振り返る先生もおられ、学科を越えて共通する悩みを抱えていることもわかり、今後もこのように共に授業方法を考える機会が必要であることを痛感した。

④子ども支援学専攻 FD 会議（子ども支援学専攻）

活動実績

2021 年 2 月 24 日（水）14 時より Webex Meeting にて、開催。1 年春学期の「子ども支援学概論」、1 年秋学期の「子ども支援学演習Ⅰ」、そして 2 年次の「子ども支援学演習ⅡA および B」の内容を子ども支援学専攻の教員で報告し合い、よりよい初年次演習の在り方を検討するとともに、次年度への具体的な改善案や指導方法の共通化と独自化のライン、評価方法の共通化について議論した。

成果・課題

子ども支援学専攻における教育の土台となる初年次教育について、全体で確認し共有作業を行うことによって、初年次教育のゴールとそれに向けての教育内容について改善するための議論を行うことができた。また、これまでは教員個々に委ねられていた評価基準を共有し、次年度の評価に活かす方途を話し合うことができた。この取り組みは年度内にさらに一回実施することが予定されている他、次年度も継続する予定である。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/3/28 ～春学期	WEB 授業研修会 Google 共有ドライブでの情 報共有他	FD			70	×
2020/10/7 13:30～	授業方法を共有する会 (健康スポーツ学科)	FD	7		7	×
2020/12/2 15:10～16:40	ポストコロナ時代に向けて授 業方法を考える	FD			69	×
2020/2/24 14:00～	FD 会議 (子ども支援学専 攻)	FD	11		11	×

⑤ シラバス点検

活動実績

* 日程：2021 年 2 月～3 月

* 内容：「シラバス作成のためのガイドライン」に則り、2020 年度シラバス点検を実施しなかつた科目を中心に、各学科・専攻の FD 委員によりシラバス点検を行った。

成果・課題

事前・事後学修時間について、まだ適切な記述がされていないシラバスがいくつか見られたので、標準レベルにすべてチェックが入ることを目標にシラバス点検後の修正に力を入れた。加え、2020 年度は、講義の目的・内容や学修到達目標について、ディプロマ・ポリシーを踏まえた記述に修正することにも力を入れた。次年度は、さらに発展レベルにもより多くチェックが入られるようにしていきたい。

⑥ 授業評価アンケート

活動実績

* 日程：2020 年 6～7 月 および 2020 年 12 月～2021 年 1 月

* 内容：「専任教員は各学期 2 科目（通年 4 科目）、非常勤の教員については 1 科目の授業評価アンケート（対学生）を実施した。

成果・課題

授業評価アンケートは、学生も Toyonet-ACE を使用した授業評価の実施に慣れつつあり、スムーズな実施・活用に結びついている。授業時間を使わないで済むことも良いことと考え

る。2020 年度は、オンラインライブの授業内で、授業改善点をチャットで知らせてくれる学生もあり、教員も即対応でき、学生から感謝される例もみられた。授業アンケートという方法だけでなく、授業を実施しながら改善できる良い方法の 1 つかもしれない。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2020 年度は、各教員が、コロナ禍の中、新たな授業方法の模索し、準備、実施に追われることとなった。そのような中、2020 年度早々に、古川和稔先生の呼びかけで WEB 授業研修会が立ち上げられ、情報共有の機会を持てたことは、大変ありがたいことであった。しかし、学生との意見交換会など、例年実施しているが 2020 年度実施できなかったものや、年度内 2 回の開催としていた F D 研修会も 2020 年度は 1 回となってしまった。よって、2021 年度のライブデザイン学部における FD 活動の推進については、一昨年度である 2019 年度に実施した内容を、拡充させていくのがよいのではいかと考える。FD 研修会の開催については年度内 2 回の開催を維持しながら、学部教員の希望を参考にし、よりニーズに沿った研修テーマを検討していきたい。2020 年度は、コロナ禍のため、多くの教員が、オンラインでの授業方法を模索したが、これを機会にブレンディッドラーニングが進むことが想定される。今年度開催したような授業方法を共に考える機会は今後もますます重要になると考えられる。また、シラバス点検については、引き続き、点検後の修正に力をいれていきたい。授業評価アンケートについても、引き続きスムーズな実施が行えるよう、学部内での体制作りを整えたい。TA・SA 対象 FD 研修会については、2020 年度は、高等教育推進センター主導で 1 時間に相当する非対面での研修を ToyoNet-ACE 上で 4 月～5 月に実施していただいた。課題についても細やかにフィードバックしていただき感謝している。このような方法もコロナ禍にあっては、1 つの方法と考えられる。

以上

1) 2019 年度までの FD・SD 活動状況 / ACT, PLAN

総合情報学部では 21 世紀のユビキタス・コンピューティング・ネットワーク時代に必要不可欠な情報通信技術に習熟し、社会を先導できる「第一級の情報の創り手・使い手」の輩出を目的として FD 活動を行ってきた。この教育方針を実現させるために、これまでの具体的な活動として、春・秋学期の出席状況確認、学修相談会、全科目シラバス点検、基礎教育・専門教育・ICT 教育の学修支援に関する取り組み、春・秋学期の履修相談、全学年の学生に対して担当教員を割り当てるクラス制度、学部としてのグローバル化への取り組み、等を行ってきた。

2) 2020 年度における FD・SD 活動実績及び成果・課題 / DO, CHECK

① 春・秋学期の出席状況確認 (4～5 月, 9～10 月)

活動実績

春学期は 1 年次必修科目の総合情報学概論、1 年次総合情報学基礎演習、2、3 年次総合情報学演習と 1、2 年次英語必修科目、外国人留学生入試にて入学した留学生の必修科目において、秋学期は、1 年次総合情報学基礎演習、2、3 年次総合情報学演習と 1、2 年次英語必修科目、外国人留学生入試にて入学した留学生の必修科目において、各担当教員を通して、学期はじめの 4 回の出席調査を行った。

なお、春学期は Respon 等を利用して出席状況を確認した。秋学期は、学籍番号下一桁が奇数・偶数の 2 グループに分け、隔週で対面/非対面授業とした。

成果・課題

出席不良の学生に電話連絡で状況の確認を行っており、その結果について、情報を共有した。なお、前学期の単位取得状況が芳しくない学生にも同時に教学課から電話連絡等を行った。

② 学修相談会

活動実績

コロナ禍の影響を鑑みて中止とした。

成果・課題

9 月、3 月に予定していた学修相談会は、新型コロナウイルスの影響により今年度は中止となった。面談を希望する保証人もいたが、単位僅少者の保証人宛てに、各コースの教務委員の連絡先を記載した文書を郵送することでフォローを行った。また、必要に応じて資料等を送るなどして対応した。

③全科目シラバス点検（1月）

活動実績

2020年度の全科目シラバス点検を教務委員会が中心となった。1月～2月を目処に確認調査および修正依頼、再確認の作業を行った。なお、今年度は、新規科目や新任科目等を中心に点検を行った。

成果・課題

学科の教務委員と教員が科目担当者に必要な修正を依頼して、3月半ば頃までに作業は滞りなく完了した。

④基礎教育・専門教育・ICT教育の学修支援

活動実績

総合情報学部では、独自に情報学習支援室を開設し、学生同士が学び教え合う場を用意し、1年次からのICTスキルとコミュニケーション能力醸成の支援を行った。

成果・課題

1年次の必修演習科目において、ITパスポート試験合格程度の情報処理技術の習得を目指した。

⑤全学年の学生に対して担当教員を割り当てるクラス制度

活動実績

全学年の学生に対して担当教員を割り当てるクラス制度を活用し、学生と教員間のコミュニケーションを密に行える支援を行った。

成果・課題

1年次春学期必修科目として基礎ゼミナールをクラス単位での講義体制で実施し、個別履修相談を実施した。なお、今年度はオンラインでの実施となった。

⑥専門英語講読の開講

活動実績

4年次を対象にした英語による専門科目として、専門英語講読Ⅰ・Ⅱをゼミ単位の少人数クラスで開講した。

成果・課題

研究室単位で専門に関連させながらグローバル化に対する取り組みが行えた。なお、今年度はコロナ禍の影響でオンラインにて実施したが、来年度からは対面にて実施する予定である。

⑦SGU ルーム運営

活動実績

7号館1階にSGUルームを開室し、英語学習全般、留学等グローバルに関する学習相談や学習支援を行った。

成果・課題

本年度は新助教を中心に対応や指導にあたり、本学部より交換留学生2名が最終選考に通過し、2020年度夏より1年間カナダの本学提携校 Douglas College に1名、オランダの大学に1名それぞれ派遣されることになっていたが、前者は渡航が1年延期に、後者は辞退となった。

⑧英語カラオケ・チャンピオンシップ、カラオケの英語教育有効利用

活動実績

2017年度から総合情報学部でスタートした「英語カラオケ・チャンピオンシップ」であるが、今年度は中止となった。なお、例年は、参加者にはTGポイント5、来場者にも1ポイント授与される。また、このイベント参加への一つの動機付けとして、常時7号館シアターにカラオケ最新機 LIVEDAM STADIUM が設置されており、誰でも自由に利用できる体制をとっているが、本年度はコロナ禍により稼働することがなかったのは残念であった。

成果・課題

来年度以降も開催する予定であるが、白山を会場としての開催の要望が他学部の参加者等から寄せられているので、今後も国際教育センターと交渉していきたいと考えている。7号館シアターのカラオケ機の利用状況は無償貸し出し先の第一興商としても、今年度売上が減少し、無償貸出が今後難しくなるとのことで、来年度以降は、有償での貸し出しに向けて予算の申請を行う予定である。

⑨英語学習法に関するセミナー（中止）

活動実績

例年4月初旬の新入生ガイダンス時に、東進ハイスクール講師、一般財団法人実用英語推進機構代表理事で、文部科学省の「英語教育の在り方に関する有識者会議」の委員でもある安河内哲也氏による英語学習法に関するセミナーを開催しているが、本年度は中止となった。

成果・課題

来年度4月の新入生ガイダンス時は入学生を2グループに分けて別教室で行うことから、安河内氏のセミナー開催が困難であるため、来年度も中止とする。再来年度以降の実施方法について、今後検討していきたい。

⑩学部独自の海外語学研修の実施

活動実績

海外語学研修として、昨年度より3週間、アメリカカリフォルニア州立ベーカーズフィールド校に学生を派遣しているが、今年度は中止となった。

成果・課題

来年度は専任教員2名が全行程にわたり同行し、安心・安全で充実した学習環境を確保する予定である。

⑪学部独自のFD研修会の実施

活動実績

2020年12月22日、FD研修会として、本学部の島田裕次教授による『遠隔授業とセキュリティ』に関する講演を動画で配信した。

成果・課題

オンラインの開催であったが、学部、研究科の多くの教員が参加し、コロナ禍で進む遠隔授業に際して教員が心得ておくべきリスクと学生側・教員側の両方から必要な対応について、有意義な情報が得られた。

3) 2020年度に向けたFD・SD活動実施計画 / ACT, PLAN

これまで通りの活動の継続と共に、各コースでの学習意欲、授業改善のためのFD活動を提案し、実施していく予定である。また、グローバル化推進の一環としての海外研修の候補地として、アメリカ本国のカリフォルニア州立大学ベーカーズフィールド校で引き続き実施する予定である。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

食環境科学部は、食環境科学科（フードサイエンス専攻、スポーツ・食品機能専攻）と健康栄養学科の2学科からなる。FD・SD 活動においては 2019 年度に引き続き、①新入生基礎学力調査の実施とこれに基づく学習支援プログラム、②FD/SD 講習（講演）会、③FD 推進ワークショップ（新任専任教員対象）への派遣および報告会、④TA・SA 講習会、⑤安全講習会、⑥学会発表・参加奨励金制度、⑦学部独自の評価項目を含む授業評価アンケート、⑧食育作文コンテストによる食育活動といったプログラム実施を計画していた。しかし、2020 年度は非対面による活動が余儀なくされ、講習会・イベント等の実施にあたっては変更及び中止があった。

2019 年度 FD 研修活動として、2018 年に開催した学生の卒業論文、修士論文や英語論文の輪講指導の際に必要な英語論文の読み方のコツを指導するための効果的な教授方法「英語論文の読ませ方のコツセミナー」に続く英語教育関連の研修会を開催する予定であった。しかし、2019 年度末（2020 年 3 月）に予定していた講演会は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、次年度に延期することとなった。

昨年度のこのような流れから、2020 年度の FD 活動は、昨年度計画していた英語教育に関する研修「大学教育と機械翻訳」を 1 月に実施することを計画した。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①TA・SA 研修会

活動実績

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策として、4 月初旬より学生の板倉キャンパスへの入構が禁止された。過去に経験のない状況下、板倉事務課の協力のもと、今年度の TA・SA の募集および応募書類の配布等はメールや大学 HP 等で行った。また、TA・SA 応募書類は郵送にて提出させた。採用者に対する TA・SA 講習会については、4 月に非対面での研修（約 1 時間）が ToyoNet-ACE 上で実施され、本学部の TA・SA もその研修に参加した。

成果・課題

春学期は対面授業が全面的に中止となり、授業で TA・SA が活動する機会はほとんどなかった。また、秋学期も同様に非対面での授業が大半を占めたことから、TA・SA の活動機会は例年と比べ、かなり少なくなった。

本学部では実習や実験の授業が多く、それらの授業においては TA・SA と協力し、安全管理を徹底して行わなければならない。2020 年度の実験室内での事故を受け、今後の非対面および対面実習・実験授業実施にあたり、さらに安全管理が重要視されることから、TA・SA の研修においても安全管理に関する内容の充実が求められる。

②学部独自の評価項目を含む授業評価アンケート

活動実績

高等教育推進センターの全学的な取り組み「授業評価アンケート」を食環境科学部は今年度も春学期および秋学期に実施した。高等教育推進センターが策定する全学共通の質問項目（春学期 5 つ、秋学期 9 つ）に加えて、食環境科学部独自の質問項目として次の 4 つを設定した。

食環境科学部独自の質問項目：

1. あなたはこの授業の予習や復習をして意欲的に学習したか。
2. 教員は授業時間内・外の質問に快く応じ、適切な説明をしたか。
3. この分野の知識が身についたか。
4. 授業が単調とならないよう、工夫されていたか。

今年度は非対面授業が大半であったが、学部独自の質問項目は昨年度と同じ項目を設定した。

成果・課題

マークシートを用いた過去の方法と比較して、ToyoNet-ACE を用いた授業評価アンケートは、回答率の低さが課題となっており、どのように回答率を上げていくか、その方法を検討していくことが課題として挙げられた。

③FD 研修会の実施「大学教育における機械翻訳の活用について」

活動実績

2021 年 1 月に食環境科学部教員に対し、「大学教育と機械翻訳」というタイトルでハイブリッド配信研修会を行った。内容の詳細を以下に示した。

- ・目標設定（機械翻訳のメリット・デメリット、AI と語学、学生へのアドバイス）
- ・学生の Reading Skill を向上させるテクニック（前回のコンテンツの復習）
- ・機械翻訳について（機能、弱点、ミス、サンプル）
- ・学生に伝えたい機械翻訳アドバイス（機械翻訳の効果的な使い方のアドバイス）

講師：株式会社アルク 教育ソリューション部 英語プログラムディレクター

Bence Tamas, Ph.D. 先生

研修会等の参加状況

開催日	研修会名	参加者数（人）			HP 掲載
		教員	職員	計	
2021/1/27 14:00～15:00	「大学教育と機械翻訳について」	20	3	23	×

成果・課題

FD 研修会としては初めて webex を使ったハイブリッド型研修会であったが、参加しやすい環境を整えることができ、多くの先生方の参加につなげることができた。講師の先生とのやり取りに工夫があり、オンライン上でのアクティブラーニングを用いた研修会となった。今後の授業にすぐに取り入れられるコツやヒントが詰まった研修会で、参加者からの高い評価を得ることができたと感じている。

課題として、時間の関係上、参加者の先生方からのフィードバックコメントをもらうことや今回のテーマに関して教員間で議論する機会を設けることができなかった。研修会で講師の話を聞くだけに留まらず、その後、教員間での議論や情報共有につなげられるような工夫、環境づくりが課題である。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2020 年度に板倉キャンパスで起こった実験室における失火および爆発事故報告を受け、安全委員会は再発防止策として、大学内での実験・授業を安全に行うための安全講習会の見直しを求めている。また、教員を対象とした実験安全講習会の実施も再発防止策の中で挙げられていることから、来年度の早期段階において、安全委員会と協力し、これらの講習会を計画し、実施していく予定である。

さらに教職員の FD・SD に関する具体的なニーズを調査し、2021 年度以降の本学部の状況に即したプログラム、教育の更なる質的向上を目指したプログラムの検討を行っていく。

以上

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

クォーター制導入、全日本人学生の長期海外留学実現、英語講義内容の高度化、海外英語実習の必修化と一部科目の英語化といった諸課題については、PDCAにより効果を検証しつつ引き続き改善を図る。また、高校学習指導要領に対応した本学部の教育のあり方（高校におけるプログラミング、地理などの新規科目の必修化）に対応したFDについても実施していく。慣例となった授業評価アンケート、シラバス点検、PROGテスト、各種セミナー研修参加については、一層着実な定着を図っていく。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK**① 授業評価アンケート****活動実績**

例年どおり授業評価アンケートを実施した。専任教員はクォーター・学期の期間内で2科目以上を、非常勤講師は1科目以上を選定している。アンケート項目には高等教育推進センターが策定する全学共通の項目に加えて、学部独自の項目として次の7つを設定した：

- ・E1. 専門知識や用語は分かりやすかったですか
- ・E2. 授業は要点をとらえた説明になっていましたか
- ・E3. 教員は授業へ熱心に取り組んでいましたか
- ・E4. 教員の学生の質問に対する対応は適切でしたか
- ・E5. 授業内容に触発され、自分でさらに調査・学習をしてみましたか。
- ・E6. 教材は読み易かった（見易かった）ですか
- ・F. 本授業で①特に良かった点、②改善できると思われる点、③最も印象に残ったトピック

とその理由を具体的に記述してください。または④授業全体を通しての感想や要望でも構いません。なお、回答欄には、「1.、2.」や「3.」とわけて記載して下さい。

成果・課題

今年度初めて非対面形式での授業が実施されたことから、授業評価アンケートの全学共通項目は非対面形式に合わせた項目で実施された。学部独自の項目は例年と同じ項目でアンケートを行ったが、非対面形式で受講した学生からの回答を受け、各教員が例年の対面授業との比較、課題の検証を行うことができた。次年度も引き続き非対面形式を含めた授業が実施される

が、質的水準の維持・確保が求められる中で今回のアンケート結果を活用していくことが課題である。

②PROG テスト結果説明会

活動実績

2020 年 9 月 8 日 15：00～16：00、オンライン・ライブ型で開催した。専門の業者を招いて本年度の結果や、他大学・本学内他学部との比較などについて解説を受けた後、教員との意見交換を行った。

成果・課題

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での説明会の開催は行わず、Webex によるオンライン会議で行い、36 名の教員が参加した。数値化された項目やその内容については、個人情報秘匿の観点から公表できないが、専門の業者による説明があり、本年度の結果・本学他学部の学生との比較・他大学の同系統の学部との比較について、詳細の解説があった。このデータは、今年度も海外英語実習の PBL グループ分けの基準などに活用した。

③シラバス点検

活動実績

今年度はシラバス点検方法の見直しにより、シラバス点検会は実施せず、各教員がチェックリストをもとにスクリーニングチェック（セルフチェック）を行うこととした。なお、発展レベルの点検項目における「一定項目数の充足の達成有無」の項目数については 3 項目以上の達成を目標として設定し実施した。

成果・課題

スクリーニングチェックの結果、各教員から提出されたチェックリストはすべて条件を満たしており、第 3 者による点検は必要なかった。標準レベルの内容については既に学部が定めた基準を充足しており、これからは発展レベルにおいて達成すべき特定項目の優先順位や項目数を徐々に決めていてシラバス内容の充実を図る必要がある。新任教員の担当科目については FD 委員により第 3 者点検を行い、基準を満たすシラバスとなるよう修正依頼を実施した。

④キャリア教育導入プログラムの体験ならびに研修会

活動実績

2021 年度より、キャリア教育プログラムが全学での実施となることから、新たな国際地域学科独自のキャリア教育プログラムの導入を検討していた。2020 年 12 月 26 日 09：00～18：00 に、文京シビックセンター内 5 階区民会議室 A にて、NPO 法人キーパーソン 21 が実施する

「わくわくエンジンプログラム」について、教員による体験会ならびにプログラムナビゲーター養成講座を実施した。

成果・課題

学生自身が主体的に行動を起こすきっかけとなる「わくわく」を発見し、その動機に繋がる仕事（職業）を探していくというユニークなプログラムの体験とともに、その導入について、参加者で検討する機会を得た。7名の参加教員のうち4名がナビゲーター養成講座を受講し、2021年1月下旬に学生を対象に実施したプログラムにも参加し、学生のキャリア形成に対する効果を検証する機会を持つことができた。

⑤1年生学修及び学生生活の指導に関する情報共有会

活動実績

新型コロナウイルス感染拡大により、すべての授業が非対面授業に変更となり、オンラインから学修を始める新入生の学修及び学生生活の指導のために、国際地域学科では2020年5月1日から1年生ゼミを担当している教員を中心に毎週金曜日に情報共有と指導体制の整備を行った。毎週平均8名の教員が参加した。

成果・課題

春学期の終了まで1年生ゼミ担当の教員を中心に毎週金曜日の昼休み時間にオンライン会議を行い、まだキャンパスでの学習を体験できてない1年生向けに、オンライン教育方法を含め、学修の機会と教育の質を最大限保障できるように、情報共有とともに指導体制の整備に取り組んできた。

⑥秋学期前 WEBEX MEETINGS 試行会

活動実績

Webex Meetings のアップグレードが行われ、インターフェースが変わり、ブレイクアウトなどが実装されることにより、久松先生を講師として2020年9月14日15:00～16:00に非対面オンラインで試行会を行った。Webex Meetings のブレイクアウト機能のトライアルを実施し、対面授業のオンライン中継のやり方について講習を行った。

成果・課題

非常勤講師を含め21名の教員が参加し、秋学期に向けてWebex Meetings の新たな機能の使い方と対面授業の映像をライブで配信する方法について習得することができた。その上で、オンライン教材の配信、資料の配布方法、学生とのインターラクティブなコミュニケーションの方法などについて情報を共有した。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/05/01~ 2020/07/03 毎週金曜日 12:10~13:00	1 年生学修指導に関する情報 共有会 「1 年生の学修及び学生生活 の指導のため情報共有及び指 導体制の整備」	FD	8	0	8	×
2020/09/08 15:00~16:00	PROG テスト結果説明会	FD	36/37	2	36/37	×
2020/09/14 15:00~16:00	Webex Meetings 試行会 「Webex Meetings のブレイ クアウト機能のトライアルを 実施し、対面授業のオンライ ン中継のやり方について講習」	FD	21/24	0	21/24	×
2020/12/26 09:00~18:00	キャリア教育導入プログラム の体験ならびに研修会 「教員によるキャリア教育体 験会ならびにプログラムナビ ゲーター養成講座」	FD	7	0	7	×

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

国際学部は 2017 年度の発足後 4 年が経過した。これまでの FD・SD 活動は新学部設置構想の実現に向けた取組に重点を置いていた。クォーター制導入、全日本人学生の長期海外留学実現、英語講義内容の高度化、海外英語実習の必修化と一部科目の英語化といった諸課題については計画通り着実に実施されていた。

2021 年度は学部の完成年度を超え、広い視点から実践的な活動を展開できる人材を継続して育成し続けるために、引き続き教育システムの高度化の推進、海外大学及び専門機関と連携強化、海外留学支援体制の充実、キャリア教育の充実を中期計画として打ち出しており、これに向けた活動の展開を図る。慣例となった授業評価アンケート、シラバス点検、PROG テスト、各種セミナー研修参加については、一層着実な定着を図っていく。

また、ポストコロナにおけるより良い授業をもたらすために、引き続き教員間の情報共有の強化と授業での ICT 活用研修会の開催及び積極的な参加、クォーター制を活かして「反転授業」のようなオンラインと対面授業の適切な組み合わせの工夫、学生とのインタラクションの強化を講じる。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2020 年度の計画では、2018・2019 年度に実施した「学部教員の特色ある授業の紹介」を予定しており、学部内の他の教員の授業を知り、授業運営における悩みや意見交換を通じて教育の質の向上につなげることを目的としていた。また、外部講師を招聘して広く知見を得るということを計画していた。しかしながら 2020 年度は、これらの計画を再検討し、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、春学期が非対面授業になったことに伴い、ネット時代のソーシャルリテラシーを改めて学ぶ取り組みとして、外部講師を招聘、講演いただいた。また、2021 年度の認証評価受審年度を目前とし、本学における自己点検・評価活動及び大学運営全般に係る質保証に関する理解を深め、今後の学部教育に資することを目的とし、学部として、大学評価支援室主催の「質保証フォーラム」に参加することとした。またその一環として、シラバス点検を実施した。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 外部講師による講演会の開催

活動実績

学科の FD 活動の一環として、株式会社ハーティネス代表取締役社長の高橋慈子（たかはし しげこ）様をお招きし、エンドユーザーのためのインターネット授業に安全に使うためのセキュリティ、学生、教員ともに身に付けておきたいネットマナー、そして、学生からのオンライン授業の受けとめに関してご講演をいただいた（講義資料は別添）。

開催日時：2020 年 6 月 11 日（木）12：30～13：30 (Webex)

テーマ：「ネット時代のソーシャル・リテラシー」

外部講師：(株)ハーティネス 代表取締役社長 高橋慈子氏

成果・課題

ソーシャルリテラシーを学生に教えることの意義と実情の説明、ついでソーシャルリテラシーについて 3 つの観点からの講演であった。第 1 は、2020 年春学期における教員と学生のネット事情である。コロナ禍における大学からの要請や、オンライン授業の流れのまとめ、学生の環境、使うツールなどについての調査結果のご説明をいただいた。教員から学生への一方通行になりがちなオンライン授業では、互いのコミュニケーションを促進するためにモバイル TA をアサインすることは非常に有効である。

第2は、ネットのセキュリティの重要性である。組織における災害対応マニュアルと同じく、情報資産対応マニュアルは、重要である。これは組織の大小や種類に関係なく対策をとるべきことである。組織にとっての脅威は、標的型攻撃による機密情報の搾取と、内部不正による情報漏洩（ヒューマンエラー）である。脅威を早めに検知することが必要である。AI がどんなに進化しても安全性は 100%にはなり得ないので、トラブル（とその対応）に慣れておく必要がある。

第3は、ネットマナーとリテラシー教育の必要性である。メディアリテラシーに対する教育を積極的に取り入れること、（新聞の記事などから）身近な事例を含めて考える習慣を取り入れることが大切である。倫理的に問題があると思うコンテンツを予め認識しておくことも重要である。

新型コロナウイルス感染症に伴い、急遽インターネット授業が導入されたことから、今回のFD講演会は実にタイムリーなテーマであった。すべての教員に共通して、実践的で、示唆に富む内容だった。学生のみならず、ひとりひとりの教員もネットリテラシーを高めるための努力が必要であることを再認識した。

②大学評価支援室主催「質保証フォーラム」への学部教員の参加

活動実績

大学評価支援室により「質保証フォーラム」が開催されることに伴い、本学における自己点検・評価活動及び大学運営全般に係る質保証に関する理解を深め、今後の学部教育に資することを目的とし、学部FD活動の一環として、学部教員に広く参加を推奨した。

開催日時：2020 年 12 月 11 日（金） 14：00-17：00（125 記念ホール/Webex）

テーマ：「～学生の成長を約束するために～」

- 「本学の内部質保証体制について」矢口学長
- 「今後の評価サイクルについて」林大学評価支援室長
- 「自己点検・評価活動を踏まえた本学の課題について」
 - ・各学部・研究科の自己点検・評価活動を踏まえた本学の課題
 - ・全学委員会
 - ・大学運営・財務部会

成果・課題

平日開催のため授業などと重なる教員もあったが、20 名が参加した。コロナ禍で激変する教育環境の中で、ICT を活用したデジタル・トランスフォーメーション（以降、DX）により教職員の過度な負担を軽減し教育や研究の質を高めよう、教職員としての自分自身のあり方と大学としてのあり方を統合しながら学生一人ひとりの成長を約束するために大学としての本質を再考しよう、という矢口学長の問題意識と方向性を共有した。

参加した教員のコメントには、コロナをきっかけに個々人の教育力の差が表面化する状況下で学生の成長につなげられる学びをいかに提供できるのか今回を機会に改めて考えたい、無駄を省いてできるだけ学生と向き合う時間を確保するために工夫したい、などの意見があり、教育方法や時間管理についての意識が改まったことが窺える。また、コロナが収束したあと従前同様に戻ることを目的とするのではなく新たな教育を考える必要がある、今後どのような「東洋大学生」を育てていくのか、どのような「東洋大学」としてのブランドを確立していくのかのビジョンを共有できた、などのコメントもあり、このコロナ禍での気づきや工夫を今後の教育の改善につなげ、東洋大学としての強みにつなげるべきだという意欲も再確認できた。

課題としては、各個人が考える改善のための具体策を引き続き学部内で共有し学部全体として教育と研究の効率的な向上につなげることである。

③シラバス点検会

活動実績

シラバスは、授業の方法及び内容、全授業の計画並びに学修の成果に係る評価の基準を学生に示すものであると同時に、カリキュラムの実施において学修の質を向上させることが第一の目的となっている。またそれを公表することも義務づけられ、外部からの評価にも堪えるものを作成する必要がある。このことに伴うシラバス点検について、例年、学部の全ての科目を点検対象としていたが、2021 年度シラバスより、スクリーニング・チェックの実施を行うこととなった。また、コロナ禍において、対面でのシラバス点検の実施が難しい状況になっていることも鑑み、シラバス点検の実施方法について、FD 委員会として、以下の通り学部教授会にて提案、審議の上、シラバス点検を実施した。

1. シラバス点検の対象とする科目

- ・シラバス入力者自身によるスクリーニング・チェックにおいて、学部として達成すべき項目の充足に不安が生じている、と申告のあった科目。
- ・2021年度カリキュラム新規科目
- ・非常勤講師担当科目
- ・上記以外の科目について点検を希望される場合には、ご相談いただく。

2. 点検実施方法詳細

- ・グループ分け（語学、観光政策・ツーリズム領域、ホスピタリティ領域）
各グループ内で点検の分担等について検討いただく。
- ・シラバス点検対象科目一覧及びシラバスデータをGoogle Drive 等を利用し提供。
- ・点検方法 シラバスチェックシート（第三者）に基づき、点検する。
- ・点検結果報告方法

シラバス点検報告書を教務課まで提出（Google Drive に格納）

修正の必要なシラバスについては、グループ内で修正情報を共有いただく。

3. スケジュール

- 1月28日(木) 教員グループ表およびシラバス点検対象科目一覧を配信
 1月29日(金) ～2月5日(金) 未入力督促・点検準備
 2月8日(月) ～2月15日(月) シラバス点検期間
 2月16日(火) シラバス点検報告書提出〆切
 2月16日(火) ～ 順次シラバス修正が必要なものを修正
 ～2月28日(日) シラバス入力最終〆切

成果・課題

上述のとおり下記3つの領域に分けてシラバス点検会を実施した。コロナ禍でオンライン上で実施する新たな取組であったが、あらかじめスケジュールどおり完遂することができた。

語学系領域 取りまとめ：ロブソン	市田・サンドゥ・史・泰田・ターナー・中井・ハミルトン・ 福田・渡邊・ロブソン
観光政策ツーリズム領域 取りまとめ：宮崎	越智・黒崎・佐野・東海林・杉本・藤稿・古屋・野村・増 子・松永・宮崎・森下
ホスピタリティ領域 取りまとめ：安宅	飯嶋・内田・栗原・佐々木一彰・佐々木茂・須賀・徳江・中 挾・ポッケンドルフ・安宅・八木・吉岡

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/6/11(木) 12:30～13:30	外部講師による講演会 テーマ：「ネット時代のソ ーシャルリテラシー」	FD	32	3	35	×
2020/12/11(金) 14:00～17:00	「質保証フォーラム」への 学部教員の参加 (右記は、リアルタイムで の視聴者数のみ)	FD	18	2	20	×
2021/2/8(月) ～ 2021/2/15(月)	シラバス点検会	FD	34	2	36	×

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2020 年度は、コロナ禍において各教員がそれぞれ ICT を駆使しつつ、いかに学生の学びを停滞させることなくより高い教育を提供できるかという課題と格闘し続けてきたことが特筆すべきことと言える。FD・SD 活動においても、教員のネットリテラシーと DX への挑戦的思考の構築に重点が置かれた。これを踏まえて、2021 年度は、非対面授業実施や対面授業との効果的な組み合わせについてアイデアや工夫を教員間で情報共有し、外部からの専門的な知見を伺う機会を設けることなどで、引き続き、各教員に求められるネットリテラシーと DX への挑戦的思考の追求をサポートする活動をしていきたいと考える。

また、今年度の自己点検・評価結果に関する提言（フィードバックコメント）にて学長からご指摘いただいた事項「学部・学科内の FD 企画について、FD の実施計画を立案する上では、カリキュラムや学生指導にかかる自己点検・評価を通じて計画されることが重要です。必ずしも FD 研修会として外部講師を呼ぶことがすべてではありません。普段から取り組まれている授業計画の立案や、学修成果測定指標の検討、測定結果の評価、カリキュラム検討などが FD 活動の基本になります。各学部・学科の教育の充実に資する検討内容や改善事項は何か、幅広く検討してください。」についても念頭に入れ、下記のとおり計画をしている。

- ①授業評価アンケート
- ②外部から識者を招聘しての FD 講演会
- ③シラバス点検会
- ④特色のある授業の紹介

上記①-④を実施することで、学部のビジョンや教育方針、組織の在り方を再考する機会とすることを目的とする。

計画としては、①授業評価アンケート、②FD 講演会は秋学期、③シラバス点検会を 2 月、④特色のある授業の紹介の開催時期は教授会開催日を予定しており、学部長、学科長、FD 委員会が中心となって実施する体制を取る。

FD 講演会については、中期計画における FD 活動を含め外部の識者の選定を行い、検討の上、多くの教員が出席可能な日時を検討する。

シラバス点検については、関連分野の教員がグループになってお互いのシラバスをチェックする。

以 上

国際観光学部主催 FD講演会

ネット時代のソーシャルリテラシー

国際観光学部では、FD活動の一環として、テクニカルドキュメント作成を支援し、ご自身も大学にて教鞭をとられる株式会社ハーティネス代表取締役社長の高橋慈子様によるご講演をいただきます。

エンドユーザのためのインターネットを授業に安全に使うための手法や学生側の目線からのオンライン授業の受け止めについて、お話しいたします。(日本語のみ)

日時

2020年

6月11日(木) 12:30-13:30

場所

Webexにて実施

アクセスリンクについてはGaroon等にてお知らせいたします。

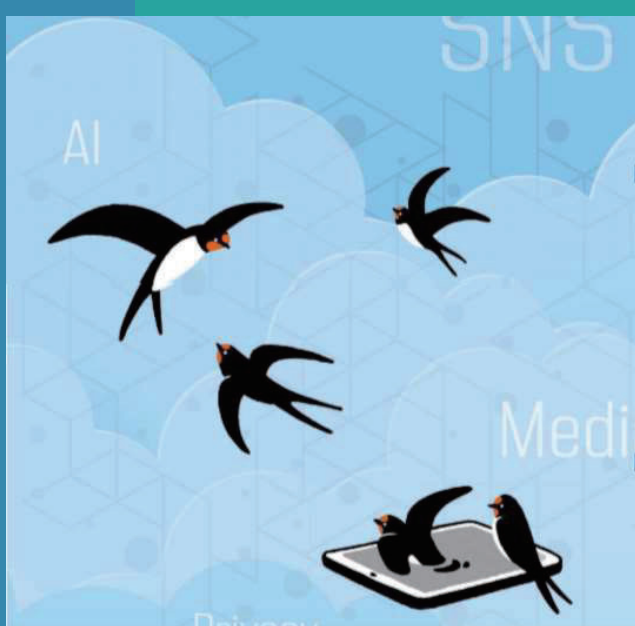
講演者

高橋 慈子(たかはし しげこ) 氏

株式会社ハーティネス 代表取締役社長

<http://www.heartiness.co.jp/>

【問合せ先】: 国際観光学科FD委員会(宮崎・安宅) 内線4076



ネット時代の ソーシャルリテラシー

- 2020年6月11日
- 株式会社ハーティネス 高橋慈子

1

内容

1. ネット時代のソーシャルリテラシーとは
2. 2020年春学期 教員と学生のネット事情
3. ネットのセキュリティで知っておきたいこと
4. ネットマナーとリテラシー教育

2

プロフィール 高橋慈子

- 1988年テクニカルコミュニケーションの専門会社、株式会社ハーティネス設立。同代表取締役
テクニカルライター
- わかりやすく情報を伝える技術を、企業のマニュアル部門に向けてコンサルティングを提供
- ビジネスライティング、テクニカルライティング研修
- 立教大学、慶應義塾大学、大妻女子大学 非常勤講師
- 著作：『技術者のためのテクニカルライティング入門講座』（翔泳社）、『【改訂新版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』（技術評論社）など



3



1. ネット時代の ソーシャルリテラシーとは

4

ネットでの生活、やり取りがもう 1 つの活動の場の時代に

- 友人とのやり取り
- 大学でのコンピュータ利用
- 就職活動
- その他、趣味や社会的活動

5

情報リテラシー、ネットリテラシーが必須に



コンピュータや情報機器を扱う技能



仕組みの理解（ハードウェアやソフトウェアの仕組み、情報技術とセキュリティ）



情報倫理（データの扱い、コンプライアンス、ネットマナー）、

6



2. 2020年春学期 教員と学生の ネット事情

7

COVID-19（新型コロナウイルス）感染対策による突然の オンライン授業への切り替え

- 安倍晋三首相が、2月27日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大抑制の目的で、全国一斉の小中高校の臨時休校を要請
- 要請を受け全国の小中高校がほぼ一斉に3月2日の週から臨時休校
- 大学も入学式の中止、春学期のオンライン授業の実施などへ

8

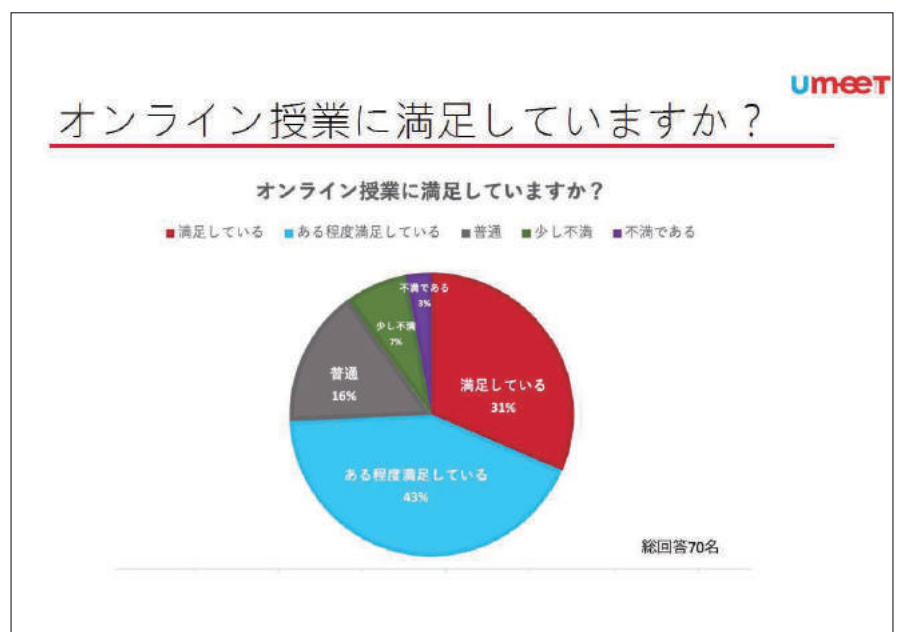
5月連休明けからのオンライン授業を実施しての状況

- ネット環境はほぼ整い、学生は自宅からネットでオンライン授業を受講
- ネットによるビデオ会議システム、Zoomの利用拡大による、リアルタイム授業が可能に
- オンデマンドまたはリアルタイム オンライン授業の開始

9

学生のオンライン授業への反応

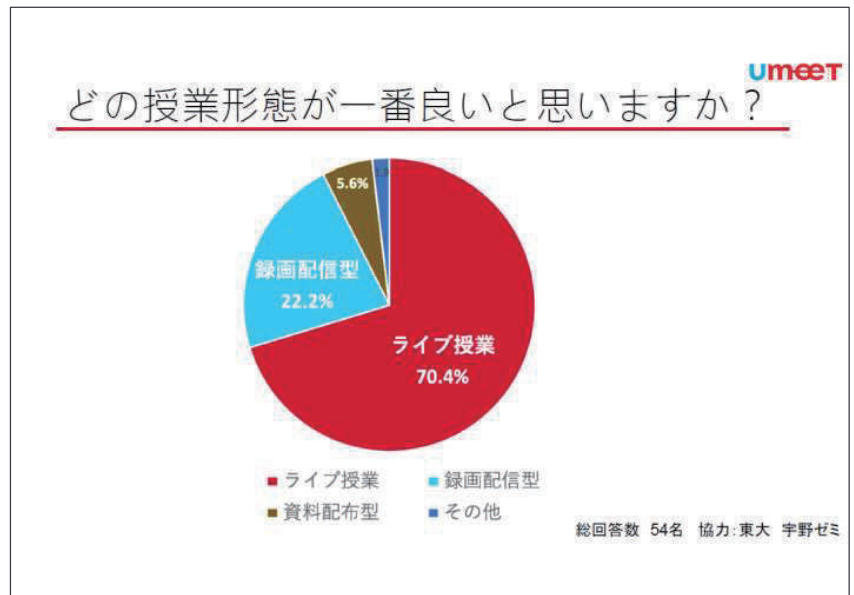
- 国立情報学研究所による第9回5月27日「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」、「学生から見たオンライン授業」東京大学教養学部2年／東大Umeet編集部発表より引用



10

学生のオンライン授業への反応

- 国立情報学研究所による第9回5月27日「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」、「学生から見たオンライン授業」東京大学教養学部2年／東大UmeeT編集部発表より引用



11

ステイホームによるコミュニケーションの取り方の変化

- LINEのビデオ通話やZoomによるビデオ会議など、顔を見ながらのコミュニケーションが増えた
- Instagram、Twitterで日常を共有し、コミュニケーションすることが増えている

12



3. ネットのセキュリティで 知っておきたいこと

1
3

何故、インターネットは危険なのか

- インターネットの成り立ちから弱点を知る
 - 集中管理されていない
 - 自律・分散・協調の精神で広がったネットワーク
- 脆弱性 **【vulnerability】**を持つ
 - コンピュータやネットワークなどの情報システムにおいて、システム上に存在する弱点
- 弱点であるセキュリティホールが存在する
 - システムやソフトウェアで見つかったセキュリティ上の弱点

14

守るべき「情報資産」とは

- コンピュータや周辺機器、記憶媒体などのハードウェア
- システムやソフトウェア
- ネットワーク
- データ
- ノウハウ

15

内部と外部にある脅威

内部からの脅威

- ・管理の不注意
- ・操作ミス
- ・ハードウェアの劣化
- ・破損・故障



外部からの脅威

- ・コンピュータウイルス
- ・不正アクセス
- ・サーバーへの攻撃
- ・火災・地震・雷などの天災



1
6

内部からの脅威への対策

- 管理の不注意
 - セキュリティホールを埋め、最新の知識とスキルを高める
- 操作ミスへの対処
 - システムとしての対処、教育や啓蒙
- ハードウェアの劣化・破損・故障への対処
 - システム保守契約
 - 緊急時の対応マニュアル作成
 - システムの二重化

17

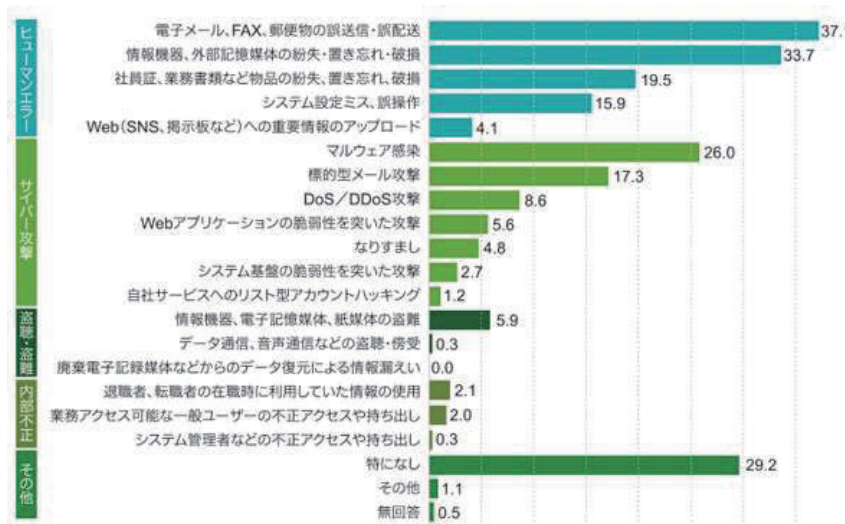
外部からの脅威への対策

- コンピュータウイルスへの対策
 - ウイルス対策ソフトの導入。（全コンピュータに導入し、即時アップデートしておく）
- 不正アクセスへの対処
 - ファイアウォールを導入、ログの監視
- 火災・地震・雷などへの天災への対処
 - 無停電装置（UPS）を設置
 - データのバックアップ（二重化）
 - 損害保険の加入

18

セキュリティ事故とヒューマンエラー

- 2015年企業におけるセキュリティ事故
- NRIセキュアテクノロジーズ調査より引用



ヒューマンエラーが原因

サイバー攻撃が原因

19

セキュリティ事故とヒューマンエラー

- エラーとは何か
- 認知心理学的分類
 - スリップ：ルールは正しかったが、実行を失敗した
 - ラプス：ルールは正しかったが、行うことを忘れてしまった
 - ミステイク：ルール自体に誤りがあったため、ルール通りに行ったことが結果的に誤りになった
- ヒューマンエラーを防ぐ対策
 - 教育、訓練、動機付け
- ITメディア記事より引用
 - <http://www.atmarkit.co.jp/ait/articles/1605/24/news020.html>

20

テレワークを行う際のセキュリティ上の注意事項

- 情報処理推進機構（IPA）による資料より引用
- 所属する組織や企業からテレワーク環境が提供されていない場合
 1. 修正プログラムの適用
 2. セキュリティソフトの導入および定義ファイルの最新化
 3. パスワードの適切な設定と管理
 4. 不審なメールに注意
 5. USBメモリ等の取り扱いの注意
 6. 社内ネットワークへの機器接続ルールの遵守
 7. ソフトウェアをインストールする際の注意
 8. パソコン等の画面ロック機能の設定

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/telework.html>

21



4. ネットマナーとリテラシー教育

2
2

ネットマナーとは

- 顔が見えない（ことが多い） ネットでのやり取りを円滑に進めるためのマナーのこと
- ネットマナーの例
 - 参加者が互いに尊重する
 - 一時の感情で書き込まない
 - 引用や転載に留意する
 - 自分や知人のプライバシーに留意する
 - 知的財産権に留意する



23

ネットのリテラシー教育

- 「読み解く」能力に加えて、「書く」、「話す・聞く」能力が重要
 - 悪意なく、誹謗・中傷に加担しないネットリテラシーを求められる
- セキュリティ対策をし、自分や組織の情報資産を守る
 - データの扱い、活用方法について学び、最新情報を知る

24

国際観光学部 FD講演会

質保証フォーラムへの参加のお誘い

国際観光学部では
大学主催の質保証フォーラムをFD活動の一環と位置づけてFD講演会を開催することとなりました。本学における自己点検・評価活動及び大学運営全般に係る質保証に関する理解を深め合う絶好の機会です。ご都合がつく先生方におかれましては、ぜひ、ご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。(日本語のみ)

日時

2020年 12月11日(金) 14:00-17:00

場所

125周年記念ホール. Webexでの参加も可能

本フォーラムにご参加いただく場合は、以下の参加申込URLから事前登録が必要となります。

<https://forms.gle/gGSCiB8PW1Jt7yALA>

アクセスリンクについては、Garoon等にてお知らせいたします。

内容

<前半>全体会 90 分

- ①本学の内部質保証体制(矢口学長)
- ②今後の評価サイクル<自己点検・評価、中長期計画、その他評価活動との連動性>(林大学評価支援室長)
- ③認証評価の受審に係る事務連絡

<後半>プレゼンテーション&意見交換会 90 分

- ④各学部・研究科の自己点検・評価活動を踏まえた本学の課題
- ⑤全学委員会
- ⑥大学運営・財務部会

【問合せ先】: 国際観光学⁶⁰科FD委員会(安宅・宮崎) 内線4076

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2020 年度は、2017 年度に開設した情報連携学部にとっては完成年度であり、第一期生の卒業研究の実施と初の卒業生の輩出、これまでの 4 年間を経た次年度カリキュラムの策定などを行うことから、それに沿った FD・SD 活動を計画している。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンライン対応

活動実績

2020 年 3 月からの新型コロナウイルス感染拡大のため、急遽春学期の授業はすべてオンラインとなったが、本学部ではもともとすべての学生に入学時より一人一台のノート PC の持参を義務付けるとともに、主要科目ではオンライン教材 MOOCs を活用していたため、比較的大きな混乱は発生せずにスムーズにオンラインに移行できた。

ただし、これまでににおいても、授業は対面で行うことを前提としていたため、4 月 8 日に執行部にて「INIAD でのオンライン授業運営」を作成し、本学部では原則として、授業の教材共有や配信には Google 社の G-Suite を活用するとともに、学生との質疑応答にはビジネス用の SNS である Slack を活用することにした。

また、従来から使用していた教職員用の Slack では、「2020 オンライン講義について」というチャンネルを作成し、オンライン講義の学部全体の方針や運用を共有するほか、各授業での取り組みや課題を、リアルタイムかつ継続的に相談、議論できるようにした。

さらに、学生には、4 月冒頭に「オンライン講義のための事前調査」、5 月中旬に「オンライン授業等に対する学生アンケート」を実施するとともに、教員にも 4 月、6 月、9 月とそれぞれの段階において授業運営についての調査を実施し、これらの結果を元に、オンライン授業に対する学生の課題解決や、授業方法や学部全体の教育体制の見直し、改善を図ってきた。

秋学期には、9 月教授会において「2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の感染蔓延期、またその収束後の世界において、十分な教育効果を保ちつつ対面講義とオンライン講義を併用する「新しい学び方」のイニシアティブをとることを目指す」ことを基本方針とした「2020 年度秋学期 INIAD 講義運営について」をまとめた。

秋学期からは、特に 1 年生を中心に、実習、演習やコミュニケーション科目を中心として、元々の少人数教育をさらに半分ないしは三分の一にして実施し、大学での学習機会を増やしたり、授業の中で、実機を使った演習、グループワーク、ディベート・ディスカッション、卒業

論文指導など、対面での教育が効果的なものについては、個別個別に学部で検討し、十分な感染防止対策の上でキャンパスにて実施するようにした。

また、これまでの課題として、多くの学生はオンラインでも支障がないとしているものの、学習意欲や学習環境の面、または発達障害等の事情から対面での授業を希望する学生がいることから、オンラインによる講義でも、教員は原則大学の教室より配信し、希望する学生は教室での受講も可能とした。

一方で、また、一方で、オンライン講義における学習効果の維持のために、「オンライン講義の出席ルール」を学生に周知した。そこでは、オンライン講義もあくまで「講義」であり、大学での講義に出席するのと同じ緊張感をもって出席することを求めるとともに、教員が、学生の発言や意見を求めることもあることを明記し、授業を受けるのにふさわしい環境や姿勢での受講を求めた。

なお、従前からのことであるが、これらの取り組みは、学部の教育改善に直接的に関与しているものであるが、単発の取り組みではない。本学部では開設当初より Slack を導入し、会議や研修会を開催しないでも教育や授業運営について情報共有、議論するのが当たり前になっている。また、コロナ禍により、必要であればすぐに Google Meet による Web 会議の開催や、Google Form によるアンケート調査が迅速に行える風潮がさらに加速したため、このコロナ禍においても、教職員の FD・SD はまったく支障なく、むしろこれまでより活発に行われていたと言ってもよい。

成果・課題

学生との質疑応答用に、授業ごとに Slack のチャンネルを作ったことにより、学生は授業時間のみではなく、時間や場所を問わず、いつでも教員とのコミュニケーションを取ることができるようになった。また、学生によっては、授業内よりも質問がしやすくなったとの声もあった。

さらに、教員と学生との質疑応答のみではなく、授業によっては、学生の質問に対して他の学生がコメントを返したり、学生同士で教えあったりするような場面も見られた。またチーム実習の授業では、チャンネル内で、自分たちの研究テーマについてのアンケートを行ったり、自分たちのチームが開発したアプリの紹介をし、利用した学生の感想を求めるなど、授業内の学生同士のコミュニケーションの活性化にも役立っている。

また、従来より MOOCs はそのように設計されていたが、Slack の授業ごとのチャンネルは、INIAD の学生や教職員であれば、履修登録や担当科目に関係なく全員が閲覧、登録できるようにしたため、学生は例えば昨年度履修した科目に立ち返ることも可能であるし、執行部や教員は他の授業の方法や様子を知ることでもでき、職員も授業内のトラブルに迅速に、オンラインで対応できるようになった。

しかし、一方でこういった教育方法に対応できない学生がいたり、やはり対面の方がより効果的な教育があるのも事実である。次年度以降は、このコロナ禍を契機として、これからの新

しい学び方（ニューノーマル）として、オンラインと対面とを適切に組み合わせるハイブリッド式の教育を展開していくこととしたい。

②卒業研究指導について

活動実績

今年度は、情報連携学部として、初の卒業研究指導、卒業論文執筆の年であった。卒業研究指導は、春学期は原則オンラインで実施したが、緊急事態宣言解除後、特に秋学期からは、各教員がキャンパスで対面の指導をしたり、キャンパス内で実験をしたりすることを可能とした。

2021年1月23日には、卒業論文提出者282名全員の発表会を、オンラインで実施した。学生は、下記の要領でプレゼンテーションを行った。

- ・プレゼンテーションは1人あたり8分（発表4分、質疑4分）とし、30分の間に3名の学生が順に発表する。
- ・各学生の指導教員を含む複数の教員がプレゼンテーションを聞き、質疑と審査を行う。またINIADの学生も、プレゼンテーションを聞き質疑に参加することができる。
- ・タイムキーピングは教員が行い、時間厳守で行う。
- ・プレゼンテーションは終日録画するものとする。

また、学生は自分の発表だけではなく、レポート自身のプレゼンテーションがない時間帯に、コースを問わず他の学生（自身と同じ指導教員の指導を受けている学生は除く）の発表を最低6つ以上聞き、研究内容の要約と感想を当日中に提出することとした。

この発表会も、オンラインで実施したことにより、空間的な制約がないため、3年生にも発表会の視聴を義務付けたり、発表と質疑応答の全録画データを、専任教員で共有できる仕組みを構築することができた。

また、3月3日の教授会終了後、FD研修会として、今年度の卒業論文指導について、学生の取り組みに状況や指導上の課題など、教員全員での意見交換を行った。各教員の経験をもとに、来年度以降の指導をより充実させるための提案なども出され、積極的に議論がなされた。

成果・課題

卒業研究指導については、初年度で、かつコロナ禍という状況ではあったが、大きな支障なく実施することができた。

卒業単位充足者の決定後、各教員から優秀な卒業論文を推薦してもらい、その内容について審査委員会にて審議した結果、2020年度については、最優秀論文賞5名、優秀論文賞5名、論文賞5名の計15名を決定し、3月23日の学位記授与式の中で、全員を表彰した

③次年度カリキュラムの検討について

活動実績

完成年度を迎えたことから、今年度は現在のカリキュラムの検証と、次期カリキュラムの検討を行った。これまでに学部で実施してきた企業への説明会やアンケートにより、社会が本学部の卒業生に期待する能力は、圧倒的にプログラミング能力や AI、IoT の基礎知識などに集中していることが明らかになっている。

このため、今後はさらにそれらに重点を置く教育研究を進めていくが、一方で本学部では 2022 年度からの定員変更があるため、抜本的なカリキュラムの刷新は 2022 年度の入学生からとし、2021 年度の入学生のカリキュラムについては、これまで 1 年次で行っていたコンピュータ・サイエンスの共通教育を、2 年次まで展開し、当該分野の教育を充実させることとした。

成果・課題

前述したように、今年度については、2022 年度のカリキュラムの策定が大きな課題となる。このカリキュラムでは、より質を重視した教育を実現するために、

- ・数理系科目の必修化：データサイエンスや AI に関する知識・スキルが、社会で分野を問わず求められていることを踏まえ、その基礎となる数数理系科目を必修化する。
- ・情報系必修科目の強化：1 年次の必修科目となっているコンピュータ・サイエンスについて、2 年次以降も、社会からの要請が強い内容を中心に、継続的に教育する。
- ・科目群の再編：現カリキュラムのコース開講科目を科目群に再編し、複数の科目群を組み合わせる履修できるようにする。
- ・段階的な基盤教育の整備

という方針にて策定していく予定である。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

前述したニューノーマルにおける新しい学び方を学部として追及していくとともに、2022 年度カリキュラムの策定、また、完成年度を迎えたことから、2021 年度春学期中に、これまでの 4 年間の教育研究の成果をまとめ、外部評価を実施する予定である。

研究科/センターFD・SD 活動報告

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

文学研究科長のイニシアチブにより、2019 年度と同様に 2020 年度も研修会と院生アンケートを軸とした FD・SD を進める計画が立てられた。近年、本研究科において留学生の割合が増加し、それとともに日本語能力を向上させる仕組みや、アカデミック・ライティングの指導の必要性が高まっている。そうした現状に鑑み、本研究科に共通する課題として「留学生の研究指導」をテーマにした講演会を開催して研修の機会とすることが決定した。また従来より一定の成果を収めている院生アンケートは、引きつづき院生の動向や教育の効果を把握するとともに、組織や制度の改善の一助とするために実施されることになった。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 留学生の研究指導に関する研修会

活動実績

留学生の研究指導をテーマにした外部講師による講演会が 6 月に予定されていたが、コロナ禍の影響で延期を余儀なくされた。10 月の実施が再決定されたが、コロナ第二波の影響で再び延期となり、その後は実施の目処がたたず見送られることになった。また本研究科で留学生を指導している教員の実体験をふまえた意見交換会の開催も検討されたが、こちらも調整がつかず見送られることになった。

成果・課題

コロナ禍の影響で対面での講演会が中止になり、それに代わる研修会も実施には到らなかった。2021 年度はリモートでの開催も視野に入れた研修会の実施計画が必要であろう。

② 院生アンケート

活動実績

2 月 4 日から 2 月 11 日にかけて、大学院生を対象にしたアンケートが ToyoNet-ACE で実施された。回答は研究科内 FD 委員によって集計され、研究科委員会において配付資料にもとづいて報告がおこなわれ、委員間で集計結果が共有された。

成果・課題

2019 年度までは紙媒体のアンケートだったが、2020 年度はコロナ禍の影響で ToyoNet-ACE でアンケートが実施された。その結果、回答者数は昨年度の 2 倍強（64 名）に上昇し、全院生の半分以上（54%）の回答があった。長年の課題だった回答率の低さが大幅に改善し、より実態に近い集計結果が得られた。ただ、昨年度までは 1 ヶ月以上の回答期間があったが、今年度は 1 週間程度の短い回答期間になったので、もう少し回答期間に余裕があれば、回答率のさらなる上昇が期待できるだろう。

集計結果について敷衍すれば、授業運営や研究指導に関する項目、院生研究発表会に関する項目では、従来どおり満足度が高く、少人数教育の有効性や指導体制の適切性が改めて確認できた。それでもコロナ禍の影響は大きく、1 週間の通学日数の項目で、2 日以内が 6 割強にのぼっていた。さらに自由記述ではコロナ禍における本学の対応（たとえば図書館や研究室等の学内施設の利用制限、遠隔授業の実施やその質）についての不満や改善要求が目立った。コロナ禍においては遠隔授業の継続を望む意見もあるので、授業形態（対面と非対面）の是非については一概には言えないが、コロナ禍への対策をしっかりと継続しつつ、院生の研究環境を保証する対応が求められている。2021 年度は本研究科の多くの授業が対面で実施される予定なので、今年度のような不満や改善要求はかなり解消される見込みである。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2021 年度も研修会と院生アンケートを中心に FD・SD を進めていく。2020 年度はコロナ禍のため研修会が実施できなかったが、2021 年度はリモートでの実施も想定し、まずは延期されていた「留学生の研究指導」にかかわる講演会が 6 月に予定されている。二つ目に、認証評価の受審にかかわり、外部評価についての研修会も企画されている。また引きつづき院生アンケートを実施し、本研究科における教育や指導態勢の改善、組織や制度の改善への一助とした。今年度のコロナ禍での経験を通じて確認された ICT の有効性は、次年度以降の FD・SD 活動にも活かしたい。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

(経済学専攻・公民連携専攻共通)

2019 年度の FD 会合の開催が両専攻合同で 1 回のみに留まったので、2020 年度は各専攻別に春学期・秋学期に各 1 回ずつ開催し、それぞれの専攻に特有の問題点・課題を洗い出し、所属教員の研究指導能力の向上、指導ノウハウの共有につなげていく。

(経済学専攻)

- ① 引き続き年度 2 回（春学期、秋学期）の授業評価アンケートを実施する。回答率 100%を目指し、アンケート項目作成段階から各教員の参画を促す。
- ② 博士前期課程・博士後期課程合同の研究発表会・修士論文発表会・博士論文報告会における指導教員以外の参加を促す。また、各報告会後に教員間で議論をする場を持つことを検討する。

(公民連携専攻)

- ① 年度 2 回（春学期と秋学期）授業評価アンケートを行い、学生評価結果を全教員に送付して要望への回答を記載した後、全院生にフィードバックする。（継続）
- ② 修了予定セメスターのはじめに最終時点で、院生も参加できる中間報告会、最終報告会を開催し、主査・副査以外の教員も含めてコメントすることで、教員の指導の質の向上と標準化を図ってきた。（継続）
- ③ 月 1 回開催する専攻所属教員会議を公式化し、授業内容や方法に関する事項の議論をより体系的に行いうる体制とするとともに、同会議の一環として、客員教員を含めた拡大会議を年 2 回開催することとし、内規を定めた。（新規）
- ④ 公開講義の授業参観を可能にするるとともに、講義後に何らかのフィードバックを行うことを検討する。（新規）

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① (経済学専攻) FD 会合の実施

活動実績

2020 年 11 月 12 日（木）に「オンライン授業実施に伴う問題点・課題と対応策」をテーマとして、経済学専攻教員の FD 会合をオンラインで開催した。経済学専攻教員 16 名が参加し、活発な討論が行われた。なお、当初は専攻別に春学期・秋学期各 1 回開催する予定であったが、コロナ禍による繁忙もあり秋学期 1 回の実施にとどまった。

成果・課題

会合では、オンライン授業に関して「課題やレポート提出についても ToyoNet-ACE の機能を使えば、特に支障はない。むしろ、画面上の方が距離を近く感じ、話もしやすい。」「学生の理解度を比較すると、口頭のみよりも資料をアップして共有する方が理解しやすく、意思疎通がスムーズになる。チャットも有効である。」「試験の結果を見ると、昨年度までと比較して成績が明らかに良かった。教員と学生の双方に要因があると思われるが、オンラインにより学修効果が落ちていないことは事実である。」など肯定的な意見が多かった。

しかし、一方で「計量経済学などの実習科目や実証分析の指導などは、すべてオンラインで行うことは難しい。また数式の展開など板書できないのは不自由である。」「教員と学生との1対1のつながりはオンラインでもスムーズだが、学生同士のヨコのつながりは対面でないと難しい。修論や就活の情報交換などを同期の仲間できている。」「図書館や院生用の研究室など、大学設備を利用できないのが残念である。また入国できない学生については、Web 検索が自由にできない点に配慮する必要がある。」などの問題点・課題も出された。

オンライン授業は、留学生が入国できていない状況や社会人学生の学修機会の確保の面で、「どこにいても」アクセスできるメリットが非常に大きい。今後も教員間でオンライン授業のノウハウを共有する機会を多く設け、上記の課題克服に向けて FD 会合を活用していきたい。

②（経済学専攻）授業評価アンケートの実施とフィードバック

活動実績

授業評価アンケートを ToyoNet-ACE のアンケート機能を用いて春学期の7月、秋学期の1月の計2回実施した。回答結果を集計し、フィードバックコメント案を記載したものを10月および2月の研究科委員会で配布して報告し、改善点を洗い出して対応を図った。その後、アンケート結果と研究科委員会で了承されたフィードバックを ToyoNet-ACE 上で学生に公開した。

成果・課題

アンケート回答率は、春学期・秋学期ともに休学者を除くと100%であった。学生たちは、授業に対する取り組み状況や反省点を真摯な姿勢で記述しており、大学に対する要望や提案もかなり具体的・積極的に出してくるようになってきている。また、今年度はオンライン授業に対するアンケート項目を新規に加えたところ、主に対面授業を望む学生と主に非対面授業を望む学生が半々という結果となり、①のFD会合における議論の好材料ともなった。この結果は、各学生の生活環境・研究環境に配慮し、個別によく話し合った上で授業運営を行う必要性を教員間で確認した。今後は、アンケート項目作成段階から、各教員の参画を促すことが課題である。

③（経済学専攻）研究発表会の実施

活動実績

博士前期課程・後期課程合同の研究発表会・修士論文報告会・博士論文報告会を春学期に 5 回、秋学期に 10 回、計 15 回オンラインで開催した（詳細は別添 2020 年度活動記録一覧（経済学専攻）の通り）。毎回、教員・学生間で活発な討論が行われた。

成果・課題

前期課程の学生は全員参加が義務付けられており、後期課程の学生も積極的に参加するため規模の比較的大きな研究会である。毎回、教員ばかりでなく学生からも厳しい質問やコメントが出され、白熱した討論となった。指導教員を含めた参加教員が議論をリードし、さまざまな観点からコメントすることにより、FD 効果の向上が図られた。さらに 1 月の「修士論文最終発表会（口述試験）」においては、多数の教員が同席し質問・コメントすることで、相互に指導能力の向上が図られた。今後は、当日発表者の指導教員（主査・副査）以外の教員の参加をさらに積極的に促すことが課題である。

④（公民連携専攻）FD 会合の実施

活動実績

2020 年 4 月 6 日および 9 月 11 日に客員教員を含めた担当教員による拡大担当教員会議兼 FD 会合を開催した。4 月は 19 名、9 月は 17 名が参加した。FD 会合としてはオンライン教育のための専攻内ガイドラインの説明と質疑を中心として、資料を作成して行った。

成果・課題

4 月は初めての試みであったため質問が中心であった。9 月は春学期の実績を踏まえての運用となったため、参加者から活発なコメントが出された。主要なコメントとして、以下の点があった。なおソフトが omnijoin から zoom に変更となった。

- ・春学期の実績ではほぼ問題なく運営できる自信がついた。院生も仕事等で使っており問題がないのではないか。
- ・omnijoin は重たくエラーが出やすい。ZOOM に代わることでより使いやすくなることを期待する。
- ・院生の反応が分からないということが、遠隔教育の欠点である。自分は必ず履修者に 1 回以上発言してもらうようにしている。院生に言わせると、教員からみて反応がないと感じるのと同様、院生も他の院生の反応が分からないので発言しにくい、逆に当ててもらえると発言しやすいとのことであった。
- ・レスポンスと併用すると効果がある。クイズを出すとか工夫している。
- ・院生がある程度通学してくれるとやりやすい。全員リモートだと盛り上がらない。
- ・逆に、来室の院生とリモートの院生が混在する方が難しいのではないか。そういう意味では、秋学期の方が問題が出てくると思う。

- ・スタッフにはどの程度頼めるのか、つい遠慮してしまう。
- ・ZOOMでの教員会議は大変ありがたい。教員同士の意見交換として得難い機会である。頻度を上げてもらいたい。

以上の通り、秋学期は対面可能とする中でオンラインを一般的に許容したことでさまざまな問題が生じたと推測している。これに対しては、再度拡大専攻担当教員会議を開催して情報を共有する予定である。

⑤（公民連携専攻）授業評価アンケートの実施とフィードバック

活動実績

授業評価アンケートを春学期、秋学期終了後に2回実施した。REAS（放送大学リアルタイム評価支援システム）を活用し、専攻全体および科目（含む演習）ごとに感想、要望を自由記述させる方式である。サーバーで自動的に匿名化されるため教員には完全匿名情報として配信されることで、回答者が忌憚ない意見を出せるようにしている。全員からのアンケート内容を全教員にフィードバックして、科目担当教員がコメントを記載し、それを全院生が閲覧できるよう ToyoNet-Ace に掲載するとともに、対応可能な要望事項に対しては活動に反映させることとした。

成果・課題

REAS システムの特性上回答率は把握できないが、合計約 200 件の感想、要望を受け取ることができた。

（例）2020 年度春学期 専攻運営全体に対する評価とそれに対する専攻長のコメント

○特に問題なし。このような状況で、ほぼ安定的に運営がなされていた。近場の学生もインターネット受講可であったことは、近場といってもそれなりに通学時間がかかる学生としては、とても助かった。⇒ありがとうございます。遠隔の良さをうまく活用できたと思います。

○新型コロナウイルス感染症が流行する中、大学運営としての確な対応でした。⇒ありがとうございます。皆さんの協力のたまものです。

○自分にとって、1 年生の前期で、経験することすべて初めてで、手探りだった。授業の選択の時点から、不安があった。難易度というわけではないが、ある程度の知識が必要なものと、まっさらから教えてくださるものといった区別が分かれると良いと思う。⇒シラバスではそうしたことも表示することになっていますが、分かりにくいかもしれません。今後改善します。

○スタッフの方は真面目で懸命にサポートしており、良い印象を受けた。

⇒ありがとうございます。そのように評価いただき励みになると思います。

○コロナ禍により、入学式の中止から、すべての授業をオンライン化など急激な対応で苦慮されたと思います。東洋大学院に期待していたことは2点で、授業と交流でしたので、

Onlineにより授業はむしろ便利に参加できたと思いますが、皆様との物理的な交流がなかったことが残念でした。⇒秋学期もコロナの状況はあまり変わらないようですが、授業には引き続き注力してまいります。秋学期は対面授業が開始されますので、十分に注意したうえでキャンパスで交流することは可能だと思います。

○今期で定年退職を迎える先生もいらっしゃると思うが、良い意味で質を維持するようお願いします。⇒知識や経験の高い先生を確保するようにいたします。

○他の大学では混乱しているとも聞いているが、この専攻に関する限り、的確な方針がいち早く提示され、その通りに運営されていて信頼できた。⇒ありがとうございます。皆さんの協力のたまものです。

⑥（公民連携専攻）論文報告会の実施

活動実績

当年度に終了を予定している院生は、最終セメスター開始後の中間報告会と、終了前の最終報告会への参加が義務付けられている。報告会は、全教員、院生が参加できる場として設定される。今期はコロナ禍に伴いオンラインで開催した。春学期修了生 2 名、秋学期修了生 21 名は全員参加した。

成果・課題

院生の人数が多い場合は複数の教室で実施するが、最低でも 3 人以上の教員が参加することで厳密性を担保している。

活動記録一覧：

経済学専攻：別添 2020 年度活動記録一覧（経済学専攻）のとおり。なお、HP 掲載は行っていない。

公民連携専攻：別添 2020 年度活動記録一覧（公民連携専攻）のとおり。なお、HP 掲載は行っていない。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

（経済学専攻）

- ① 引き続き年度 2 回（春学期、秋学期）の授業評価アンケートを実施し、FD 会合や研究科委員会の場においてアンケートで得られた問題点・課題を教員間で共有する。回答率 100% を目指し、さらにアンケート項目作成段階から各教員の参画を促す。
- ② 博士前期課程・博士後期課程合同の研究発表会・修士論文発表会・博士論文報告会における指導教員以外の参加も積極的に促す。

- ③ 今年度の FD 会合においても、オンラインによる授業の実践事例が多くの教員から提示されているが、指導のさらなるスキルアップを図るため FD 会合や研究科委員会での討論を活用していきたい。

(公民連携専攻)

- ① 年度 2 回（春学期と秋学期）授業評価アンケートを行い、学生評価結果を全教員に送付して要望への回答を記載した後、全院生にフィードバックする。（継続）
- ② 修了予定セメスターのはじめと最終時点に、院生も参加できる中間報告会、最終報告会、また、留学生など早期に成果を確認すべき場合に任意で参加するプレ報告会を開催し、主査・副査以外の教員も含めてコメントすることで、教員の指導の質の向上と標準化を図る。（継続）
- ③ 客員教員を含めた拡大専攻担当教員会議兼 FD 会合を年 2 回以上開催し、現下の FD 上の課題を議論できる場を設定する。（継続）
- ④ 専攻の PR を兼ねた公開講義において教員も授業参観できることとした。（継続）

日 時	開 催 場 所	活 動 内 容
6 月 11 日(木) 16 : 30-18 : 10	Zoom によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 1 回）（M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）于 夢澤（M2）「中国における環境規制が製造業の産業構造調整に対する影響」 （2）王 晶（M2）「中国の循環型社会を構築するための検討－日本の先進事例を参考に－」 （3）GAO RUICH（M2）「FDI が珠江デルタ地域の大気汚染に影響を与える研究」 教員 5 名、学生 25 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
6 月 18 日(木) 16 : 30-18 : 10	Zoom によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 2 回）（M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）楊 思鎬（M2）「日本における年金改革を分析するための世代重複モデルの定式化について」 （2）燕 夢培（M2）「中国における家庭老人介護が女性の就労に与える影響の実証分析」 （3）黄 尚柱（M2）「公的介護保険制度を補完する民間介護保険サービスの提供について」 教員 6 名、学生 24 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
6 月 25 日(木) 16 : 30-18 : 10	Zoom によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 3 回）（M2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）喬 恣博（M2）「訪日中国人における消費行動に関する分析」 （2）蔡 健（M2）「スポーツによる地域における経済効果」 （3）胡 宜（M2）「中国の美術品市場におけるバブル問題に対する実証的分析－北京ポーリーを例として－」 教員 6 名、学生 26 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
7 月 2 日(木) 16 : 30-18 : 10	Zoom によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 4 回）（M3、D2 の修士論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）曾 浩然（M3）「中国における営業税から増値税への変更が企業財務パフォーマンスに対する影響：江蘇省の実証分析を基に」 （2）伊藤 翼（D2）「障害者の就労問題に関する定量的分析」 （3）高浜 伸昭（D2）「市街地土地汚染対策の経済分析」 教員 5 名、学生 25 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
7 月 9 日(木) 16 : 00-18 : 10	Zoom によるオンライン開催	春学期論文発表会（第 5 回）（D2、D3 の論文中間報告、質疑応答含め各 30 分） （1）葉 青（D2）「日中両国の都市化・産業化に関する比較研究」 （2）孔 徳毅（D3）「貿易・サービス・地域・金融システムから見た人民元の国際化」 教員 4 名、学生 26 名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

9月24日(木) 16:30-18:00	Zoomによるオンライン開催	外部講師による特別講義を開催。 講師：(株)日経メディアプロモーション 圓尾弘和氏 テーマ：「最近の日本企業の採用活動について（大学院生・留学生の就活状況）」 教員1名、学生14名が参加し、活発な質疑応答が行われた
10月8日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第1回）（M1の論文中間報告、質疑応答含め各30分） （1）H E S I Y E (M1)「コーペティションにおける自由参入と参入規制に関する厚生分析」 （2）肖 力源 (M1)「スイッチングコストを伴うマルチサイド市場についての研究」 （3）李 卓雄 (M1)「補助金政策が新エネルギー自動車の技術進歩に与える影響の実証分析」 教員4名、学生22名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10月15日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第2回）（M1の論文中間報告、質疑応答含め各30分） （1）高 キン (M1)「日本における禁煙率に関する分析－禁煙率関数の推計を中心として」 （2）侯 秉辰 (M1)「中国における農民専業合作社の経済効果に関する実証分析」 教員5名、学生21名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10月22日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第3回）（M1の論文中間報告、質疑応答含め各30分） （1）張 思展 (M1)「アリの森モデルの下で地域別炭素取引価格に与える影響に関する研究－湖北炭素市場を例として－」 （2）葉 之夏 (M1)「企業の社会貢献支出が企業価値に与える影響」 （3）劉 壯 (M1)「Advantageous-selectionの実証分析－中国民間医療保険市場を中心に」 教員6名、学生22名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
10月29日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第4回）（M1の修士論文報告、質疑応答含め各30分） （1）李 翊菲 (M1)「中国の「二人っ子政策」と既婚女性の労働供給」 （2）C H H E M S O L I N D A (M1)「Economic Growth, Poverty and Income Inequality in Cambodia」 （3）叶 丹敏 (M1)「貿易政策と産業構造及び経済成長の関係について」 教員5名、学生20名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

11月5日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第5回）（M1, M3の修士論文報告、質疑応答含め各30分） （1）HAN YUE YUE (M1)「日本における男性の育児休業が家庭の継続出産行為に与える影響」 （2）胡 辛培 (M1)「中国における家族の特徴が夫婦の第二子出産意欲に与える影響」 （3）曾 浩然 (M3)「中国における付加価値税改革による企業財務パフォーマンスへの影響－不動産業界を例として」 教員4名、学生22名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月12日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第6回）（M2の修士論文報告、質疑応答含め各30分） （1）楊 思鎬 (M2)「世代重複モデルによる年金改革の理論的分析－日本の状況を踏まえて－」 （2）燕 夢培 (M2)「中国における家庭老人介護が女性の就労に与える影響の実証分析」 （3）黄 尚柱 (M2)「公的介護保険制度を補完する民間介護保険に対する購買意欲の向上」 教員5名、学生22名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月19日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第7回）（M2の修士論文報告、質疑応答含め各30分） （1）喬 恣博 (M2)「インバウンドに関する分析－訪日中国人における消費行動について」 （2）蔡 健 (M2)「スポーツ・ビジネスと地域振興」 （3）胡 宜 (M2)「中国の美術品市場におけるバブル問題に影響する要因分析～美術品市場と不動産、株式、国債市場の関係～」 教員4名、学生21名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
11月26日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	秋学期論文発表会（第8回）（M2の修士論文報告、質疑応答含め各30分） （1）于 夢澤 (M2)「中国における補助金が新エネルギー自動車産業に与える影響」 （2）王 晶 (M2)「中国の循環型社会を構築するための検討－日本の先進事例を参考に－」 （3）GAO RUICH (M2)「珠江デルタ地域における環境汚染と経済成長との関係に関する研究」 教員5名、学生20名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
12月3日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	論文報告会（第9回）（D1, D2の論文報告、質疑応答含め各30分） （1）阿部 真也 (D1)「いわゆる「AI生成物」の著作権帰属に関する制度研究」 （2）吉田 拓矢 (D1)「柔軟な労働時間への選好がマクロ労働市場に与える影響の分析」 （3）高浜 伸昭 (D2)「市街地土地汚染対策の経済分析－土壌汚染対策法の執行過程に関する考察」 教員5名、学生20名が参加し、活発な質疑応答が行われた。

12月10日(木) 16:30-18:10	Zoomによるオンライン開催	論文報告会（第10回）（D2, D3の論文報告、質疑応答含め各30分） （1）伊藤 翼（D2）「地方選挙が障害者施設の地方単独事業に与える影響」 （2）葉 青(D2)「中国における都市農村間所得格差の要因分析－家計の各種所得を視点として－」 （3）孔 徳毅（D3）「RCAを用いて中国の工業製品の貿易構造の実証分析－中間財輸入を考慮して」 教員5名、学生20名が参加し、活発な質疑応答が行われた。
1月30日(土) 13:00-16:00	Zoom 及び Webex Meetings によるオンライン開催	2020年度修士論文口述試験。論文提出者9名について、2会場に分けて各学生が報告し、試験官教員により質疑応答を行った。終了後、参加教員による全体討論を行って評価・採点を行った。2月18日開催の研究科委員会の審議を経て、これら9名の修士論文を合格とした。

月日	曜日	開始時刻	終了時刻	場所	活動名	概要
4月6日	月	1830	2000	オンライン	拡大専攻担当教員会議（兼FD会合）	教員19名が参加し、春学期の運営方針、オンライン講義マニュアルの方法の説明の後、各教員からの問題提起と意見交換を行った。意見交換は主に春学期の非対面授業の方法論となった。公民連携専攻は以前より遠隔教育を導入しておりオンラインには慣れているが、全員が非対面となることで生じる講義運営、理解度確認、成績評価などの方法について議論した。
4月17日	金	1730	1830	オンライン	修了者論文報告会	春学期終了予定者発表者2名、主査・副査等教員7名、学生6名が参加して発表および質疑応答が行われた。終了後、必要に応じて主査との打ち合わせを行った。
6月18日	金	1830	2000	オンライン	公開講義（非履修者、修了生）	「地域金融論」のゲスト講義の会を開放。12名が参加。ゲスト講師は、株式会社京都銀行 公務・地域連携部 観光・地域活性化室長 安部孝幸氏による「地域密着型金融の実践」。
6月22日	月	1730	1830	オンライン	修了者論文報告会	春学期終了予定者発表者2名、主査・副査等教員6名、学生5名が参加して発表および質疑応答が行われた。終了後、必要に応じて主査との打ち合わせを行った。
7月3日	金	1830	2000	オンライン	公開講義（非履修者、修了生）	「地域金融論」のゲスト講義の会を開放。15名が参加。ゲスト講師は、株式会社ドーガン 取締役副社長 斎藤徹也氏による「地域金融における自社の貢献と課題」。
7月8日	水	2010	2140	オンライン	公開講義（一般）	"PPP Omnibus Lectures"のゲスト講師の会を開放。14名が参加。国連CoE機関代表Pedro Neves氏による"How can COVID-19 Mark the Rebirthing of Society? Improving Public Service under Strong Fiscal Constraints".
7月17日	金	1730	1930	オンライン	修了者論文報告会	秋学期終了予定者発表者のうちの希望者8名、主査・副査等教員7名、学生17名が参加して発表および質疑応答が行われた。終了後、必要に応じて主査との打ち合わせを行った。
7月17日	金	1830	2000	オンライン	公開講義（一般）	「地域金融論」のゲスト講義の会を開放。15名が参加。ゲスト講師は、ミュージックセキュリティーズ株式会社 代表取締役 小松真実氏による「クラウドファンディングの現実と課題」。
8月25日				ToyoNet-Ace	授業評価アンケート	2020年度春学期授業評価アンケート。全院生を対象。REASを用いた完全匿名方式のアンケート。院生からの感想、要望に対しては担当教員が回答し、その結果を、ToyoNet^Aceで全教員、院生に公開する方式。可能な点は改善に活用。

9月11日	金	1830	1930	オンライン	拡大専攻担当教員会議（兼FD会合）	教員17名が参加し、秋学期の運営方針、オンライン講義マニュアルの方法の説明の後、各教員からの問題提起と意見交換を行った。春学期の運営上の課題は全面オンライン下でのモチベーションの上げ方、日常の勉学に対するモニタリングの必要性の指摘があった。Web会議については秋学期はZoomとなることでかなり使いやすくするのではないかと意見が多かった。
10月3日	土	1830	2030	対面	修了者論文報告会	春学期終了予定者発表者21名、主査・副査等教員14名、学生16名が参加して発表および質疑応答が行われた。終了後、必要に応じて主査との打ち合わせを行った。
10月9日	金	2010	2140	対面・オンライン	公開講義（一般）	「世界のインフラPPP」のゲスト講義の会を開放。15名が参加。ゲスト講師は、株式会社長大エンジニア 松尾隆 氏で「インフラ整備と維持管理における技術とその役割」。
10月27日	火	1500	1700	対面・オンライン	公開セミナー	APPPIオープンセミナーを開放。サム田淵教授より、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）車両管理プロジェクトの紹介、インドネシア（低所得者向け耐震住宅案件化調査：SDGsビジネス支援型）～SDGsの視点から～、フィリピン（プトアン・プロジェクト誕生からミンダナオ北東地域への開発に向けて）を紹介
10月30日	金	2010	2140	対面・オンライン	公開講義（一般）	「PPPプロジェクト演習」のゲスト講義の会を開放。23名が参加。講師として、徳江 卓氏（三浦市役所職員：修了生）から、特定第3種漁港におけるリゾート開発で漁港活用のリーディングケース、下水道コンセッションに係る取り組み、有休化した公共施設の活用を講演。
11月3日	火	2010	2140	対面・オンライン	公開講義（一般）	"PPP Omnibus Lectures"のゲスト講師の会を開放。14名が参加。JICAコンサルタント高井史代氏（修了生）からPPP Outline in MENAの講義を行った。
11月6日	金	2010	2140	対面・オンライン	公開講義（一般）	「世界のインフラPPP」のゲスト講義の会を開放。18名が参加。ゲスト講師は、「海外におけるインフラPPPの最新動向」デロイトトーマツ ファイナンシャル アドバイザリー合同会社執行役員 マネージングディレクター佐々木 仁氏。
11月27日	金	2010	2140	対面・オンライン	公開講義（一般）	「世界のインフラPPP」のゲスト講義の会を開放。22名が参加。ゲスト講師は、「インフラ整備におけるJICAの役割～インドネシアの鉄道プロジェクトの事例を中心に～」 独立行政法人国際協力機構（JICA）インドネシア事務所 次長安達 裕章氏 （修了生）
12月1日	火			ビデオ	国際PPPフォーラム	「アフターコロナとPPP」 コロナ禍のため集合形式が取れないことから、世界のPPP関係者からテーマに関するスピーチビデオを送付してもらい、You Tubeビデオに再編集して大学HPにて公開した。総計19名で2021年3月末日までの公開とする。

12月11日	金	2010	2140	対面・オンライン	公開講義（一般）	「世界のインフラPPP」のゲスト講義の会を開放。16名が参加。ゲスト講師は、「空港民営化の新たな潮流：空港型地方創生」南紀白浜エアポート代表取締役社長、式会社経営共創基盤 パートナー マネージングディレクター岡田 信一郎氏。
12月12日	土	2000	2200	オンライン	修了者論文報告会	発表者21名 教員18名が参加して発表、質疑応答を行った。終了後、必要に応じて主査と院生の間での論文作成の打ち合わせを行った。
12月15日	火	1830	2000	対面・オンライン	公開講義（一般）	「地域リーダー論」のゲスト講義の会を開放。25名が参加。ゲスト講師 森 雅志 氏（富山市長）。テーマは「コンパクトシティ・SDGs 未来都市を目指した富山市の姿」。
1月13日	水	1830	2000	対面・オンライン	公開講義（一般）	"PPP Omnibus Lectures"のゲスト講師の会を開放。12名が参加。ゲスト講師はスティーブ・デイビス氏（英国ウェールズ政府PPP責任者）で、演題は「ポストPFIの新PPP手法"Mutual Investment model"(MIM) について」。
1月14日	木	1830	2000	対面・オンライン	公開講義（一般）	海外PPP制度手法論の最終回を開放。20名が参加。担当は、美原融客員教授であり当日予定だった履修者の期末レポートの発表に加えて、同教授が定年退職を迎えるにあたり「今後のPPPの展望」のショートプレゼンを行った。
1月15日	金	1830	2000	対面・オンライン	公開講義（一般）	公民連携演習の最終回を開放。24名が参加。担当はサム田淵教授であり、同氏が最近進めているUNHCR(国連難民高等弁務官事務所) 輸送車両マネジメントPPPモデルプロジェクトの状況をレクチャーした。
1月15日	金	2010	2140	対面・オンライン	公開講義（一般）	PPPプロジェクト演習の最終回を開放。28名が参加。担当のサム田淵教授が定年退職を迎えるにあたり、最終講義として「東南アジアにおけるPPPの発展」と題する講演を行った。
1月23日	土	1040	1210	対面・オンライン	公開講義（一般）	「地域分析」の最終回を開放。16名が参加。担当の井上武史教授が「RESASを使った履修者の発表」を行った。
1月23日	土	1300	1430	対面・オンライン	公開講義（一般）	「まちづくりビジネス論」の最終回を開放。20名が参加。担当の矢部智仁客員教授が履修者発表と講義の全体まとめを行った。

1月26日	火	1830	2030	対面・オンライン	公開講義（一般）	定例の成果発表会を開催。一般公開イベント。52名が参加。ゼミ活動報告として、合意形成手法（デリバレイティブ・ポリング）社会実験、「Withコロナでも輝く地域づくり」、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)輸送PPPプロジェクト、国立ハンセン病療養所星塚敬愛園将来構想PFI、また、注目論文として、小学校を拠点とした持続可能な地域づくり、公有財産を活用したアフォーダブル住宅供給手法の可能性、アジアのインフラ需要推計を発表。
1月30日	土	1300	1430	対面・オンライン	公開講義（一般）	「シティ・マネジメントⅤ①」の最終回を開放。38名が参加。担当の根本祐二教授から「合意形成手法の社会実験」の講演を行った。
2月25日	木	1000	1200	オンライン	公開セミナー	APPPIオープンセミナーを開放。24名が参加。米国在住のフランク・シュニッドマン氏（元フロリダアトランティック大学教授）が基調講演「バイデン新政権下の米国PPPの行方」を実施。
3月15日					授業評価アンケート	2020年度秋学期授業評価アンケート。全院生を対象。REASを用いた完全匿名方式のアンケート。院生からの感想、要望に対しては担当教員が回答し、その結果を、ToyoNet^Aceで全教員、院生に公開する方式。可能な点は改善に活用。

1) 2020 年度 FD・SD 活動状況/2020-PLAN

- A. 授業改善について
- B. 修士論文中間報告会・修士論文発表会・博士課程中間報告会・博士課程公聴会の実施

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

A. 授業改善について

活動実績

「学生アンケート調査」（授業アンケートも兼ねている）は、ToyoNet-Ace のアンケートを使用し、2020 年 11 月 23 日（月）から 2020 年 12 月 15 日（火）までとして実施した。今結果は研究科委員会を通じて、大学院の講義と演習を担当しているすべての教員にフィードバックした。

学生アンケート調査についての具体的な内容と結果は以下の通り。

○調査対象：経営学研究科在籍の大学院生；○調査期間：2020 年 11 月 23 日（月）～2020 年 12 月 15 日（火）；○調査方法：ToyoNet-Ace のアンケートを使用；○回答者 4 名；○調査項目：(1)志望理由、(2)講義・演習・研究指導及び講義科目の満足度、(3)満足あるいは不満の理由、(4)授業を受講して得た成果または役立ったこと、(5)学習・研究を進める上で、思うようにいかなかった点、改善点、(6)現在設置している講義科目以外で、設置してほしい科目や研究領域、(7) 講義課目や演習・研究指導、その他の要望（授業運営、学生生活、設備等）、(8) 中間報告会の回数や時期および形式、(9)自由記述

成果・課題

アンケートの結果は次の通りである。

- ・ 修士論文指導では、やはり対面授業でやったほうがいい
- ・ 実習、演習が充実している。
- ・ 実際の診断士業務に携わる多くの講師の方々から学ぶことが出来、卒業後に自立して診断士業務をするための生きた知識や経験を学ぶことができた。
- ・ 論文作成を通じ研究のやり方や作法を知ることが出来た。
- ・ たくさんの知識を勉強してきた。今、東洋でさらに深刻な研究を続けている。
- ・ 経営診断業務の全体的な流れや進め方、考え方を実践できた。診断士の窓口相談など、実務のロールプレイをすることで実務のイメージや体験ができた。
- ・ 修士論文を完成し、順調に修了した。また、学会で発表し、論文を掲載された。

- ・実習が忙しくて論文が進まない。
- ・論文の研究と実習を両立させること、本業の仕事と両立させることは時間的、心理的に辛いことが少なかった。
- ・博士論文の先行研究に関する分析は結構時間が必要のため、通常に研究時間が足りないと思う。奨学金をもらえれば、アルバイトを減らし、より多くの時間で研究を期待する。
- ・財務については個人の前提スキルが大きく異なるが、希望者は体系的に学び直す機会があると良いと思う。
- ・時々エアコンがきかないことがある。
- ・学食を部分的に再開してほしかった。
- ・図書館で保存している資料がさらに充足すれば、論文の作成について、助かると思う。
- ・12月下旬に、主査以外の先生からあれこれダメ出しされても修正しようがない。あと主査以外の先生が上から目線。
- ・2回目の中間報告会は、時期的には実質最終報告と変わらないと感じる。今年だけの特殊事情があると思われるが、もう少し早くないとあまり意味をなしていないと思う。
- ・年2回で希望する。
- ・信金とのシンポジウムのみならず、信金と中小企業診断士登録養成コース OBOG が連携して企業経営支援する等、OBOG が活躍する場を増やすことをもっと考えるべき。
- ・新型コロナウイルスが流行しているため、大部分の授業がネットワークで受けている。大学院教務課と連絡することが、少し不便だと思う。特に、大切な資料などを提供することが少し不便になった。教務課でどちらの先生がどちらの問題に対応することはよくわからない。それで、連絡には結構時間がかかる。

B.修士論文中間報告会・修士論文発表会・博士課程中間報告会の実施

活動実績

令和2年度では、経営学・マーケティング・会計ファイナンスの3専攻はそれぞれ修士論文報告会、修士論文発表会ならびに博士課程中間報告会、博士課程公聴会を実施した。中間報告会と論文発表会それぞれの日程と参加者数は、下表の通りである。

成果・課題

専攻		修論中間報告会 (1)	修論中間報告会 (2)	修論発表会 (論文口述試験)(1)	修論発表会 (論文口述試験)(2)
経営マ ーケ	実施日	8月5日	11月4日	8月5日	2月2日
	参加者数	報告者8名	報告者8名	発表者1名	発表者8名
①	実施日	7月25日	12月26日	2月6日	
	参加者数	報告者20名	報告者20名	発表者20名	

B		実施日	7月30日	11月26日	1月27日	1月28日
A	②	参加者数	報告者2名	報告者2名	発表者1名	発表者1名
F						

<博士前期課程>

注：経営マーケ（経営学・マーケティング専攻）は旧課程を含む。

BAF（ビジネス・会計ファイナンス専攻）の①は中小企業診断士登録養成コース；②は会計ファイナンス専門家養成コースと企業家・経営幹部養成コース；をそれぞれ示している。

<博士後期課程>

専攻		博士課程中間報告会	博士課程中間報告会(2)	博士課程公聴会
経営学	実施日	8月5日		
	参加者数	発表者3名		
BAF				

3) 2021年度FD・SD活動実績計画 / 2020-ACT,2021-PLAN

経営学研究科では実習を必要とするコースが存在する等の特徴が存在することを考慮しつつ、新型コロナウイルスの状況を見守りつつ、アンケートの結果を踏まえたポストコロナに向けた改善策を検討していく。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

博士後期課程の就職支援として、大学での採用面接対策として昨年度より始めた模擬講義講習会をさらに充実させ、教職に就いた際に求められる教育能力の向上を図り、さらには、この模擬講義講習会を教員の FD 活動にもつなげていくことが 2020 年度の計画であった。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

2020 年度法学研究科におけるオンライン授業アンケートおよび FD 研修会

活動実績

COVID-19 ウイルス拡散防止のための授業の非対面化等により、模擬講義を実施することが困難となったため、オンライン講義実施の結果に関する教員アンケート（添付資料 1 参照）を実施し、アンケート結果に基づく FD 研修会としての意見交換会（添付資料 2 参照）をオンラインで開催した。

成果・課題

オンライン講義を実施した教員の体験をアンケート結果として共有するとともに、各教員のオンライン講義に対するスタンスを理解し、また、今年度実施されたオンライン講義の手法に関する改善点を検討することができた。

授業技術としてのオンラインの利用は今後も進展していくものと思われるところ、これからは、オンラインの利点を活かすことのできる授業とそれが難しい授業との判別を明らかにすることが必要となってくるものと思われる。また、オンライン形式の授業を可能な限り対面での授業と同質なものにできるような方策を検討することが必要であろう。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/12/15 15:50～16:50	FD 研修会 「2020 年度法学研究科におけるオンライン講義に関するアンケート結果について」	FD	11	0	11	×

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

法学研究科においては大学院生に留学生の占める割合が増加していることや、国の COVID-19 感染防止策のため入国できなかった留学生が多数いることから、こうした緊急事態における留学生指導のあり方について FD 研修会を実施する予定である。

「2020 年度法学研究科オンライン授業に関するアンケート」

- Q.1 今年度春学期および／または秋学期に、先生の授業で受講者はいましたか。
1. いた。 2. いなかった。
- Q.2 Q.1 で1 と回答された先生にお伺いいたします。授業の一部でもオンラインで行われましたか。
1. オンラインで行った。 2. すべて対面で行った。
- Q.3 Q.2 で1 と回答された先生にお伺いいたします。オンライン授業を行うに当たって、院生の意向はいかがでしたか。
1. オンラインでの授業を好意的に受け容れていた。
2. オンライン授業でも特段問題ないという態度であった。
3. オンライン授業は望ましくないが、状況に鑑み仕方がないという態度であった。
4. オンライン授業に消極的であった。
- Q.4 Q.3 で1 と回答された先生にお伺いいたします。院生がオンライン授業に好意的であった理由について、先生の推測でも構わないので、お聞かせください。
()
- Q.5 Q.3 で3 または4 と回答された先生にお伺いいたします。院生がオンライン授業に消極的であった理由について、先生の推測でも構わないので、お聞かせください。
()
- Q.6 Q.2 で1 と回答された先生にお伺いいたします。オンライン授業を行う前と、数回行った後とで、院生のオンライン授業に対する反応に変化はありましたか。
1. あった。 2. なかった。
- Q.7 Q.6 で1 と回答された先生にお伺いいたします。どのような変化があったでしょうかお聞かせください。
()
- Q.8 Q.2 で1 と回答された先生にお伺いいたします。オンライン授業を実施するうえで、院生から相談ないし苦情を受けましたか。
1. 受けた。 2. 受けていない。

Q.9 Q.8 で1と回答された先生にお伺いいたします。相談ないしは苦情の内容をお聞かせください。Q.5と重複する場合は、その旨御書きください。

()

Q.10 Q.2 で1と回答された先生にお伺いいたします。先生がオンライン授業を実施するうえで、問題を感じられた点についてお聞かせください（複数回答可）。

1. 教員の側でオンライン授業に対応する設備が整っていなかった。
2. 院生の側でオンライン授業に対応する設備が整っていなかった。
3. Toyonet Ace など大学のプラットフォームの使い勝手が悪かった。
4. 図書館の利用が制限されていたことが授業の障害となった。
5. オンライン授業に対応する教材を新たに作成することが負担であった。
6. 画面を通した間接的な指導に限界を感じた。
7. 院生の授業に対するモチベーションが低かった。
8. その他 ()

Q.11 すべての先生方にお伺いいたします。COVID19感染をめぐる状況が改善した後も、なおオンライン授業を実施することにメリットがあると思われますか。

1. ある
2. ない

Q.12 Q.11 で1と回答された先生にお伺いいたします。その理由をお聞かせください。

()

Q.13 Q.11 で2と回答された先生にお伺いいたします。その理由をお聞かせください。

()

Q.14 すべての先生方にお伺いいたします。今後オンライン授業を実施するとした場合、改善すべきと思われる点がありましたなら、お聞かせください。

()

Q.15 すべての先生方にお伺いいたします。その他、法学研究科におけるオンライン授業の実施に関しまして、ご意見等がございましたなら、お聞かせください。

()

ご協力ありがとうございました。

「法学研究科 FD 実施報告書」

2020 年 12 月 15 日

法学研究科長 清水宏

1. 実施日時

- ・ 2020 年 12 月 15 日（火）15 時 50 分～16 時 50 分

2. 実施方法

- ・ Webex を用いたオンライン会議方式

3. 参加者

芦野訓和教授・李芝妍教授・井上貴也教授・楠元純一郎教授・齋藤洋教授・多田英明教授
高野幸大教授・松井英樹教授・箕輪允智准教授・武藤眞朗教授・清水宏教授

4. 実施内容

- ・ 11 月 17 日から 12 月 12 日までの間、今年度法学研齋藤洋教授・究科において実施されたオンライン形式の授業に関するアンケートを実施した。
- ・ 上記アンケートに対する回答結果（別紙）を研究科委員に配布した。
- ・ FD 会議において、清水教授が上記アンケート結果の報告およびそれに対するコメント並びに来年度の本学大学院における授業指針を報告した。
- ・ 清水教授の報告に対して質疑応答が行われ、齋藤教授、芦野教授、武藤教授から意見が提示された。
- ・ 齋藤教授からは緊急時における図書館の運用に関して、平時からオンライン書籍の充実のために教員が協力することの必要性が指摘された。また、本国に帰国して来日できていない中国人留学生に対してオンラインで指導しているところ、近時音声がつながらないという問題が生じたことに関して、国家による通信制限の可能性の有無を調査することへの希望が出された。さらに、今後どこからどのように大学院入学者を獲得するかという観点から戦略的にオンライン形式での授業の実施を考えるべきであるとの提言がなされた。
- ・ 芦野教授からは、緊急時における図書館の対応に対して感謝が述べられるとともに、教員が定期的に院生の希望を聴く機会を設けながら、オンライン書籍等の充実に協力するべきであるとの意見が出された。
- ・ 武藤教授からは、自宅でデータベースを利用できる範囲を拡大することに対する希望が出された。また、大学院生の共同研究室の利用に関して、修士論文執筆の追い込みに入る期間が冬期休業期間に重なることで利用が困難になる点につき、利用を可能とすることに対する希望が出された。さらに、本学および法学研究科におけるオンライン形式の授業の実施状況について質問がなされ、清水教授が回答した。

以上、

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

社会学研究科では、2021 年度より福祉社会システム専攻を改組し、社会学専攻の中に「社会実践学コース」を設置することが決定している。2020 年度は、組織変更にともない、3つのポリシーをはじめとする基本方針を確認し、必要な修正を行う必要があった。また、新コースの教育課程を具体化し、社会人に向けた大学院の教育内容のありかたを検討した。社会学研究科の将来像の設計も含め、討議を繰り返す過程にある。

また、例年に引き続き、院生アンケートを実施するとともに、FD 活動を活発化するために講演会の開催を計画していた。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 社会学専攻 社会実践学コース設置にともなう教育内容の充実

活動実績

2021 年度から福祉社会システム専攻を改組し、社会学専攻内に「社会実践学コース」が加わることが決定している。社会学専攻内に社会人向けの新コースが加わることに伴い、教育内容の充実をはかった。

第一に、社会学専攻の基礎科目に、下記の科目を追加した。

社会学特論ⅤC「質的調査法3」

社会学特論ⅥA「SPSSによる基礎的データ解析法」

社会学特論ⅥB「留学生のためのアカデミック・ライティング」

上記はいずれも夜間開講である。

第二に、社会人むけに魅力的な教育内容をはかるために、次の2つの寄付講座を設置した。詳細は、資料1のとおりである。

- ・「社会的課題と向き合う：非営利組織の可能性」特定非営利活動法人日本 NPO センター
- ・「インクルーシブな社会をつくる：企業による取り組み」パーソルチャレンジ株式会社

第三に、社会学専攻のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに必要な修正を加えた。カリキュラム・ポリシーには、「社会人学生が夜間履修で修了できるよう、多様な学びを支援する」ことを明記した。

成果・課題

新コースの科目を検討するにあたって、基礎科目の充実をはかることができた。具体的には、「質的調査法1・2」があるところに「質的調査法3」を、「統計解析および多変量解析」があるところに「SPSSによる基礎的データ解析法」を、「英語ライティング」ならびに「英語プレゼンテーション」があるところに「留学生のためのアカデミック・ライティング」を加えることにより、学生が選択できる幅を増し、学生にとっての便宜性を高めた。

寄付講座も、新たな取り組みである。

こうした社会人向けの教育内容の充実が、実際に社会人にとって魅力的なものとして実現していけるかどうか、来年度以降の課題となる。

②入試方法の検討

活動実績

留学生の受験者が激増している実態をふまえ、2021年度の入試実施にむけて、入試方法を検討した。受験生が増加しているのは歓迎されるべきことだが、日本語での学修困難が容易に予想される受験生が多くなっているため、面接試験に支障が生じている。そこで、留学生試験に日本語能力の受験資格を設けることが提案された。また、留学生が留学生試験だけでなく一般受験でも多数受験していることから、一般受験において本研究科が求めるアドミッションポリシーを反映できるよう、試験科目を再考した。

8月の入試後に問題点を洗い出し、9月研究科委員会で問題点を提起し、10月に各専攻で議論の上、研究科委員会で改善案を検討した。大学院教務課との情報共有を経て、11月研究科委員会で修正案を承認した。

成果・課題

第一に、外国人留学生試験において、日本語能力検定試験1級を出願要件に加えた。あわせて、日本語を資格提出要件にするため、外国人留学生の「小論文と日本語」を小論文のみに変更した。第二に、一般の社会学理論ならびに英語の試験をそれぞれ別々の科目として設置し、時間を延長した。詳細は、資料2の通りである。

③社会学研究科教育活動推進委員による講演会の実施

活動実績

本学をはじめとする日本の高等教育機関において留学生が急増している現状を受けて、留学生政策に詳しい専門家を招いて講演会を開き、今後の大学院教育のあり方について情報・意見交換を行った。（フライヤーは資料3の通り）

日時：2021 年 2 月 15 日（月）16:30-18:00

講師：太田 浩氏（一橋大学全学共通教育センター 教授）

テーマ：「日本の大学院における留学生受入れの動向と諸課題」

参加者：教職員

成果・課題

太田浩氏の講演では、まず「留学生 30 万人計画」等の近年の日本の留学生政策と留学生の受け入れの概況が説明されたうえで、東洋大学大学院（白山文系 8 研究科）における留学生受入れについての検討がなされた。本講演によって、日本語学校で学んだのちに各種の専修学校、短大・大学、大学院等へ進学していくという留学生の流れ、彼ら・彼女らの卒業後の日本での就職状況などの実態を知ることができたのは、非常に有意義であった。また、本学でも急増している留学生たちの背景やニーズ、そして諸課題に関する詳細な情報は、今後、大学院の入試広報や教育内容を改善していくうえでとても参考になるものだった。さらに、聴衆とのディスカッションを通じて、実社会で役立つ専門知識や学位など、留学生と社会人とのあいだには、文系大学院に求めるものに多くの共通項があることが明らかになった点も、大きな成果である。本 FD 研修会で得られた諸知見を、実際の大学院教育に反映させていくことが今後の課題である。そのためにも、関連テーマの FD 研修会を継続的に開催することを予定している。

活動記録一覧

2021/2/15 16:30-18:00 2020 年度社会学研究科 FD 研修会 オンライン講演会「日本の大学院における留学生受入れの動向と諸課題」 区分：FD 参加者：教員約 30 名 HP 掲載×

④ 院生へのアンケート調査の実施

活動実績

以下の内容にて、2021 年 1 月に「2020 年度社会学研究科 授業評価アンケート」を実施した。

比較のため、質問内容は例年と同じものとした。例年は紙媒体で調査票を配布してきたが、今年度はオンラインで調査を実施した。大学院教務課から学生にメールで連絡していただくとともに、研究指導の教員からも協力をよびかけた。

問 1 今年度秋学期に履修している授業コース数（「研究指導を除く」）を教えてください。

1. 0 2. 1 3. 2 4. 3~4 5. 5 以上 回答欄（ ）

問 2 大学院の授業内容、運営方法等についての感想を、自由に記入してください。（自由回答）

問3 大学院の授業を受講することで得た成果、役立ったことを記入してください。（自由回答）

問4 学修・研究を進める上で、思うようにいかなかった点、改善点してほしい点があれば、自由に記入してください。（自由回答）

問5 社会学研究科の基礎科目のカリキュラムについて、基礎学力を習得するのに十分だと思いますか。（1つ選択）

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 十分である | 4. やや不十分である |
| 2. まあ十分である | 5. 不十分である |

3. どちらともいえない

回答欄（ ）

問6 あなたの専門領域からみて、専門領域の特論・演習・（社会心理学専攻の総合研究）科目のカリキュラムは十分だと思いますか。（1つ選択）

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 十分である | 4. やや不十分である |
| 2. まあ十分である | 5. 不十分である |

3. どちらともいえない

回答欄（ ）

問7 現在設置されている科目以外に、どのような科目があればよいと思いますか。また、その理由も述べてください。（自由記入）

問8 現在受けている研究指導について、あなたは満足していますか。（1つ選択）

- | | |
|---------|----------|
| 1. 満足 | 4. やや不満足 |
| 2. まあ満足 | 5. 不満足 |

3. どちらともいえない

回答欄（ ）

問9 研究指導について、要望があれば述べてください。（自由回答）

問10 英語で行われる科目を、2019年度春／秋学期に受講していますか（1つ選択）。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 受講した・している | 2. 受講していない |
|--------------|------------|

回答欄（ ）

成果・課題

回答数は32名（無記名）であった。例年より顕著に回答数が多かった。

回答結果は、資料4の通りである。なお、資料4の後半に過去4年間のアンケート結果も比較可能なかたちで収録した。過去の結果と比較すると、回答数が多かったため、例年より幅広く学生からの要望が寄せられたと考えられる。授業や研究指導への満足度はおおむね高かった。

えられた結果は教員間で共有し、研究科委員会場で意見交換をおこなった。専攻長と研究科長との間でも、学生から出された意見について個別に検討を行い、改善できる点についてはすぐに対応した。たとえば、同じ時間帯に科目が重複していて履修したい科目履修に支障があるという意見が複数あったことをふまえ、来年度の時間割を確認した。

今後も継続実施し、学生からの要望・意見に耳を傾けるとともに、趨勢の把握に努める。

⑤HIRC21 の催しに伴う海外教員・院生を交えたセミナー実施

活動実績

コロナ禍の影響により延期を重ねた結果、年度末にオンラインで日韓共同セミナーを実施した。概要は、次のとおりである。（フライヤーは資料5の通り）

日韓合同大学院生セミナー

3月22日（月）11:00~12:00、Web 配信

韓国、成均館大学（Sungkyunkwan University）社会心理学者チェ（Hoon-Seok Choi）教授
講演「COVID19 Pandemic & Individualism-Collectivism- So far and from this on -」

東洋大学社会心理学専攻 松田教授以下院生による3題の研究発表（テキスト）

・ MATSUDA, Eiko.

The Coronavirus Pandemic Dreams in Japanese Adult Females: A Qualitative Analysis of Three Case Reports.

・ WANG, Shang., MATSUDA, Eiko., & MATSUOKA, Kazuo.

Coronavirus Pandemic Dreams in China (1): The effect of the city lockdown on dream recall frequency and the characteristics of the dreams.

・ XIA, Wenyu., WANG, Shang., MATSUDA, Eiko., & MATSUOKA, Kazuo.

Coronavirus Pandemic Dreams in China (2): The impact of the Wuhan lockdown on dream contents.

成果・課題

コロナ禍の影響により、開催時期がかなり遅くなったため、参加人数はそれほど多くなかったが、チェ（Hoon-Seok Choi）教授の講演ではタイムリーなコロナ禍の影響についてきわめて興味深い報告を伺うことができた。また、大学院生の研究発表に対して、学生同士ならびに教員から適切なコメントの提示がおこなわれた。このような発表とそれへのフィードバックのやりとりは、院生の研究指導の活発化につながるだけでなく、学生指導の方法について教員間で共有したりその方法を研鑽したりする場としても役に立つものとなった。

毎年、韓国の大学院生との共同セミナーを開催して研究者および学生の交流を継続してきた。今年度も継続実施できた意義は大きいとともに、オンラインでもある程度の交流ができる可能性を開くことができた。

来年度も引き続き実施するとともに、オンラインでも交流拡大の方法を検討していきたい。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2021 年度も、引き続き F D・SD 活動を進めていく予定である。

① 社会学専攻「社会実践学」コースの教育内容の検討

入学生を迎え、新コースを加えた専攻としての教育内容ならびに研究指導の充実をはかっていきたい。社会人からは、オンラインでの授業実施への要望が強い。基本的にオンラインでの授業がどの程度実現可能かも含めて、新たな教育のあり方も検討したい。さらに、社会学研究科としての大学院教育のあり方を長期的に検討していくために、WG の設置も検討したい。

② 社会学研究科研究活動推進委員による講演会の継続実施

今年度は留学生に焦点を絞った講演を依頼した。来年度は、社会人教育をテーマとした講演会を企画している。

③ 院生へのアンケート調査の実施

引き続き院生の意識、意見などを知るため実施する。アンケート結果の学生へのフィードバックにつとめたい。また、数年分のアンケート結果が蓄積されてきたことから、その経年的な推移にも着目して分析をすすめ、成果を教員にフィードバックして教育内容の改善に役立てる予定である。

④ 教育力強化特別予算の活動実施

教育力強化特別予算に採択されたことをふまえ、海外教員・院生を交えた研究に関するセミナーや研究交流を引き続き実施する。

以上

寄付講座：日本 NPO センター

サブタイトル：「社会的課題と向きあう：非営利組織の可能性」

- ① 開講年度：2021 年度～2022 年度
- ② 配当学年：博士前期課程 1～2 年
- ③ 開講時期：秋学期
- ④ 開講曜日時限：水曜日 7 限
- ⑤ キャンパス：白山キャンパス
- ⑥ 科目名：社会実践学特論 IV-A 〈寄付講座〉社会的課題と向きあう・非営利組織の可能性
- ⑦ コース数：1
- ⑧ 単位数：2
- ⑨ 担当教員：文貞實・須田木綿子

⑩ 講義の目的・内容：

心身にならんかの障害を持つ人々が働くこと、生きること、そしてそれを取りかこむ社会のありようについて、障害者就労支援に取り組む民間の非営利の活動の視点から考えます。これらの活動には行政からの補助金等も提供されるようになっていますが、近年は、短期的な成果を求めるプレッシャーが高まり、そのゴールを達成するために支援の対象を選別する・しないといった新たな課題も浮上しています。同時に、就労と社会参加は必ずしもイコールではなく、雇用にとらわれない働き方の模索や、働かなくても社会に関わることのできる機会の提供などの取り組みが進んでいます。以上の事柄に着目して、広くは人が働くことの意味について考えるとともに、このような現実的課題への学術的な立場からの関わりや貢献の可能性を探ります。

⑪ 講義スケジュール：

回	内容
1	自己紹介、授業の進め方
2	障害者と市民社会
3	障害者にとっての「はたらく」こと
4	障害者就労支援：障害者就労支援に取り組む特定非営利活動法人の事例
5	第4回の事例の検討
6	障害者就労支援：農福連携に基づく障害者の就労支援に取り組み特定非営利活動法人の事例
7	第6回の事例の検討
8	障害者就労支援：アート・デザイン活動を通じて障害者と社会との新しい関わりの構築に取り組む特定非営利活動法人の事例
9	第8回の事例の検討
10	障害者の就労の再帰的課題：再・障害者にとって「はたらく」とは？
11	「はたらく」ことをめぐる障害者と健常者の関係
12	障害者が「はたらく」ことにかかわる50の課題を考える
13	課題を解く：調査計画の策定①
14	課題を解く：調査計画の策定②
15	プレゼンテーションおよびまとめ

⑫ 指導方法：

日本NPOセンターの担当者および担当教員による講義、毎回の講義ののちのふりかえりと論点整理を積み重ね、最終的に、現実的な社会的課題に学術的な概念や調査技法をも行った調査計画を学生が策定することによる体験的学習を重視します。

⑬ 成績評価の方法：

平常点（50%）：出席状況および授業への参加状況

プレゼンテーション（50%）：寄付講座担当者と担当教員で評価

最終的な成績判定：寄付講座担当者との協議をふまえ、最終的に担当教員が単位の認定と成績の評価を行います。以上の成績評価にあたっては、東洋大学大学院の成績評価基準に準じます。

⑬ テキスト等：適宜指示

⑭ 他専攻・研究科学生の聴講：可

寄付講座：パーソルチャレンジ株式会社
サブタイトル：「インクルーシブな社会をつくる：企業による取り組み」

- ① 開講年度：2021 年度～2022 年度
- ② 配当学年：博士前期課程 1～2 年
- ③ 開講時期：秋学期
- ④ 開講曜日時限：木曜日 6 限
- ⑤ キャンパス：白山キャンパス
- ⑥ 科目名：社会実践学特論 IV-B 〈寄付講座〉インクルーシブな社会をつくる・企業による取り組み
- ⑦ コース数：1
- ⑧ 単位数：2
- ⑨ 担当教員：村尾由美子・榊原圭子

⑩ 講義の目的・内容：

多様な背景を持つ人たちがともに働くことのできる社会、すなわちインクルーシブな社会をつくるという課題に対し、障害者雇用の領域に取り組む民間企業がどのようにアプローチしているのかを考えます。法律の整備にも後押しされ、日本における障害者雇用は着実に進展しています。しかし採用後、職場の受入体制が十分整っていない、人間関係がうまくいかない、本人の健康状態の悪化、不安の増大などにより、定着する前に退職に至ってしまうケースも多く見られます。

本講義では、障害者雇用をめぐるこれまでの取り組みや課題などを概観したうえで、現場において実際に生ずる諸課題に関するケースに取り組み、障害者雇用のあるべき姿を展望、解決すべき問題を明確にします。これらを踏まえ、障害者雇用に関する研究への取り組みを検討します。

これにより、当コースのカリキュラム・ポリシーにある「現代社会における社会や労働、福祉、教育、文化などについての深い知識の獲得と、それに基づく具体的な対策の提案能力の習得」を図ります。

⑪ 講義スケジュール：

回	内容
1	自己紹介、授業の進め方、インクルーシブな社会の実態と課題
2	企業における障害者雇用の歴史と現在
3	企業における障害者雇用の実態と課題
4	ケーススタディ① 業務をいかに創出するか
5	ケーススタディ①についての発表と解説
6	ケーススタディ② 障害者雇用への不安や反発
7	ケーススタディ②についての発表と解説
8	ケーススタディ③ 採用・定着・育成の問題
9	ケーススタディ③についての発表と解説
10	ケーススタディ④ 障害者雇用に関する組織の戦略
11	ケーススタディ④についての発表と解説
12	企業における障害者雇用のあるべき姿の展望と、それに向けて解決すべき問題の抽出。
13	研究計画を作る：企業における障害者雇用について、どのような研究を行うか。
14	研究計画を作る：上記続き
15	研究計画の発表、障害者雇用に関する研究の留意点、まとめ

⑫ 指導方法：

株式会社パーソルチャレンジの担当者および担当教員からの講義、具体的な事例に基づくケーススタディへの学生の取り組みと発表、メンバー全体での討議など、学生の参加による双方向型の授業を行います。

⑬ 成績評価の方法：

授業への参加姿勢（発言・質問、振り返りレポート、ケースへの取り組み） 50%

最終レポート 50%

*最終レポートは、授業で取り扱った内容に関するテーマに関し、履修者自身が問いを設定し、適切に文献を引用しながら、問いに対する回答をまとめてもらいます。

<最終レポートの評価基準は以下の通り>

S 企業における障害者雇用の現状や課題を理解し、根拠を示しながら実現可能性の高い対応策を提案している。

A 企業における障害者雇用の現状や課題を理解し、根拠を示しながら対応策を提案している。

B 企業における障害者雇用の現状や課題を理解し、対応策を提案している。

C 企業における障害者雇用やインクルージョンの現状や課題を理解している。

最終的な成績判定：寄付講座担当者との協議をふまえ、大学院の成績評価基準に準じて、担当教員が単位の総合的に評価を行います。

⑭ テキスト等：適宜指示

⑮ 他専攻・研究科学生の聴講：可

社会学研究科 2020 年 11 月 19 日

審議事項3. 2022 年度入試試験内容について(案)**-1 出願書類について**資料: 入学試験要項 2020-2021 社会学研究科 p46-49

外国人留学生試験において、日本語能力検定試験 1 級を出願要件に加える。

(現行は、「日本語能力検定試験 1 級合格者は公式証明書 (コピー可) を提出してください」)

→出願書類に、「外国人留学生入試出願者は英語能力証明書 (IELTS または TOEFL, PBT, iBT) もしくは日本語能力証明書 (日本語能力検定試験 N1 または旧 1 級) を提出してください (コピー可)。」を加筆。

*経営学・マーケティングならびに国際地域学で導入済み

*資格がない留学生は、一般入試受験にまわることになる。→専門科目の試験で対応

-2 2022 年度以降の入試の受験科目についての提案資料: 入学試験要項 2020-2021 社会学研究科 p28-29

社会学専攻

博士前期課程

一般: 10:00~11:30 社会学理論 13:00~14:00 英語 14:30~面接

*社会学理論ならびに英語の試験時間の延長

社会人: 変更なし (面接のみ)

外国人留学生: 10:00~11:30 小論文 13:00~面接

*「小論文と日本語」を日本語を資格提出要件にするため、小論文のみに変更

博士後期課程

一般: 変更なし (英語と面接)

社会人: 変更なし (面接のみ)

外国人留学生: 10:00~11:30 小論文 13:00~面接

*「小論文と日本語」を日本語を資格提出要件にするため、小論文のみに変更

社会学専攻

— 博士前期課程 —

〔一般入試〕

試験時間割 (8月・2月)	10:00～11:30	13:00～
	社会学理論と英語 (辞書使用可)	面接



試験時間割 (8月・2月)	10:00～11:30	13:00～14:00	14:30～
	社会学理論	英語 (辞書使用可)	面接

〔社会人入試〕

試験時間割 (8月・2月)	10:00～	※出願時に6,000字以上の研究計画書を提出すること。先行研究をふまえ、研究方法を具体的に記すこと。(研究計画書(本学所定用紙)は提出不要)
	面接	

〔外国人留学生入試〕

試験時間割 (8月・2月)	10:00～11:30	13:00～
	小論文と日本語 (辞書使用不可)	面接

— 博士後期課程 —

〔一般入試〕

試験時間割 (2月)	10:00～11:30	13:00～
	英語 (辞書使用可) と小論文	面接

〔社会人入試〕

試験時間割 (2月)	10:00～
	面接

〔外国人留学生入試〕

試験時間割 (2月)	10:00～11:30	13:00～
	小論文と日本語 (辞書使用不可)	面接

－3 出願資格の表記の変更

出願資格は変更せず、文言も現行のままとする。

以上

オンライン講演会

学内関係者
参加歓迎

日本の大学院における 留学生受入れの動向と諸課題

近年、日本の高等教育機関においては、留学生が急増しています。

本研修会では、増加する留学生の背景や諸大学における取り組みに関する講演をもとに、今後の大学院教育のあり方について議論します。



日時 2021年2月15日（月）16:30-18:00

形式 Webex Meetings によるオンライン開催

<https://toyouniv.webex.com/toyouniv/j.php?MTID=m18fd7ad0fb2f9bf43ebe6dc392b9155c>

〈事前申込不要〉

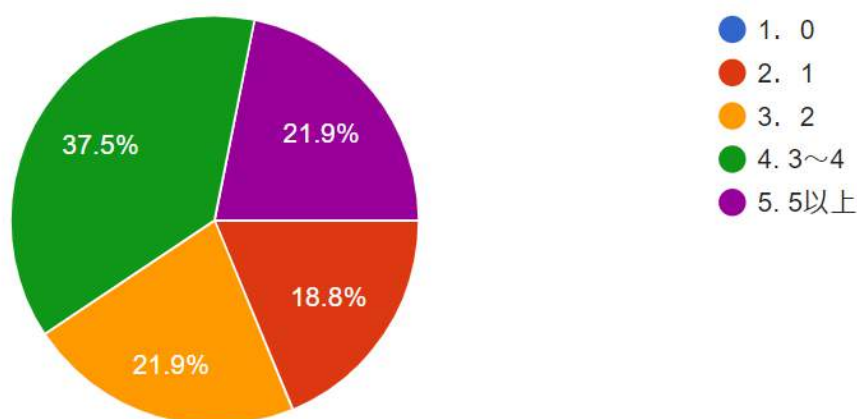
講師 太田 浩氏（一橋大学 教授）

対象 社会学研究科をはじめとする本学教職員

2020 年度社会学研究科 授業アンケート（集計結果）

方法： 大学院教務課からメールで学生に案内、回答数 32 名（無記名）
2021 年 1 月実施

問 1 今年度秋学期に履修している授業コース数（「研究指導を除く」）



問 2 大学院の授業内容、運営方法等についての感想を、自由に記入してください。（自由回答）

- ・オンライン授業という特殊な状態ではあるものの、授業内容の分かりづらさを感じることはありませんでした。
- ・授業内容については概ね満足しています。コロナ禍での入学だったので例年と比較することはできませんが、オンライン授業は移動がなく授業に集中できました。
- ・対面授業とネット授業両方とも使う授業形式はいいと思います。
- ・大学院ゼミ形式授業は、遠隔形式があっていると感じた。うまく調整さえできれば、日中仕事等している場合であっても、移動時間を短縮できよい。
- ・ほとんどがリモートでの授業でしたが、比較的スムーズで良かったと思います。
- ・アーカイブ授業をやめてほしいです。アーカイブビデオをみるだけでは授業ではないと思います。
- ・ウェブ講義の実施が助かりました。授業内容について、身になる学習ができていると思います。
- ・様々な観点から物事を捉えることができました。
- ・総合研究という授業の必要性を感じられない。参加するのは決まった先生のみ（大変真摯に学生に向き合い、指導してくださる先生も少数だがいる）であり、自分の研究室の学生の発表すら聞いていない指導教授ばかりで辟易している。以下略

問 3 大学院の授業を受講することで得た成果、役立ったことを記入してください。（自由回答）

- ・少人数であることが多かったので、自分が知りたいことを先生に直接伝えることでより深く、専門的な内容を学ぶことが出来たと思います。
- ・論文の読み方や何に着目するかといった点、また、社会学の基礎的な部分をしっかり学ぶことができました。

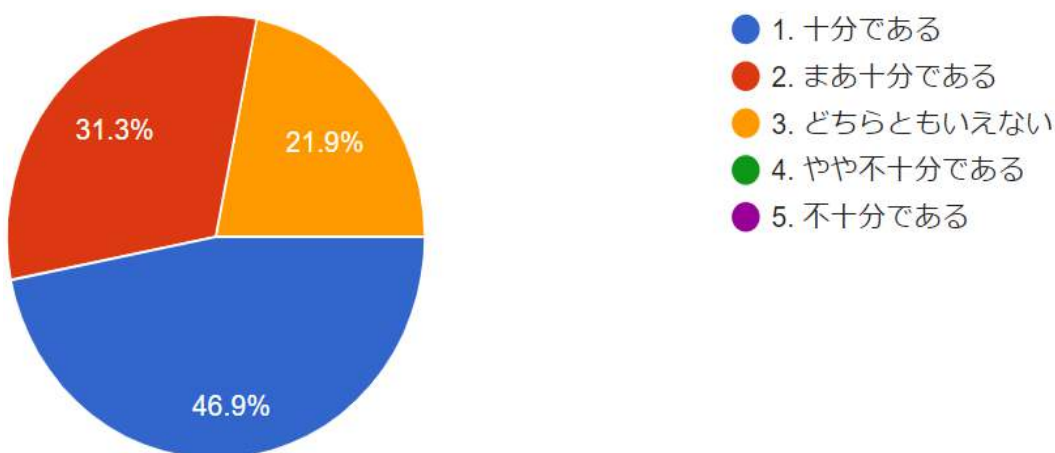
た。

- ・修論を完成するため多数な知識をもらいました。
- ・論文に役立つ知識を勉強した
- ・各方面の情報を知ることができた。
- ・研究論文を作成するに当たっての自分の弱点および不足な所が分かった。
- ・議論することが多いため、質問する力がついたと感じている
- ・修論を書くことに方法論と知識をもらいました。
- ・研究方法と研究の方向について役立ちました。
- ・クリティカルシンキング
- ・不明な点を論文等使用して調べる習慣がついてきたこと。実務に活かせる知識を得られたこと。

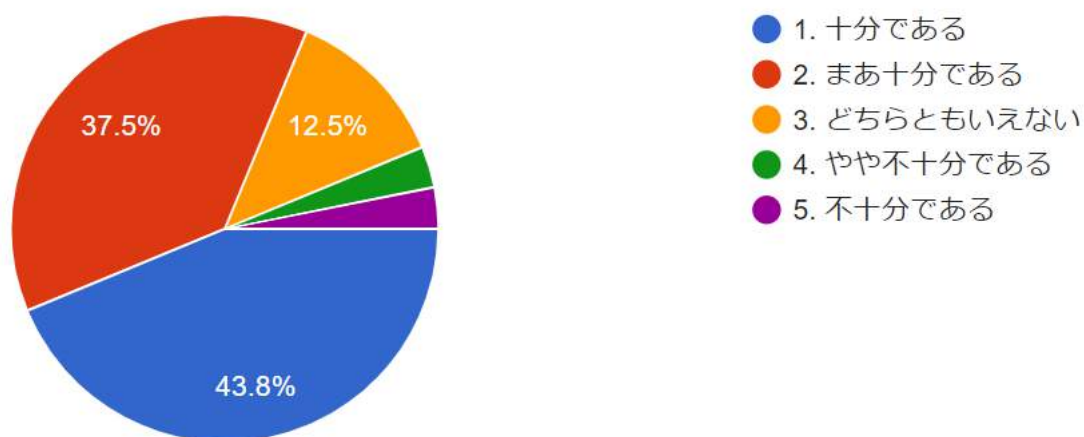
問 4 学修・研究を進める上で、思うようにいかなかった点、改善してほしい点があれば、自由に記入してください。(自由回答)

- ・対面にしてほしい
- ・大学に行かない分、図書館利用がなかなかできず、インプット量が少なかった気がします。大学に行っていれば、もっとインプットできたように思います
- ・共同研究室の土日祝日の利用。
- ・改善点は特にない、むしろ自分がもっと文献を読み込む必要があると痛感している。
- ・研究にかける費用への支援は意外とないところです。
- ・軽い相談をする時間がオンライン授業のため作れなかった
- ・中間報告を終えた後も、テーマ再考の指導を受けた点。
- ・研究室の使用が困難であったため、先輩方と交流する機会が少なかったです。
- ・大学院生が便利使いされている現状を把握してほしい。研究するために大学院に入り、高い学費を払っているのに、研究指導や実績づくりという名目のもと、多くの仕事を押し付けられ、自分の研究をする時間を削られることに疑問を感じる。

問 5 基礎科目のカリキュラムは基礎学力を習得するのに十分だと思うか



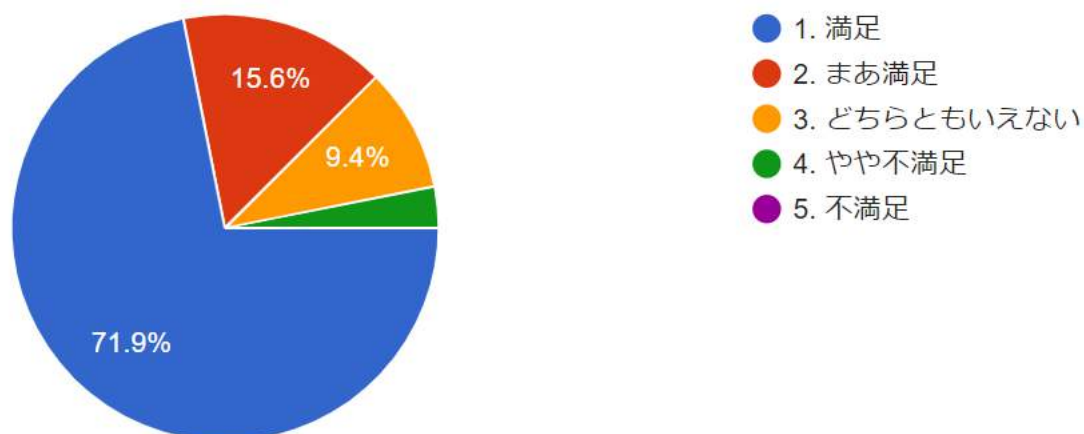
問 6 専門領域の特論・演習・(社会心理学専攻の総合研究)科目のカリキュラムは十分かどうか。



問 7 現在設置されている科目以外に、どのような科目があればよいと思いますか。また、その理由も述べてください。(自由記入)

- ・私は、豊かな研究には自分の研究分野にとらわれない知識や考え方を取り入れる必要があると考えています。なので、より先生方の専門分野に特化した科目があってもいいのではと思いました。
- ・社会学のさらに専門的な内容
- ・実験系が少ないのでもう少ししたいです。他の人の研究を聞き議論をするのも良いが、自分が興味ある分野についての議論ももう少ししてみたいです。
- ・文章力向上講座

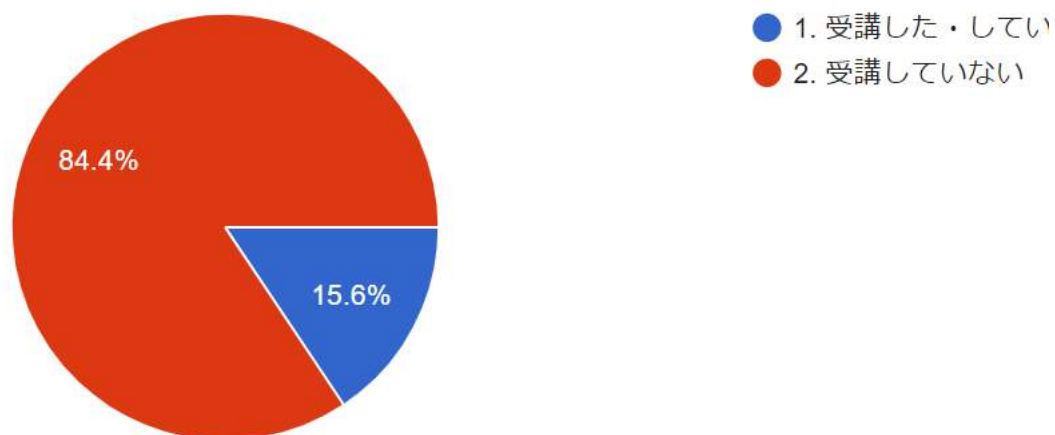
問 8 現在受けている研究指導への満足度



問 9 研究指導について、要望があれば述べてください。(自由回答)

- ・2年間で卒業を踏まえた指導をいただきたかったです。メールでの連絡について、回答を頂けないことが度々ありました。

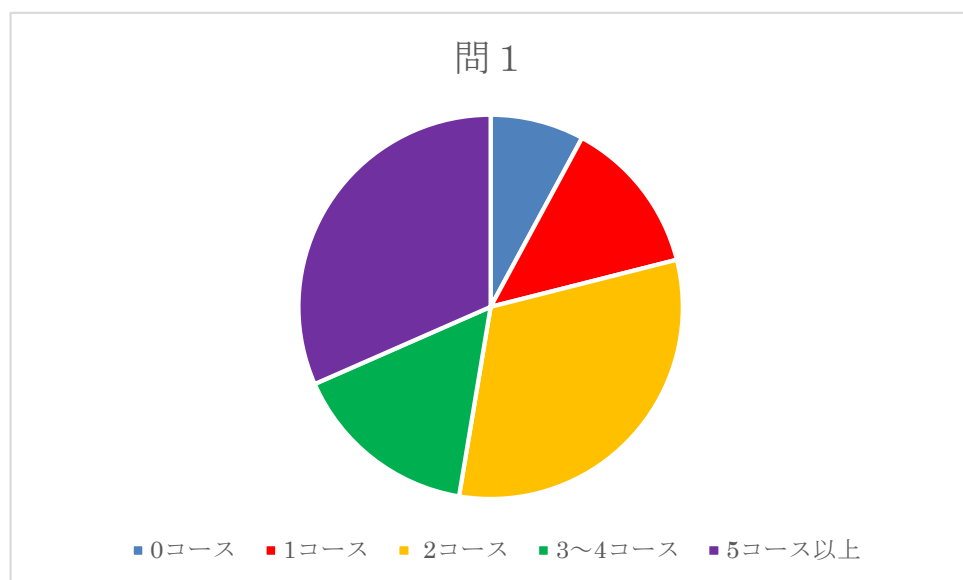
問 10 英語で行われる科目を、2020 年度春／秋学期に受講しているか



2016～19 年度社会学研究科 授業アンケート（集計結果）

2019 年度：研究指導にて配布、大学院教務課回収用ボックスに投函	回答総数 7 名（無記名）
2018 年度：研究指導にて配布、大学院教務課回収用ボックスに投函	回答総数 9 名／53（無記名）
2017 年度：研究指導にて配布、大学院教務課回収用ボックスに投函	回答総数 11 名／58 名（無記名）
2016 年度：ToyoNet-Ace を利用	回答総数 11 名／44 名（無記名）

問1 今年度秋学期に履修している授業コース数（「研究指導を除く」）を教えてください。



問 2 大学院の授業内容、運営方法等についての感想を、自由に記入してください。（自由回答）

- △授業内容が面白くて、留学生の私にとって、わからないところを先生がもう 1 度教えてください。
- △順番を決めて発表するのがほとんどです。たまに毎週発表の授業があるので、ちょっときついです。
- △授業など、今のままでいいと思っています。
- △授業内容と運営方法はほぼ完璧です。特に授業内容について、内容が広くて目新しいので、とても素晴らしいです。
- △授業（動画）をネットで公開してほしい。
- △社会学は、新聞の読み物や TV などの豆知識的に触れてきたが、授業で社会学と福祉学の結びつきについて両方とも勉強することができた。
- 内容は十分に豊富であり、わかりやすくご教授いただいています。
- 専門的な知識が十分でないまま入学してきている院生が目立つので、入試でもっとしっかりふりかけにける必要があると思う。
- 専門的な内容でとてもためになる。自分の研究についても話す機会もあってありがたいです。
- 指導教員による相違が目立つ。温度差もあり、内容については学生への突っ込みがあってよい。

アクティブラーニングの運用も可能で。

○授業内容は多様で、たくさんのことを勉強できる。たまに学部の外国語の授業を取りたかったが、人気が高くて抽選になるので、あきらめたのが残念であった。

○学生の勉学に相応しい授業をされていてとても良いと思います。

※授業内での発表が多く、自分の研究を進めにくかったです。授業内容はどれも充実していると思います。1つの時限に複数の授業が組まれていたり、同じ曜日に朝から晩までもしくは朝と晩に授業が組まれていることがあり、スケジュール的な問題で履修を断念しなければならない授業が存在する点は修正したほうがよろしいかと思います。

※研究指導や総合研究を通じて、各領域の著名な先生、最先端の研究が行われている先生と気軽に議論できることが、魅力的であり、自身のキャリア形成にとっても大きな財産となっています。

※各々の研究発表に対して、より自由そして楽な雰囲気での検討してよかったと思う。

※よいと思う。＜3名＞

問3 大学院の授業を受講することで得た成果、役立ったことを記入してください。(自由回答)

△修士論文の書き方がわかりました。社会学についての認識がより深く、よりよく日本社会を理解しました。

△主指導先生授業で修論に役立つアイデアをいただきました。

△社会学理論を学修できて役立っています。論文を書く上で避けて通れないので、ゼミで深く意味を考えることができて良いと思っている。

△原書講読と英語表現の授業、非常に英語能力が上手になりました。

△入学したばかりだけど修論に関する研究を始めました。先生のおかげで多くの専門知識を学びました。

△英語の発表に触れられる。

△量的研究方法を勉強し、これから修論を研究するときに役立つことがたくさんあったと思う。

■実務を行なう上での理論を学んだことにより、仕事の質が高まったように思う。

■色々な研究のアプローチについて学べた。

■修士論文の執筆に資する知識(先行研究を中心に)を学べた。

■より専門的な知識を深めることができた。

■批判的な視点。

■学部でできていなかった所を痛感させられる上に、一研究者として研究方法を一から学ぶことができたこと。

■統計授業で、知識を身につけられることが助かった。

○発表に対して、先生の意見は非常に役立つと思います。

○研究計画を立てる上で、自分の計画案を様々な視点で議論できたことが有用であった。

○統計の授業を受講しています。論文を書く為に必要なスキルなので役に立っています。

○統計学についていろいろ勉強になりました。

○研究方法、分析方法を見につけて、自分の研究がうまく行くようになった。理論よりいかにそれを生かすという考え方を見につけたと思う。

○日本語が上達し、論文も無事書き上げました。

○新しい取り組みができた。

○a.基礎科目があるので、たいへん役に立ちました。b.論文の書き方にもっと分かるようになった。

※専門知識が身についたと思います。発表資料を作成するためにパソコンを使用するため、タイピングやワード、パワーポイントを扱う技術を向上できたと思います。

※尺度の作り方と分析方法を学んで、修士論文にすごく役に立ちました。

※自分の研究課題について、たくさんいいアイディアをもらえる。

※大学院の授業を通じて、社会の各現象やことに対してより冷静な判断ができ、そして新しい視点で分析することができるようになった。

※発表を通じて、先生の意見をたくさんいただきました。自分の研究も順調に進めました。

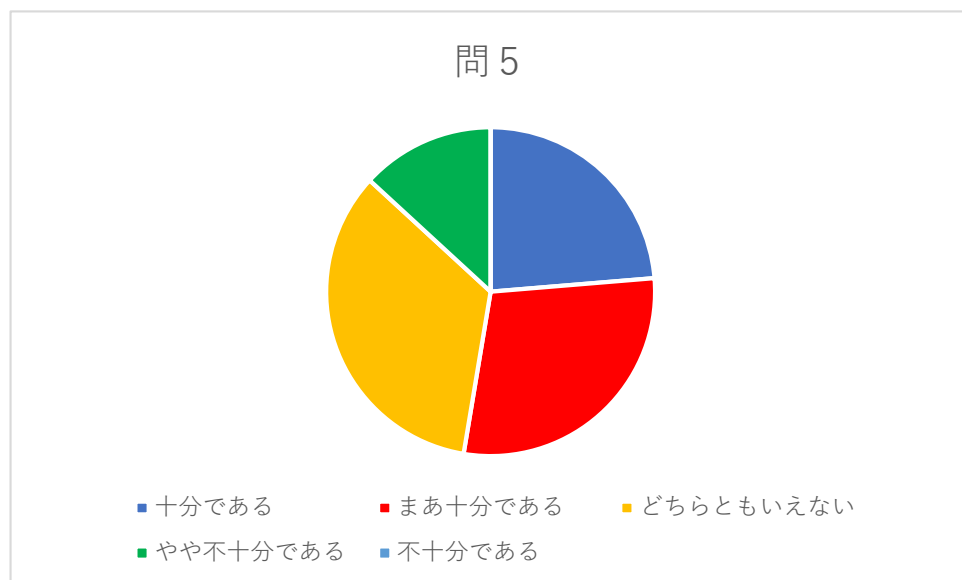
※指導教授とのタイムリーな議論を通じて、論文の投稿や助成金の申請をより速やかに行うことができました。その結果、学術雑誌への論文の掲載や助成金の獲得などの成果をあげることができました。

※日本語力はかなり伸びました。

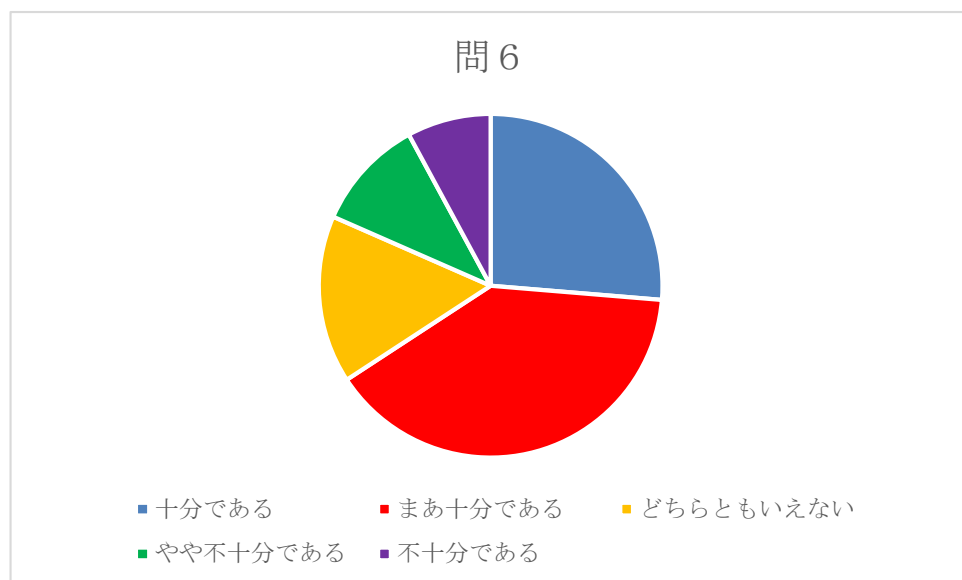
問 4 学修・研究を進める上で、思うようにいかなかった点、改善してほしい点があれば、自由に記入してください。(自由回答)

- △図書館に同じ本が 1 冊しかない。大人気で待ち時間が長い。
- △授業をネットで公開してほしい。社会人学生だとなかなか通学できないので。
- △もう少し資料をプリントに盛り込んでくれたら。
- △興味を持つ先輩たちの修論を拝借できれば。
- 先行研究の整理が遅くなっている。
- 社会心理の枠を拓けるようなものも欲しかった。
- 社会調査の方法論をうまく理解することが難しかった。
- 学内で院生の共同研究室が入数に対して不釣り合い。
- 予定変更を早めに情報共有してほしい。
- 予定変更は決まり次第、大まかな予定でも構わないので教えて頂けると有難いです。
- 自分の研究が思うように進まなかった。
- 必要に応じて研究室（共同研）を利用するが、社会学専攻と社会心理学専攻が使い方に相違があるようで、共同は不適切と感じた。個人用のパソコンと勘違いもしているため、部屋はそれぞれに分けた形で運用すべきとおもう。
- たまに研究室にパソコンが足りないことがある。プリンターは紙がつまりやすくて、たまにあわてることもある。
- 量的調査を行う院生のために、SPSSなどのソフトの操作方法を教授する授業を増やすのではないかと思います。
- ※論文をどうやって書くのか、それを理解している方が少なくない。関連の授業や講演が必要だと思います。
- ※院生共同研究室のパソコンの台数が人数に対して少なかったり、パソコンのエラーや動きに重さがあるという点において、思うように研究ができないことが多々ありました。パソコンルームのようなものが共同研究室とは別にあれば捗るとおもいます。
- ※とくにない<2名>

問 5 社会学研究科の基礎科目のカリキュラムについて、基礎学力を習得するのに十分だと思いますか。(1つ選択)



問 6 あなたの専門領域からみて、専門領域の特論・演習・(社会心理学専攻の総合研究) 科目のカリキュラムは十分だと思いますか。(1つ選択)



問 7 現在設置されている科目以外に、どのような科目があればよいと思いますか。また、その理由も述べてください。(自由記入)

△社会学代表研究者の理論に関する授業を開設してほしい。

△SPSS 入門操作の授業を開設してほしい。

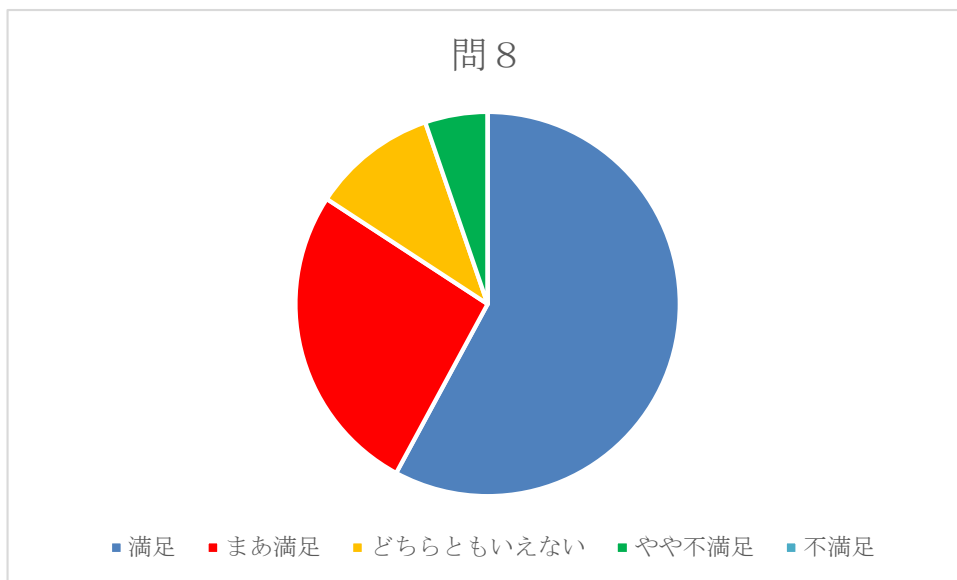
■ 研究法

■ みんなで最新の研究論文をひたすらたくさん読む。

■ R の使用を教えてくれるところ。

- 研究計画などをより深めて実践できるような科目を希望する。
- アディクション（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）
- SPSS統計・実習
- 教育社会学に関する内容の科目を設置する必要があると思います。家庭教育とメディア教育に詳しい先生はいらっしゃると思いますが、学校教育と社会の関わりに関する科目はまだ足りないと思います。
- 体育 体を動かすことで勉強にさらに集中できます。
- ジェンダーに関する科目。社会学専攻ですので、ジェンダーが大事な分野だと思います。
- ※教育社会学や、ジェンダー関連の科目が増えればと思います。
- ※臨床心理学系の科目(最低限度の内容は学ぶ必要性があると感じるため)、ビジネス心理学系の科目(社会に出て役立たせる可能性があるため)、パソコンの使い方に関する科目(大学で学ぶ機会がないにもかかわらず、大学院ではスキルを必要とされるため)
- ※社会のホットな現象を分析する授業。理由：これから社会人になって社会を溶け込むために。
- ※社会心理学は応用心理学の一領域であるため、少なからずどの院生も社会の中で研究活動を進めていくことになります。専門的な知識以外にも、リベラルアーツ的な要素も必要になってくると思いますので、例えば、芸術や文学など他領域の科目を週替わりで受講できる科目があると興味深いかもしれません。

問 8 現在受けている研究指導について、あなたは満足していますか。(1つ選択)



問 9 研究指導について、要望があれば述べてください。(自由回答)

- △研究指導の時間をもっと長くしてほしい。
- 論文の質の指導に加え、2年間で卒業することを見据えた指導を受けたい。
- 先生、先生によって指導方針が異なるので戸惑う面が多い。
- 1:1で指導して頂く機会があれば有難いです。
- ゼミの指導も多いため、なんとも言えません。
- みんな修論の進度はそれぞれであったが、最後余裕をもって提出することができてなかった。中

間発表のような定期的に行う行事(?)があれば、ある意味で役に立つではないかと思う。
 ○満足しているので、特にありません。
 ※研究指導というものが存在するものの、何をすることを指しているのかが曖昧であり、先生によって指導の程度が大きく異なるので、統一された指針のようなものがあればいいかと思います。
 ※研究の途中で迷ったとき、先生からヒントをいただきました。今後もこのようなヒント指導をいただきたいです。
 ※満足している <3名>
 ※とくにない

問 10 英語で行われる科目を、2018 年度春／秋学期に受講していますか。 (1 つ選択)

受講した・している	5	受講していない	2
受講した・している	3	受講していない	6
受講した・している	6	受講していない	5
受講した・している	5	受講していない	6

以 上

2020 年度大学院学長施策事業
日韓合同大学院生セミナー

社会心理学の可能性：未来への提案

日時：2021.3.22 11:00~12:00

登壇者：成均館大学 チェ教授 ビデオ録画にて登壇

東洋大学 松田研究室より、3 名が研究発表（テキストにて）

参加者：東洋大学社会学研究科の教員および院生

場所：オンライン開催（ビデオ録画の放映）

当日スケジュール

11:00 開催

11:05 成均館大学（Sungkyunkwan University）チェ先生からのビデオ講演

・ Hoon-Seok Choi.

COVID19 Pandemic & Individualism-Collectivism - So far and from this on -.

11:55 松田研究室 研究発表要旨 3 題（テキスト配信）

・ MATSUDA, Eiko.

The Coronavirus Pandemic Dreams in Japanese Adult Females:

A Qualitative Analysis of Three Case Reports.

・ WANG, Shang., MATSUDA, Eiko., & MATSUOKA, Kazuo.

Coronavirus Pandemic Dreams in China (1): The effect of the city lockdown on dream recall frequency and the characteristics of the dreams.

・ XIA, Wenyu., WANG, Shang., MATSUDA, Eiko., & MATSUOKA, Kazuo.

Coronavirus Pandemic Dreams in China (2): The impact of the Wuhan lockdown on dream contents.

12:00 閉会

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

「適切性等の検証に関する内規」に基づき、2020 年度においても院生の学修と研究能力向上、大学院担当教員の指導力（質保証）を高めるために、大学院担当教員と川越教学課大学院担当職員が連携して FD・SD 活動を継続して推進し行く。① FD 講演会 PBL 教育、起業家養成プログラムに関連した FD 講演会を開催する予定である。② 朝霞・川越・板倉キャンパス研究交流会 川越の 3 研究科（理工・学際・総情）が中心となり学部と連携して開催してきた「川越フォーラム」が今年度で終了した。このため、既存の「朝霞・川越・板倉キャンパス研究交流会」に「川越フォーラム」で培ったノウハウを注入し、キャンパス間の大学院生を中心とした研究交流へと発展させる予定である。③ ベンチャー・サイエンス特論 来年度においても、本学産学協同教育センター・中核人材育成講座と連携したプログラム内容で実施する。④ 教育・研究等改善アンケート 設問内容の変更はなく継続して実施する。⑤ シラバス点検 継続して実施する。⑥ 適切性等に関する検証 「適切性等の検証に関する内規」に基づき、自己点検・評価項目を中心として検証を行う。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①FD 講演会

活動実績

コロナ禍の中、当初予定の講演会を実施することができなかった。

成果・課題

オンデマンドの講演を事前に用意しておく必要がある。

②朝霞・川越・板倉キャンパス研究交流会

活動実績

コロナ禍の中、中止となった。

成果・課題

学生の交流ができなかったのが残念であるが、対面での交流でないと効果が得られないためコロナ禍では困難であった。

③ベンチャー・サイエンス特論

活動実績

休講

成果・課題

グループディスカッションがメインの講義であるため、Web では効果が得られないと判断した。

④教育・研究等改善アンケート

活動実績

実施期間：2020 年 11 月 17 日（火）～2021 年 1 月 8 日（金）

対 象 者：博士前期課程 141 名、博士後期課程 11 名（2020 年 10 月 1 日現在在学学生）

回答者数：博士前期課程 120 名（回収率 85.1%）、博士後期課程 7 名（回収率 63.6%）

成果・課題

理工学研究科が実施する「教育・研究等改善アンケート」は、学部学生向けの授業評価とは視点を換え、研究指導等についての学生満足度評価の色彩を強めた設問により、研究指導体制や研究教育環境の改善に資する項目にしている。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学内への入構制限もあり十分な研究活動を行なう事が出来なかったため、関連した設問を増やした。（設問 博士前期課程：39 項目、博士後期課程：30 項目）

主には、研究活動、教育研究環境、TA・アルバイトにおける研究への影響等、多岐に渡り学生の満足度を確認する内容となっている。全体的には、満足していると回答した者は 104 名（とても満足、満足、まあ満足の合計）、不満と回答した者が 8 名（不満、やや不満、あまり満足していない）であった。昨年度に比べて、不満と回答した者が 6 名に増えているが、新型コロナウイルス感染症の影響によるものだと考えられる。

アンケート結果は、2 月の専攻長会議で確認した後、それぞれの専攻でも検証を行い、改善に向けての議論を行った。特に、総合的な満足度で「不満がある」と回答があったところには、専攻内でその原因を調査し、早急に改善を行った。

⑤シラバス点検

活動実績

実施期間：2021 年 2 月 5 日（金）～2021 年 3 月 5 日（金）

点検総数：51 件（理工学研究科博士前期・後期課程）

成果・課題

シラバス点検チェックリスト（第三者用）に基づき、授業担当者以外による第三者チェックを行った。一部、「標準レベル」に達していない授業科目があったが、点検者を通じて見直しおよび必要に応じて修正を依頼した。このため、すべての授業科目において、学修の質を向上させるための基本的内容が記述されており、重点事項をクリアすることができた。「発展レベル」についても第三者によるチェックが終了しており、修正が必要と思われる授業科目については修正を依頼した。

⑥適切性等に関する検証

活動実績

日時：2021年2月25日（木）13：00～15：20

参加者：研究科長、各専攻長(6名)、事務職員(1名)

議題：1. 研究機関(国・企業等)との連携について(連携大学院方式)
2. 3キャンパス研究交流(川越フォーラムの後継)について
3. 英語トラックについて

成果・課題

成果：

1. 連携大学院
 - ① フィリピンのマプア大学とそれぞれの専攻とで学生交流も入れたテーマを来年度中に検討することになった。
 - ② 各専攻で国研や大手企業から客員教授を招き講義や学生研究テーマを持ってもらうための人選や共同研究テーマ設定を行いことにした。
2. 研究交流
 - ① 3キャンパス研究交流に、セッションを提案し機械や電気や建築や都市の学生も参加できるようにする。
 - ② 理工学研究科のみの川越フォーラムを実施し、大学院進学率を上げる。
 - ③ 上記に関する予算を理工学研究科内で組んでおく。
3. 英語トラック
 - ① 本学の学生の英語力を考えると無理に英語トラックにする必要はない。
 - ② 海外大学との単位互換ができるよう各専攻で相手大学を選定する。

課題：

- ① 連携大学院にかかる費用をどうするか。
- ② 文系も含めた大学院生の交流をどのようにするか。

- ③ 海外からの留学生を増やすための工夫（特に英語圏）をどうするか。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020年12月22日 (オンライン配信)	川越キャンパス FD 講演会 テーマ：遠隔授業とセキュリティ	FD	116	4	120	

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2020 年 3 月にベトナムの大学(Foreign Trade University)でオンラインの「ものづくり哲学」講義を行った。その時の反省、特に対面で行う予定であったワークショップをオンライン講義時間内で行ったがうまくできなかった。そこで FD として、授業後に宿題としてグループチャットを利用してワークショップを 1 週間行うことにした。それを 2020 年 9 月のフィリピンの大学(マプア大学)で実施し成功した。この結果を、フィリピンでの国際会議で発表した。"Fostering Readiness Among Students for the Life-in-the-Real-World and Inculcating the Spirit of Monozukuri in Innovation", Science and Technology for Development 2020 Forum, Caraga State University, Butuan, Philippine, 2020.11.4 (Online).

4) 海外協定大学（マプア大学・フィリピン）との連携活動実績

- ① 2020 年 9 月から 10 月の土曜日にマプア大学生産工学科の学生に「ものづくり哲学」のオンライン授業を行う中で、東洋大学の大学院の紹介も行った。
- ② 本学建築学専攻からマプア大学建築学部へ共同プロジェクトの提案を行った。

以上

1) 2019 年度までの FD・SD 活動状況 / ACT, PLAN

生命科学部と連携し「6 年間の一貫教育」を目指して、継続的に授業方法の改善、学習および研究環境の整備、学生へのキャリア支援を行っている。そこで、FD・SD 講演会（例年）、オンデマンドビデオ（全国私立大学 FD 連携フォーラム）視聴（2017～）、授業評価アンケート（～2017）を実施、さらに安全講習会および機器分析教育プログラムの講習会の開催（例年）、グローバル化を視野に入れた基盤科目の開講（2017～）、M1、D1、D2 による中間発表会（例年）、他研究科との研究交流会（例年）の開催、学会奨励金の支給（例年）を行っている。その成果として、成果発表数と賞の受賞数が年々増加しているため、今後も、上記の取組を継続しながら、学生個人に合わせた指導を行う必要がある。

2) 2020 年度における FD・SD 活動実績及び成果・課題 / DO, CHECK

①FD・SD 講習会の開催

活動実績

以下の研修会を生命科学部との共催により開催した。

研修会等の開催状況

開催日	研修会名	教員 参加者数	職員等 参加者数	参加者数 合計	ホームペ ージでの 公表有無
1/18	「コロナ禍／ポストコロナ禍における学生の就職活動と就活支援のポイント」（ベネッセ i-キャリア教育事業本部・矢竹秀行先生）	25	1	26	無
3/24	「コロナ禍における学生の困難と心理的支援（仮）」（慶応義塾大学・中村麻里子先生）	26	8	34	無

成果・課題

今年度はコロナ禍ではありながら、より効果的であろうと考えた対面での開催を最後まで検討したが、最終的には2題ともリモート開催となった。2題とも、コロナ感染状況の下での学生の就職やメンタルヘルスに関するもので、われわれ教職員がどのように関与すべきか／関与できるかについて専門家からの意見を拝聴するものとなった。本報告書記載時に既開催の研修会は、多くの教員の参加を得、所用にて欠席の教員には、リモート研修を録画したものを貸し出すこととした。できるだけ多くの教職員が参加できるよう、今後とも早めの設定とアナウンスを心がける必要がある。

②学生の研究および学習能力の向上（安全講習会および機器分析教育プログラムの講習会）

活動実績

専門分野の研究計画を実施し学位論文の作成へと展開できるように「良い環境作り」を目指している。そこで、生命科学部と共催で、実験を行う全学生を対象に、実験に伴う事故の予防や対処に関する安全講習会、また希望学生を対象に、質量分析器など汎用機器の使用法などに関する技術講習会を実施した。

成果・課題

例年、数多くの学生が参加する学部共通の安全講習会であるが、今年度はコロナ禍のため開催できなかった。各研究室の教員が担当学生に安全に関する指導を強化した。質量分析装置、透過型電子顕微鏡など汎用機器類の使用説明会は、昨年度までは学長施策として行ってきたが、今年度は担当教員による私的な講習会という形で継続している。学生の研究推進に極めて重要なので、今後も継続するべく、予算を獲得する必要がある。

③学生の人間力の向上

活動実績

1. **グローバル人材の育成：**専門科目以外に基盤教育科目として「英語プレゼンテーション演習」「科学英語ライティング」「科学コミュニケーション特論」「科学コミュニケーション演習」を開講し、英語でのプレゼンテーションとコミュニケーション能力を強化した。さらに、独自の奨励金を支給し英語による学会発表を推奨した。学長施策として「グローバル人材育成へ向けた国際サイエンスプログラム」を開催した。
2. **中間研究発表会：**指導教員だけではなく、全教員が全学生を指導するという意識を持つために、M1生、D1生が研究の進捗状況を英語のポスター形式で発表し、研究目標設定の確認と達成状況について点検・評価を行った。

3. **朝霞・川越・板倉キャンパス研究交流会**：理系学部の教員と学生の意見交換により、新しい観点から様々な発見をすることを目的として、口頭発表・ポスター発表会を実施した。

成果・課題

1 については例年通りである。今年度はじめて開催された「グローバル人材育成に向けた国際サイエンスプログラム」は10/7～2/18に17人の学生（うち学部生8名）と5か国からの5人の招聘研究者によって、オンライン形式で行われ、2/18には報告会を開催した。2 については、2020年度は9/15に博士後期課程2年3セメスタ1名の口述発表、9/14-9/15に博士前期課程1年2セメスタ1名をオンライン方式で行った。3/8-3/9または3/10-3/11に博士前期課程1年2セメスタ20名、博士後期課程1年2セメスタ1名の英文ポスターによる中間研究発表は、感染防止に注意を払いながら対面形式で行われる。各発表者が今後の研究の方針などについてのサジェスチョンをもらった。1,2とも、従来から行われている活動で、とくに改善をすべき課題はない。3については今年度コロナ禍のため中止となった。来年度以降開催の場合には、本研究化からも多数の参加・研究発表を図りたい。

④ 学生の研究・教育環境の把握と改善

活動実績

生命科学研究科における研究・教育のさらなる充実を目標に、2年時初頭および卒業時に、受講した授業や遂行中の研究に関する満足度などのアンケートを行うこととした。板倉事務課にアンケート集計をしてもらい情報共有することでキャンパスライフとメンタルのフォローを協同行う。また、指導教員との密接な環境となりがちな大学院学生の研究室外の相談相手として、研究科内の教員を、学生の希望に応じてアドバイザーとして指名する制度を新たに設けることとした。

成果・課題

2020年3月、4月に行う予定であったアンケートは、コロナ禍で学生の入構が制限されたために行うことができなかった。2021年3月（卒業生）及び4月（新2年生）については、グループフォーム等の活用によるオンライン形式に変更して行う予定である。アドバイザー制度の説明と登録は4月のガイダンス時に行う。

⑤ 大学院進学率の向上

活動実績

学部と連携して大学院進学の説明会を実施した。留学生のため、シラバスやホームページ、各種書類の英語化などの整備を順次行った。

成果・課題

例年通りの取り組みであるが、今後も引き続き活動の拡充を行う必要がある。来年度より学部3年生4年生の新学期ガイダンスの際に大学院に関する広報活動を行う予定である

3) 2021年度に向けたFD・SD活動実施計画 / ACT, PLAN

- ① **学生の研究環境の向上**：学生が「研究および学習能力の向上」と「人間力の向上」を目指す取組（中間発表、技術講習会、基盤教育科目など）は継続する。さらに SGU 構想の数値目標のためには、今後一層の英語化が求められる。また、それに伴い、シラバスやホームページ、各種書類の英語化などの整備、教職員による留学生サポートを行う。
- ② **学生生活委員会との連携強化**：学生が研究や人間関係から生じる様々なストレスを解消するため、学生生活委員会と連携による精神的なサポート体制の強化を目指す。
- ③ **FD・SD 講演会の開催**：例年同様に、学習手法とアカデミックハラスメント（学生の心ケアなど）をテーマに、生命科学部との共催で、最少でも春学期、秋学期各1回の講演会を実施する。さらに、出席者を増加させるための工夫、著作権の問題に配慮しながら、講演の録画およびLIVE配信を検討する。
- ④ **学生アンケートの活用**：2021年3月にあらためて開始する研究科独自のアンケートの結果を解析し、研究科全体として授業改善・研究環境改善に役立てる。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2019 年度において 2020 年度の研究科全体としての FD・SD 活動計画を、以下のように計画した

- 1) 日常における教員の研究、社会貢献、管理業務に関する資質向上の啓発
 - ① 研究科委員会等を活用した、FD・SD に関係する情報の確実な共有と議論ならびに実践。
 - ② 在籍する大学院生との適切なコミュニケーションを通じた日常的なリフレクションの実施。
- 2) 学生アンケートの継続的な実施
 - ① 研究科委員会等を活用したアンケート結果の確実な共有と議論ならびに改善。
 - ② より有意義な学生アンケートとして発展するよう質問項目および方法論の継続的な検討。
 - ③ 学生アンケート結果に対する各専攻によるコメントの継続的な公表とともに、回答内容の公表。
- 3) FD 研修会等の継続的な実施
 - ① 研究科所属教員ならびに職員の研鑽の機会としての当該研修会等の継続的な実施。
 - ② 社会情勢の変化に応じたトレンドやトピックスを把握する契機としての実施。
 - ③ 2020 年度については「キャンパス移転に伴う地域連携、社会人入学生の増加（が予想される事）への対応」をキーワードとした研修会の開催。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 研究科学生アンケート

活動実績

授業・研究指導等の改善を目的として、ライフデザイン学研究科・福祉社会デザイン研究科（朝霞）所属の大学院生全員を対象に 2020 年 11 月 4 日～2020 年 12 月 18 日の期間において、Google Form によるアンケートを対象者全員に実施した（WEB 学生アンケート）。設問内容は、主に①「講義」 ②『授業時間内における「研究指導」』 ③『授業時間外における指導教員（主査・副査）の「諸指導」』 ④「授業（講義や研究指導）の開講曜日・時限」 ⑤その他の観点（国際化、キャリア支援等）、このほか、例年とは異なり、コロナ禍での院生指導の現状と課題を把握するため、コロナによる影響を問う項目を設定した。

成果・課題

昨年度を大きく上回る 34 件の回答が得られ、アンケートそれぞれの設問に対する回答を、その内容にしたがって分類、整理した。回収率を上げるため、昨年度に比べ、実施期間を延長拡大すると共に、各教員にも院生に回答を促す働きかけを適宜行った。回答結果は、コロナ禍にあって、講義がオンライン中心となるなど、例年とは異なる状況にあったが、院生の教育・研究指導において、各教員レベルで一定の取り組みが行われており、概ね院生には丁寧で適切な対応、との評価を得た。しかしながら、キャンパス移転に関する情報周知や可能な限り対面授業の実施を要望する院生への対応などに若干の課題を残した。

②研究科 FD 企画

活動実績

FD 講演会については、2020 年度の当初計画では、「キャンパス移転に伴う地域連携、社会人入学生の増加への対応」をキーワードとした研修会の開催を予定していた。しかしながら、パンデミックの下で、関係各方面においても、様々な地域交流実践が行えなくなるなどの社会状況があり、地域連携・社会人院生への対応などについて、一定の知見を有する識者の講師を迎えることができなかった。そのため、2019 年度の FD 講演会テーマである、「留学生受け入れと研究指導上の留意点」という課題を引き継ぎ、さらに 2021 年度も一定の影響が続くと考えられるコロナ禍での問題として、再設定した上で、昨年度よりも多角的な観点から検討すべく、学内シンポジウムとして実施した。

2020 年度大学院ライフデザイン学研究科 FD 企画「コロナ禍での留学生指導の現状と課題」

日時：2021 年 2 月 17 日(水)14：40～16：10 Webex ミーティングによるオンライン開催

参加者：教員 41 名、職員 4 名、計 45 名

成果・課題

実際に留学生の指導を担当する教員 2 名による報告を受けて、教員、事務課職員を交えて旺盛なディスカッションが行われた。報告では、従来の指導上の困難に加え、留学生の渡航の問題や日常生活の問題、そして研究指導上のコミュニケーションの取り方など、昨年度の企画とは異なる、指導上の課題が浮き彫りとなった。また留学生指導の経験の深い教員からのアドバイスや示唆もあり、次年度以降も、引き続き、研究科の中で課題を取り上げ、組織的な対応を構築していく必要があることが確認された。

③学修成果の測定指標の検討・開発

活動実績

昨年度と同様、各専攻・コースならびに自己点検・評価活動推進委員会で検討し、各専攻の学修成果の測定指標（試行版）の開発に取り組んだ。しかしながら、コロナ禍での教学運営の影響もあり、次年度以降も引き続き、取り組む必要がある。

成果・課題

2021 年度に学修成果の測定指標の運用し、必要に応じて見直しを行う。

④博士後期課程院生へのプレ FD に関する情報提供

活動実績

昨年度に引き続き、博士後期課程院生および指導教員に対し、他大学等で開催される大学院生も参加可能な FD に関する研修会等の周知を行い、FD に関する情報提供を行った。

成果・課題

今後も継続的にプレ FD に関する情報提供を積極的に行う予定である。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2020 年度は、コロナ禍の影響から、一部当初計画を変更して FD 活動に取り組んだが、2021 年度は、引き続き、研究科全体として、以下の諸点から活動の充実を図っていく。

1) 日常における教員の研究、社会貢献、管理業務に関する資質向上の啓発

- ① 研究科委員会等を活用した、FD・SD に関係する情報の確実な共有と議論ならびに実践。
- ② 在籍する大学院生との適切なコミュニケーションを通じた日常的なフレクシオン（省察）の実施。

2) 学生アンケートの継続的な実施

- ① 研究科委員会等を活用したアンケート結果の確実な共有と議論ならびに改善。
- ② より有意義な学生アンケートとして発展するよう質問項目および方法論の継続的な検討。
- ③ 学生アンケート結果に対する各専攻によるコメントの継続的な公表とともに、回答内容の公表。

3) FD 研修会等の継続的な実施

- ① 研究科所属教員ならびに職員の研鑽の機会としての当該研修会等の継続的な実施。
- ② 社会情勢の変化に応じたトレンドやトピックスを把握する契機としての実施。
- ③ 2021 年度については「キャンパス移転に伴う地域連携、社会人入学生の増加（が予想される事）への対応」をキーワードとした研修会の開催を予定。

4) コロナ禍での留学生へ対応についての取り組み

- ① 留学生への就学及び研究上の支援の強化

②母国の事情等で対面授業に参加できない院生の状況について、研究科としての共有と支援

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

総合情報学研究科は、設置以来、教育理念の実現のために①FD 研修会、②授業アンケート、③コンピテンシー評価の FD・SD 活動に取り組んできた。しかし、コロナの影響でこれらの活動に修正の必要が生じた。①FD 研修会についてオンラインで実施することとした。②授業アンケートについて、事後対応では遅いため、授業ごとに対応することとした。③コンピテンシー評価について、主な授業「プロジェクト演習」がオンラインの個人演習となったこと、PROG の実施が困難なことなどのため、今年度の実施は見送った。

しかし、新たに④プレ FD 研修会、⑤一貫教育などの活動を加えた。④プレ FD 研修会は、2020 年度が博士後期課程の完成年度であるため、博士課程修了後のキャリアを考慮し、実施する。これにより助教採用を支援する。⑤一貫教育を実現するため、2021 カリキュラム改革を実施する。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①FD 研修会

活動実績

年 2 回定期的に開催し、FD および自己点検評価へつなげている。

第 1 回 FD 研修会（9 月 10 日）WebEx

(1) 2021 カリキュラム

第 2 回 FD 研修会（2 月 25 日）WebEx

(1) KPI（上原）

(2) 授業調査（上原）

(3) 自己点検フィードバック（上原）

成果・課題

第 1 回 FD 研修会では、2021 カリキュラムを検討した。詳細は⑤で報告する。

第 2 回 FD 研修会では、KPI、学生の意見（授業調査）、フィードバックコメントについてそれぞれ議論した。KPI については平均研究業績 1.10 件であり、十分な成果といえる。授業調査については②で報告する。フィードバックコメントに関して様々な意見が述べられ、報告書として集約した。

②授業調査

活動実績

コロナ禍の影響により例年とは異なる形態の授業となった。例年、授業アンケートを実施し、年度末に集約する慣例となっていた。しかし、それでは事後対応となるため、今年度は授業ごとに学生から意見を聞き取ること（授業調査）とした。その結果を研究科委員会で共有するとともに、FD 研修会で集約した。

成果・課題

意見は以下のように集約できる。

- ・ハイブリッド授業は評価が高い。
- ・オンライン指導は評価が低い。

すなわち、リサーチワークはオンラインより対面が望ましい。一方、コースワークは内容に応じてハイブリッドでも十分可能である。これらの成果を受けて、学生の多様化に対応するためメディア授業の活用に取り組む。

③コンピテンシー評価

活動実績

コロナ禍の影響により主な授業「プロジェクト演習」がオンラインの個人演習となったこと、PROG の実施が困難なことなどのため、今年度の実施は見送った。

成果・課題

過去のデータから行動力育成の効果は十分示されているため、特にコンピテンシー評価を実施せずとも研究業績等から間接的にその効果を証明できると考える。それを裏付ける教育研究業績が FD 研修会で報告された。

今後は、コンピテンシー評価を継続するかどうかを含めて検討する。

④プレ FD 研修会

活動実績

2020 年 11 月 19 日（木）16:00-16:30 Webex を用いたプレ FD 研修会を開催した。プレ FD 研修会の参加要領は Ace にて公開した。総合情報学部長土田賢省教授を講師として助教公募への応募上の注意点や準備について研修することとした。

成果・課題

残念ながら出席者 0 名であった。助教に応募する対象者がいなかったわけではないが、周知の期間が短かったこと、すでに当該対象者が応募済みであったことから、結果的に参加者がいなかったものと考えられる。その主な原因は助教の公募に関する情報が学部と大学院で共有されていなかったことにある。助教公募は学部が中心に折衝していたが、折衝期間が長かったた

め公募期間が短くなってしまった。そのため、公募期間内にプレ FD 研修会の企画立案と周知を十分に行うことができなかった。また、本学部の助教採用は今年度のみであり、次年度以降のプレ FD 研修会では他大学の公募を中心に対策を検討する必要がある。

⑤カリキュラム改革

活動実績

2021 年度カリキュラムを策定した。本カリキュラムの目的は、以下のとおりである。

- (1) 学部・大学院一貫教育を実現する。
一貫したカリキュラムツリーを示すことで、学部新入生が大学院を意識した長期的な学習プランを考えることができる。
- (2) 英語コースを拡充する。
英語だけで修了できる科目とそのコース数を増やした。
- (3) 公認心理師プログラムに対応する。
公認心理師の資格取得を支援する。

成果・課題

早ければ 2022 年度から公認心理師のコースを開設できるようになった。

本専攻では研究指導科目の多くは ENG 科目（英語のみの科目）を併設している。今回、3 名の新任を迎え英語コース数は 98 から 118 へ増加した。しかし、逆に英語化率は 76% から 74% と減少した。これは日本語科目が英語科目以上に増加したためである。今後は各分野で 30 単位を取得できるように英語化率を高める。

また、今後、大学院を担当する教員を段階的に増やしていく。学部と同レベルで分野を網羅することが内部進学を高めるうえで重要と考える。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/09/10 13:00～14:00	第 1 回 FD 研修会	FD	11	0	11	×
2021/02/25 13:00～14:00	第 2 回 FD 研修会	FD	16	0	16	×
2020/11/19 16:00-13:00	プレ FD 研修会	FD	2	学生 0	0	○

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

2020 年度の FD・SD 活動はコロナ禍のため特殊であった。一部例年通りの活動が制限されたこともある。2021 年度には基本となる①～③の活動を継続する。ただし、③に関しては一定の結論が得られたものとして、段階的に終息することを検討している。

1) 2019 年度までの FD・SD 活動状況 【C, A, P】

科学技術の高度化、社会・経済・文化のグローバル化などにより、社会経済の各分野において指導的役割を果たすとともに、国際的にも活躍できるような高度な専門能力を有する高度専門職業人の養成が強く求められている。食環境科学研究科食環境科学専攻博士前期および後期課程は、「食品・栄養及び本学の特徴であるスポーツを通じた健康寿命の延伸、食の安全・安心に係る分野でグローバルに活躍できる高度専門職業人」を育成する目的で、2016 年度に開設された。2019 年度の主な FD 活動として、①FD 講習(講演)会(コーチング技能を活用した学生指導)、②学会発表・参加奨励金制度の実施、③TA/SA 研修会、④研究科独自の評価項目を含む授業評価アンケート、⑤研究とキャリアの進捗状況：年次評価、⑥食のグローバルイノベーション人材創出塾および中間発表会、を実施している。

2) 2020 年度における FD・SD 活動実施内容 【D】

① FD 講演会(with/post コロナの今後の教育について)

2020 年 3 月 15 日に石井 英真 准教授（京都大学大学院教育学研究科）に、上記テーマについてオンライン(WebEx)でご講演いただいた。

② 学会発表・参加を促す目的で、全学の奨励金制度に加えて、食環境科学研究科においても学会発表・参加奨励金制度を導入しており、今年度は 2 名（計 2 件）の申請があった。

③講義に対する FD 活動として、研究科独自の授業評価アンケートを春学期および秋学期の終了後に実施した。年度末に集計結果をもとに「授業評価アンケート結果に対する所見」を作成する予定としており、集約した所見をもとに、次年度の教育研究指導に反映していくこととしている。

④ 高度専門職業人として将来を意識しながら研究活動を行うために、年度末に博士前期課程 1 年生および博士後期課程 1 年生、2 年生を対象とし、年次評価を指導教員と学生が話し合いながら作成することとなっている。

⑤ 高度専門職業人として必要な、高い専門性を活かした情報発信能力、ディスカッションなどによるコミュニケーション能力、自身の専門分野以外の分野との異分野間コミュニケーション能力、ロジカルシンキングを活かした提案・問題解決能力、世界情勢・風潮に対応できる国際性豊かなバランス感覚等を身に着けた人材を養成するために、食のグローバルイノベーション人材創出塾を開催した(2020 年 9 月 14 日)。院生が自らの研究内容についてプレゼンテーションを行い、様々な業種の学外有識者に評価していただいた。また、コロナウイルス

感染予防を考慮して、中間発表会をオンラインで口頭発表形式で行った(2021年2月15日)。学外有識者の評価から学生の成長度を測ることができた。

3) 2020年度におけるFD・SD活動の成果と課題 【C】

- ① 今年度のFD講演会の参加者は33名であり、多くの方にご参加いただいた。オンライン開催だったこともあるが、コロナ禍においてオンライン授業などの教育への対応が必須となり、今後の教育の在り方について関心をもつ教員が多かったことから、需要が高かったものと思われる。引き続き、需要にあったテーマを選定し、開催していくことが必要である。

研修会等の参加状況

開催日	研修会名	教員 参加者 数	職員等 参加者数	その他 参加者 数	参加者 数 合計	ホーム ページ での公 表有無
3月15日 (月)	with/post コロナの今 後の教育について	30名	3名	0名	33名	無

- ② 学会発表・参加奨励金制度については、本制度を利用した学会参加、発表があった。学生が自身の研究を専門分野において発表、質疑応答する機会が増加し、学生の科学的なコミュニケーション能力等の向上につながっていることが考えられる。
- ただし、2020年度においては利用者が2名(2件)と件数が少ない。今年度はコロナ禍で研究計画が当初より遅れたことや、学会発表の形式が変わった等の影響が考えられるが、引き続き利用を促進する等の検討が必要であると考えられる。
- ③ 授業評価アンケートについては、本年度も研究科独自の授業評価アンケートを実施し、学生からは建設的な意見が寄せられた。今年度は、各授業に寄せられた意見が少なかったが、引き続き、今後も授業評価アンケートを実施し、教員・事務・学生のコミュニケーションの為にツールとして機能させていく。今年度は非対面で実施するためにGoogleフォームを利用したが、学生からの提出率が低かったことから、提出率の向上が今後の課題である。
- ④ 2017年度より継続実施をしている研究活動の年次評価については、年次評価の形式はキャリアの目的を意識するようにし、各指導教員および各学生には、研究科での教育研究活動と学生のキャリアの目的がどのように結びついているのかを考えてもらった。年次評価は研究科で共有された後、各学生に返却する予定であり、翌年度以降の研究活動に活用してもらう。

- ⑤ 食のグローバルイノベーション人材創出塾において外部有識者から評価いただいたことで、高等教育機関と実社会との関係性が緊密となり、高度専門職業人の育成のための基盤が形成できた。

4) 2021 年度に向けた FD・SD 活動実施計画 【A, P】

上記の FD 活動はどれも高い教育効果・教育改善効果が認められたと想定される。2021 年度以降も引き続き全教員および外部有識者が関わりながら実施していくことを検討し、食環境科学研究科の教育に合った FD 活動について継続的に議論を重ねていくこととする。

特に、外部評価委員の取り組みは、食環境科学研究科の特色の一つとなっており、学生からの評価も高いことから、これまでの実績を踏まえ取り組み内容をブラッシュアップしていく予定である。また、海外研修については、2019 年度より本学協定校(タイ・チュラロンコン大学)との海外インターンシップを検討しており、2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施を見送らざるを得なかった。2021 年度については、同大学と対面形式に依らない交流方法も視野に入れて計画をしており、コロナ禍、あるいは with コロナの時代においても、本研究科の目指す高度専門職業人の育成に寄与できるようにしたい。

以上

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

昨年度までも修了生を対象としたアンケートを実施している。学部と比べて学生数が限られているが、記述式（日、英2言語、無記名）の項目を複数設定している。その結果は専攻会議で報告され、教員間で共有・議論し、今後の研究教育体制の向上に活かしている。院生共同研究室の備品や管理方法について、学生の要望をもとに検討、改善を行ってきた。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 修了予定学生のアンケートの実施

活動実績

実施日：2021 年 1 月 23 日（土）有効回答数：国際地域学専攻（M・3 名,D・1 名）

実施方法：本年度は google form を用いた方法で実施した。回収した回答は全て匿名で処理することを断った上で、回答に際してはメールアドレスの入力を必須とし、該当者以外の回答を除外できるようにした。集めた回答は FD 委員が集計し、回答者を特定できる情報を削除した上で、教員間に共有した。

設問は記号選択と記述の混合式で、全て日英2言語表記とした。具体的には以下の通り

1. 以下の項目について、評価してください。
 - (1) リサーチスキル科目
 - (2) 専門科目講義・演習
 - (3) 研究指導
 - (4) 設備、学生生活
 - (5) コロナ下におけるオンラインの研究、教育環境
2. 研究を進める上で、思うようにいかなかった点があれば記入して下さい。
3. 本研究科の教育課程で最も良いと思うことは何ですか？
4. 本研究科の教育課程で、最も改善が必要だと思うことは何ですか？

成果・課題

今回も全体に、各学生と指導教員との関係は良く、研究指導にたいする満足度は高いっぽう、今年度ならではの事情として、フィールドワークを思うように行えなかった、文献の入手にてこずったという声があった。これについては研究科単体で対応する問題とも言えないが、教員間で状況を共有しておく意義はある。

また院生共同研究室については、プリンタに対する不満があった。

②新入生に対する面談（オンライン方式）によるアンケートの実施

活動実績

実施日：2020年7月2日（木）7月3日（金）（M・3名、3名の指導教員および専攻長がオンラインにて参加）

グローバル・イノベーション学専攻は4月に発足したばかりであり、また開講初年度よりコロナ禍によるオンライン授業を強いられイレギュラーな出発となった。このため、4月入学の院生3名に対し、それぞれの指導教員および専攻長がオンライン（Webex）により、研究・学習環境についてアンケートを実施した。オンライン授業の環境にもかかわらず、研究・学習環境については、図書館の利用に関する要望のほかは概ね問題はなかったが、院生同士の横の関係性が希薄であるという悩みが提示されたため、翌週に院生同士のコミュニケーションを活性化するためのオンラインでのミーティングを行った。

③カリキュラム・研究指導等検討会

活動実績

日時：11/17 専攻会議後 オンライン実施

- （1）入試外部試験英語導入の検討
- （2）修論 口述試験評価方法・基準の検討

成果・課題

上記（1）について、現状では教員が回り持ちで出題しているものを、外部試験で代えることができないか、その場合はどの試験を採用し、どのような基準にするかを、他研究科や学内の他部署の基準も参考に検討した。

上記（2）について、現状では60点合格で各教員がそれぞれ採点しているが、統一の採点基準はない。教員の専門も学生の専門も多岐にわたる中で、どのような形がありうるのかを検討した。

研修会等の参加状況

開催日	研修会名	参加者数（人）			HP掲載
		教員	職員	計	
2020/11/17 11:10～12:00	カリキュラム・研究指導等検討会	12/12	0/0	12/12	×

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

次年度も引き続き修了予定学生を対象としたアンケートを実施し、その結果を研究科として議論していきたい。

4) 英語による教授法・論文指導法の FD 研修会開催希望

過去に British Council により大学院生に対する英語による授業法・論文指導法のセミナーを実施して頂いた。本研究科には留学生も多く在籍する。また、グローバル・イノベーション学専攻は英語トラックであるため、この面における教員の FD 活動は特に重要である。集合研修はコロナ禍により困難な面があることは理解できるので、2021 年度はオンラインによりぜひ同様の研修会を、できれば複数回（授業法、論文指導法等）実施して頂きたい。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2020 年度は、継続して FD 講演を開催し、本研究科の教員から教育研究報告をしてもらおうと予定している。可能であれば、学部との FD と連携して外部から講演者もお招きしたい。院生アンケートについても継続して年度末に行う予定である。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 総括

成果・課題

2020 年度は大学院独自の講演会を実施できなかった。学部が主催した(株)ハーティネスの高橋慈子氏「ネット時代のソーシャルリテラシー」の講演があったが、大学院担当教員も多くが参加しているが、大学院が連携という表立った形はなかった。Webex でのライブ授業配信など、コロナ禍でなければ決して実践しなかったオンライン授業のスキルを身につけたと考える。また、パワポの作り方についてもリアルで使う時よりもより丁寧に仕上げないと内容が伝わらないということもあって、教員同士が教え合ってデジタル教材を準備することもあった。

年度末アンケートも実施に至らなかった。セメスタに 2 回行っている院生発表会後にネットアンケートするべきであったが、発表会の運営や問題点が見つかり、アンケートまで実施できなかったことを反省している。

② ヴェネチア大学 Ciset とのオンライン共同授業

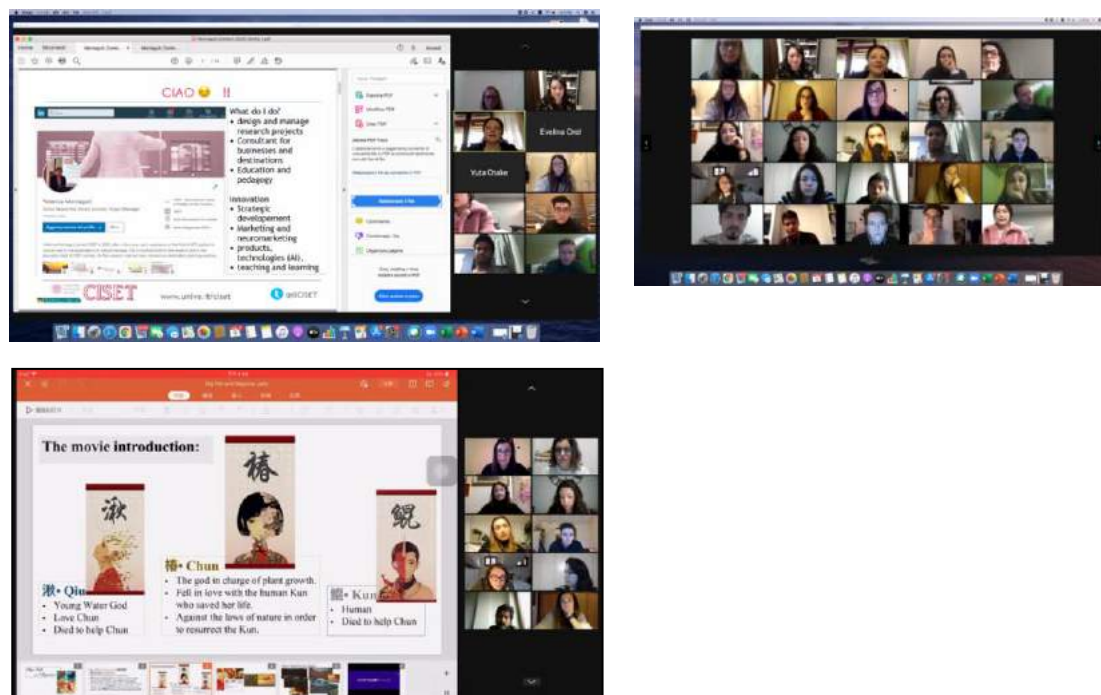
活動実績

協定校で学長施策プロジェクトを協働でしているヴェネチア大学観光経済研究所（Ciset、修士学生が在籍）のフェデリカ・モンタグティ先生とでオンラインで共同授業を行った。

成果・課題

増子美穂准教授の授業「美術館経営特論（英語）」1 回分で行った。イタリアと東京では 8 時間の時差があり、朝 8 時半と夕方 16 時半で設定した。ヴェネチア大学からは 23 名、本研究科からは 7 名の院生が参加した。学生同士とても新鮮な体験をしているという印象であった。テーマが美術館経営という、ヴェネチアにとっても興味ある内容であり、スライドなども効果的に使いながら英語で行われた。学生にとってはあっという間に終わった、とてもためになった、同時に英語をもっとスキルアップしなければと感じたということであった。今後多くの授業でヴェネチア大学やほかの協定校とオンライン授業の機会を持つようにしたい。大学院の場

合は少人数であるので、双方向性が担保され発言もできると期待できる。以下オンライン授業の様子である。



活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2020/12/9	ベネチア大学オンライン共同 授業	FD	2	0	1	×

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

大学院授業は 2021 年度においては基本リアルということであるが、予習用・復習用コンテンツの ACE へのアップはより多くの教員に進めていきたい。また、セメスタで 2 回行っている研究発表会においても、今年度はオンラインであったが、社会人で出張先からも発表させるなど行いたい。

1) 2020 FD/SD ACTIVITIES PLAN / 2020-PLAN

The outline of the FD/SD activity plan made by the School in 2019 is summarised below.

The Graduate School of Interdisciplinary New Science will intensify and accelerate the international research and educational activities in collaboration with advanced overseas universities and industries.

- (a) The academic staff members will give several extracurricular courses to the students to encourage their international activities in addition to the fundamental and specialised lectures and workshops.
- (b) The academic staff members will encourage and support the students to carry out advanced research from theoretical, analytical and experimental points of view.
- (c) Several international programmes will be initiated and performed in collaboration with overseas universities; e.g.,
 - 1. “Erasmus+ programme” with the Politehnica University of Timisoara, Romania.
 - 2. “Erasmus+ programme” with the University of Bucharest, Romania.
 - 3. “PhD double degree programme” with the University of Nantes, France.
 - 4. Negotiation on the “English courses for Toyo students” with the University of Exeter, UK, the Queen Mary University of London, UK, and the University of California Santa Barbara, USA.
 - 5. Internship programmes for high school students and students/PDs from partner universities.
 - 6. Application for the “RISE Programme” organised by the European Commission, EU, in collaboration with French, Belgian, Greek and Spanish universities.
- (d) International symposia and seminars will be organised and held for young researchers such as master and doctoral students and PDs.
- (e) The external evaluation committee will be held in the first half of 2020, whereas the external advisory committee in the latter half.

2) REVIEW OF THE FD/SD PROGRAMMES IN 2020 / 2020-DO, CHECK

2.1 EDUCATIONAL PROGRAMMES

OUTLINE

The School was established as an international graduate school and therefore the syllabuses are written in English so that both Japanese and international students can understand the research and educational policies and programmes organised by the School. The style and content of each syllabus were improved via mutual review among the academic staff members of the School.

The lectures and workshops were classified into two categories; that is, (a) fundamental and (b) specialised ones. Note that the School accepts students from various countries and different fields such as physics, chemistry, biology, mechanics, electronics and biomedicine and therefore fundamental lectures are necessary for those from different educational backgrounds.

- (a) Fundamental lectures
 - Introduction to bio-nano science fusion
 - English for science and technology

Fundamental mathematics
Fundamental physics
Fundamental chemistry
Fundamental biotechnology

(b) Specialised lectures

Extremophiles
Nanoelectronics
Nano materials
Bio materials and nanotechnology
Microbiology
Bio nano science
Advanced nano science and nanotechnology
Workshop on advanced equipment I, II, III, IV
Web education I, II

All the lectures and workshops were given in English. Basically, students give talks on specific subjects and discuss them with the other participating students each week. Particularly, in “Web education”, students’ presentations are recorded and distributed via the Web educational programme “GEOSSET TOYO”. In “Workshop on advanced equipment”, the principles and operational techniques of state-of-the-art microscopic and spectroscopic equipment are taught and instructed, which contributes greatly to the progress in the students’ ability to operate advanced equipment and carry out advanced research.

However, under the “COVID-19 pandemic” situation, most of the lectures were given remotely via “Webex” and/or Zoom” in 2020, noting that “Workshop on advanced equipment” was given in a face-to-face way in laboratories on several occasions. The supervisors gave research guidance to their students via “Webex” and/or Zoom” regularly; normally at least once a week, discussing the research results and future research planning and strategies with their students.

ACHIEVEMENTS

Remote lectures were quite efficiently organised and manipulated by the teaching staff members, utilising several functions provided by the remote media, and several pieces of software and hardware. Students also got used to their presentations and discussions in the remote lectures. There was definitely some improvement in students’ English. Students finally started their research at the Bio-Nano Electronics Research Centre during the Autumn semester using several pieces of equipment and spectroscopic analysers without any trouble thanks to their participation in the “Workshop on advanced equipment”.

The academic staff members gave extracurricular courses on oral and poster presentations in English to those students who were going to present their latest research results at international remote conferences and symposia.

2.2 RESEARCH

OUTLINE

Advanced research in the fields of nano science/technology, bio science/technology and bio-nano fusion science/technology was actively carried out via interactive instructions and discussion between students and their supervisors, thanks to which quite a few scientific papers were published in international journals even under the “COVID-19 pandemic” situation.

ACHIEVEMENTS

- (a) 18 scientific papers were published in international journals. The mean impact factor of a journal was over 4.000, which shows that the academic standards of the School are high even from an international point of view.

- (b) 4 invited talks were given by an academic staff member at web international conferences.
- (c) 4 talks were given by doctoral students at international web conferences.

2.3 RESEARCH AND EDUCATIONAL COLLABORATION

OUTLINE

The School has so far exchanged memoranda of understanding (MoUs) on the development of collaborative research and educational programmes with quite a few overseas universities and companies. The International Affairs Office has supported the conclusion of the MoUs, whereas the Education and Students Affairs Office on the Kawagoe Campus has supported the PhD double degree programme in collaboration with the University of Nantes.

However, most of the collaborative programmes such as “International internship programmes” and “Students and researchers exchange programmes” were either cancelled or postponed under the “COVID-19 pandemic” situation. Particularly, the “Erasmus+ programmes” in collaboration with the Politehnica University of Timisoara and the University of Bucharest were postponed for at least one year. We really hope the “COVID-19” will cease soon so that the programmes will be carried out in 2021. The “PhD programme” was performed remotely. Although the student could not visit the University of Nantes, she carried out numerical and theoretical study at Toyo University, guided by the supervisor of the University of Nantes, using high performance computers installed in the University of Nantes, whereas she also did several experiments, guided by the supervisor of the Graduate School of Interdisciplinary New Science, at the Bio-Nano Electronics Research Centre.

ACHIEVEMENTS

The following paper was published in collaboration with the University Paris Diderot-Paris 7, France.

G. Mary, A.V. Walle, J.E. Perez, T. Ukai, T. Maekawa, N. Luciani and C. Wilhelm, High-throughput differentiation of embryonic stem cells into cardiomyocytes with a microfabricated magnetic pattern and cyclic stimulation, *Adv. Funct. Mater.* (2020).
DOI: [10.1002/adfm.202002541](https://doi.org/10.1002/adfm.202002541)

We discussed and negotiated on future collaborative academic programmes with overseas universities.

- ✓ The “Erasmus+ programmes” and “Erasmus Mundus programme” in collaboration with universities in the EU.
 - (a) The “Erasmus+ programmes” with the Politehnica University of Timisoara and the University of Bucharest, Romania, were postponed and we discussed a new schedule starting in 2021.
 - (b) An EU project “Erasmus Mundus MSc in Chemical Innovation and Regulation” was submitted to the “Erasmus+ KA2/Erasmus Mundus programme”, European Commission, EU, by the University of Algarve, Portugal.
- ✓ The “PhD double degree programme” in collaboration with the University of Nantes, France.
 - (a) One PhD student was officially accepted as a second-year student of the “PhD double degree programme” by the University of Nantes.
 - (b) The PhD student gave three presentations at international web conferences.
 - (c) The PhD student submitted one paper to an international journal.
- ✓ Academic exchange programme in collaboration with the University of Montana, USA.
 - (a) We discussed a visit of one researcher of the University of Montana to the Graduate School of Interdisciplinary New Science. He plans to carry out collaborative research and discuss educational collaboration between the Graduate School of Mathematics, University of Montana, and the Graduate School of Interdisciplinary New Science.

The Secretariat of the Research Promotion Office, the Graduate School and the Bio-Nano Electronics Research Centre efficiently supported the above academic activities from an administrative point of view.

2.4 EVALUATION OF THE ACADEMIC AND ADMINISTRATIVE ACTIVITIES

OUTLINE

The “External Evaluation Committee” was held online for the evaluation of the academic activities of the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre. The evaluators are listed below.

Dean, Professor, Graduate School of Nanobioscience, Yokohama City University
Head, Professor, College of Engineering, Shibaura Institute of Technology
Researcher, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology
General Manager, Device Functional Analysis Department, Nissan ARC Ltd
Corporate Officer, Chief Researcher, Research and Development Group, Hitachi Ltd
Head, Professor, Faculty of Science and Engineering, Toyo University
Director, Professor,

ACHIEVEMENTS

The “External Evaluation Committee” was successfully held via Zoom and the evaluators’ comments were basically favourable to the academic activities at the Graduate School of Interdisciplinary New Science and the Bio-Nano Electronics Research Centre. The final reports will be sent to the School from the evaluators by 9th April 2021.

EVENTS

MONTH	NAME	CLASSIFICATION	NUMBER OF PARTICIPANTS			WEBSITE
			Teaching staff members	Admin staff members	Total	
May	Scientific paper in collaboration with the University Paris Diderot-Paris 7	FD	2	–	2	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/abs/10.1002/adfm.202002541
June	Negotiation on the “Erasmus+ programme”	FD/SD	3	3	6	
July	Scientific seminars for Himeji High School	FD/SD	1	4	5	
August	Scientific seminars for Himeji High School	FD/SD	1	4	5	
	Negotiation on the “PhD double degree programme”	FD/SD	3	2	5	
	Application for the “Erasmus Mundus programme”	FD/SD	1	1	2	http://www.emmcc.hir.org/contactus/
	Negotiation on the “Erasmus+ programme”	FD/SD	3	3	6	
September	Scientific seminars for Himeji High School	FD/SD	2	4	6	
October	Discussion on the researcher’s exchange programme	FD/SD	1	1	2	
November	Negotiation on the “Erasmus+ programme”	FD/SD	3	3	6	
January	Exchange of the agreement on the “PhD double degree programme”	FD/SD	1	2	3	
March	External Evaluation Committee	FD/SD	3	2	5	

3) FD/SD STRATEGIES IN 2021 / 2021-PLAN

The outline of the FD/SD activities in 2021 is summarised below.

- (a) The academic staff members will give several extracurricular courses to the students to encourage their international activities in both face-to-face and remote ways, assuming that the “COVID-19 pandemic” situation won’t be dramatically improved.
- (b) The academic staff members will encourage and support the students to carry out advanced research from theoretical, analytical and experimental points of view. The research guidance and instruction will also be given in both face-to-face and remote ways by supervisors.
- (c) Several international programmes will be performed in collaboration with overseas universities once the “COVID-19” has ceased or the situation has been dramatically improved.
 1. “Erasmus+ programme” with the Politehnica University of Timisoara, Romania.
 2. “Erasmus+ programme” with the University of Bucharest, Romania.
 3. “Erasmus Mundus programme” with the University of Algarve, Portugal
 4. Negotiation on the “English courses for Toyo students” with the University of Exeter, UK, the Queen Mary University of London, UK, and the University of California Santa Barbara, USA.
 5. Internship programmes for high school students and students/PDs from partner universities.

- (d) The “PhD double degree programme” will be carried out in collaboration with the University of Nantes, France, noting that the academic year 2021 is the final year for the current PhD candidate.
- (e) International symposia and seminars will be organised and held in either face-to-face or remote ways for young researchers such as master and doctoral students and PDs.
- (f) The advisory committee will be held in the first half of 2021. The members are listed below.

Director, Tokyo Metropolitan Industrial Technology Research Institute

Professor, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Josai University

General Manager, Central Research Laboratory, Hitachi Ltd

President, Professor, Toyo University

Director, Vice-President, Professor, International Affairs Office, Toyo University

Executive Director, Board of Trustees, Toyo University

Director, Professor, Centre for Computational Mechanics Research, Toyo University

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

SD 活動計画：

前年度と同様、年 2 回の修士論文の進捗状況報告と講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供等、当該研究科・専攻の大学院生への教育・研究活動の支援継続を計画した。修士論文や博士学位論文の執筆に向けた論文要旨や論文作成のフォーマット作成も、当該研究科・専攻の課題とした。

2019 年度から始まった志村教授の週末ゼミ（指導研究を受ける院生の勤務地や勤務実態を踏まえ、博士後期課程の学生を対象に、時間割上の枠を週末に開講する）も、引き続き実施することとした。

FD 活動計画：

年々増えつつある「留学生（特に中国からの留学生）に対する大学院教育のあり方」について外部講師を招聘し研修を行う計画を立てた。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①-1 SD 活動計画（全般）

活動実績・成果

2020 年度は、コロナ禍により、東洋大学社会福祉学会は中止となり、学生の口頭発表は叶わなかった。しかし、それ以外の計画については概ね達成した。修士論文や博士学位論文の執筆に向けた論文要旨や論文作成のフォーマット作成も完了し、春学期・秋学期の中間報告会で活用された。その結果、学生にとっては、発表時に何を求められているのが明確になり、教員にとっても、標準化されたフォーマットを活用することで、各学生の進捗状況が一目でわかるようになり、指導がしやすくなった。

2019 年度より継続中の志村ゼミについては、2020 年度は春学期 17 回、夏季休暇中 1 回、秋学期 18 回の実施となった。Webex Meetings での実施となったが、博士後期課程のゼミがこれほど回数を重ねるとは当初考えておらず、予想を上回る良い結果が得られた。

①-2 SD 活動計画（大学院生への質問紙調査）

活動実績

上記の SD 活動計画以外にも、学業生活を送るにあたり期待していることや問題となっていることを明らかにするために、例年同様、当該究科・専攻の博士前期・後期課程（福祉社会デザイン研究科を含む）に在籍している学生への SurveyMonkey によるオンラインでの質問紙調査を行った。実施期間は、2020 年 11 月 16 日（月）～2021 年 1 月 14 日（木）であり、計 38 名（博士前期 18 名、博士後期 20 名）が回答した。質問紙の項目は、（1）オンライン授業全般の良かった点・改善すべき点、（2）大学院の講義内容・進め方について良かった点・改善すべき点、（3）主査・副査の諸指導について良かった点・改善すべき点、（4）院生研究室・図書館・ToyoNet-Ace 等について、良かった点・改善すべき点であり、すべて自由記述で行った。本研究科の FD 研修担当教員が集計し、改善点をどのように解決していくのかについて等を 2021 年 2 月 15 日（月）の研究科の会議で検討した。

成果・課題

上記の質問紙調査から明らかになったことは、以下の通りである。

（1） オンライン授業全般

博士前期課程の学生からは、良かった点として、「オンラインでも先生から指導を受けることができることがわかった」「どこにいても、いつでも先生と話すことができた」「オンラインの方がレジュメが見やすかった」「遠慮なく発言できた」「コロナ感染を心配せず安心して受講できた」「移動の時間がなく便利だった」「後から録画分を視聴できることがわかった」等が挙げられた。改善すべき点として、「インターネット環境が安定しなかった」「発表者のスピードが速く、外国人にとってはメモを早くとって理解するのが難しかった。的確なコメント・質問のために、授業の数日前には発表資料を配布してほしい」「対面授業の方が理解しやすかった」「発言のタイミングが難しかった」「場の空気を読みづらかった」「報告・発表の際、先生や他の院生と対面できなかったのも、不安になった」等が挙げられた。

博士後期課程の学生からは、良かった点として、「仕事との両立がしやすくなった（移動時間を節約できるため）（ $n=14$ ）」「資料のペーパーレス化が良かった（ $n=3$ ）」「リモートにより、時間調整の幅が広がり、研究指導の時間が手厚くなった」「指導教員よりの的確な助言をもらい、研究の継続を励ましてもらえた」「教員が院生の様子を見ながら対応していた」「対面時の議論と変わらなかった」等が挙げられた。改善すべき点として、「授業によっては回線が安定せず、マイク音が聞きづらい時があった。先生方の PC に差があるのではないか。大学からのサポートを手厚くしてほしい（ $n=3$ ）」「モチベーションの維持が難しく、怠惰になってしまった（ $n=2$ ）」「発言のタイミングが難しかった：挙手マークやチャット機能を活用しても良いのではないか」「教員や院生への相談がしにくかった」「授業時

間外で、教員や他の院生と直接話す機会がなかった」「集中できず、授業への理解度が低くなった」「以前は夜間クラスが多かったのに、現在は昼間に変更されているため、授業に参加しづらかった」等のコメントが寄せられた。

「オンライン授業全般」についての反応は、博士課程前期と後期で異なっていた。博士課程前期では、お互いを十分に知り合っていないこと、また外国人留学生が圧倒的に多いこともあり、授業時に関する不安や困難が多く挙げられた。これらの問題解決のためには、各教員が授業内で工夫する必要があると考えられる（例：いつ発言すれば良いかを言語化して伝える、発言を促す、事前の資料配布を周知徹底する）。一方で、博士後期課程の学生にとっては、通学の手間を省くことができたことは、研究継続の動機付けを大きく高めたようである。また、教員とのコミュニケーションも増えた様子も窺えた。インターネット回線の安定については、両課程とも今後の課題である。また、「今後も通学とオンラインのハイブリッドが良い」という声もあった。

(2) 大学院の講義内容・進め方

博士前期課程の学生からは、良かった点として、「毎回、教員は授業の準備を十分に行っていた」「誰でも自由に発言できるのが良かった」「他の学生の発表から、研究の現状がわかった」「自分の発表の際、先生やクラスメートからたくさんの良いアドバイス・指導をもらった」「学期始めに発表順を話し合っただけで決めるのは、準備ができるので良かった」「講義内容は、わかりやすかった」「特に問題を感じなかった」等が挙げられた。改善すべき点として、「必修の論文の書き方指導の授業は、春学期に実施してほしい」「見通しの持てる授業とそうでない授業があった」「テキストを読んで回答するだけの授業については残念だった」等のコメントが寄せられた。

博士後期課程の学生からは、良かった点として、「対面授業（ディスカッションを含む）と遜色なく受けることができた（ $n=2$ ）」「先生からの適切な指導や指摘、他の院生からの意見、アドバイスを聞き活用できた（ $n=2$ ）」「英文テキストを準備してもらったことが良かった」「資料をデータ保存できたのが良かった」「毎回、発表とフィードバックを集中的に受けることができたため、自分の研究に活かすことができた」「他の院生の研究発表を聞く機会も多く、楽しかった（ $n=2$ ）」「他の院生への指導を聞く機会は、大変参考になった」「研究発表や文献講読等、さまざまな形態の講義があった」「遠隔だったから出席できた面が大きかった（仕事をしながらの出席だったため）」等が挙げられた。改善すべき点として、「レジュメ配布について、不公平だった」「‘のりしろ’のような遊びの時間が取りにくかったことが残念だった」「（コロナが終息し）対面に戻ることを期待している」「オンライン授業では、集中力が必要だった」「院生発表の機会を多く設定してほしい」「ネット環境への指摘を何度か受けた。時間とお金がかかり、講義への参加に集中できないことがあった」「大学側からオンライ

ン環境設定に伴う支援金をもう一度用意してほしい。リモート用パソコンの購入費で出費がかさんだ」等のコメントが寄せられた。

「大学院の講義内容・進め方」については、博士課程前期・後期課程とも、教員が授業の進め方の大枠を示すこと、また、教員やクラスメートからのフィードバックの機会を可能な限り多く提供することが求められていることがわかった。「講義内容や進め方」は、各教員によって異なることについて一定の理解はあるものの、学生がその違いに戸惑っている様子も窺えた。各クラス内で求められる教員の役割および学生に求められる役割を明確化し、共有することが求められる。

(3) 主査・副査の諸指導

博士前期課程の学生からは、良かった点として、「的確に細やかな指導をしてもらえた（ $n=3$ ）」「先生方からの指導は、人生の中でラッキーだったと感じる。修論完成まで、親切的な先生から多くの貴重な指導を受けた（ $n=2$ ）」「先生方が辛抱強く、対応もとても速かった（ $n=2$ ）」「時間外にも指導してもらえた（ $n=2$ ）」「オンラインだったので連絡が取りやすく、研究の問題点も検討しやすかった」「先生の指導がやさしかった」「何ごととも自分次第。積極的に質問し進捗状況を相談すれば応えて下さるし、大丈夫ですと言ってしまえばそれまで」「1年生なので、まだ諸指導の実績がなく、記述は難しい。大学院の指導教員とは、一般的にどういう指導をするのかよくわからず、回答が難しく感じる」等のコメントがあった。改善すべき点として、「指摘のみの授業では、授業後泣いている学生が複数いた。それまでと言われればそうかもしれないが、フォローする必要があるのではないか」との意見もあった。

博士後期課程の学生からは、良かった点として、「きめ細やかな指導をもらった（ $n=3$ ）」「多忙な中、日程を調整し、丁寧に迅速に対応してもらい、的確なフィードバックがあった（ $n=3$ ）」「論文を書き進めることを前提にした的確な指導・アドバイスをもらった（ $n=2$ ）」「教員の専門分野から学生の研究が発展するよう指導してもらった」「電話等の手段も使って指導してもらえた」「ゼミに出席することで、ブレインストーミングが加速した」「厳しい中にも学生のことを考えていることが伝わってきた」「いつも紳士的な態度は、研究者としても尊敬している」「休学者のことも気にかけてもらい感謝している」等が挙げられた。改善すべき点として、「自分の不勉強」「自身の課題や認識をうまく伝えることができないため、苦難とやる気が拮抗していた」「人数が少ないと気まずかった」「院生への励ましや努力を促す指導があると尚良かった」「対面と比べると、先生の状況がわからず指導を求めることが難しい時もあった。遠慮がちな院生もあり、対応が必要かもしれない」等のコメントが寄せられた。

「主査・副査の諸指導」については、博士課程前期・後期課程とも、総じて良かったという評価が多かった。一方で、相手の状況がわからない、表情等から指摘の意図が読み取れない等、対面式とは異なる教員とのコミュニケーションの難しさを感じていることが浮き彫りとなった。コロナ感染症が蔓延する中で、学生の孤立化・孤立感が進んでいる。今後は、学術的な指導と並行して、指導後の心理的・情緒的サポートも必要なのかもしれない。

(4) 院生研究室・図書館・ToyoNet-Ace 等

博士前期課程の学生からは、良かった点として、「院生研究室・図書館等は使いやすかった」「図書館は、きれいで静かで便利だった。自分のペースで好きな本を読み、PC で必要な資料を作りコピーできるので、学内で一番好きな場所だった」「インターネットを通して図書館から文献貸借を依頼し、複写物が郵送されるサービスが良かった」「院生研究室では、先輩と後輩とが、各自の研究について自由に討論できた」「ToyoNet-Ace を利用して、情報や資料の共有ができ、先生と他の研究者と連絡を付けることができた」等が挙げられた。改善すべき点として、「院生研究室は、コロナ禍で使いづらく、マスクを付けずに話をする学生がいる等、ますます使いたくなくなった。学生に任せるだけでなく、工夫の余地はないのだろうか」「コロナが原因で、院生研究室の利用は予約制になった。事情はわかるが、結構面倒だと感じる」「院生研究室には自分一人しかいないのに、限られた時間しか使えないのは合理的でないと感じる」「各施設を十分に使えないのに、学費が通常と全くかわらないことには非常に不満」「定期的に登校できず、あまり活用できなかった。うまく使いこなしていたら別だったと感じる」「コロナ禍で、春学期は入構できなかった。院生交流の場がなくなった」「すべて web での説明で学期が始まり、院生研究室や図書館の場所がわからず困った。やはり現地説明があれば良いと思う。特に院生研究室の使い方は、説明がないと難しいと感じる」等が挙げられた。

博士後期課程の学生からは、良かった点として、「図書館を段階的に開放してもらえた」等が挙げられた。改善すべき点として、「ToyoNet-Ace は、資料拝受のために、休学中も利用可能にしてほしい。先生方が個別に資料を配布しているのが現状（ $n=2$ ）」「院生研究室への出入り手続きを、もう少し簡略化できないか。事前予約は使いにくい（ $n=4$ ）」「院生研究室の環境整備として、皆が触る PC やキーボード等、感染対策をもう少し手厚く行ってほしい」「院生研究室利用を増やしてほしい」「院生研究室の利用の説明が必要」等のコメントが寄せられた。

「院生研究室・図書館・ToyoNet-Ace 等」については、博士課程前期・後期課程とも、図書館の使い勝手は良かったとのコメントが多かった。その一方で、ToyoNet-Ace や院生研究室の

使い方については、改善してほしいという声が大半であった。休学者が ToyoNet-Ace を使えるようにしてほしいという要望や、オリエンテーション時の院生研究室の使い方の説明、院生研究室を利用する際の利用者への感染症対策へのルールを設定とその周知、大学側の院生研究室への感染症対策とその周知、院生研究室の事前予約に柔軟性を持たせる対応等への要望が多くあった。このことについては、教職員で情報共有し、改善していく必要があると考える。

（補足）大学院教務課より、院生研究室については、年明けから消毒液やティッシュ等を置く措置を取っている。

② FD 活動計画

活動実績

2021 年 1 月 25 日（月）に「日本女子大学教授の沈潔先生を招聘し、「留学生（特に中国からの留学生）に対する日本の大学院教育のあり方」というテーマでの発表を依頼した（45 分）。その後、質疑応答を行った（30 分）。当日の参加者は 7 名。森田教授は、社会貢献センターの会議のため、欠席。後日、録画分を視聴した。

主な内容は、以下の通り。

1. 沈教授が受けた中国および日本での大学院教育の実際
2. 最近の中国人学生の進学状況と主要な海外留学先
3. 沈教授がサポートしている中国人留学生（博士後期課程）への指導の実際
4. 質疑応答
5. その他の参考情報（後日資料が配布された）

質疑応答では、本学の教員が主に博士前期課程に在籍する学生指導を指導する際の困りごとについての質問があり、それに沈教授が回答した。以下は、質疑応答の結果である。

- （1） 社区等の中国社会の地域支援システムが日本社会の何に対応するのかを理解し共有するために、かなりの時間が費やされていることへの懸念がある。

>>> まずは、学生に日本の社会システムや制度政策について、教科書のようなものを通して包括的に学ばせるべき。その知識を元に、何と何に対応しているのかを学生に説明させるのが良い。

- （2） 考察の書き方を指導しても、なかなか理解が進まない、もしくは「これで良い」と返答する学生もいる。どのように対応すれば良いのか。

>>> 沈教授が、論文の書き方で参考になる中国語の文献を後日、本学教員に向けて送付する。

（補足）当該参考文献を元に、中国語文献を購入した。適宜利用できるよう、配置準備を進めている。

- （3） 本研修内で、中国の大学院教育に関するデータが示されていたが、あのような資料はオンラインで入手可能なのか。

>>>難しい。東洋文庫や千葉のアジア研究センターに行けば、一通り揃っている。東洋文庫でアルバイトをすれば、書庫内に入れる。

- (4) 日本で大学院教育を受けた中国人留学生が帰国しても、知識量が非常に少ないということだが、何かサポートした方が良いのか。

>>大学院教育はそこに所属している人の特権なので、卒業後のサポートをしなければならないとは思わない。ただ、同窓会等で支援していくことは可能である。

- (5) 中国人が留学する際、まったく学んだことのない専攻を選ぶというのはどういうことなのか。

>>>このことは、中国では、大学院修了者を増やすことが急務の政策となっていることから起こっていると考えられる。受け入れる側は、その動機や学習経験、能力を見極めていくことが求められる。

- (6) 研究テーマを絞ることに四苦八苦することが多い。

>>>必ず日本のことを学ばせることが重要。その上で、両国の比較、もしくはどちらかの国に絞り、研究を進めていくと良いのではないか。

成果・課題

複数の教員からの「これぞFD研修というものだった」というコメントが示しているように、教員側のニーズと研修内容がマッチした研修であった。沈教授の日中での学生としての経験や指導経験からの知見はもとより、中国における教育事情や政府の意向等の解説もあり、かつ質問に対して明快・率直に回答して頂いたという印象である。研修終了後も、参考書や新しい情報が示される等、東洋大学で大学院教育を受けている学生の利益に直接つながるFD研修であった。本学教員からの希望があれば、次年度も継続して実施したい。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
2021/01/25 10:15～12:15	FD研修会 「留学生（特に中国からの留学生）に対する日本の大学院教育のあり方」	FD・SD	8/8 (1名は動画視聴)	0/0	8/8	○

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

SD 活動計画：

2020 年度の実活動績を踏まえ、継続的な教育・研究活動を実施していく（例：年 2 回の修士論文の進捗状況報告と講評、東洋大学社会福祉学会での口頭・論文発表、大学院紀要への論文投稿、教員による共同指導の機会の提供、福祉社会開発研究センターの活動等を通じての社会貢献や研究・発表の機会の提供等）。2019 年度より継続中の志村ゼミについても、学生からのニーズに応えるためにも、引き続き実施する予定である。

さらに、SD 活動計画の一環として実施した院生への質問紙調査からは、図書館や院生研究室の使い方への要望や ToyoNet-Ace を使った資料収集や配信等の提案が見られたことから、これらも当該研究科・専攻の課題として継続して共有し、議題としたい。

FD 活動計画：

2020 度は、外部講師を招聘し、「留学生への研究指導のあり方」について研修を行った。本研修の内容は、本学教員のニーズとも直結しており、得ることも多かった。次年度も要望があれば沈教授（もしくは相応な講師）を招聘したい。

今後も引き続き、専攻に所属する教員や専攻の院生の教育・研究活動の活性化に努めていきたい。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

2020 年度に情報連携学部が完成年度を迎えたことにより、2021 年度からは、本研究科に情報連携学部の卒業生が入学してくることになる。

このため、これまで複数回にわたり進学説明会を開催し、本研究科の説明だけではなく、大学院での学びや、大学院生に求められる姿勢について説明を行ってきたが、2020 年度は、2021 年度からの彼らの受け入れ準備をしていく必要がある。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

①カリキュラムの充実

活動実績

本研究科はこれまで、社会人を対象として、長期履修制度や時間割編成上の工夫などを行うとともに、情報連携学研究科における 4 分野の概論や分野間の連携なども大学院教育に含めてきた。

ただし、今後は、情報連携学部の学士課程を卒業した学生を主たる教育対象と考え、より高度で専門的な教育内容に変更し充実することが、社会の要請に応え、また情報連携学部学生に対して魅力的な大学院プログラムを提供するために必要である。

また、これまでは社会人を対象としていたため、キャンパスでの教育活動日を限定し、大学院生が企業に在籍しながら教育研究を進められるようにしてきたが、今後は大学院生が学内にフルタイムで研究を進められるような環境の整備が必要である。

このことから、オンラインを中心として、研究科内で構築している研究科長、専攻長、学部長、学科長による代議員会にて、上記の問題を継続的に議論し、2020 年度中にこれらの解決を図った。

成果・課題

代議員会での検討の結果、これまで社会人向けに情報連携学の基礎をオムニバスで教育していた必修科目 2 科目を、現在社会に求められている DX に特化した選択科目に変更した。

また、これまでは 4 分野から各 4 科目ずつ提供し、修了までにコースを横断して履修するように指導していた特論科目を、各分野で 8 科目に増加させ、大学院生が自分の研究する専門分野に専念してより深く研究できるようにした。

さらに、2018 年度より、赤羽台キャンパスにおいて、大学院レベルの社会人リカレント教育として実施してきた「Open IoT 教育プログラム」（文部科学省の履修証明プログラム、BP としても認定済み）を、正規の教育科目として履修できるようにした。このことにより、大学院生がこのプログラム内で、社会人と共に研鑽する機会を提供できる。

また、環境の整備については、各机に大型モニターを設置した研究室を 2 室用意し、在学中の社会人と、情報連携学部からの大学院生の両方がキャンパス内にてフルタイムで研究できるようにした。

なお、これまでの入試では、情報連携学を学んだことのない社会人を対象とした問題であったが、今年度の入試より、大学院入試タスクフォースにて問題の見直しを行い、主に社会人を対象とした筆記試験免除は残したまま、情報連携学部で学んだ学生を想定した問題に修正した。

今後の課題としては、授業のテーマや到達目標の設定、研究指導計画の方法などにおいて、社会人と情報連携学部からの大学院生の両方の特性やニーズに対応できる運用が求められることであり、この点については今後も継続的な検討が必要である。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

社会人と情報連携学部からの大学院生の両方に対応するためには、従来の対面指導や、コロナ禍におけるオンラインのみではなく、オンラインと対面とを適切に組み合わせた、質の高い大学院教育を展開していく必要がある。

2021 年度については、この新しい教育研究の展開によって、社会人の受け入れも継続しつつ、より高い専門性を追求していく方向を研究科として検討していくこととする。

1) 2020 年度 FD・SD 活動計画 / 2020-PLAN

国際教育センターでは、シラバス点検や授業評価アンケートなどの取り組みに加え、英語特別教育科目（LEAP プログラム）や日本語教育プログラムなどのテーマごとにFD研修を実施している。

日本語教育プログラムについては、日本語教育に関連する多角的な側面からテーマを設定し、3回のFD研修会を計画した。

LEAPプログラムでは、2021年度のカリキュラム改訂に伴うIELTS対策を中心とした教育内容の再編に向けて、2019年度はIELTS専門家を招いた研修会を2回実施したが、2020年度はプログラム開発に注力するため、FDとしてはLEAP教員等にIELTSを受験することを奨励していく。

一方、SDでは、国際課職員の業務知識の向上及び業務スキルの向上を図るための研修を毎年実施している。2018年度はSGU採択校のうち先駆的な取り組みを行っている大学を対象に調査及び分析を行い本学への応用について議論する研修会、学生を海外に派遣することに伴う危機管理研修、異文化理解講習等を実施し、2019年度は業務効率化のためのマニュアル作りに取り組んだ。2020年度は危機管理研修、留学カウンセリング業務、学生寮の運営並びにRA（レジデント・アシスタント）の活用に関する研修会を実施する計画となっている。

2) 2020 年度 FD・SD 活動実績及び成果・課題 / 2020-DO, CHECK

① 日本語教育プログラム [FD]

活動実績

当初3回のFD研修会を実施する計画であったが、担当予定講師の都合やオンライン対応の可否なども勘案し、オンラインによるFD研修会を2回実施した。本FDは、日本語教育の理論的理解と教育実践の向上を目的として、正課科目担当教員、課外プログラム担当教員、学内関係者を対象としているが、文学部日本語教員養成プログラムを履修する学生や学内の留学生にも開放した結果、日本語教育に関心をもつ関係者からの参加があった。

第1回 日時：2021年2月19日（金）13：30～15：00 場所：ビデオ会議システム

講師：高梨信乃教授（関西大学）

タイトル：「上級日本語学習者のための文法指導とは」

参加者数：25名（内本学教員17名）

第2回 日時：2021年3月11日（木）13：00～14：30 場所：ビデオ会議システム

講師：横山詔一教授（国立国語研究所）

タイトル：「日本語に関する調査研究の変遷と日本語教育への応用」

参加者数：32 名（内本学教員 18 名）

成果・課題

第 1 回では、日本語のアカデミック・ライティングにおいて学習者が躓きやすい文法項目とその指導法について、実践面からの講演と質疑応答を行なった。文法項目をアカデミックジャパニーズの文脈で再学習するという講演者の観点は、本学のライティング指導においても取り入れるべき点であり、アカデミックジャパニーズのあり方についても実践的観点から理解を深めることができた。第 2 回は、1951 年に実施された「日本人の読み書き能力」に関する調査資料をめぐって機能的識字の概念を用いて再解釈した研究成果が共有された。質疑応答では、歴史の中での言語調査の位置づけの変遷と資料の読み解き方、また、日本語学習者を対象とした日本語能力試験との相関についても意見交換がなされ、母語話者・非母語話者の言語能力の把握について、特に言語テストを作成する際に有用な知見が得られた。

②LEAP プログラム [FD]

活動実績

2020 年度は LEAP プログラムの内容改編に向け、IELTS の教授法に関し、LEAP 教員間での情報やグッドプラクティス共有などを通じて教育内容の質の向上に努めた。更に IELTS テストを受けたことがない教員に対して、教育内容への還元を目的として FD の一環として IELTS 受験機会を提供し、1 名の教員が受験した。

成果・課題

2020 年度は 2021 カリキュラムでのプログラム改編に向けて、LEAP 教員同士の密な連携でプログラム開発が行われた一方、外部講師を招いた研修会は実施しなかった。次年度以降は必要なテーマや課題を設定して当該分野の専門家を招いた研修会を実施する。

③ISAS2.0「16 勧告」説明会 [FD/SD]

活動実績

TGD 構想の一環で、国際大学協会（IAU）による国際戦略助言サービス（ISAS2.0）において、国内外の高等教育・国際教育の専門家から本学の国際的な取り組みについて 12 の称賛すべき事項と、16 の改善すべき事項（16 勧告）が提言された。これらの助言を踏まえ、特に 16 勧告について、実現可能性、有効性、効率性、インパクト及び持続発展性等の観点から総合的に精査し、TGD 構想の完成に向け、2021 年度以降の各部局の特色ある国際化の推進に繋げていくために、IAU 専門家チームメンバーの米澤彰純教授（東北大学）をお招きして、「ISAS2.0 報告書」説明会をオンラインで実施した。

日時：2020 年 7 月 17 日（金）16:45-18:15 場所：ビデオ会議システム
講師：米澤 彰純教授（東北大学国際戦略室、IAU 専門家パネルメンバー）
参加者：53 名（学長、副学長、学部長、事務部長他）

成果・課題

16 勧告について詳細かつ具体的な解説に加え、勧告が出された背景や意図についてご説明頂き、本学の教学及び事務部門の関係者間において 16 勧告の内容について共通の課題認識を持つことができた。本説明会で形成された共通認識を基盤として、同年 11 月～12 月に実施した各学部、研究科及び担当事務局との意見交換会において、どのように対応するかという議論を進めることができた。

④危機管理研修[FD/SD]

活動実績

2020 年度新型コロナウイルス禍で、本学教職員を対象とした「危機管理研修会」を実施した。特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（JCSOS）アドバイザーの酒井悦嗣氏を講師に招き、新型コロナウイルスの現状と対策・事例紹介・最近の世界の出来事や、本学への助言などについてご講演いただいた。

日時：2020 年 12 月 17 日（木）10:40-12:10 場所：ビデオ会議システム

講師：酒井 悦嗣氏（特定非営利活動法人海外留学生安全対策協議会（JCSOS）アドバイザー）

参加者：45 名（大学教職員）

成果・課題

今後海外に学生を派遣する際に、準備すべきことや助言の方法について、具体的な事例などを交えてご説明頂いた。また、海外の医療事情や医療を取り巻く文化の違いなどがあるということについても解説があり、学生の安全な派遣と想定される危機管理を行う上で、非常に有益な内容であった。

⑤混住型国際学生寮に関する研修会[SD]

活動実績

2022 年 3 月に赤羽台にオープンする国際寮「AI-House」の開設準備および開設後の運営業務に資することを目的とし、関西外国語大学の岩上英雄氏と乾愛莉氏を講師に招き、同大が運営する国際寮「Global Commons 結」について、開設準備段階及び開設直後の様子及び RA（レジデント・アシスタント）の活用について講演していただいた。

日時：2020 年 9 月 15 日（火）13:00-15:00 場所：ECZ およびビデオ会議システム

講師：岩上 英雄氏（関西外国語大学教務部）

乾 愛莉氏（関西外国語大学国際交流部）

参加者：15 名（国際課職員）

成果・課題

学生寮オープン前の準備業務や開設直前の苦労話など、「Global Commons 結」での経験談を基に实际的な助言を頂けたので、AI-House 開設準備全般で参考となっている。特に RA（レジデント・アシスタント）の活用法を検討するうえでは、組織体系づくりや採用について参考となる部分が多く、非常に有益であった。

活動記録一覧

日程	活動内容	FD・SD 区分	参加者数(人)			HP 掲載
			教員	職員	計	
7 月 17 日	ISAS2.0「16 勧告」説明会	FD・SD	28	25	53	×
9 月 15 日	混住型国際学生寮に関する研修会	SD	0	15	0	×
12 月 17 日	危機管理研修	FD・SD	17	25	32	×
2 月 19 日	第 1 回日本語教育 FD 研修会 「上級日本語学習者のための 文法指導とは」	FD	17	0	25	×
3 月 11 日	第 2 回日本語教育 FD 研修会 「日本語に関する調査研究の 変遷と日本語教育への応用」	FD	18	0	32	×

※日本語教育 FD は教員・職員以外に大学院生等が第 1 回 8 名、第 2 階 14 名参加している。

3) 2021 年度 FD・SD 活動実施計画 / 2020-ACT, 2021-PLAN

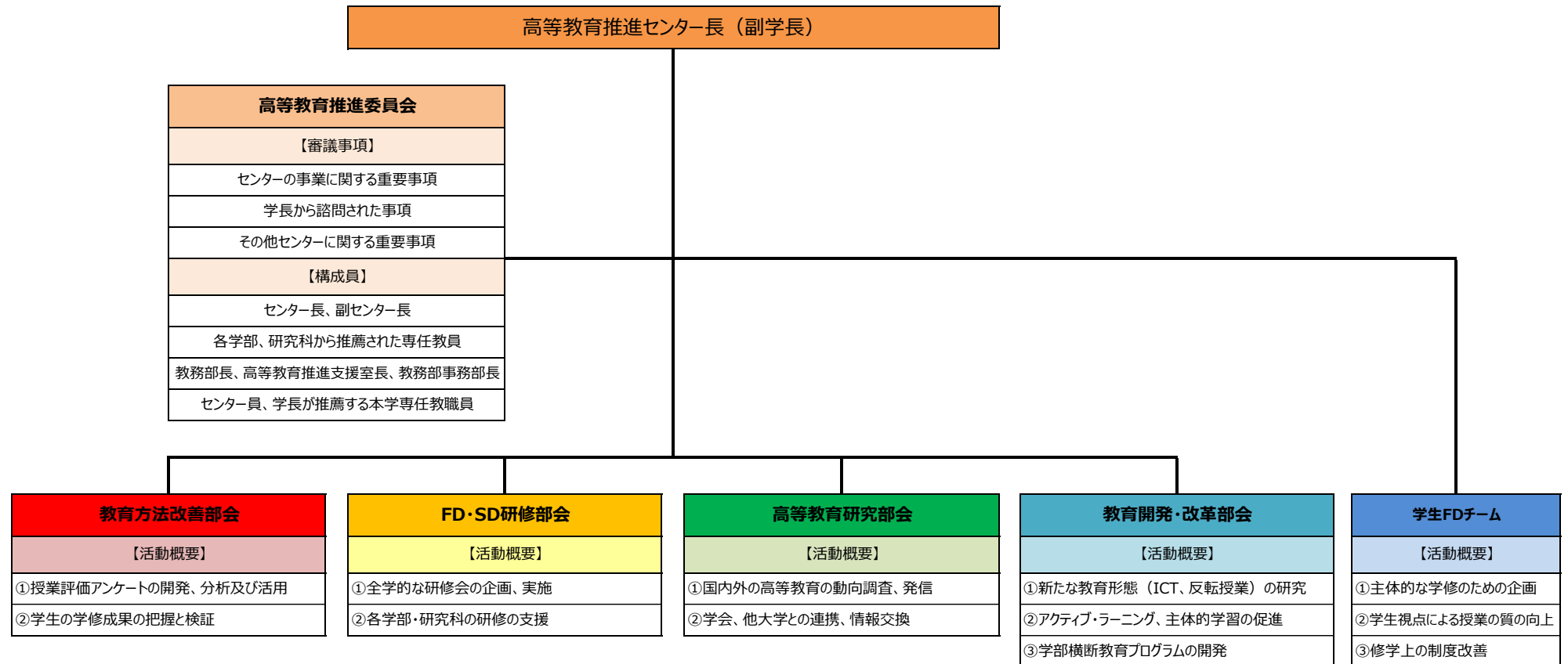
日本語教育プログラムについては、2020 年度はオンラインでの開催となったが、例年より多くの関係者が参加し、質疑応答も活発に行われていた。このことから、2021 年度についても少なくとも 1 回はオンライン開催で実施することを計画している。また、本年度実施した理論と実践双方のテーマを設定することで、教育実践についての理解を深めるという方針を今後も継続する。

LEAP プログラムについては、IELTS 対策へ再編した新プログラムでの教育に必要となる知見のインプットに繋がる研修なども随時計画していく。

SD 研修については、引き続き TGD 構想の推進及び大学の国際化に係る各種テーマで SD を実施する。

高等教育推進センターFD・SD 活動報告

2020年度東洋大学高等教育推進センター組織図



【センターの目的】 本学の高等教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援すること	【センターの事業】 ①教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援 ②FD及びSDの研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援 ③国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供 ④新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発 ⑤各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援 ⑥その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項
---	---

2020年度 東洋大学高等教育推進センター活動一覧

月	推進委員会・部会長会議・各部会						行事	
	推進委員会	部会長	教育方法改善	FD・SD研修	高等教育研究	教育開発・改革	日程	内容
4							4月17日(金)	全学授業評価アンケート実施依頼
	①4/23							
							4/27-5/17	ティーチング・アシスタントFD研修会
5							5月	『東洋大学FD・SD活動報告書（2019年度）』刊行
		①5/20		①5/21-27	①5/21-28	①5/20-28		
			①5/25				5月28日(木)	授業評価アンケート第1Q実施期間開始（～6/10）
6								
7							7月2日(木)	授業評価アンケート第2Q/春学期実施期間開始（～7/29）
							7月10日(金)	新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会
							7月31日(金)	第2回新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会
8				②8/4-14				
9							9月14日(月)	2020年度新任教員FD研修会
							9/14-10/31	2020年度秋学期授業開始前の全学FD・SD研修
			②9/15				9月17日(金)	FD・SD研修会～Webex Meetings における Breakout Session の設定方法～
	②9/28-10/1							
10	③10/12-16							
11							11月4日(水)	授業評価アンケート第3Q実施期間開始（～11/17）
					②11/17-20			
12			③12/7					
							12月16日(水)	授業評価アンケート第4Q/秋学期実施期間開始（～1/30）
	④12/21							
1								
				③1/21-27				
	⑤1/28-2/4							
2								
							2月19日(金)	TOYO FD・SD Channel 開設
3								
							3/16-18	英語で授業をおこなうためのFD研修会
							～3/23	「高等教育推進センターニュースレター」年間計16回配信
	⑥3/26-29							

高等教育推進委員会

第1回（第Ⅱ期通算第5回）

日時 2020年4月23日(木) 14:00 ～ 4月24日(金) 14:00

場所 全学グループウェア ガルーンメッセージ

〔はじめに〕

- (1) 高等教育推進センター長の挨拶
- (2) 高等教育推進委員会委員の紹介
- (3) 2019年度第4回東洋大学高等教育推進委員会要録の確認

議題

1. 協議事項

- (1) 副センター長の推薦について
- (2) 部会長の選出及び委員の各部会への配属について
- (3) 年度計画の立案について

2. 報告事項

- (1) 各部会活動状況報告
 - ① 2020年度授業評価アンケートの実施について
 - ② 2020年度ティーチング・アシスタントFD研修会の実施について
- (2) 各学部・研究科におけるFD・SD活動状況報告
- (3) センター報告
 - ① 『東洋大学高等教育推進センターニュース第3号』の刊行について
 - ② English Support Serviceについて
 - ③ 学外におけるFD・SD関連研修会について

3. その他

- (1) 今後の運営及びスケジュール等について

第2回（第Ⅱ期通算第6回）

日時 2020年9月28日(月)～10月1日(木) 17:00

場所 メール会議

議題

協議事項

- ・2020 年度秋学期授業評価アンケートにおける設問内容の変更について

第 3 回（第 II 期通算第 7 回）

日時 2020 年 10月12日（月）から 10月16日（金）まで

場所 メール会議

議題

協議事項

高等教育推進センター、高等教育推進委員会に係る自己点検・評価について

第 4 回（第 II 期通算第 8 回）

日時 2020 年 12 月 21 日(月)14:45～16:15

場所 Web 開催

議題

1. 報告事項

- (1) 2020 年度の授業評価アンケート実施状況について
- (2) FD・SD 研修会実施報告
- (3) 高等教育推進センターニュースレターの配信状況について
- (4) 来年度の EnglishSupportService について
- (5) 学外機関との連携について
- (6) 学外における FD・SD 関連研修会について
- (7) 各学部・研究科における FD・SD 活動について

2. 報告事項

- (1) 遠隔授業の高度化と質保証に係る将来構想検討会議報告書について
- (2) 2020 年度自己点検・評価及びフィードバックコメントについて
- (3) 学修成果測定指標集計・表示システムについて
- (4) 今後のより良い授業評価アンケートに向けて
 - ・2021 年度の授業評価アンケートについて
 - ・2022 年度以降の授業評価アンケートについて（意見交換）

3. その他

第5回（第Ⅱ期通算第9回）

日時 2021年1月28日(木)～2月3日(水)
場所 メール会議
議題 FD・SD チャンネルの開設について

第6回（第Ⅱ期通算第10回）

日時 2021年3月26日(金)13:00～29日（月）13:00
議題 ガルーン会議

議題

〔はじめに〕

議事録確認・センター長挨拶

〔議題〕

I. 協議事項

1. TOYO FD・SD Channel について

II. 報告事項

1. 教育方法改善部会活動報告

（ア）2020年度授業評価アンケート実施報告

（イ）2021年度授業評価アンケート実施について

（ウ）部会活動報告

2. FD・SD 研修部会活動報告

（ア）FD・SD 研修会実施報告

（イ）TA/SA 研修会の実施について

（ウ）FD・SD 活動報告書の作成状況について

（エ）部会活動報告

3. 高等教育研究部会活動報告

（ア）高等教育推進センターニュースレター

（イ）部会活動報告

4. 教育開発・改革部会活動報告

（ア）部会活動報告

5. 高等教育推進センター長報告

（ア）English Support Service の運営について

（イ）学修成果測定指標集計・表示システムについて

（ウ）高等教育推進センターニュースについて

（エ）学外機関との連携について

6. 各学部・研究科における FD・SD 活動報告

教育方法改善部会

部会

日時 2020 年 4 月 24 日(金)~4 月 28 日(火)
場所 メール会議
議題 協議事項 1 授業評価アンケートの実施について
協議事項 2 授業評価アンケートの設問について

第 1 回

日時 2020 年 5 月 25 日(月) ~5 月 28 日(木)
場所 メール会議
議題 教育方法改善部会年度計画について

第 2 回

日時 2020 年度 9 月 16 日(水)~9 月 18 日(金)
場所 メール会議
議題 2020 年度秋学期授業評価アンケートの設問について

第 3 回

日時 2020 年 12 月 7 日(月)14 : 45~16 : 15
場所 web 会議
議題 (協議事項) 1. 2021 年度の授業評価アンケートについて
(意見交換) 2. 2022 年度以降の授業評価アンケートについて

教育方法改善部会

計画日 2020年5月13日
報告日 2021年3月23日
部会長 長谷川 勝久

活動項目	P			D・C
	2020年度計画の概要	検討・活動にあたって留意したい点	優先順位	年間活動報告
①授業評価アンケートの開発、分析及び活用	1. 春学期の非対面授業に関する授業評価アンケートの作成、活用、分析を行う。 2. 秋学期に授業評価アンケート項目の見直しのための調査を実施。 3. 2の調査結果を基に、授業評価アンケート項目の修正および信頼性、妥当性の検討を行う。	1. 非対面授業の在り方について、同期型、非同期型それぞれにおける各種手法がどのような授業に適しているかを簡易検証する。 2. 各学部の教授会にて、授業評価アンケート項目改善と活用例に関するアンケート調査依頼が必要であることから、委員会で十分理解が図れるように留意する。	1	1. 春学期は非対面授業が中心となり、各設問の内容がほとんど当てはまらない状況となったため、教育方法改善部会で対応を検討し、設問の大幅な変更を行った。 2. 秋学期は、さらにアンケート項目の検討を行い、対面授業と非対面授業、これら2つの組み合わせなど授業形態について把握できるようにし、当該授業においてよかった点、改善した方がよいと思われる点、総合評価がわかるようにした。加えて、課題の出題頻度とそれに取り組む時間についても把握できるように留意した。 3. アフターコロナを見据えて、授業評価アンケートをどのように見直したら良いかの検討を行った。
②学生の学修成果の把握と検証	1. 学修成果指標検討会議で出された結果と①の結果を踏まえた上で、授業評価アンケートと学修成果指標と関連付けができるかどうかの検討を行う。 上記の内容は本年度秋学期から検討に着手し、次年度にかけて検討を継続していく。	1. 各学科が作成した学修成果指標に基づき、授業評価アンケートと学修成果指標と関連付けることができるかどうかの検討。 2. 1の検討結果に基づき、授業評価アンケートのフィードバックの仕組みの設計変更とも関連付けて検討することに留意する。	3	本年度は、コロナの影響により、大幅に授業評価アンケート項目の変更を行ったため、単純集計のみ行った。学生の学修成果と授業評価アンケートの関連については、次年度以降の課題として残された。
③その他	1. Webによる授業評価アンケートを着実に実施する。	1. 授業評価アンケートの実施率の低下を防ぐため、マークシートにて実施していた時と同様に、授業内で実施するように留意する。ただし、アンケート実施時に欠席した学生については、後日、入力できるようにすることで、実施率の向上を図る。 2. 集計資料では授業名を伏せ、受講していない学生には閲覧できないようにするなど、情報管理に留意する。 3. 教員からのコメント入力を積極的に行っていたできるように留意する。	2	Webによる授業評価アンケートを実施した。その結果、実施率と教員からのフィードバックコメント率は、次の通りであった。 ・春学期 回答率37.7%（昨年度46.1%） 教員のコメント率46.1%（昨年度56.9%） ・秋学期 回答率35.8%（昨年度37.1%） 教員のコメント率37.1%（昨年度44.4%）

◆A 総括（ふりかえり／来年度に向けての改善）

授業評価アンケートの実施については、春学期・秋学期ともに非対面授業が多い中、順調に実施することができた。教員からのフィードバックコメントは平均して約4割あった。学生の回答率も平均して4割弱と少なかったことから、次年度に向けては、ブレンディッド・ラーニングもしくはオンデマンド型の授業においても回答率、教員からのフィードバックの割合を高める工夫をする必要があることがわかった。授業評価アンケートからは、非対面授業における授業形式、受講人数と学生の評価との関係が把握することができた。授業評価アンケート項目の見直しについては、貴重な意見を伺うことができ、次年度に向けて継続して検討することとなった。授業評価アンケート項目が決まった後、授業評価アンケートと学修成果指標との関連付けができるかどうかの検討に入る予定である。

FD・SD 研修部会

部会

第 1 回

日時 2020 年 5 月 21 日(木)～5 月 27 日(水)
 場所 メール会議
 議題 2020 年度第 1 回 FD・SD 研修部会年度計画について

第 2 回

日時 2020 年 8 月 4 日(火)～8 月 14 日(金)
 場所 メール会議
 議題 2020 年度新任教員 FD 研修会について

第 3 回

日時 2021 年 1 月 21 日(木)～1 月 27(水)
 場所 メール会議
 議題 「FD・SD チャンネル」について

第 4 回

日時 2021 年 3 月 18 日(木)
 場所 メール会議
 議題 2021 年度 TA/SA 研修会について

学内 FD・SD 関連研修会

研修会名	実施方法	実施日(期間)	対象	参加者	アーカイブ
2020 年度ティーチング・アシスタント FD 研修会	オンデマンド型	2020 年 4 月 27 日(月)～5 月 17 日(日)	今年度採用された TA(キャンパスによって SA 含む)	222 名	対象者のみ公開

新型コロナウイルス感染症 FD・SD 研修会「新型コロナウイルスの特徴・現状そして展望」	同時双方 向型	2020 年 7 月 10 日(金)	全教職員	100 名前後	学内公開
第 2 回新型コロナウイルス 感染症 FD・SD 研修会 「数値の正しい理解とコロ ナ対策」	同時双方 向型	2020 年 7 月 31 日(金)	全教職員	100 名前後	学内公開
2020 年度新任教員 FD 研 修会	同時双方 向型	2020 年 9 月 14 日(月)	今年度着 任された 専任教員 56 名	46 名	対象者のみ 公開
FD・SD 研修会 ～Webex Meetings における Breakout Session の設定 方法～	同時双方 向型	2020 年 9 月 17 日(金)	全教職員	90 名前後	学内公開
2020 年度秋学期授業開始 前の全学 FD・SD 研修 「秋学期の非対面授業にお ける留意点について」	オンデマ ンド型	2020 年 9 月 14 日(月)～10 月 31 日(土)	全専任教 職員・非 常勤講師	1,448 名	学内公開
英語で授業を行うための FD 研修会	同時双方 向型	2021 年 3 月 16 日(火)～ 18 日(木)	専任教員	17 名	なし

TOYO FD・SD CHANNEL

学内者向け URL : https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

学外者向け URL : <https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/effort/FDSD-program/channel/>

ラインナップ

00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための 3 つのポイント～FD・SD チャンネルの開設に寄せて～

01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について

02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権

- 03【授業運営】 オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】 オンライン下での 1 年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 05【学生支援】 障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】 障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】 大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】 大学における合理的配慮の実際
- 09【授業運営】 Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】 5 Tips for Teaching Online Language Classes
- 11【学生支援】 様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）
- 12【授業運営】 英語による授業運営のポイント
- 13【授業運営】 スポーツ系実習科目での試みーエアロビクス指導法ー
- 14【ICT 活用】 リアルタイム授業をとめない Webex Meetings の安定利用
- 15【授業運営】 これで安心！改正著作権法のポイント
- 16【授業運営】 オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- 17【授業運営】 演習をとまなう理系科目のオンライン実施例
- 18【ICT 活用】 これでわかる！東洋大学の LMS と授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク
- 19【学生支援】 本学における障がい学生支援体制及び合理的配慮調整の流れ
- 20【学生支援】 本学における障がい学生支援実践上の課題と今後の方向

FD・SD研修部会

計画日 2020年5月18日
報告日 2021年3月24日
部会長 藤松 信義

活動項目	P			D・C
	2020年度計画の概要	検討・活動にあたって留意したい点	優先順位	年間活動報告
①全学的な研修会の企画、実施	○ 主にFD ・ TA・SA研修会の実施（4月） ・ 新任教員FD研修会（9月） ・ FD研修の実施（秋学期） ○ 主にSD ・ SDの活動範囲・方針について検討 ・ SDを中心としたセミナー開催の検討 ・ その他のFD・SD研修	・ 例年実施されている研修活動を含めて、各企画を検討する。 ・ 昨年度のFD・SD研修会を踏まえ、引き続きSDの実施を検討する。その際には、他大学の研修内容を調査するとともに、教職協働のもと実施できるよう留意する。	1	2020年4月27日-5月27日 ティーチング・アシスタントFD研修会 2020年5月 『東洋大学FD・SD活動報告書（2019年度）』刊行 2020年7月10日 新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会 2020年7月31日 第2回新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会 2020年9月14日 2020年度新任教員FD研修会 2020年9月17日 FD・SD研修会～Webex MeetingsにおけるBreakout Sessionの設定方法～ 2021年2月19日 TOYO FD・SD Channel 開設 2021年3月16日-3月18日 英語で授業をおこなうためのFD研修会
②各学部・研究科の研修の支援	・ 各学部・研究科が開催するFD・SD研修に対して助言を行う (例：講師選定など)	・ 各学部・研究科特有のFD・SD活動ができるよう留意する。 ・ 開催学部・研究科以外の教職員も参加できるように、学内への情報提供に留意する。 ・ 各学部・研究科のFD・SD活動を取りまとめた年次報告書『FD・SD活動報告書』の作成支援を必要に応じておこなう。	2	各学部・研究科が開催するFD研修に対して、事務局を通じて講師やテーマの選定等の助言をおこなった。
③その他	・ センター内4部会間の交流・連携	・ 各部会の活動状況や関心を寄せているトピックを共有し、連携を図ることにより、高等教育推進センターのFD・SD活動が研修会の形で昇華できるよう努める。今年度は、その第一段階として、4部会長が意見交換をおこなう。	3	2020年5月20日 第1回高等教育推進センター部会長会議 5月に部会長会議を開催し、意見交換をおこなった。

◆A 総括（ふりかえり／来年度に向けての改善）

- ① Web配信またはオンラインによる研修会を開催したが、例年開催している企画は滞りなく実施できた。
- ② テーマの選定等の助言を事務局に一任していることが継続的課題なので、部会委員の役割を明確にしたい。
- ③ 昨年度の状況を踏まえて作成された年間活動計画であったが、新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会の開催は、大学教職員が最も関心のある内容であり、2回開催することで感染症対策についての理解を深めることができたかと捉えている。次年度以降も意義ある研修内容を選定できるように努めたい。

高等教育研究部会

部会

第 1 回

日時 2020 年 5 月 21 日(木)～15：00～28 日(木)15：00

場所 ガルーン メッセージ

議題

1. 2020 年度年間活動計画について
2. 「ニュースレター連載企画」について

第 2 回

日時 2020 年 11 月 17 日(火) ～20 日(金)

場所 メール会議

議題

- 1 運用ガイドラインの改正について
- 2 ニュースレター定期連載の第 5 シリーズについて

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

[付録参照](#)

高等教育研究部会

計画日 2020年5月11日
報告日 2021年3月23日
部会長 角谷 昌則

活動項目	P			D・C
	2020年度計画の概要	検討・活動にあたって留意したい点	優先順位	年間活動報告
①国内外の高等教育の動向の調査、発信	国内については、文部科学省その他の教育行政機関の政策動向、また他大学および学内のグッドプラクティス（学生調査分析、教職員の取組等）を主たる対象とし、また海外については、アジア・北米・欧州の高等教育機関の動向を主たる対象として情報を収集する。 収集した有益な情報や知見は、本部会各員が自身の教育・研究活動も踏まえるなどしながら、しかるべき頻度で記事を作成し、メールマガジン『東洋大学高等教育推進センターニュースレター』を媒介として学内教職員に還元する。 このメールマガジンは、ToyoNet-ACEと『FD・SD活動報告書』にそのバックナンバーを蓄積する。 また、上記メールマガジンの編集作業の簡略化と配信効果の測定のため、専用のメールマガジン配信ツール（有料）を導入する。	左記の記事のテーマについては、本学の教学施策や学生の実態等を踏まえた上で、時宜に応じたものであり、かつ教職員への発信によって本学の教育活動の発展に資するものを選定する。 また、本学教職員が関心を寄せているトピック等を調査し、テーマ設定等の際の参考とする。 情報を編集し発信する際には、教職員の興味を引くものとなるよう努めるとともに、メールマガジン誌上が教員・職員・学生の三者の意見が交流し合う場ともなるよう配慮する。 また、本学の教育の質的向上に関する取組のうち、本学の対外的なプレゼンスの向上に資すると考えられるものについては、高等教育推進センターHPへの公開を検討する。	1	まず教育動向に関する情報収集については、官公庁・各種法人・民間企業等から情報を得て整理し、ほぼ隔週のペースで発行する『高等教育推進センター ニュースレター』にてwebリンク付で随時掲載を行なった。今年度は特に新型コロナウィルスへの対応や、非対面授業の方法や運営に関する情報発信に注力した。 そうした学外の動向と歩を合わせ、本学の当面のニーズや課題などを検討してトピックを定め、『ニュースレター』に記事を連載した。今年度のトピックは、遠隔授業のさまざまな工夫に関する「非対面授業レポート コロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて」（8回掲載）と、コロナ禍での事務部各課の働きを報告する「大学運営の今」（6回掲載：継続中）であった。 今年度の『ニュースレター』発行回数は16回（通算38～53号）。バックナンバーは『FD・SD活動報告書』に収録し、HPにて公開している。
②学会・他大学との連携、情報交換	本学が機関会員資格を有する「関東圏FD連絡会」と「全国私立FD連携フォーラム（JPFF）」の連絡会参加および情報共有に加え、学外FD・SD関連研修会に積極的に参加し、新たな連携先（情報交換ができる関係）を模索する。	「関東圏FD連絡会」や「全国私立FD連携フォーラム（JPFF）」、学外FD・SD関連研修会で得られた有益な情報や知見は、活動項目の②「高等教育関連情報の発信・刊行物の作成」において共有できるよう配慮する。 なお、学会、他大学のみならず、本センター内他3部会との連携も意識し、高等教育関連情報発信の充実に努める。	2	高等教育推進センター職員が、「関東圏FD連絡会」（第30・31回）および「全国私立大学FD連携フォーラム（JPFF）」（会員校ミーティング・懇談会企画）に参加（いずれもオンライン開催）した。「関東圏FD連絡会」については、センター長も自ら出席をしている。得られた情報や知見は高等教育推進委員会で報告し、また『ニュースレター』誌面等にも反映させた。

◆A 総括（ふりかえり／来年度に向けての改善）

新型コロナウィルスが招いた緊急事態により皆が情報を求める中、『ニュースレター』はその存在意義と役割を再確認した。発行に関係した教職員に感謝申し上げる。情報発信については、一方向的なものだけでなく、連載企画「大学運営の今」のように学内教職員の相互理解の促進に役立つものも実現できた。これは『ニュースレター』のあり方を一歩進めたものと考えている。

来年度も引き続きコロナ禍での活動になると予想される。今年度はさまざまな種類の情報が多数必要であったが、来年度は東洋大学の内実と合致した質のものを選択的に追究していきたい。

教育開発・改革部会

部会

第 1 回

日時 2020 年 5 月 20 日(水)～5 月 27 日(水)
場所 メール会議
議題 教育開発・改革部会の 2020 年度計画について

教育開発・改革部会

計画日 2020年5月3日
報告日 2021年3月23日
部会長 中挾 知延子

活動項目	P			D・C
	2020年度計画の概要	検討・活動にあたって留意したい点	優先順位	年間活動報告
①新たな教育形態（ICT、反転授業、その他）の研究	- メディア授業の方法についての知識獲得 - 新型コロナウイルス感染拡大防止などの緊急事態により大学に学生が通学できないときのメディア授業の安定的な供給システム - 全教員へのメディアリテラシー向上のための方策	- 新型コロナによるメディア授業について、各先生方からのケーススタディを共有 - 情報システム課に2020年度のメディア授業を実施した際の問題点を聴取、ACE上での教員からの質問についてなど - 各学部でネット授業委員会(仮称)の常設 - 外部の教育に役立つオンライン会議開催情報：例「4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」(国立情報学研究所) https://www.nii.ac.jp/news/2020/0325.html	1	全教員へのメディアリテラシーは、コロナ禍という特殊な状況下で、今までになかった必要性に迫られて向上した面もあったと考えられる。そのような状況もあり、部会を通じて大きな活動はできなかったが、それを必要としないほどの強力なモチベーションが各教員に起こった。
②アクティブ・ラーニング、主体的学習の促進	- グッドプラクティスの共有 - 学内外におけるメディア授業の取組に関する情報（教材、教案等）を共有する。 - オンデマンド動画のラインナップ充実（反転授業にも適用）	- ACE上で教員がアクティブ・ラーニングの経験・質問・実現方法などの情報共有スレッドの活発化 - ICT教育ソリューションを提供する企業に情報の提供を求めることも検討する。	2	ACEでのオンライン授業での質問の窓口カタリバでは常に活発な質疑応答が自発的に起こり、お互いに知識を獲得した。特にWebexにおけるブレイクアウト・セッションについてはFDSD研修会においても行われ関心の深さを表していた。グーグルドライブやYoutubeでの動画共有も昨年までには見られないアップロード数であった。
③学部横断教育プログラムの開発	共通カリキュラムに向けて、学祖井上円了についてや、哲学教育などをテーマとするプログラムの試作を目指す。	2021カリキュラムでの実用を目標とする。	3	今年度中には、具体的な実行には至らなかった。

◆A 総括（ふりかえり／来年度に向けての改善）

2020年度は未だかつてない特殊な年度であった。コロナ禍でオンライン授業が導入され、それまで必ずしもメディアリテラシーに関心が高いとは言えなかった教員も授業を通してリテラシーを身につけることになった。とりわけ、Webexなどのオンラインミーティングツールは、コロナ禍であったが故に授業への導入が試みられた面もあったであろうと推察する。本部会では今年度特に目立った活動はできなかったことを反省している。しかしながら皮肉にもコロナの副産物として教員のメディアリテラシーの底上げが進んだことは今後のデジタル化に向けた取組に追い風になった。また、ACEでのカタリバは掲示板であったので、「オンラインライブでのオフ会？」など開催して意見交換をする機会を設ける等の取り組みも今後可能だと考えている。

付録

高等教育推進センター刊行物

高等教育推進センターの刊行物は下記 URL からご覧いただけます

東洋大学高等教育推進センターHP>「刊行物」

URL : <https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/publications/>

東洋大学高等教育推進センターニュース

～本学の特色ある FD・SD 活動を取りまとめた定期刊行物～

発行：創刊号～第 3 号（旧『東洋大学 FD ニュース』創刊号～第 19 号）

URL : [https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdnews/](https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/publications/fdnews/)



東洋大学 FD・SD 活動報告書

～学部・研究科、高等教育推進センター／委員会の年間の FD 活動を取りまとめた報告書～

発行：2009(平成 21)年度～

URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/publications/fd-report/>

CONTENTS：

- I. 学部 FD 活動状況報告
- II. 大学院 FD 活動状況報告
- III. 高等教育推進センター活動報告
- IV. 関係資料（規程、刊行物）



TA/SA HANDBOOK

～TA/SA 業務の担当者が教育補助業務を遂行するための手引書～

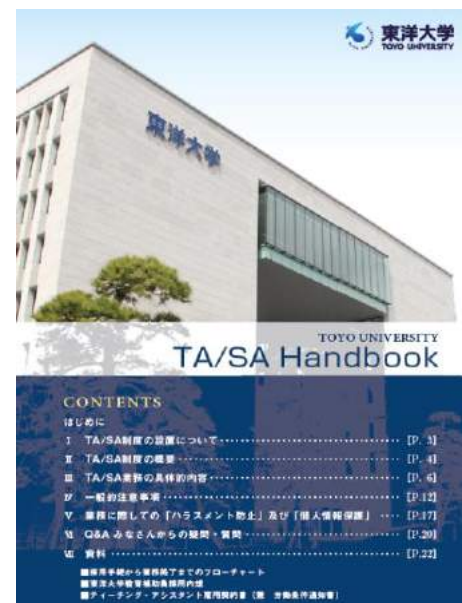
発行：2020 年 4 月 1 日改訂

URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/publications/tahb/>

CONTENTS：

はじめに

- I. TA/SA 制度の設置について
- II. TA/SA 制度の概要
- III. 一般的注意事項
- IV. TA/SA 業務の具体的内容
- V. 業務に際しての「ハラスメント防止」
および「個人情報保護」
- VI. Q & A みなさんからの疑問・質問
- VII. 資料
 - ・採用手続から業務終了までのフローチャート
 - ・東洋大学教育補助員採用内規
 - ・ティーチング・アシスタント雇用契約書(兼労働条件通知書)



FD ハンドブック

～授業運営の基本事項をまとめた手引書～

発行：2011 年 12 月 1 日（第 2 版）

URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/publications/fdhub/>

CONTENTS：

■基本編

- ・ シラバス
- ・ テキスト、プリント、参考書
- ・ 1 単位の意味
- ・ 様々な授業形態
- ・ 板書や資料、IT の活用
- ・ 質問等への対応
- ・ 授業の秩序を保つために
- ・ TA をどう使う？
- ・ 図書館の活用
- ・ 単位僅少者の把握
- ・ 留学生に配慮した授業運営
- ・ 障がいのある学生への配慮
- ・ 授業評価の意義
- ・ 授業評価アンケートの活用方法
- ・ オフィスアワー
- ・ 教員の健康管理
- ・ ハラスメントとその防止

■実践編 ー授業改善事例シンポジウムからー

■資料編

- ・ FD 関連図書一覧
- ・ FD 用語集
- ・ FD リンク集



GPA リーフレット

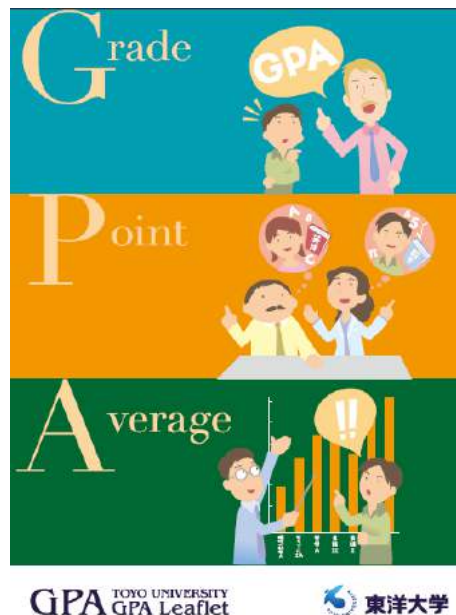
～GPA 制度の導入と活用について～

発行：2013 年

URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/publications/GPA-Leaflet/>

CONTENTS：

- ・ 東洋大学における GPA 制度の導入にあたって
- ・ GPA とは
- ・ 提示方法
- ・ どのように使われる？
- ・ 導入の背景は？
- ・ どんな影響があるのか？
- ・ 教員の成績評価は何が変わる？
- ・ 他大学の取組み



学生 FD チームニュースレター

発行：No.1～No.10

URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/fd-student/49128/>

CONTENTS：

- ・ 先輩による履修相談会
- ・ 学生 FD サミット 2016 夏 in 札幌大学
- ・ 学生 FD チームの紹介
- ・ 先生インタビュー! in 川越
- ・ 第 4 回東洋授業へのコンクール



東洋大学高等教育推進センター規程

東洋大学高等教育推進センター規程

平成 20 年規程第 39 号

平成 20 年 12 月 17 日

公示

平成 20 年 12 月 1 日

施行

改正 平成 30 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 東洋大学（以下「本学」という。）は、東洋大学学則第 3 条の 3 及び東洋大学大学院学則第 1 条の 3 に基づき、「東洋大学高等教育推進センター」（以下「高等教育推進センター」という。）を設置する。

(目的)

第 2 条 高等教育推進センターは、本学の教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援することを目的とする。

(事業)

第 3 条 高等教育推進センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) F D（ファカルティ・ディベロップメント）及び S D（スタッフ・ディベロップメント）の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- (3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- (4) 新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
- (5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
- (6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

(センター長)

第 4 条 高等教育推進センターに、センター長を置く。

2 センター長は、高等教育推進センターの業務を統括し、高等教育推進センターを代表する。

3 センター長は、学長が指名する副学長とし、理事長が任命する。

4 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、副学長の在任期間内とする。

(副センター長)

第 5 条 高等教育推進センターに、副センター長を置くことができる。

2 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき、又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理し、又は代行する。

4 副センター長の任期は、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(センター員)

第6条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、センター員を置くことができる。

2 センター員は、学内外の専門的な知識を有する者とし、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

(高等教育推進委員会)

第7条 高等教育推進センターに、高等教育推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

2 推進委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

(1) センター長、副センター長

(2) 各学部から推薦された専任教員 各1名

(3) 各研究科から推薦された専任教員 各1名

(4) 教務部長

(5) 教務部事務部長

(6) 高等教育推進支援室長

(7) センター員

(8) 学長が推薦する本学専任教職員 若干名

3 前項第2号、第3号及び第8号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任することができる。

第8条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 第3条に掲げる事業に関する重要事項

(2) 学長から諮問された事項

(3) その他高等教育推進センターに関する重要事項

2 推進委員会はセンター長が招集し、その議長となる。

3 推進委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会することができない。

4 推進委員会の議決に当たっては、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、センター長が決する。

5 推進委員会は、必要に応じ、委員以外の者（学外者を含む。）を推進委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(部会)

第9条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、部会を置くことができる。

2 部会の部会長は、推進委員のうちから推進委員会の議を経てセンター長が指名する。

3 部会の構成員は、推進委員のうちから部会長の意見を聴いてセンター長が指名する。

4 センター長が部会長と協議し、必要に応じ、推進委員以外の者を部会に加えることができる。

5 その他部会に必要な事項は、別に定める。

(学生F Dチーム)

第10条 センター長のもとに、学生F Dチームを置くことができる。

2 学生F Dチームは、センター長のもとで、F D活動を行う。

3 学生F Dチームは、本学の学部又は研究科に在籍する学生で、F D活動への参加を希望する者のうちから、センター長が任命する。

(細則)

第11条 この規程の実施について必要な事項は、推進委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事務の所管)

第12条 高等教育推進センターの事務は、高等教育推進支援室の所管とする。

(改正)

第13条 この規程の改正は、学長が推進委員会及び各学部教授会の意見を聴いて行う。

附 則

1 この規程は、平成20年12月1日から施行する。

2 この規程施行の際、改正後の第6条第2項第2号、第3号、第4号及び第6号の委員は、現に「東洋大学F D委員会規程」により選出された委員をもって充てる。ただし、任期は、平成21年3月31日までとする。

3 東洋大学 F D委員会規程（平成19年規程第8号）は、廃止する。

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成27年規程第72号）

この規程は、平成27年4月20日から施行する。

附 則（平成29年規程第126号）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年規程）

この規程は、平成30年4月1日から施行する

No.	通算（号）	配信日
1	38	2020/4/14(火)
2	39	2020/5/26(火)
3	40	2020/6/9(火)
4	41	2020/6/23(火)
5	42	2020/7/7(火)
6	43	2020/7/21(火)
7	44	2020/8/4(火)
8	45	2020/8/25(火)
9	46	2020/9/8(火)
10	47	2020/10/27(火)
11	48	2020/12/1(火)
12	49	2020/12/15(火)
13	50	2021/1/19(火)
14	51	2021/2/2(火)
15	52	2021/3/9(火)
16	53	2021/3/23(火)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.1, 通算第38号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年4月16日 Vol.3, No.1 (通算第38号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

目次

- 【巻頭言】ニュースレター3年目を迎えるにあたって (角谷 昌則)
- 【1】「非対面授業 (メディア授業) の実施ガイドライン」をお送りします
- 【2】高等教育推進センターからのお知らせ
 - ・2019年度優秀教育活動賞の推薦期間を延長します
 - ・ESS (English Support Service) は4月13日以降オンラインで実施します
 - ・改正著作権法が4月28日に施行されます
(2019年度FD・SD研修会「授業運営で留意したい改正著作権法」の動画を公開しています)
 - ・「高等教育推進センターニュース第3号」を刊行しました
 - ・2019年度第3・第4クォータ及び秋学期の授業評価アンケートの集計結果を公開しました
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】LINK
- 【5】あとがき

【巻頭言】ニュースレター3年目を迎えるにあたって 角谷 昌則 (高等教育研究部会 部会長 / 生命科学部生命科学科 教授)

高等教育推進センターでは、高等教育研究部会の企画・運営により、2018年9月より学内メールマガジン『高等教育推進センターニュースレター』を隔週で配信しています。2020年度で3年目を迎え、これまでに、通算で37号を送り出してきました。

文部科学省を中心とする大学をめぐる行政的な動きについて掲載する「高等教育政策動向等」や、学内教職員にFD・SD活動のチャンスについてお届けする「高等教育推進センターからのお知らせ」といったコーナーは、教職員の皆様への情報提供のルートとして定着をしました。

さらに、巻頭を飾る記事については、これまでに「シリーズ：学修／学習時間の実態と教育手法」、「シリーズ：わたしが実践する授業の工夫」、「シリーズ：東洋大学におけるダイバーシティとその対応に向けて」と、3つの連載企画を掲載してきました。

また、「優秀教育活動賞受賞者に訊く」というコーナーを不定期で掲載し、先の「わたしが実践する授業の工夫」終了後も、先生方から授業の「秘伝」を披露していただき学内で共有する機会としています (ご協力いただいた先生方に御礼申し上げます)。

現在のところCOVID-19問題で大学は未知の対応をさまざまに求められています。こうした状況はしばらく続くと思われています。しかし、私たち大学人には、不測の事態をチャンスに換えてきた実績があります。近代科学の父であるニュートンが重要な微積分法を生み出し、またその後の世界を変えた力学法則を発見したのも、実はケンブリッジ大学がベストによって閉鎖されたために自宅で仕事をしていた最中と言われています。

高等教育推進センター高等教育研究部会では、内外の高等教育の動向に常にアンテナを向けながら、今後もこの『ニュースレター』というメディアを通して教職員の皆様に役に立つ情報発信を行っていきたく考えています。今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。

※バックナンバーは [ToyoNet-ACE](#) からご確認いただけますので、ぜひご覧ください。

編集部注：この記事は4月15日(水)以前に書かれたものです

【1】「非対面授業 (メディア授業) の実施ガイドライン」をお送りします

新学期の授業実施にあたり、下記3つのファイルをお送りします。適宜ご参照ください。

- 添付1 非対面授業（メディア授業）の実施ガイドライン
- 添付2 非対面授業（メディア授業）実施の支援
- 添付3 わかりやすいToyoNet-ACE

●その他のガイドラインはこちら

⇒ガールーンファイル管理＞新型コロナ・ウイルス関連

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/cabinet/index?hid=3670>

以下、「非対面授業（メディア授業）の実施ガイドライン」の事例に沿って、
本学が導入しているToyoNet-ACEやCisco Webexの使い方に関するリンク等をまとめました。
適宜ご参照ください。

<「課題配信学習（オンデマンド型授業）」関係>

●事例に入る前に・・・ToyoNet-ACEにログインするには・・・

- 1 <https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/home> にアクセスする
- 2 情報システム利用通知書に記載されているユーザーIDとパスワードを入力する

事例1 ToyoNet-ACEによるレポート収集・評価連絡方式

①ToyoNet-ACEで、レポート課題を配信

●「レポート」機能を使います

⇒「わかりやすいToyoNet-ACE」5～9ページ

3 課題を作成し公開するには <レポート作成>

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_3666139c2493139_3666142

●補足 レポート課題を出題する際に電子ブックを活用する

⇒【図書館閉館中】電子ブック、データベースをご活用ください！

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?aid=16484&nid=48061666>

⇒【図書館】電子ブックの公募について

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=16508>

②ToyoNet-ACEで、提出されたレポート課題の評価（採点結果やコメント）を配布

●「レポート」機能を使います

⇒「わかりやすいToyoNet-ACE」10～16ページ

4 課題を回収するには <レポート管理>

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_3666139c2493139_2416676153

5 課題を採点するには <レポート管理>

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_3666139c2493139_2953573392

6 評価のフィードバックをするには <成績管理>

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_3666139c2493139_3490421044

事例2 ToyoNet-ACEによる小テスト方式

①ToyoNet-ACEで、普段の授業で使っているパワーポイントやレジメ資料を配信。

●「コースコンテンツ」機能を使います

⇒「わかりやすいToyoNet-ACE」2～4ページ

2 授業資料をアップロードするには <コースコンテンツ作成>

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_3666139c2493139_1906678050

●補足 PowerPoint＋音声で動画を作成する方法

⇒ https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_2493293c2493139_805747448

●補足 50MBを超えるファイルを添付する方法

50MBを超えるファイルをToyoNet-ACEに直接添付することはできません。

Google Driveにファイルを保存し、「共有可能なリンクを取得」し、

ToyoNet-ACEにその取得したリンクを貼り付けることでこの問題はクリアできます。

くわしくはこちら

⇒「[スライド]藤原氏「ToyoNet-ACEで外部教材を扱う操作」スライド番号19～25

②ToyoNet-ACEで質問・回答の受け付け

●「掲示板」もしくは「個別指導(コレクション)」機能を使います

⇒「わかりやすいToyoNet-ACE」17～20ページ

7 双方向コミュニケーションを実現するには <掲示板/個別指導の利用>

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_3666139c2493139_269240656

●補足

- ・コースに登録されている学生全員と話題を共有したい ⇒「掲示板」機能
- ・学生と個別に連絡を取りたい ⇒「個別指導(コレクション)」機能

③小テストの実施

●「小テスト」機能を使います

⇒「教員用 基本機能マニュアル」

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/doc_teacher

※目次にある「小テスト」のタブをクリックしてください

●補足 小テストをExcelシートで作成する

小テスト>小テスト/ドリル出題>「問題一括作成(Excel/CSV/ZIP)」から
「問題作成用Excelシートをダウンロード」することができます。

⇒マニュアルはこちら

Excel&csvによる問題一括作成 (教員用)

https://doc.manaba.jp/doc/online-help/query_csvupload_ja/

<「遠隔授業（同時双方向型授業）」関係>

事例3 ToyoNet-ACEによるリアルタイム・レポート課題方式

※すべての学生がパソコンを使える環境にあることが前提となるので注意

①ToyoNet-ACEで、レポート課題を提出し、授業時間内に提出を指示。

事例1の①をご参照ください。

※ToyoNet-ACEにおける操作上の事例1と事例3の違いは、期間設定です。

②授業終了後、ToyoNet-ACEで、提出されたレポート課題の採点結果やコメントを配布

事例1の②をご参照ください。

【参考】 ToyoNet-ACEについて

●ToyoNet-ACE・responの使い方がまとめられたToyoNet-ACEのコース

⇒https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_2493139

●ToyoNet-ACEの基本操作に関する専用のお問合せ窓口が開設されています

⇒<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=16458>

事例4 Webex（ウェブ会議システム）方式

Webex（東洋大学が導入しているウェブ会議システム）でリアルタイムの講義を実施

●ガルーンにて、最新情報をご確認いただけます。

⇒【ビデオ会議】Webexの活用について

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=16246>

⇒Webex利用についての情報 / The information for using Webex.

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=16331>

⇒Cisco Webex 活用について (意見交換) - 改題

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=16307>

⇒[2020/4/10金] Webexオンライントレーニング 実施について

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=16457>

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

2019年度優秀教育活動賞の推薦期間を延長します

2020年2月7日に依頼いたしました本件について、今般の事情を鑑み、推薦期間及び選考期間を1か月延長いたしますので、優秀教育活動賞および、その推薦について広くご周知方よろしく願いいたします。
詳細は [ガルーン掲示板](#) をご確認ください。

ESS (English Support Service) は4月13日以降オンラインで実施します

高等教育推進センターでは、各教員に対して学内で手厚いサポート体制を整えることにより、より質の高い外国語による授業を展開し、さらなる教育の国際化を推進することを目的に、英語ネイティブ講師によるマンツーマンレッスン「English Support Service」を実施しています。

4月13日以降のご予約について、今般の事情のため、すべてのサポートをオンラインで実施いたします。オンライン実施の場合、WEB会議システムでのサポートの他、メールでの対応が可能です。

リンク（ガルーン）：[案内掲示](#) [カレンダー](#)

改正著作権法が4月28日に施行されます

（2019年度FD・SD研修会「授業運営で留意したい改正著作権法」の動画を公開しています）

高等教育推進センターでは、今年2月にFD・SD研修会「授業運営で留意したい改正著作権法」を開催しました。本研修会の法学部安藤教授のご講演の中で触れられた改正著作権法が4月28日に施行されます。改正著作権法施行に伴い、ICTを活用した教育がより一層広がることが期待されています。

昨年度開催されましたFD・SD研修会では、何が著作権侵害となるのか、法学部安藤教授に事例を挙げながらご説明いただきました。
また、ToyoNet-ACEの利用方法について情報システム課藤原課長補佐から具体的に解説いただいています。研修会の動画、資料はToyoNet-ACE上で公開していますので、ぜひご参照ください。

高等教育推進センター> 2019年度FD・SD研修会「授業運営で留意したい改正著作権法」
https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_2736777c1263429_3490414623

〔参考〕改正著作権法施行までの概略
著作権法第35条では、教育機関における教育を目的とした著作物の利用について、必要と認められる限度において、利用（複製等）を認めています。
しかしながら、この条文は基本的に対面で利用するケースを想定しており、インターネットを利用した複製（例えばToyoNet-ACEを利用した課題）などは、デジタルコピーでもあり著作権者の権利を不当に害する可能性もあることから、制限を設けていました。

ただ、現行著作権法では、ICTを活用した教育を推し進める政策と齟齬が発生するため、改正を行い、ICTを活用した教育利用の複製を法律上もはっきり認めた上で、著作権者団体に教育機関が補償金を支払うことで、著作権者の権利も保護することとしました。

この改正著作権法は、補償金の取り扱いなどの問題から施行に時間がかかっていましたが、現在の緊急事態下における授業運営の状況を鑑み、急遽4月28日に施行されることとなりました。詳しい内容は、下記URLをご参照ください。

リンク:文化庁「授業目的公衆送信補償金制度の早期施行について」
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/92169601.html>

「高等教育推進センターニュース第3号」を刊行しました

第3号では、「授業内容・方法のさらなる改善に向けた取り組み」を特集しています。
[ホームページ](#) にて公開しておりますので、ぜひご高覧ください。

2019年度第3・第4クォータ及び秋学期の授業評価アンケートの集計結果を公開しました

授業評価アンケートについて、組織別の集計結果を [ホームページ](#) にて公開しております。ご活用ください。

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

- ・ 新型インフルエンザ等対策特別措置法第32条第1項に基づく「緊急事態宣言」を受けた研究活動に係る考え方について（周知）（2020/4/13）
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について（2020/4/13）
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に関する専門学校における学事日程等の検討状況について（2020/4/13）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

大学等におけるインターンシップの実施状況について（2020/4/1）

https://www.mext.go.jp/b_menu/internship/1387151.htm

設置計画履行状況等調査の結果について（令和元年度）（2020/3/31）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ninka/1413782_00001.htm

本学は、指摘事項は付されませんでした。

大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査結果について（令和元年度）（2020/3/31）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00179.html

知識集約型の価値創造に向けた科学技術イノベーション政策の展開 — Society 5.0の実現で世界をリードする国へ —（最終取りまとめ）公表（2020/3/26）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu22/houkoku/1422095_00001.htm

科学技術・学術政策研究所

「科学技術に関する国民意識調査（新型コロナウイルスを含む感染症に対する意識）」（速報）公表（2020/4/10）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44256>

科学技術の状況に係る総合的意識調査（NISTEP定点調査2019）報告書 公表（2020/4/6）

<https://doi.org/10.15108/nr184>

日本学生支援機構

「令和元年度（2019年度）大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査」結果の概要等 公表（2020/3/30）

<https://www.jasso.go.jp/about/information/press/2020033001.html>

『令和元年度（2019年度）「障害者差別解消法」施行に伴う障害のある学生に関する紛争の防止・解決等事例集』調査結果の概要及び事例 公表（2020/3/30）

<https://www.jasso.go.jp/about/information/press/2020033003.html>

日本私立大学連盟

「私立大学の情報公表－自律性、公共性、信頼性・透明性、継続性の観点から－【中間報告】」公表（2020/4/6）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2764

「加盟大学財務状況の推移（平成11年度～平成30年度）」公表（2020/3/25）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2728

監事会議「私立大学の明日の発展のために－監事監査ガイドライン－〔令和元年度版〕」公表（2020/3/25）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2725

令和元年度 私立大学等経常費補助金交付状況の概要 公表（2020/3/27）

https://www.shigaku.go.jp/s_hojo_r01.htm

日本経済団体連合会

新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた採用選考活動に関するお願い 公表（2020/4/6）

<http://www.keidanren.or.jp/announce/2020/0406.html>

採用と大学教育の未来に関する産学協議会

Society 5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方 公表（2020/3/31）

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/028.html>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

【4】 LINK

- ◆学外FD・SD研修会への参加申込
- ◆English Support Service（ESS）
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

【5】 あとがき

新年度、はじめてのレターをお届けしました。

今後ともご愛読のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

下記の読者アンケートにご協力いただけますと、励みになります。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

す。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfddsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。

このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfddsd/5c953ba6-e9d3-47bb-aef0-ff97d888dfe1%40toyo.jp> にアクセスしてください。

添付ファイル 3 件



添付1_05非対面授業(メディア授業)の実施ガイドライン0408.pdf

1816K



添付2_わかりやすいToyoNet-ACE0406.pdf

2878K



添付3_非対面授業(メディア授業)実施の支援20.04.02.pdf

148K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.2, 通算第39号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年5月26日 Vol.3, No.2 (通算第39号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

目次

- 【1】 Invitation from ESS (Matt Fuller)
- 【2】 高等教育推進センターからのお知らせ
 - ・ 非対面授業に関するアンケートを実施しています
 - ・ 2019年度優秀教育活動賞の推薦期間は5月31日までです
- 【3】 高等教育政策動向等
- 【4】 LINK

Invitation from ESS

I am Matt Fuller from English Support Service (ESS). I am from a city in the southwest of England called Bath, named after its Roman Baths, famous for its medieval heritage, its stately homes and for some years being Jane Austin's residence.



Well, this has been quite a year so far, hasn't it? Since the outbreak, our world and our lives have been subjected to unprecedented changes and much uncertainty, however, I know that even during these times that you are all doing your best to keep busy and more importantly keeping grounded. This pandemic has forced us to take further, decisive actions in many areas of education, because, despite the outbreak, you still have students who want and need to learn, thus, new processes have been introduced so you have had to adjust to working in an online environment - the first time in Toyo's history.

Now, let me introduce you to ESS. It started in May 2017 to support professors, staff and graduate students. It provides a professional, personal, one-to-one service that is tailored to suit and adapt to your needs. This service includes the following:

- Giving student centered classroom advice,
- Classroom management - through activities,
- Syllabus checking,
- Proof reading,
- English speaking practice for classes,
- Document checking,
- Presentation checking with feedback and so forth.

Benjamin Franklin once said, "Never let schooling get in the way of your education", hence ESS is focusing on giving you hints and tips to deliver *student-centered* classes, which in turn will lead to:

- Lifelong learning
- Independent responsible learners and problem solvers for the future
- Giving your students a voice to feel empowered
- Cooperative learning
- A class where all voices are valued and encouraged
- Your students stepping up to find and use their voices

At ESS, we are fully committed and dedicated in providing the best possible service, even under dire circumstances such as at the present time. We can now consult with you via video conferencing (WebEx/Zoom) or via email.

Finally, the joint effects of the virus, both in our private lives and our economy, remain very worrying and unpredictable but your mission, for your

students must continue, thus I hope to hear from you in the very near future. Of course, most importantly is your health and personal wellbeing, so do stay safe and healthy.

高等教育推進センターでは、各教員に対して学内で手厚いサポート体制を整えることにより、より質の高い外国語による授業を展開し、さらなる教育の国際化を推進することを目的に、英語ネイティブ講師によるマンツーマンレッスン「English Support Service」を実施しています。

現在、すべてのサポートをオンラインで実施しています。
WEB会議システムでのサポートの他、メールでの対応が可能です。
予約方法など、詳細は[こちら（ガルーン）](#)をご確認ください。

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

非対面授業に関するアンケートを実施しています

4月末より、高等教育推進センターでは非対面授業に関するアンケートを実施しています。
開講形態や分野、履修人数規模に応じたそれぞれの授業実施に係る工夫について、5月25日時点で70件の回答をいただいております。
ご協力くださいました先生方におかれましては、誠にありがとうございました。
本アンケートは、継続して回答できるようにし、適宜、共有してまいりたいと存じますので、引き続き、新たな工夫すべき点や課題等がありましたら、ご回答くださいますようお願いいたします。

回答フォームはこちら：
<https://forms.gle/DfjCg764U37a769E8>

なお、回答いただいた内容はGoogle スプレッドシートにて共有させていただいております。
開講形態などを適宜ご参照いただきながら、必要に応じて、今後の授業準備等にご活用ください。

回答はこちら：
https://docs.google.com/spreadsheets/d/19Q0OsgUC0TlmK4iPTmySOcwb5Ts-TYa0xIsa5gD8_E/edit?usp=sharing

2019年度優秀教育活動賞の推薦期間は5月31日までです

推薦期間及び選考期間は5月31日までです。優秀教育活動賞および、その推薦について広くご周知方よろしくをお願いいたします。
詳細は [ガルーン掲示板](#) をご確認ください。

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等における教育研究活動の実施に際しての留意事項について（2020年5月15日）
- ・新型コロナウイルス感染症対策に関する大学等の対応状況について（2020年5月12日時点）
- ・（国公立大学等）高等学校等の臨時休業の実施等に配慮した令和3年度大学入学者選抜における総合型選抜及び学校推薦型選抜の実施について（通知）（2020年5月14日）
- ・大学等における遠隔授業等の実施に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について（2020年5月1日）
- ・令和2年度における大学・専門学校等の教職課程等の実施に関するQ&Aの送付について（2020年5月18日時点）
- ・令和2年度における教育実習の実施期間の弾力化について（通知）（2020年5月1日）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』 ～ 学びの継続給付金 ～ webページ公開（2020/5/22）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/mext_00686.html

留学生の就職促進に関する周知及び調査研究（留学生就職促進プログラム）成果報告書 公表（2020/5/21）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/mext_00005.html

独立行政法人日本学生支援機構奨学金事業における保証制度の在り方についての中間報告まとめ 公表（2020/5/8）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/097/1406203_00001.htm

科学技術要覧 令和元年版 公表（2020/4/24）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/006/006b/1413901_00003.htm

「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学人数」等 公表（2020/4/22）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm

科学技術・学術政策研究所

研究データ公開と論文のオープンアクセスに関する実態調査2018 公表（2020/5/18）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44300>

経済産業省

大学発ベンチャー実態調査とチームビルディング事例集 公表（2020/5/15）

<https://www.meti.go.jp/press/2020/05/20200515003/20200515003.html>

国立情報学研究所

4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム

第1回から第8回までの収録動画及び資料が掲出されています。

第9回は5月29日（金）オンライン開催。

<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/>

私立大学連盟

学生への経済的支援に関する国公私立大学共同要望を提出（2020/5/15）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2815

大学基準協会

2021年度大学評価の概要等（資料 公開）（2020/5/14）

https://www.juaa.or.jp/news/detail_673.html

著作物の教育利用に関する関係者フォーラム

「改正著作権法第35条運用指針（令和2（2020）年度版）」 公表（2020/4/16）

<https://forum.sartras.or.jp/info/004/>

掲載情報

BETWEEN2020年3-4月号 Society 5.0時代のキャリアと教育

「Case Study：東洋大学往還型インターンシップ」

<http://between.shinken-ad.co.jp/between/>（2020/03/20203-4.html）

カレッジマネジメント Vol.222 May-Jun. 2020 教育改革を実現するキャンパス戦略

「DX革命 ビル全体をIoT教材-学部教育の実践の場としてキャンパスを設計する／東洋大学」

http://souken.shingakunet.com/college_m/

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyoy.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター） **new**

【4】 LINK

- ◆学外FD・SD研修会への参加申込
- ◆English Support Service (ESS)
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

【5】 あとがき

●みなさまの声をお寄せください
レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。
最短10秒で回答が完了します。
リンク : <https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画
高等教育推進センター
高等教育研究部会

発行元
東洋大学 高等教育推進センター
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mlfdjimu@toyo.jp
HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>
ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

-
- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
 - ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--
このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター (mlfdsd)」に登録しているユーザーに送られています。
このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfdsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。
このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/cadfbfe7-6dd8-44d3-8dc1-a59829487d10%40toyo.jp> にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.3, No.3, 通算第40号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年6月9日 Vol.3, No.3（通算第40号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

目次

- 【1】（新連載）シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて
第1回 新しい「アゴラ」を創る——非対面授業と言葉の力（村田 奈々子）
- 【2】 高等教育政策動向等
- 【3】 LINK
- 【4】 あとがき

【1】（新連載）シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて 第1回 新しい「アゴラ」を創る——非対面授業と言葉の力 村田 奈々子（高等教育推進センター長・文学部史学科 教授）

古代ギリシャの都市国家（ポリス）アテネの中心部にアゴラと呼ばれる広場がありました。現在もアテネ市内にその遺跡が残っています。古代アテネの市民は日常的にアゴラに足をはこんでいました。そこは政治について語りあう人々や、商取引をおこなう人々の交流の場でした。



アテネのアゴラ
（左）遺跡の背後の建物はアッタロスの柱廊（中は博物館）、（右奥）遠景の丘はアクロポリス

アゴラにしばしば姿をあらわしたのが哲学者ソクラテスです。彼は広場を訪れる若者たちに「徳とは何か」「正義とは何か」を問いかけ、対話を重ねることで真実に近づこうとしました。

ソクラテスと対話する人々の輪の中に若き日のプラトンがいました。ソクラテスはやがて若者を惑わす者として死刑を宣告され、みずから毒杯を仰ぐこととなります。師ソクラテスの死の衝撃は、プラトンを新たな学問へ導きました。彼はアゴラを離れ、アテネ郊外の静かな森の中にアカデメイアと呼ばれる学園を創設しました。政治や社会情勢に左右されることなく、自由に自分の意見を表明し仲間と議論する場、永続的に学問的思考を深める場を求めたのです。アカデメイアはローマ皇帝ユスティニアヌスによって閉鎖を命じられるまで、約900年間古代世界の学問の中心でありつづけました。

それから1500年の時が流れた現在も、真実を追求する学問と学びの本質に変わりはありません。学ぶ意欲を持った仲間たちと同じ空間で議論することで、知の蓄積が可能となり、人間として成長することができるのです。

コロナ禍に見舞われた私たちは、そのような学びの場、「新しいアゴラ」「現代のアカデメイア」を、今サイバー空間に実現しようとしています。インターネットを使った非対面授業において、教員と学生の物理的距離は大きいと言わざるをえません。しかし、私たちは語りあう言葉まで奪われたわけではありません。Webexを使った授業であれ、動画配信の授業であれ、課題配信の授業であれ、それらは教員たちが発する問いかけの言葉で溢れています。学生たちも自分自身で考え、自分の言葉で発言し、レポートを書いて応じてくれています。いつもなら教室で居眠りしている学生が、今年は教員の言葉を必死で聞きとろう、理解しようとしているようです。学びに対する積極性が例年にまして強く感じられます。サイバー空間に、ソクラテスの対話の輪に匹敵するような学びの場が、少しずつ形成されつつあるようです。

禍転じて福となす——コロナ禍が過ぎ去ったあとの大学教育が、そのように評価される日が来ることを願ってやみません。

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況（2020年6月1日時点）
 - ・大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて（周知）（2020年6月5日）
- 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた教員免許更新制に係る手続等の留意事項について（通知）（2020年6月5日）
- ・教職課程を履修する学生への「学校・子供応援サポーター人材バンク」の再度の周知等について（2020年5月28日）
 - ・新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた2020年度卒業予定者等の就職・採用活動への配慮について（要請）（2020年6月1日）
- https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

令和元年度ものづくり基盤技術の振興施策（ものづくり白書）公開（2020/5/29）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1417842_00003.htm

「マテリアル革新力強化のための政府戦略に向けて（戦略準備会合取りまとめ）」公表（2020/6/2）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/mext_00015.html

新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の「学びの保障」総合対策パッケージ 公表（2020/6/5）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/1411020_00004.html

科学技術・学術政策研究所

博士人材データベース(JGRAD)の登録情報を用いた博士課程の経済的支援の効果に関する試行的分析 公表（2020/5/29）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44395>

科学技術振興機構報

創発的研究支援事業における2020年度研究提案 募集開始（2020/6/1）

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1433/index.html>
（参考）「創発的研究支援事業」の公募開始に当たっての文部科学大臣からのメッセージ
https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/mext_00216.html

日本学術会議

提言「オープンサイエンスの深化と推進に向けて」公表（2020/5/28）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-1.pdf>

報告「理工学分野におけるジェンダーバランスの現状と課題」公表（2020/6/5）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-h200605.pdf>

日本私立大学連盟

提言・事例集『私立大学理工系分野の研究基盤の強化と向上－科学技術イノベーションの推進に向けて－』公表（2020/5/28）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=2822

採用と大学教育の未来に関する産学協議会

「9月入学移行に関する考え方」公表（2020/5/29）

「現在、就職活動をしている学生の皆さんへ」公表（2020/5/29）

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/049.html>

*「採用と大学教育の未来に関する産学協議会とは、経団連と国公私立大学の代表者が直接議論をするために設置された協議会。

Times Higher Education

THEアジア大学ランキング2020 発表（2020/6/3）

本学は401+にランクイン（昨年と同ランク）

https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2020/regional-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats

（参考）Between情報サイト「THEアジア大学ランキング—1位・2位は中国、日本の最高位は東大の7位」

<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2020/06/AUR.html>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 LINK

- ◆非対面授業に関するアンケート（実施中）
- ◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）
- ◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

【4】 あとがき

注目を浴びているカミュの『ペスト』を読みました。
民衆たちが連帯し、誠実に自らの職務を全うすることで
疫病という不条理に立ち向かう姿に、
自分ができることをコツコツとやり抜くしかないんだ、となんだか励まされました。

ニュースレターでは、今号から新しい連載をスタートします。
高等教育推進センターも、センターとしての責務を果たすべく、
引き続きレターをお届けします。どうぞよろしくお願いいたします。

- みなさまの声をお寄せください
レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。
最短10秒で回答が完了します。
リンク：<https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画
高等教育推進センター
高等教育研究部会

発行元
東洋大学 高等教育推進センター
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mlfdjimu@toyo.jp
HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>
ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

- ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--
このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfddsd）」に登録しているユーザーに送られています。
このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfddsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。
このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfddsd/b5e7f979-20cb-4466-b8c0-2dc3cc12a6a0o%40toyo.jp> にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.4, 通算第41号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年6月23日 Vol.3, No.4 (通算第41号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

目次

- 【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて
第2回 非対面授業（ライブ授業）と聴覚障がい学生への支援（佐藤 亜樹）
- 【2】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）
・緊急ウェビナー・シリーズ「新型コロナ禍と国際教育」第7回（最終回）のお知らせ（国際教育研究コンソーシアム）
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】LINK
- 【5】あとがき

【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて 第2回 非対面授業（ライブ授業）と聴覚障がい学生への支援 佐藤 亜樹（社会学部社会福祉学科 准教授・高等教育研究部会 部会員）

本稿では、聴覚に障がいのある学生が非対面授業（ライブ授業）から十分に恩恵を受け、安心して大学生活を送ることを可能にするために、大学や教員にはどのような対応が求められているのかを、Webex Meetingsのチャット機能や「UDトーク」、LINE等の通信・通話手段を活用した際に筆者が経験した事例を紹介する。

筆者は2019年度から、東洋大学における全学障がい学生支援委員会に、社会学部の代表として参加している。本学のウェルネスセンター内のピアサポートルームでは、障がいのある学生の学習権の保障のために、さまざまなサービスを提供している。また、学期やセメスターの途中でであっても、障がい学生本人からの申請・依頼があれば、同様のサービスを提供している。障がいのあることを表明し、学習権の保障を求める学生は年々増えている。

そのような中、新型コロナウィルスが蔓延し、政府より緊急事態宣言が出された。学生の安全を最優先に考え、本学でも入構制限が敷かれ、春学期のすべての授業が非対面で行われることが決まった。オンライン環境が整っていない学生への学習権の保障だけでなく、障がいのある学生に対する合理的配慮が十分になされるよう、教職員による試行錯誤が続いている。

合理的配慮申請を行った聴覚障害学生の情報保障にあたり、PCによる支援に長けた支援スタッフを探すのは極めて困難であった。ようやく探し出したものの、当初依頼していたWebex Meetingsのチャット機能による支援では、スマートフォン画面での読み取りのため、文字が小さすぎて見えないという問題が発生した。そのため、急場しのぎでLINEを活用することになった。支援スタッフからは、「教員の話す情報量が多く、文字起こしをするのは忙しかったものの、授業内容を網羅することはできたと思う」とのコメントがあった。一方で、当該学生からは「支援スタッフのおかげで授業をより深く理解することができた」との回答を得た。このことから、LINEによる情報保障は概ね上手くいったとみなし、それ以降も継続してLINEを活用した支援を行っている。筆者はその後、授業では、できるかぎりゆっくりと話すように努めている。

別の授業では、「UDトーク*」（音声を文字化するシステム）を活用した聴覚障がい学生への情報保障を試みている。教員と学生が双方のスマートフォンやPCに「UDトーク」のアプリをインストールし、教員が学生を招待することで、双方のスマートフォン上に音声で文字化される仕組みとなっている。支援スタッフは、「UDトーク」の誤変換を修正する役割で、授業に参加している。筆者は授業前に「UDトーク」の動作確認を行い、万全の態勢で授業に臨んだつもりであったが、思ったようには進まなかった。筆者は、「UDトーク」利用開始時に、当該学生及び支援スタッフを招待したが、トーク画面を共有できたのは、最初に招待した人だけだったり、マイクをオンにしているのに、音声を拾わない時がある等のアクシデントが発生し、せっかくの機能を有効に使用できなかった。ただ、幸いなことに、あるクラスメートが機転を効かせ、ライブ授業での筆者の声を自分のスマートフォンの「UDトーク」で拾い、文字化された情報を障がい学生らのスマートフォンに送ってくれていたのである。授業後に、学生たちの経験とアイデアを集め、次回からは、「いますぐトークを公開する」→「招待する（編集を許可にする、同時発言を許可するをオンにする）」→「（学生の）UDトーク用IDを入力する」という手順を踏むことが最善だろうという結論に至った。

今後は、筆者も学生も、「UDトーク」アプリの使い方に慣れていくだろうから、このようなアクシデントは減少するであろうと考える。しかし、「UDトーク」を新規に活用する教員や学生のために、このような試行錯誤の情報を集約し、誰もが活用できる仕組みを作る必要があるの

ではないだろうか。

最後に、高等教育推進委員会には、「UDトーク」等を効果的に授業内で活用するためのFD研修の企画をお願いしたい。「UDトーク」の「UD」とは、「Universal Design」の略称である。このことは、「UDトーク」の活用は、留学生や高齢の聴講生の学習権を保障することにも繋がると考えられる。多様な学生に対して高等教育の門戸を開き、学びを深く豊かなものにするためにも、「UDトーク」をはじめ、教員がさまざまな可能性を秘めた機器やアプリに親しむことは、あらゆる学生への情報保障を確保するには不可欠ではないだろうか。

*UDトークの全学利用のために、本学では2020年6月に法人契約を行った。

【2】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）

緊急ウェビナー・シリーズ「新型コロナ禍と国際教育」第7回（最終回）のお知らせ 国際教育研究コンソーシアム 芦沢 真五（国際学部 国際地域学科 教授）

イベント趣旨

新型コロナ禍により、国境を越えた学生の移動は停止または大幅縮小しており、世界的に教育交流事業は重大局面を迎えています。この環境下で、国際教育研究コンソーシアムでは、緊急ウェビナー・シリーズ「新型コロナ禍と国際教育」（全7回）を運営してまいりました。6月24日には第7回（最終回）の実施となりますので、ご案内申し上げます。

第7回「新型コロナ禍と教育交流の新展開」

2020年6月24日（水）10:30-12:00（英語による実施）

Series VII: "Possible remedies – student mobility in Asia and the Pacific during Covid-19 pandemic"

Wednesday, June 24th 10:30am-12:00 JST

This webinar will focus on remedies and alternative international education models for future students who have experienced hardship due to the pandemic. The presenters will discuss how we can create new education models and introduce innovative programs such as virtual exchange, COIL (Collaborative Online International Learning) and hybrid programs.

<Speakers>

Randall Martin (British Columbia Council for International Education)

Chris Ziguras (RMIT)

Keiko Ikeda (Kansai University)

Language <English.>

<Registration for Series VII> 第7回申込サイト

<https://tinyurl.com/recsie-07>

You will receive a webinar guide promptly after your registration. Please contact us if you do not receive the guide at recsie@recsie.or.jp.

申込完了後、Webinar参加方法が記載されたメールが自動的に送信されます。

万が一メールが届かない場合はrecsie@recsie.or.jpまでお問い合わせください。

なお、本シリーズの内容は9月2、3、4日に行う国際教育夏季研究大会（SIIEJ）においても取り上げます。詳細はこちらのURLをクリック→<http://recsie.or.jp/siiej-2020pre>

第6回までの緊急ウェビナー（第1回から4回までは日本語、5回以降は英語で実施）

第1回目は「コロナ禍における外国人留学生の現状」をテーマに、文部科学省国費留学生協会のAustin Zengさん他、私費留学生3名による問題提起をうけて、コロナ禍で留学生がどういった状況に置かれているかを検証しました。第2回と3回は関西大学IIGE（Institute for Innovative Global Education）と共催で、オンラインによる外国語教授法のワークショップ、COILプログラムのワークショップを行いました。第4回は立命館大学の堀江未来教授、聖心女子大学の永田佳之教授を迎え、国境を越える留学交流が大きな制限を受ける中でどのように新しい目標を提示することができるのかについて議論を行いました。第5回から海外の研究者、実務家をお招きし、英語によるウェビナーを行いました。第5回はUniversity of HawaiiのDeane Neubauer教授、早稲田大学の黒田一雄教授、Lingnan UniversityのKa Ho Mok教授、Padmore Amoah助教を迎え、「Covid-19 and Paradigm Shift of International Education」をテーマに議論を行いました。Ka Ho Mok教授、Padmore Amoah助教からは、コロナ禍における26か国、580人以上の外国人留学生に対するアンケート結果の共有も行われました。第6回はLehigh UniversityのCheryl Matherly副学長、KTH Royal Institute of TechnologyのMirko Varano氏、Mahidol UniversityのNopraenue S. Dhirathiti准教を迎え、「How are international partnerships affected by Covid-19?」をテーマに、各国の実務家としての意見の共有が行われました。それぞれの回の報告及び、録画ビデオは以下のURLからご覧ください。

【第1回】コロナ禍における外国人留学生の現状 <報告>

<http://recsie.or.jp/news/2037>

【第2回】外国語教育を遠隔で配信/教授するための教職員向けワークショップ <報告>

<http://recsie.or.jp/news/2057>

【第3回】国際教育のスピリットを取り込もう！Virtual Exchange(COIL)を超短期間でも取り込む手法ワークショップ <報告>

<http://recsie.or.jp/news/2069>

【第4回】コロナ禍と地球市民教育の課題 <報告>

<http://recsie.or.jp/news/2147>

【第5回】 Series V: Covid-19 and Paradigm Shift of International Education <報告>

<http://recsie.or.jp/news/2167>

【第6回】 Series VI: How are international partnerships affected by Covid-19?

<http://recsie.or.jp/news/2196>

【3】 高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況（2020年6月1日時点）
- ・大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて（周知）（2020年6月5日）
- ・令和3年度大学入学選抜実施要項（依頼）（2020年6月19日）
- ・（国公立大学）令和3年度大学入学選抜において資格・検定試験を活用する場合の配慮について（依頼）（2020年6月11日）
- ・新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた学校法人の登記に関する取扱いについて（2020年6月17日）
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた教員免許更新制に係る手続等の留意事項について（通知）（2020年6月5日）
- ・「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた教員免許更新制に係る手続等の留意事項について（通知）」の一部訂正について（2020年6月10日）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

令和2年版 科学技術白書 刊行（2020/6/16）

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpaa202001/1421221.html

令和元年度大学等卒業者の就職状況調査（4月1日現在） 公表（2020/6/12）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1416816_00001.htm

科学技術・学術政策研究所

第11回科学技術予測調査 各論報告書 公表（2020/6/15）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44457>

SDGsの達成に資すると考えられる将来の科学技術の試行的探索 公表（2020/6/18）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44491>

日本学生支援機構

「平成30年度学生生活調査」結果 公表（2020/6/19）

<https://www.jasso.go.jp/about/information/press/jp2020061901.html>

日本私立大学連盟

新型コロナウイルスに関する政策パッケージのとりまとめ・公表（2020/6/10）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=2837

私立大学情報教育協会

機関誌『大学教育と情報』2020年度No.1 刊行（2020/6/15）

特集は「対面授業からオンライン授業切り替えの取り組み」

<http://www.juce.jp/LINK/journal/index.html>

全国ダイバーシティネットワーク

全国大学・研究機関における男女共同参画・ダイバーシティの推進状況に関するアンケート調査集計結果公表（6月）

<https://www.opened.network/questionary/questionary-0001/>

マイナビ

新型コロナウイルス感染拡大による外国人留学生の就職活動への影響調査 発表（2020/6/11）

特別調査 マイナビ 2021年卒大学生活動実態調査 発表（2020/6/18）

https://www.mynavi.jp/news/2020/06/post_23652.html

International Association of Universities (IAU) 国際大学協会

「Global Survey Report on Impact of Covid-19 in Higher Education」（COVID-19が世界の高等教育へ与える影響に係る調査）結果 公表（2020/5/26）

<https://iau-aiu.net/IAU-releases-Global-Survey-Report-on-Impact-of-Covid-19-in-Higher-Education>

和訳（一部）はIAU団体会員の国立大学協会ホームページからご覧いただけます。

<https://www.janu.jp/news/topics/20200609-wnew-iausurvey2020.html>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 LINK

◆非対面授業に関するアンケート（実施中）

◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）

◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）

◆高等教育関連図書のご案内

貸出申込フォーム

◆本ニュースレターへの投稿

【4】 あとがき

新型コロナウイルス感染拡大防止のための移動制限が解除されましたが、
まだまだ気軽に外出するわけにもいかず、不安が尽きない今日この頃ではないでしょうか？

このような状況になり、数々のイベントが対面での実施が中止になる中、
一気にオンラインでのイベントが増えたように感じています。
オンラインイベントの良いところは、移動等の時間的な制約が下がり気軽に参加できる点かと思います。
私も先週末は、全く異なる切り口のオンラインイベントに2本連続で参加することができました。

一方、通常イベント後に行われることが多い、懇親会などがなくなってしまい、
なかなか参加者同士で学びを振り返ったりするのが難しいとも感じております。

家にいる時間が増えると、どうしてもパソコンやスマートフォン等を使用する時間が増え、
特に目に負担がかかりがちですが、お体に気をつけてお過ごしください。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRu9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
 - ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--
このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfdsd）」に登録しているユーザーに送られています。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfdsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。

このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/9383badf-0c10-41ae-82e5-35e0fe92e3d8o%40toyo.jp> にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.3, No.5, 通算第42号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター

2020年7月7日 Vol.3, No.5（通算第42号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

目次

- 【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて
第3回 授業のあり方について学生に訊いてみると（角谷昌則）
- 【2】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）
 - ・自己点検・評価活動における根拠資料提出に関する説明会を開催しました（大学評価支援室）
 - ・新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会のご案内（7月10日 15:30～16:30）
（高等教育推進センター・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策委員会）
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】LINK

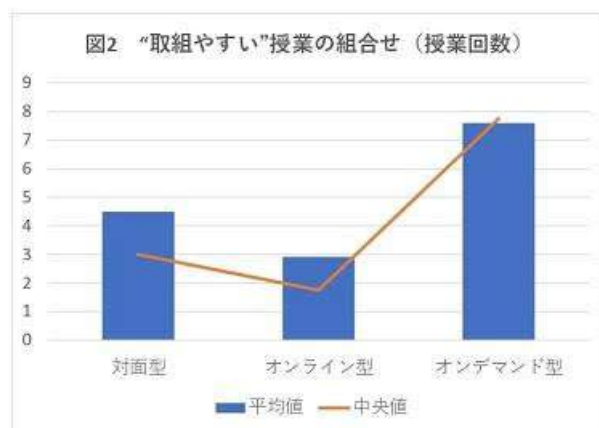
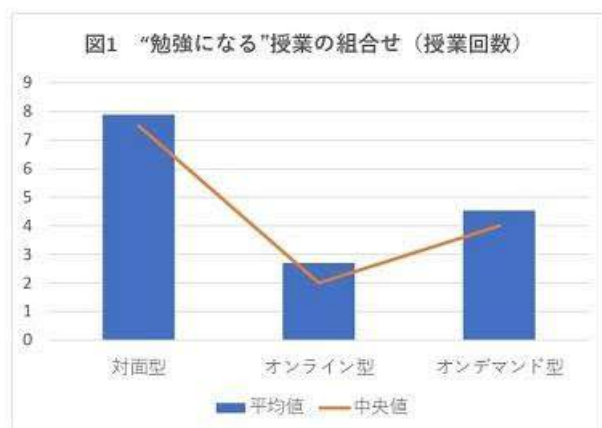
【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて 第3回 授業のあり方について学生に訊いてみると 角谷 昌則（生命科学部生命科学科 教授・高等教育研究部会 部会長）

今学期の授業のあり方については私もいろいろな対応を迫られた。そこで新学期開始前にあれこれ考えた結果、単独で担当する科目（教職課程の科目で全て講義系科目）については、「オンデマンド型」でいくことにした。理由として、まずWebex やZOOMなどを使った「オンライン型」の授業運営について明確なビジョンが描けなかったこと。別言すると、オンライン型授業のフィロソフィーについて、ペダゴジカルな視点からの確信が得られなかったのである。もう一つの理由は個人的なものになるが、大学で働くようになって最初の仕事であったのが“リメディアル教育”（＝今でいう初年次教育や入学前教育）で、そこでe-learning（オンデマンド型）を少し扱ったことである。当時（約15年前）はうまくいかず結局不完全燃焼で終わったので、今回改めてオンデマンド型に向き合い、そのポテンシャルを形にしてみたいと思ったのである。

とはいえ、オンデマンド型の追究に何か指針があったわけでもない。とにかくやってみようということで、早速Youtubeにチャンネルを開設した。Youtubeを選んだ理由は、学生がよく知っていること、動作が安定していること、そしてチャンネルにある“ダッシュボード”の存在である。これは自己の動画のパフォーマンスについて詳細なデータが得られるもので、そのデータの中にオンデマンド型授業開発のヒントが隠されているのではないかと考えた。

ということで、ここしばらくせっせと授業の動画を作ってはYoutubeにアップしている。そして学生にも話を聞いてみたくて、各科目13本の動画以外にオンライン型授業の機会を2回設けてもいる。前置きが長くなったが、今回ここでご紹介するのはその時に取った簡単なアンケートの結果である。質問項目はオンデマンド型授業に関するものが中心であったが、この記事を読まれる方は私のような“オンデマンド傾倒派”だけではない。そこで対面型やオンライン型にも関連した質問の結果について、ここで披露させていただくことにしたい。アンケートに答えてくれたのは、板倉キャンパス開講の教職必修科目「教育の制度と経営①」を履修中の63名（1年生62名、2年生1名、うち留学生2名）である。実施したのは6月26日であった。

まず図1を見ていただきたい。訊いたのは、「全15回の授業を対面型、オンライン型、オンデマンド型の3つに分けるとして、“自分にとって最も勉強になる”組合せ回数」についてである。各自が答えた各型の回数の平均値と中央値をグラフにしてみた。図2は先と同様の質問であるが、“自分にとって最も取組やすい”組合せ回数を尋ねた結果のグラフである。



なんとなく想定通りの結果のようにも思えるが、個人的には対面型の人気ぶりとオンライン型の意外な不人気ぶりが気になった。それと共に、図2においてこの2つの型の平均値と中央値の差も気になるところであった。

そうした事柄についてもう少し見ていったのが図3と図4である。青い棒グラフで示されているのが、その15回のうち10回を超えた回数をその型で実施してもらいたいと答えた学生の人数である。10回を一つの区切りとした理由は、私も含めて「出席が10回に満たない学生は単位認定の対象としない」という基準を設け、学生に伝えている教員が多そうという印象からである。よって10回を超えてその型を望むということは、その型へのそれ相応の支持があるものとみなせるのではないかというわけである。赤い棒グラフは、“15回全てその型でやって欲しい”と回答した、いわば熱的なファン層である。このように支持を表す2色の棒グラフに対し、不支持を表すのが灰色の折れ線グラフである。ここでは、その型は0回（＝しなくて良い）と答えた人数を集計している。

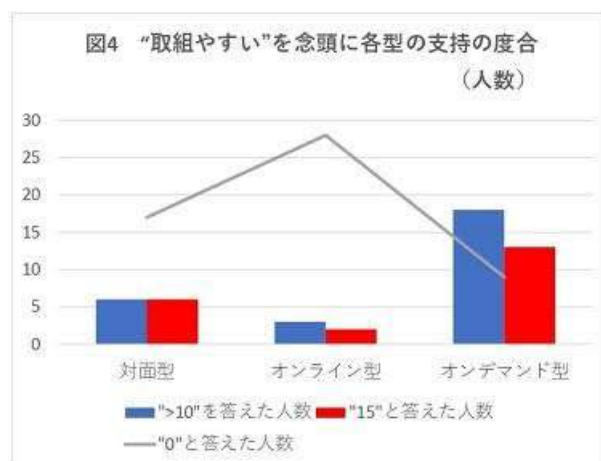
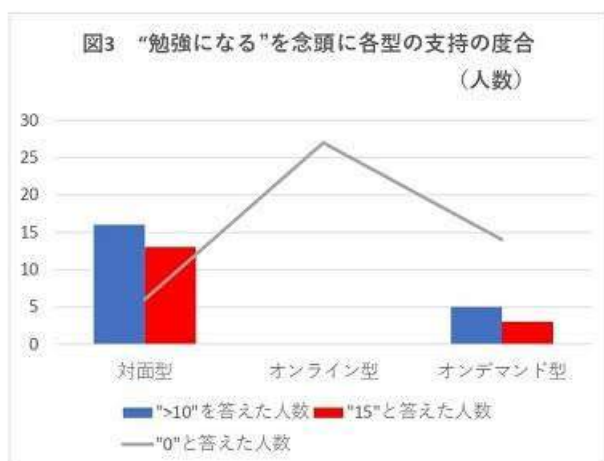


図3において、学習効果という点では依然として対面型に支持が厚いようである。ただ、厚いといっても青いグラフが示すのは全回答者の1/4弱であるので、それほど厚みとはいえないかもしれない。ただ、約1/5は“全15回すべて対面授業”を望む固定ファンとなっているようである。その一方で、オンライン型の壊滅状態はどうしたものか。オンデマンド型はもう少し健闘して欲しかった。一部マニア（？）がいるようであるが、1/5強が「0回」と答えている。

しかし、というかやはりというか、図4において最も支持されるのはオンデマンド型になる。図3での対面型支持と拮抗しているといったところか。個人的には両者にもう少しハッキリとした差があつて然るべきと思っていたのだが。その対面型の支持層であるが、図4において10回を超えた回数を答えた全員が、実は15回と答えていた。人数的には全体の1/10弱であるが、とにかく授業は対面型しかありえない、と考える学生たちがいるらしい。この辺から、図2における平均値と中央値のギャップにも合点がいく。オンライン型にも支持者が現れるものの、依然として「0回」と答えた学生の多さが気になるところである。

ごく簡単なアンケートだったので何かを結論づけたりするには不十分なデータでしかないし、上記の内容もファースト・インプレッション程度である。現状としては対面型・オンライン型・オンデマンド型の3つで授業を回していくしかなく、私たちが工夫を重ねてウデを上げ、また学生たちも経験を積むことで評価も変わってこよう。ちなみに、私自身の動画づくりであるが、ウデを上げるどころかあんなに手間ヒマ掛かるとは思っていなかったもので、今では少し後悔している。いや、Youtuberって大したもんだと見直しました。

【2】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）

自己点検・評価活動における根拠資料提出に関する説明会を開催しました（大学評価支援室）

このたび、2020年7月1日・2日にて、大学評価支援室主催の自己点検・評価活動における根拠資料提出に関する説明会（WebEXによるオンライン説明会）を開催いたしました。自己点検・評価活動に携わる教職員を対象とし、およそ150名の方にご参加いただきました。お忙しいな

か、多くのご参加を頂き誠にありがとうございました。

本説明会は、主に根拠資料の記載方法に係る内容のほか、根拠資料の具体的な提出手順について、関係教職員の皆様のご理解を深めていただくことを目的としたものです。

本説明会の収録動画を配信いたしますので、振り返りやご欠席者へのフォローなどにご活用ください。

2020/7/1（水）実施の動画 <https://youtu.be/7SoXSPDG0mk>

2020/7/2（木）実施の動画 <https://youtu.be/SuCnLSghMEA>

※両日の説明内容は同じものです。どちらを視聴いただいても構いません。

関連資料として、根拠資料の提出マニュアル、根拠資料・URL一覧表、FAQについては、ガルーンのファイル管理に格納しております。適宜、ご参照ください。

ファイル管理ルート：大学評価＞★2020年度自己点検・評価活動＞5_根拠資料

URL：<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/cabinet/index?hid=3810>

今年度はコロナ禍での自己点検・評価活動となり、例年に増して様々なご苦労が生じていることと存じます。今回の根拠資料の提出に際しても、ご負担をおかけしてしまいますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

自己点検・評価活動に係るご質問等は、大学評価支援室までお問い合わせください。

大学評価支援室 新山・石井・佐藤

内線：7500 / メールアドレス：mlhyoka@toyo.jp

＝ ＝ ＝

添付ファイル：説明会資料

新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会のご案内

（高等教育推進センター・新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策委員会）

このたび、高等教育推進センター、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策委員会の共催により、標題のFD・SD研修会を開催することといたしました。

新型コロナウイルス感染症について、正しく理解し、コロナ禍における授業をはじめ、大学運営全般に役立つ情報を提供する機会として開催いたします。

つきましては、皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：2020年7月10日（金）15:30～16:30

講 師：加藤 和則 教授/薬学博士（理工学部生体医工学科）

講演名：「新型コロナウイルスの特徴・現状そして 展望」

参加方法：本研修会は、Webexミーティングによる同時配信による研修会となります。

【Webex ミーティング番号】166 574 9194

※研修会の講演内容等については、収録し、後日配信する予定です。

※当日は前後の会議進行により時間が前後する場合があります。

予めご了承ください。

※講演資料は、当日午前中までにガルーン掲示板に掲載いたします。

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=2&aid=16918>

新型コロナウイルス感染症
FD・SD研修会

正しく、恐れ
ましょう

オンライン同時配信にて開催

7/10 Fri 15:30~16:30

新型コロナウイルス感染症について、正しく理解し、
コロナ禍における授業をはじめ、大学運営全般に役立つ
情報をご提供いたします。

講師 加藤 和則 教授/薬学博士(理工学部生体医工学科)
講演名「新型コロナウイルスの特徴・現状そして展望」

参加方法 申込み不要

- ・Webex による同時配信。録画による後日配信を予定しています。
- ・当日は前後の会議進行により時間が前後する場合があります。
予めご了承ください。

【Webexミーティング番号】
166 574 9194

【講演資料】
当日午前中までにガールーン掲示板に掲載いたします。

主催：高等教育推進センター/新型コロナウイルス対策委員会
問い合わせ：高等教育推進支援室 mlfjdjimu@toyo.jp



[3] 高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

- ・新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等への経済的支援等における留意点について（依頼）（令和2年6月26日）
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた高等教育の修学支援新制度の運用等について（周知）（令和2年6月24日）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

「大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブ（Scheem-D）～ With コロナ/ After コロナ時代の大学教育の創造～」の実施について（2020/6/24）

文部科学省では、学修者本位の大学教育の実現に向けて、「大学教育のデジタルイノベーション・イニシアティブ（Scheem-D）～ With コロナ/ After コロナ時代の大学教育の創造～」が実施されます。

（※）Scheem-D：Student-centered higher education ecosystem through Digitalization

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00242.html

クロスアポイントメント制度の基本的枠組と留意点【追補版】（2020/6/26）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00750.html

令和2年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」公募開始（2020/6/30）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/intelligence/r2-1.htm

産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン【追補版】—産学官連携を通じた価値創造に向けて— 公表（2020/6/30）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00778.html

大学ファクトブック2020—「組織」対「組織」の本格的産学連携の拡大に向けて—（2020/6/30）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/mext_00777.html

文化庁

日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針の閣議決定（2020/6/23）

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92327701.html

科学技術・学術政策研究所

長期のインプット・アウトプットマクロデータを用いた日本の大学の論文生産の分析 [DISCUSSION PAPER No. 180] の補遺 公表
(2020/6/24)

<https://www.nistep.go.jp/archives/44414>

博士課程在籍者・修了者（博士人材データベース登録者）に対する「新型コロナウイルス流行の研究活動への影響等に関する調査」の結果
(速報) 公表 (2020/6/26)

調査によると、「新型コロナウイルスの流行が既に研究活動に影響を及ぼしている」と回答した割合は、博士課程在籍者では85%、博士課程修了者・退学者では79%でした。

<https://www.nistep.go.jp/archives/44741>

大学入試センター

「令和4年度大学入学選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法及び大学入学共通テスト問題作成方針」公表
(2020/6/30)

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r4.html

「令和3年度大学入学共通テスト実施要項」公表 (2020/6/30)

令和3(2021)年度大学入学選抜実施要項には、令和2(2020)年度に実施する大学入学共通テストの入試方法や試験期日などが記載されています。新型コロナウイルス感染症の影響に伴う学業の遅れへの対応として、「第2日程」が設定されました。

https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r3.html

日本学術会議

提言「初等中等教育および生涯教育における地球教育の重要性：変動する地球に生きるための素養として」公表 (2020/6/23)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-3.pdf>

提言「高校国語教育の改善に向けて」公表 (2020/6/30)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t290-7.pdf>

クアックアレリ・シモンズ (Quacquarelli Symonds)

QS World University Rankings 2021発表 (2020/6/10)

日本の大学は41大学がランクインしました。

<https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2021>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES (大学改革支援・学位授与機構)

・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向 (ニュース一覧) (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【4】 LINK

◆非対面授業に関するアンケート (実施中)

◆学外FD・SD研修会情報 (随時更新中)

◆English Support Service (ESS) (オンラインで実施中)

◆高等教育関連図書のご案内

貸出申込フォーム

◆本ニュースレターへの投稿

【5】 あとがき

高等教育推進センターでは、学外で開催されるFD・SD研修会の情報集約・周知をガレオン掲示板を通じておこなっています。
<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=15358>

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインで無料開催される研修会が増えています。
今週金曜日7月10日(金)10時30分からは、国立情報学研究所主催「第12回4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム」が開催されます。
第1回から第11回までの動画・資料も公開されていますので、ぜひ下記URLから詳細をご覧ください。

▼詳細はこちら

<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/#12>

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRu9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

-
- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
 - ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--
このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfdsd）」に登録しているユーザーに送られています。
このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfdsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。
このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/1d97ffe9-484d-48b8-9ac8-a1a91d9e4b2fo%40toyo.jp> にアクセスしてください。

 **03_20200701-02_説明会資料[配信版].pdf**
1187K

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.6, 通算第43号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年7月21日 Vol.3, No.6 (通算第43号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyNet-ACE

- 【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて
第4回 オンラインでの大学院ゼミの現状 (金子 友裕)
- 【2】FD・SDに係るお知らせ (各部署・学内外の研究会より)
・【動画・資料公開のお知らせ】
7/10(金)開催 新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会 (高等教育推進支援室)
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】LINK

【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて 第4回 オンラインでの大学院ゼミの現状 金子 友裕 (経営学研究科 教授・高等教育研究部会 部会員)

テレビ会議の利用

新型コロナウイルスの影響で対面授業の実施が困難となり、遠隔授業（オンラインでの授業）となり、3か月が経過しようとしている。大学院ゼミ等の少人数の授業は、テレビ会議（Webex）による授業を行っている。ここでは、双方向での対話が可能であり、ある程度の理解度を確認できる。事前に課題となる書籍を整理し、一定の検討を加えた資料を作成し、これを基礎として、参加者で質疑応答等を行うことが多い。このような授業に関しては、テレビ会議も便利な道具と感じている。

テレビ会議の強みと弱み

新型コロナウイルスの問題が生じる前から、研究会や学会のスタディグループの開催としてテレビ会議（当時はスカイプを利用）を利用しており、関東の先生は東洋大学に來校頂き、関西や九州等の離れた先生方はテレビ会議を通じて議論を行うことがあった。この方法も議論を行うには有用なツールであると感じており、環境（遠方にいる場合や現在のような外出自粛等）に左右されない強みがあり、現在の授業においても役に立っていると感じている。

特に、きちんとした準備がなされ、論点が明確になっているものに様々な観点から議論する場合には、対面とあまり変わらない有益な議論ができる場合があるように感じられる。一方で、未だ論点が明確になっていない状態の場合（大学院ゼミではこのような時間が長くあるものと考えている）、隣と相談のようなことも難しく、発言自体が消極的になっている印象があり、あまり有益な議論とならない傾向にある。

大学院生にも、自分の問題意識が具体的に何を論点とするものかを検討してもらうように指導しているが、なかなかこれをつかむのが難しいようである。対面ならうまくいくというものではないが、テレビ会議ではより一層難しい指導となっているように思われる。

テレビ会議では映りにくいもの

また、大学院生のモチベーション等は、画面越しでは分かりづらい。この点も、対面なら分かるというものではないが、テレビ会議ではより一層分かりづらいものと思われる。大学院生の相談を、お酒を飲みながら対応することが多くあったが、このような距離のコミュニケーションだから伝わる・伝えられるものもあると考えている。現状ではこのようなコミュニケーションは難しいと思われるので、このようなコミュニケーションができていないことを意識し、もしかしたら画面では分かりづらい悩みを抱えている学生がいるかもしれないと考えて授業を行う必要があるものと思われる。

【2】FD・SDに係るお知らせ (各部署・学内外の研究会より)

【動画・資料公開のお知らせ】

7/10(金)開催 新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会（高等教育推進支援室）

7月10日(金)に、高等教育推進センター、
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策委員会の共催により、
標題の研修会を開催いたしました。

講師に本学理工学部教授の加藤先生をお招きし、
「新型コロナウイルスの特徴・現状そして展望」と題してご講演いただきました。

下記URLにて、本研修会の収録動画及び資料を公開しております。ぜひ、ご活用ください。
→ https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/page_2736777c1263429_3759230214

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

・新型コロナウイルス感染症の発生又はまん延に伴う更新講習修了期間の特例に関する省令の施行について（通知）（令和2年7月13日）
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

令和元年度文部科学白書の公表について（2020/7/10）

目次は、下記の通り。

【巻頭】＜大学入試改革の現状について＞

【第1部】＜特集1 教育の情報化～GIGAスクール構想の実現に向けて～＞

＜特集2 ラグビーワールドカップ2019日本大会の軌跡とレガシー＞

【第2部】文教・科学技術施策の動向と展開

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/07/1418930_00004.htm

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」決定（2020/7/14）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00265.html

科学技術・学術政策研究所

新型コロナウイルス感染症等による日本の科学技術への影響と科学者・技術者の貢献に関するアンケート調査（速報）公表（2020/7/10）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44831>

内閣府

「選択する未来2.0」中間報告 公表（2020/7/1）

今年3月に有識者からなる懇談会「選択する未来2.0」が設置されました。コロナショック後を見据え、日本が選択すべき未来の実現のための方策が議論されており、中間報告では現時点の基本的な考え方が整理されています。

初等中等教育改革については、オンライン教育やデジタル教材を活用した「教育の個別最適化」の推進、高等教育・大学改革については、博士号取得者の活躍やSTEAM人材育成の強化等の必要性が指摘されています。

<https://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/future2/index.html>

日本私立大学連盟

コロナウイルスの影響に伴うオンライン授業の規制緩和、留学生の出入国等の緩和を要望（2020/7/13）

<https://www.shidaiaren.or.jp/topics/>

日本経済団体連合会

「Society 5.0に向けて求められる初等中等教育改革 第一次提言～with コロナ時代の教育に求められる取組み～」公表（2020/7/14）

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/063.html>

マイナビ

『マイナビ2022年卒大学生インターンシップ前の意識調査』発表（2020/7/16）

https://www.mynavi.jp/news/2020/07/post_23908.html

「進学ブランド力調査2020」発表（2020/7/16）

本学は、下記の通りランクイン。

『志願したい大学』ランキング（関東）第7位（昨年7位）

『知っている大学』ランキング（関東）第12位（昨年13位）

<http://souken.shingakunet.com/research/2012/07/post-66a6.html>

株式会社アクセスネクステージ

（外国人留学生対象）「新型コロナウイルス影響下における学習環境および情報収集に関するアンケート調査」公表（2020/7/14）

調査対象：「アクセス日本留学」登録の外国人留学生（大学・専門学校生等・日本語教育機関の外国人留学生）

調査期間：2020年6月2日（火）～6月9日（火）

回答者数：1,571名

https://www.access-t.co.jp/nx/news/individual.html?entry_id=177

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 LINK

◆非対面授業に関するアンケート（実施中）

◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）

◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）

◆高等教育関連図書のご案内

貸出申込フォーム

◆本ニュースレターへの投稿

【5】 あとがき

先日、コロナウイルス感染症のFD・SD研修会を拝聴しました。

正しく理解し、正しく恐れる。全てが解明されていないなか、

まず、知るべきことを丁寧に教えていただいた講師の方に、

心より感謝を申し上げます。

この機会に、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」

を調べてみました。

その前文には、これまで人類が直面してきた感染症の撲滅に対する強い志と、

感染症患者の人権尊重、医療の推進に関して高い次元の理解を求める言葉が記されていることを知りました。

研修会で紹介されました医療従事者となった卒業生の活躍を誇りに思うとともに、

一日も早い穏やかな日常が戻ることを願ってやみません。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfjimu@toyo.jp

- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
 - ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--

このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfdsd）」に登録しているユーザーに送られています。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfdsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。

このディスカッションをウェブ上で閲覧するには [https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/9a92b93c-8b04-4b3f-a353-](https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/9a92b93c-8b04-4b3f-a353-b7859a4e6021o%40toyo.jp)

[b7859a4e6021o%40toyo.jp](https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/9a92b93c-8b04-4b3f-a353-b7859a4e6021o%40toyo.jp) にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.3, No.7, 通算第44号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年8月4日 Vol.3, No.7（通算第44号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

- 【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて
第5回 1年生対象アンケートから（後藤 武秀）
- 【2】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）
 - ・第2回新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会を開催しました（高等教育推進支援室）
 - ・電子ブック等のご案内（高等教育推進支援室）
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】LINK
- 【5】あしがき

【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて 第5回 1年生対象アンケートから 後藤 武秀（法学部法律学科 教授・高等教育研究部会 部会員）

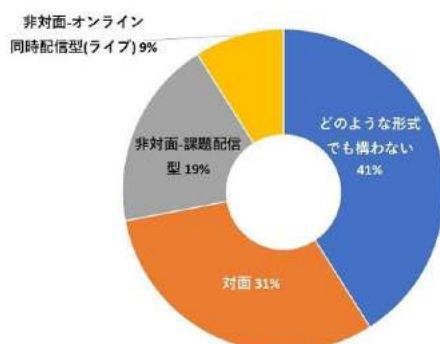
法学部では、1年生の導入科目として法学基礎演習を設置しており、30数名のクラスで同様の授業を行っている。初の試みである全面的非対面授業もようやく春学期を終える頃を迎えるようになり、各クラスで授業形態、学生生活などについて学生アンケートが行われた。

学生生活の欠如

大学に入学したものの、1回も登校することなく、不慣れな授業が始まったためか、新しく友達ができなかったかという質問に対しては、あるクラスの集計結果では63パーセントの学生が否定的な回答であった。また、サークル活動への参加についても、65パーセントが参加したいと思っても参加できないでいると回答していた。非対面授業で、学生としての学びは形作られているが、学生生活という人間性をはぐくむ環境が全く機能していない現状を読み取ることができる。孤立化の中から大学生活を始めた1年生が、孤立化したまま卒業することがないように、どのような機会を提供できるか、学部として検討していかなければならない。

授業形式

秋学期以降の授業形式についても質問している。どのような形式でも構わないというのが41パーセントと多く、次いで対面型の授業が31パーセントであった。非対面式では、オンライン同時配信型(ライブ)の希望が9パーセント、課題配信型が19パーセントであった（図1）。理由までは回答を求めているが、おそらくはオンライン同時配信型を受講すると、時間を拘束されることに躊躇があるのではなかろうか。



秋学期以降も、対面授業が困難な場合が続くのではないかと推測される。オンライン同時配信型を希望する学生が案外少ないのを見ると、課題配信型との両者を提供し、学生がこれをバランスよく選択する機会を与えるのが、学部全体としては現実的な授業運営ではないかと思われる。

【2】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）

第2回新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会を開催しました（高等教育推進支援室）

7月31日(金)に、高等教育推進センター、
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策委員会の共催により、
標題の研修会を開催いたしました。

理工学部生体医工学科教授の小山信也先生を講師にお迎えし、
「数値の正しい理解とコロナ対策」と題して、ご講演いただきました。

ご講演資料・収録動画についてはガルーンにて公開しております。
ぜひご覧ください。

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=2&aid=17015>

電子ブック等のご案内（高等教育推進支援室）

8月4日付で教務部より秋学期のシラバス修正の依頼がございました。
その中で、オンライン授業の教材として電子ブック等の活用についても紹介がありましたので、
こちらにリンクを掲載いたします。

▼東洋大学附属図書館 電子ブック等

<https://www.toyo.ac.jp/ja-JP/library/book/>

※ToyoNet-ACEのコース「図書館からのお知らせ」においても電子ブック等に関する情報が掲載されています。

https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_3506824

▼【参考】大学生協 電子教科書

<https://www.univcoop.or.jp/service/book/univ-etext/index.html>

大学生協電子教科書の特長（上記のWebページより、一部抜粋）

- ・現在3,800超の書籍に関して、出版社と著作権許諾を得ており、出版社との交渉は大学生協が行うとのことです。
- ・マーカーや注釈、アンケート機能を教員と学生が共有することで、学生同士のグループワークや学び合いに活用できます。
- ・出版物となっていない講義資料（Word、PowerPoint、PDFなど）であっても、アプリ上で電子教科書と同じ機能が使用可能。

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

- ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況（令和2年7月1日時点）
- ・大学等における本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について（令和2年7月27日）
- ・飲食店等におけるクラスター発生の防止に向けた取組の徹底について（依頼）（令和2年7月28日）

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

令和元年度「英語教育実施状況調査」結果公表（2020/7/20）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043.htm

「新しい仕事の仕方・働き方改革の検討に関するタスクフォース報告～ピンチをチャンスに。どんな状況でも働き続けられる職場環境への転換～」公表（2020/7/21）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1417045_00002.htm

令和元年度に終了した先導的大学改革推進委託事業調査研究報告書 公開（2020/7/29）

下記の調査報告書が公開されました。

- ・「獣医学教育の改善・充実に向けた調査研究」
国立大学法人山口大学（令和元年9月20日～令和2年3月31日）

- ・「我が国の大学における寄附金獲得に向けた課題に係る調査研究」
公益社団法人 Japan Treasure Summit（令和元年11月1日～令和2年3月31日）
- ・「修士レベルのSTEAM分野及び経営・マネジメントに関する知識・技能の修得を目的とした学際的なプログラムに関する調査研究」
株式会社日本能率協会総合研究所（令和元年11月27日～令和2年3月31日）
- ・「「博士課程教育リーディングプログラム」事業の定着・発展プロセスに関する調査研究」
株式会社富士通総研（令和2年1月16日～令和2年3月31日）
- ・「国際共同学位プログラムに関する調査研究」
公益財団法人未来工学研究所（令和元年11月25日～令和2年3月31日）
- ・「教育と研究の充実に資する大学運営業務の効率化と教職協働の実態調査」
株式会社マインドシェア（令和元年11月25日～令和2年3月31日）
- ・「就職・採用活動に関連して実施されているインターンシップの現状に関する調査研究」
株式会社シー・ディー・アイ（令和元年12月27日～令和2年3月31日）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1418370.htm

令和元年度「学術情報基盤実態調査」結果公表（2020/7/31）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1418398_00001.htm

「官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」派遣留学生に対する今後の支援等について 公表（2020/7/31）

https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/tobitate/1421960_00004.htm

「障害者活躍推進プラン」の新たなプランと取組状況の公表（2020/7/31）

2019年1月に設置された文部科学省障害者活躍推進チームにおける検討を経て、これまでに公表した「障害者活躍推進プラン」の6つの政策プランに加え、新たに「⑦高等教育の学びの推進プラン」が公表されました。

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00281.html

秋季入学に関する検討について（2020/7/31）

文部科学省において、秋季入学について課題が整理されました。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shukinyugaku/index.html

科学技術・学術政策研究所

「科学技術に関する国民意識調査－新型コロナウイルスを含む感染症に対する意識－」公表（2020/7/22）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44919>

「地域科学技術指標2019」公表（2020/7/29）

<https://www.nistep.go.jp/archives/44942>

首相官邸

第46回教育再生実行会議 開催（2020/7/20）

今後、「高等教育ワーキング・グループ」が設置され、高等教育に関しては、

■対面とオンラインのハイブリッド教育の在り方、大学設置基準等の弾力化

■社会との接続の在り方や学事暦・修業年限の多様化

（通年入学・卒業・採用、リカレント教育の推進 等）

■高等教育の新たな国際展開

（オンライン教育の活用、新たな留学生政策、ジョイント・ディグリーの推進 等） など

について検討される予定です。

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaisei/dai46/siryou.html>

内閣府

「経済財政運営と改革の基本方針2020」閣議決定（2020/7/17）

大学改革等に関しては、「3. 「人」・イノベーションへの投資の強化 — 「新たな日常」を支える生産性向上」において、「教育・研究環境のデジタル化・リモート化」「STEAM人材育成、データサイエンス教育、国立大学法人改革等の推進」について示されました。

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2020/decision0717.html>

日本学会会議

■ 提言「より良い近未来創造のためのロボットAIの理解と人材育成」公表（2020/7/21）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t293-1.pdf>

■ 提言「住居領域における専門教育と資格教育のあり方」公表（2020/7/27）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-6.pdf>

■ 提言「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」公表（2020/7/27）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-5.pdf>

■ 記録「第24期 総合工学委員会及び関連分科会の活動」公表（2020/7/30）

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kiroku/3-20200703.pdf>

日本私立学校振興・共済事業団

■ 令和元年度 授業料減免事業の実態調査 公表（2020/7/31）

https://www.shigaku.go.jp/s_jyugyouryougenmenn1.htm

■ 2019年度 大学改革を成功に導く特色ある取組事例集 公表（2020/7/31）

https://www.shigaku.go.jp/s_hojo_tokusyokujirei1.htm

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyoy.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/[新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）](#)（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 LINK

◆非対面授業に関するアンケート（実施中）

◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）

◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）

◆高等教育関連図書のご案内

[貸出申込フォーム](#)

◆本ニュースレターへの投稿

【5】 あとがき

先日、新型コロナウイルス感染症FD・SD研修会「数値の正しい理解とコロナ対策」を拝聴しました。

講演では、二次関数をキーポイントに、感染機会を減らすための数字の捉え方を大変わかりやすく解説いただきました。

一方、コロナ禍の行動の自粛は「アクセルとブレーキのかけ方」にも似ているともメディアで見聞きました。

クルマのブレーキが効いて、停止するまでの距離を制動距離といいますが、これも中学生のときに二次関数で解けると習った記憶があります。

感染者数が増えており、不安がなかなか拭えませんが、適切な数字の把握と管理運営（上手なブレーキのかけ方）により、感染機会を減らすことを知り、前回の研修会に続き、もうひとつ新たな知恵を備えたような気がいたしました。

8月になって梅雨明けしたように、感染症も終息し、晴々とした日常が戻ることを願っています。

皆様もどうか佳い夏季休暇をお過ごしください。

●みなさまの声を寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク : <https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--

このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfdsd）」に登録しているユーザーに送られています。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfdsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。

このディスカッションをウェブ上で閲覧するには [https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/b12411f4-5e1c-4e14-848b-](https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/b12411f4-5e1c-4e14-848b-159185983037o%40toyo.jp)

[159185983037o%40toyo.jp](https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/b12411f4-5e1c-4e14-848b-159185983037o%40toyo.jp) にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.8, 通算第45号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年8月25日 Vol.3, No.8 (通算第45号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

- 【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて
第6回 オンライン授業におけるフィードバック：「ミニッツペーパー」の積極的活用（安 相景）
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】LINK
- 【4】あとがき

【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて 第6回 オンライン授業におけるフィードバック：「ミニッツペーパー」の積極的活用 安 相景（国際学部 教授・高等教育研究部会 部会員）

4月末から全面的にオンライン授業に切り替わり、春学期授業の全てを遠隔授業のみで実施してきた。オンライン授業は、これまであまり経験してこなかった方式であったため、授業が始まって3~4週目までは試行錯誤の連続であった。慣れないオンライン授業に、学生も初めは授業に対してネガティブな感想が多くあったが、授業が進むにつれ、次第にポジティブな反応に移り変わってきた。

春学期はゼミや大学院授業以外に120名を超える大人数授業が二つもあり、状況に応じてリアルタイム授業とオンデマンド授業を適切に併用した。いわゆる「教えっぱなし」のオンライン授業では、学生とのインタラクションの難しさが大きな課題としてあげられるが、本授業でも学習内容に関する理解度をいかに把握するかが課題であった。当初は、リアルタイム授業を行いながらも、掲示板やチャット機能を利用すれば学生の理解度をその都度把握しフィードバックできると思っていたが、学生の質問の内容は、殆どは課題や指示に関して再確認するものや授業運営上の要望に留まった。そのため、リアクションペーパーとも呼ばれる「ミニッツペーパー」を活用し、学生の授業理解度を確認しながら、学生とのインタラクションを図ることとした。

「ミニッツペーパー」は、「ミニッツ」の名の通り、授業の最後5~10分を確保して学生に書かせるコンパクトな質問用紙である。授業の振り返り、授業理解度の確認、または授業改善のための学生からのフィードバックなどを目的としてよく使われている。これまで私が行った対面授業では毎回紙を配布し回収する方法で活用していたが、実際10分以内という時間の制約もあり、記入を怠る学生がいるなど問題点も多くあった。そのため、ToyoNet-ACEを用いて授業時間ではなく授業後十分な時間を与えて回答できる仕組みを設けた。設問項目は以下の通りである。なお、設問1は回答必修、2~4は任意とした。

1. 今日の授業で重要な点あるいは興味を持った事柄は何でしょうか（500字以上）。
2. 今日の授業で心に残るような疑問はありますか。
3. 今日の授業で理解しにくかった点や不明瞭と思った点は何でしょうか。
4. この授業について改善点を含めて要望や意見があれば教えてください。

文字数の指定と十分な回答時間を与えた結果、授業のポイント（設問1）については、確かに内容・量ともに増加し、テーマに対して自分なりの考えを文章にまとめる文章力も上がった。授業内容の疑問点と質問に関するフィードバックの方法は、重要と思われる質問を取り上げ、次の授業の冒頭20分程度を使い解説や回答する形で全体に共有することとした。時には、良い質問と意見を書いた学生を指名して、その内容について発表させた。毎回20分という時間をフィードバックに充てることは、授業全体のスケジュールに影響もある。しかしながら、こうした時間が授業への学習意欲や満足度のアップに繋がっていることを質問の中身や学生の感想から実感できた。また、授業内容の理解度や関心の方向性を把握することができ、授業改善にも役に立った。「ミニッツペーパー」の活用は、使用する目的を明確にし、それに合わせて内容を構成していけば、オンライン授業でより効果的であることを確認できた。

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

・大学における新型コロナウイルス感染症対策の好事例について（令和2年8月11日）
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

マテリアル革新力強化のための政府戦略に向けて（戦略準備会合取りまとめ）（2020/6/2）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/057/1422394_00002.htm

科学技術・学術政策研究所「科学技術指標2020」報告書の公表について（2020/8/7）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1422310_00002.htm

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた教育実習・介護等体験の代替措置等について（2020/8/11）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00288.html

令和3年度大学入学者選抜での新型コロナウイルス感染症対策に伴う各大学等の試験期日及び試験実施上の配慮等の対応状況について（2020/8/11）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/mext_00060.html

日本学術会議

提言「大学入試における英語試験のあり方についての提言」（2020/8/18）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t292-6-abstract.html>

報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 教育学分野」（2020/8/18）

これまで、33分野中32分野が提出されており、最後の教育学分野が取りまとめられました。
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-h200818-abstract.html>

日本私立大学連盟

国際連携委員会「国際教育・交流調査2019」とりまとめについて（2020/8/6）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=2888

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyoko.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト [QA UPDATES](#)（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/[新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）](#)（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 LINK

- ◆非対面授業に関するアンケート（実施中）
- ◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）
- ◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

【4】 あとがき

今年度から常設している読者アンケートにご回答くださいました皆様、貴重な声をお寄せくださりありがとうございます。
ご意見・ご感想・ご要望、応援メッセージなどを些細な内容でも構いませんのでお寄せいただけますととても励みになります。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--

このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfdsd）」に登録しているユーザーに送られています。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfdsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。

このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/c54c08fc-412f-4d9d-a155-8fc1bdb45a22o%40toyo.jp> にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.9, 通算第46号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年9月8日 Vol.3, No.9 (通算第46号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyNet-ACE

- 【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて
第7回 Web lectures の実施 (前川 透)
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】LINK
- 【4】あとがき

【1】シリーズ4 | 非対面授業レポートーコロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて 第7回 Web lectures の実施 前川 透 (学際・融合科学研究科 教授・高等教育研究部会 部会員)

はじめに

「COVID-19 Pandemic」の状況下、2020年4月27日より「Web lectures」が開始された。Hardwareの問題は別として、教員・学生が新しい講義形態に慣れていないこと、講義の準備期間が非常に短かったこと等により、当初、講義の運営に混乱が生じた。本稿では、特に新規性はないが、高等教育研究部会の委員として、私が実施した「Web lectures」について概説する。また、私と学生が参加した「Web Conference」について説明する。最後に、教育研究連携を実施している海外大学の状況を簡単に紹介する。

Live performances

受講学生数が12以下の場合、「Zoom」(個人的に「Zoom」と契約をした)により直積的・双方向的な授業を行なった。

大学院博士後期課程:

Advanced bio-nano science fusion research V (D3)
Advanced bio-nano science fusion research III (D2) (PhD double degree programme)

大学院博士前期課程:

Web education II (M2)
English for science and technology (M1)
Introduction to bio-nano science fusion (M1)

学部:

Bio-medical research I (U4)
Bio-nano science fusion I (U3)

博士後期課程の学生に対しては、個別にSeminarを実施した。様々な機能を活用し、(a) 研究結果の解析・考察・まとめ、(b) 今後の研究計画、(c) 論文の執筆等について議論した。良い意味で学生はくつろいでおり、研究室・実験室での議論に比べ、より活発な議論が行えた。

University of Nantes, France との「PhD double degree programme」に関しては、参加学生・University of Nantesの研究指導者と共同研究の実施計画について協議した。また、今後投稿する連携論文の内容に関する議論に多くの時間を費やした。

博士前期課程・学部の授業では、様々な機能を駆使して双方向の教育が実施できたと思う。私は「Keynote」でSlidesを作成し、「Zoom」の「Share Screen」によりslidesを示し、講義を行なった。学生もslidesを作成し、課題ごとに英語による発表を行った。私は「Keynote」の機能・操作様式にかなり満足しているが、学生はMac usersであっても「Microsoft PowerPoint」を好むようである。また、「Zoom」の「Whiteboard」、「Superimposing function」(「Zoom」特有の機能ではない)は非常に有用であった。特に、「数式」や「Illustrations」は即座にtype・描画できないので、「Pen tablet」による「手書き」は重要である。なお、「Microsoft Word」、「Microsoft Excel」の「Drawing function」も有用である。「Pen tablet」による手書きの数式や絵を加工・保存できるので便利である。今考えると、「Microsoft Word」、「Keynote」の「Dictating function」をもっと活用すべきだった。様々な言語(例えば、British EnglishとAmerican English)が選択でき、英語による講義には有用である。

Recorded lectures

受講学生数が 12 を超える場合、「Zoom」により予め講義を録画し (MP4)、ToyoNet-ACE に upload した。

学部：

Introduction to nonlinear science (U3)

Project V (U3) (Omnibus lectures, 2 回担当)

Biophysics (U2)

Introduction to the bio-nano science fusion course (Minor Course) (U2) (Omnibus lectures, 4 回担当)

Introduction to nano science (U1) (Omnibus lectures, 1 回担当)

「Biophysics」、「Introduction to nonlinear science」は、学部学生にとって初めて学習する学問 (量子力学、連続体非線形力学) であるので、「基礎数学」・「基礎哲学」に重点を置き、最終的に「Modern science」、「Advanced science」の考え方を理解してもらえたと思う (少なくとも、毎週与える「課題」に対する回答および「最終試験」の結果は例年より良かった)。「Keynote」で slides を作成し、「Share Screen」により slides を示し、講義を行なった。毎週金曜日の 17:00 までに課題に関する「Report」および「質問」を提出してもらい、それをもとに次の講義を構成し、収録した。「Recorded lectures」においても、「Whiteboard」、「Superimposing function」、「Drawing function」は非常に有効であった。

一般に、日本人学生は授業中に積極的に質問・議論を行わないが、「Recorded lectures」においては、非常に具体的で、的確な質問が多く、少々驚いた。講義を繰り返し視聴できること、人前で質問をする必要がないこと等の理由により、学生は積極的に質問を行ったものと考えている。

姫路高校：

Introduction to bio-nano science and international activities (1 年生)

姫路高校1年生に対して「Seminars: Himeji Project」を実施した。「Nano science」に関する「Recorded seminars」(4 回)を高校の先生方に配信し (Google Drive)、それをもとに Seminars を構成・実施していただいた。今回は準備期間が非常に短かったが、高校と大学の教員が連携することにより、さらに進化した「On-line 高大連携教育」を実施することができるのではないかと。

講義の制作・配信

「Recorded lectures」については、時間割に示された講義時間中に学生が access できるようにした (ToyoNet-ACE, Google Drive)。また、講義への access は講義終了後 24 時間可能とした (Google Drive)。ただし、「講義」の不要な拡散を防ぐため、download ができないように設定し (Google Drive)、重要な項目・内容については PDF files にまとめ、学生が download できるようにした (ToyoNet-ACE)。

講義を制作・配信する際に、私が発表した論文を講義資料として使用する場合が多々あった。一般に、自身の発表論文の内容の紹介・説明、論文に掲載した図表の使用については、教育目的である限り、論文誌の許可を得る必要はないが、他研究者の論文・図・表・写真・Videos・Websites の使用については、十分な注意が必要である [1-6]。

なお、講義の制作にあたり、以下の Hardware / Softwareを使用した。

Computer / OS:

MacBookPro 14,2

MacOS Catalina, version 10.15.5

(参考: "MathType" は "Catalina 10.15.5" に対応していないので、注意が必要である [7])

Slides 作成:

Keynote, version 10.1

(参考: "Keynote" で作成した files は "Microsoft PowerPoint" に変換可能である。ただし、逆は不可。「Dictating function」も有効に活用できると思う)

数式作成:

Microsoft PowerPoint, version 16.39

(上述のように、"Catalina" 上で "MathType" が使用できないため、"Microsoft PowerPoint" で数式を作成し、"Keynote" に貼り付けた)

(参考: "Microsoft Word" で作成した数式は、"Keynote" への貼り付けはできない)

Documents 作成:

Microsoft Word for Mac, version 16.39

(上述のように、"Drawing function" は有用であった。「Dictating function」も活用できる)

Microsoft Excel for Mac, version 16.39

Acrobat Pro DC, version 2020.009.20074

配信・録画 (MP4):

Zoom, version 5.0.3

Pen tablet:

Intuos BT M, Wacom

Microphone:

ECM-PCV80U, SONY

Web conference への参加・発表

国際学会「NanoteC20: Carbon Nanoscience and Nanotechnology (Web Conference)」が2020年8月25日に開催された[8]。Sir Harry Kroto (1996 Nobel Prize Laureate) が設立した国際学会で、今年度は Web Conference として、University of Surrey, UK が主催した。「Zoom」を使用し、66 人の研究者・学生が参加した。私が指導する学生 (博士後期課程 2 年, University of Nantes, France との「PhD double degree programme」に参加) も口頭発表を行なった。本学会が特に新しい機能・手法を使用したわけではないが、Web lectures の実施に役立ちそうな事項について説明する。

- (a) 発表者は、「Share Screen」により Slides (全員「Microsoft PowerPoint」を使用) を upload し、発表を行なった。さすがに、原稿を読む発表者はいなかった。文章を極力減らし、animations, movies を多用し、非常に印象的な slides を用いた発表が多かった。
- (b) 質問者は、発表中に「Chat」により質問事項を送信し、発表後、座長が質問を読み上げ、発表者が答えた。「Chat」の宛先は座長と発表者あるいは参加者全員である。疑問が生じたときに質問を送付できるので便利である。質問者の「Waffling」もなくなる。
- (c) 「Chat」に「I've got a question」と type した質問者には、座長が質問者を指名し、口頭による質疑応答がなされた。「Chat」の宛先は座長と発表者あるいは参加者全員である。
- (d) 発表者が答えられない場合に、共著者が「Chat」で参加者全員に回答する場合も多々あった。
- (e) Poster session では、「Microsoft PowerPoint」の音声付き Slides を 3 ~ 5 枚使用した発表が多かった。また、slides と説明を録画した Video (MP4, AVI 等) を upload した発表も多かった。「Poster session」というよりは、「Shotgun session」であろうか。

すでに多くの Web conferences が企画・開催されているが、海外出張する必要がないため、今後、多くの学生の発表が期待される。学生は、海外の先端研究者および学生と議論をすることができるため、Web conferences への参加・発表が学生の国際化に大きく寄与すると考えられる。

海外連携大学における Web lectures

UK, France での「Lockdown」中の Web lectures の状況について、連携している教育研究者に聞いてみた。Department of Physics, Queen Mary University of London, UK と Institut des Matériaux Jean Rouxel, Université de Nantes, France で実施された Web lectures について概説する。EU, UK の大学は 6 月より夏休みに入っており、全ての教育研究者から回答を受け取っていないが、特筆することがあれば、次回以降にお知らせする。

Department of Physics, Queen Mary University of London, UK

少なくとも、2021 年 1 月までは Web lectures を実施する。UK の他の大学では、2021 年 6 月まで Web lectures を実施するところもあるそうである。

教員により使用媒体は異なるが、大学は「Blackboard Collaborate」と契約しており、多くの教員がそれを使用して Web lectures を実施した[9]。それぞれの大学で契約媒体が異なり、独自の配信を行っているそうである。

講義形態としては、「Live performances」、「Recorded lectures」を実施したが、いずれの場合も、「Blackboard Collaborate」は非常に有用であった。

「実験系」の科目は、「Technical staff members」により収録・配信された。

Queen Mary University of London の「COVID-19」への対応については、「Coronavirus advice and updates」を参照していただきたい[10]。

Institut des Matériaux Jean Rouxel, Université de Nantes, France

「Lockdown」の間、教員は Web lectures を実施した。媒体として「Zoom」、「Webex」、「Lifesize」、「Discord」を使用した[11,12]。Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS) は「Lifesize」を推奨したが、それに従った教員は多くはなく、教員毎に講義媒体を選択・決定した。近々、大学として「Blackboard Collaborate」を導入するそうである。

講義の 30% は「Recorded lectures」であった。教員は、60 分の講義のために、6 ~ 8 時間の準備を行なったそうである。学生には、質の高い「Homework」を課した。

実験系の科目は休講となったが、9 月に「実験 Videos」を配信するそうである。

University of Nantes の学生への注意事項 (Q & A) については、「Covid-19: Teaching, Learning and Research Frequently Asked Questions (FAQs) for students」を参照していただきたい[13]。

まとめ

「COVID-19 Pandemic」により、世界的に大学教育の手法が大きく変化したと思う。私自身、講義の構成・講義の制作・講義の配信等において多くのことを学んだ。次回からはより良い内容の講義の制作・配信ができると思う。一般に、学部教育においては受講学生数が多いため、「Recorded lectures」の配信が主流になるのではないだろうか。前述のように、学生は「Recorded lectures」を繰り返し視聴できることから、講義内容の理解度が高まったと思う。事実、「Report」と「質問」の質が高かった。受講学生数が少ない場合、特に大学院においては、「直接的・双方向の Web lectures」が有効であるという感触を持った。「COVID-19」の急速な収束・収拾が望めそうにないこと、将来、「Novel Viruses Pandemic」の頻度が高くなると考えられること等から、様々な形態の「Web lectures」を組み合わせた「Novel styles of lectures」を構築・発展させる必要性を感じる。海外大学との「Web 連携」により、「Double degree programmes」、「Dual degree programmes」の実施が容易になり、教育研究の国際化が推進される可能性がある。余談になるが、Web lectures の実施により、学会等による出張時にも「休講」する必要がなくなるので、教員の国際的な活動がさらに活性化するのではないか。ただし、「Web conferences」、「Webinars」が主流となる可能

性が高く、出張する必要もなくなる。「Web conferences」、「Webinars」への積極的な参加・発表により、学生の国際化が促進されるであろう。

References

1. Elsevier
<https://www.elsevier.com/about/policies/copyright>
2. Institute of Physics
<https://publishingsupport.iopscience.iop.org/current-policy-author-rights-policy-for-subscription-articles-for-which-the-copyright-form-was-submitted-on-or-after-26-april-2016/>
3. Royal Society of Chemistry
<https://www.rsc.org/journals-books-databases/journal-authors-reviewers/licences-copyright-permissions/#reuse-permission-requests>
4. American Chemical Society
https://pubs.acs.org/page/copyright/learning_module/module.html
5. American Institute of Physics
<https://publishing.aip.org/resources/researchers/rights-and-permissions/permissions/>
6. American Physical Society
<https://journals.aps.org/copyrightFAQ.html#wiki>
7. MathType compatibility with macOS Catalina
<https://lp.wiris.com/catalina/>
8. Nanotec20: Carbon Nanoscience and Nanotechnology
<https://britishcarbon.org/2019/12/16/nanotec20/>
9. Blackboard Collaborate
<https://www.blackboard.com/teaching-learning/collaboration-web-conferencing/blackboard-collaborate>
10. Coronavirus advice and updates
Queen Mary University of London, UK
<https://www.qmul.ac.uk/coronavirus/>
11. Lifesize
<https://www.lifesize.com/en>
12. Discord
<https://discord.com/new>
13. Covid-19: Teaching, Learning and Research Frequently Asked Questions (FAQs) for students
University of Nantes, France
<https://english.univ-nantes.fr/covid-19-teaching-learning-and-research-frequently-asked-questions-faqs-for-students-2640191.kjsp?RH=1587625460809>

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について（随時更新）

- ・ 学生支援緊急給付金給付事業（「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』）に係る追加配分額等について（依頼）（令和2年8月27日）
- ・ 運動部活動に参加する学生等の集団における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について（通知）（令和2年9月3日）
- ・ 令和2年度における大学・専門学校等の教職課程等の実施に関するQAの送付について（8月28日時点）
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html

「ともに創り、ともに未来へ：新しい発想で先導する科学技術行政と共創の形」 令和2年度 科学技術改革タスクフォース戦略室 報告 — 「科学技術ワクワク挑戦チーム」からの提案— 公表（2020/8/25）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/1417045_00004.html

地域科学技術イノベーション・エコシステムの構築に向けた方策について（中間まとめ）公表（2020/8/27）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu16/010/houkoku/1414442_00001.htm

学校基本調査－令和2年度（速報）結果の概要－ 公表（2020/8/27）

高等教育に関しては、学生全体に占める女子の割合（45.5%）及び教員全体に占める女性の割合（25.9%）が過去最高を更新。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00003.htm

「諸外国の教育統計」令和2（2020）年版公表（2020/8/28）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1415074_00006.htm

科学技術・学術政策研究所

「研究大学における教員の雇用状況に関する調査」速報版公表（2020/8/28）

対象：学術研究懇談会（RU11）を構成する11大学及び国立大学法人運営費交付金の重点支援③にあたる16大学の何れかに該当する18大学において教育研究活動に従事する常勤の教員
<https://www.nistep.go.jp/archives/45311>

首相官邸

第47回 教育再生実行会議 開催 (2020/8/25)

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaiei/dai47/siryou.html>

日本学術会議

提言「物理学における学問分野に基づく教育研究 (DBER) の推進」公表 (2020/8/28)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t295-3-abstract.html>

報告「学術とSDGsのネクストステップ – 社会とともに考えるために –」公表 (2020/9/4)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-h200904-abstract.html>

日本学術振興会

科研費の最近の動向及び令和3(2021)年度公募等の説明資料・FAQ掲載 (2020/9/4)

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/38_jigyousei/sumeikai/2020_siryou.html

Times Higher Education (THE)

World University Rankings 2021発表 (2020/9/2)

本学は、昨年同様1001+にランクイン。

https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2021/world-ranking#!/page/0/length/25/sort_by/rank/sort_order/asc/cols/stats

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES (大学改革支援・学位授与機構)

・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向 (ニュース一覧) (広島大学 教授学習支援リエゾンセンター)

【3】 LINK

◆非対面授業に関するアンケート (実施中)

◆学外FD・SD研修会情報 (随時更新中)

◆English Support Service (ESS) (オンラインで実施中)

◆高等教育関連図書のご案内

貸出申込フォーム

◆本ニュースレターへの投稿

【4】 あとがき

現在、ToyoNet-ACEにて、先生方を対象に、

「効果的な授業運営を行うためのICT活用に関するアンケート」

のご協力をお願いさせていただいております。

ご回答くださいました先生方におかれましては、

ご理解とご協力をくださりまして誠にありがとうございます。

回答期間は9月23日(水)までです。

未回答の先生方におかれましては、声をお寄せいただけますと幸いです。

詳細・回答先: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429_survey_4413237

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。
最短10秒で回答が完了します。

リンク : <https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画
高等教育推進センター
高等教育研究部会

発行元
東洋大学 高等教育推進センター
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mlfdjimu@toyo.jp
HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>
ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
 - ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--
このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfdsd）」に登録しているユーザーに送られています。
このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfdsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。
このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfdsd/e09e309e-84ec-4166-b6f0-50287e07e8c1o%40toyo.jp> にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター（Vol.3, No.10, 通算第47号）

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年10月27日 Vol.3, No.10（通算第47号）

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE

- 【1】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）
 - ・2020年度秋学期授業開始前の全学FD・SD研修「秋学期の非対面授業における留意点について」を実施しています（10/30まで）（高等教育推進支援室）
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】LINK
- 【4】あとがき

【1】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）

2020年度秋学期授業開始前の全学FD・SD研修「秋学期の非対面授業における留意点について」を実施しています（10/30まで）（高等教育推進支援室）

新型コロナウイルス感染症対策委員会と高等教育推進センターの共催により、秋学期授業開始前の全学FD・SD研修「秋学期の非対面授業における留意点」を実施しております。

研修はオンデマンド型の動画視聴としており、特に今回は、非対面（メディア）授業における学生の個人情報・プライバシー・肖像権を適切に守るために重要な点を解説しています。

先生方が安心して授業準備等にかかることができるよう、法的なアドバイスを含めて編成しております。秋学期の授業実施に際して、必ずご視聴くださいますよう、お願い申し上げます。

また事務職員の皆様におかれましても、今後の事務運営上、役立つ情報となっておりますので、部署を問わず、必ずご視聴くださいますようお願いいたします。

すでに7割以上の教職員の皆さまに受講いただいております。
10月31日までに下記URLから受講くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

▼こちらから受講ください
https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429_news_4433643

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

教育再生実行会議 初等中等教育ワーキング・グループ第1回会議を開催（2020/9/8）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2020/20200908.html
https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2020/20200914.html

令和3年度大学入学選抜におけるオンラインによる選抜実施について（依頼）（2020/9/9）

https://www.mext.go.jp/content/20200910-mxt_daigakuc02-000005144_4.pdf

高等教育の修学支援新制度の対象機関（確認大学等）の公表（2020/9/11）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/1421393_00001.htm

大学等における後期授業の実施方針等の調査について（2020/9/15）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2020/20200915_01.html

（参考）大学等における後期授業の実施方針の調査について（地域別状況）（2020/10/2）

https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf

大学等における本年度後期等の授業の実施と新型コロナウイルス感染症の感染防止対策について（周知）（2020/9/15）

https://www.mext.go.jp/content/20200916-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想 ロードマップの策定 -ロードマップ2020-（2020/9/24）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1388523_00001.htm

第1回文部科学省デジタル化推進本部開催（2020/9/25）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2020/20200925.html

令和3年度予算 概算要求（2020/9/30）

https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420672_00002.htm

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生への支援状況等に関する調査（2020/10/16）

https://www.mext.go.jp/content/20201016-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

科学技術・学術政策研究所

研究専従換算係数を考慮した日本の大学の研究開発費及び研究者数の詳細分析（2020/9/16）

<https://www.nistep.go.jp/archives/45606>

「ポストドクター等の雇用・進路に関する調査（2018 年度実績）」速報版（2020/9/25）

<https://www.nistep.go.jp/archives/45706>

新型コロナウイルス流行の研究活動への影響等に関する調査-博士人材データベース（JGRAD）におけるウェブアンケート調査-（2020/9/30）

<https://www.nistep.go.jp/archives/45780>

科学技術イノベーション政策関連シンクタンクの専門家ワークショップによる研究開発領域抽出（2020/10/6）

<https://www.nistep.go.jp/archives/45832>

首相官邸

令和2年度 第1回数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度検討会議（2020/9/9）

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ai_senryaku/suuri_datascience_ai/r2_dai1/gijisidai.html

総務省

産学官連携による地域活性化に関する実態調査＜結果に基づく通知＞（2020/9/11）

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/hyouka_020911000141426.html

日本学術会議

報告「学術とSDGsのネクストステップ -社会とともに考えるために-」（2020/9/4）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-h200904-abstract.html>

提言「被服学分野の資格教育の現状と展望」（2020/9/7）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t291-8-abstract.html>

■ 報告「科学的知見の創出に資する可視化-文理融合研究と新パラダイム策定-」（2020/9/8）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-h200908-2-abstract.html>

■ 提言「感染症対策と社会変革に向けたICT基盤強化とデジタル変革の推進」（2020/9/15）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t298-3-abstract.html>

■ 報告「情報教育課程の設計指針—初等教育から高等教育まで」（2020/9/25）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-h200925-abstract.html>

■ 提言「学術情報流通の大変革時代に向けた学術情報環境の再構築と国際競争力強化」（2020/9/28）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t297-6-abstract.html>

■ 提言「わが国の経営学大学院における教育研究の国際通用性のある質保証に向けて」（2020/9/29）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t298-4-abstract.html>

■ 提言「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言-エビデンスに基づく教育に向けて-」（2020/9/30）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-t299-1-abstract.html>

■ 令和2年10月1日より第25期がスタート（2020/10/1）

日本学術会議第25期連携会員名簿(2020年10月1日)

http://www.scj.go.jp/ja/scj/member/pdf/25renkei_meibo.pdf

「第25期新規会員任命に関する要望書」（2020年10月3日）

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kanji/pdf25/siryo301-youbou.pdf>

大学入試センター

■ 報道発表令和3年度大学入学共通テストの出願状況（出願期間終了後）（2020/10/15）

<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00040066.pdf&n=%E5%87%BA%E9%A1%98%E7%8A%B6%E6%B3%81%28%E5%87%BA%E9%A1%98%E6%9C%9F%E9%96%93%E7%B5%82%E4%BA%86%E5%BE%8C%29R3+.pdf>

日本私立大学連盟

■ 私立大学の「対面授業再開」と「授業料等」に関する見解公表（2020/9/17）

https://www.shidairen.or.jp/topics_details/id=2937

日本私立学校振興・共済事業団

■ 令和2（2020）年度私立大学・短期大学等入学志願動向（2020/10/2）

https://www.shigaku.go.jp/s_center_d_shigandoukou.htm

私立大学情報教育協会

■ 『大学教育と情報』2020年度No.2（通巻171号）刊行（2020/9/28）

<http://www.juce.jp/LINK/journal/2101/mokuji.html>

授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

■ 授業目的公衆送信補償金の額を認可申請しました（2020/10/1）

<https://sartras.or.jp/archives/20201001/>

2021年度入社対象 新卒採用活動に関するアンケート結果－コロナ禍における採用活動の状況と今後の見込み－（2020/9/15）

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2020/080.pdf>

EdTech推進に向けた新内閣への緊急提言～With/Postコロナ時代を切り拓く学びへ～（2020/9/18）

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/082.html>

「科学技術・イノベーション基本計画」策定に向けて（2020/10/13）

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2020/099.html>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 LINK

- ◆（学生・教員向け）オンライン授業情報まとめサイト TOYO Online Class Portal
- ◆（学生向け）秋学期の学生生活情報まとめサイト TOYO Campus Info
- ◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）
- ◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

【4】 あとがき

配信をご無沙汰している間に、すっかり日が短くなってしまいました。

この約1か月間、オンデマンド型研修の実施、TOYO Online Class Portalの立ち上げなど、新しいことばかりの、とても充実した日々を送っていました。

現在、本誌の次の企画をあたためています。

発表までもう少し、どうぞ楽しみにお待ちください。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRu9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

--

このメールは Google グループのグループ「東洋大学高等教育推進センターニュースレター（mlfddsd）」に登録しているユーザーに送られています。

このグループから退会し、グループからのメールの配信を停止するには mlfddsd+unsubscribe@toyo.jp にメールを送信してください。

このディスカッションをウェブ上で閲覧するには <https://groups.google.com/a/toyo.jp/d/msgid/mlfddsd/39394ad5-12f8-4b31-9bda-a9eb7a0174ffo%40toyo.jp> にアクセスしてください。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.11, 通算第48号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年12月1日 Vol.3, No.11 (通算第48号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE
※本日に限り、mlfddsd@toyo.jpに代わって、mlfdjimu@toyo.jpからお送りしております。

- 【1】シリーズ5 | 大学運営の今 (新連載)
第1回 ピンチをチャンスに、そして気付いたこと (椿 雅人)
- 【2】FD・SDに係るお知らせ (各部署・学内外の研究会より)
・質保証フォーラムの開催について (大学評価支援室)
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】LINK
- 【5】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今 (新連載)

今号から複数回にわたり、「大学運営の今」をテーマに、コロナ禍における危機対応の最前線で働く職員の声をお届けします。

第1回 ピンチをチャンスに、そして気付いたこと 椿 雅人 (社会連携推進室 卒業生・南水会連携推進課)

いま、できること

新型コロナウイルス感染拡大は、大学が一致団結して乗り越えなければならない大きな波となっています。事態が刻一刻と変化し、遅れをとっては「いまさら」となってしまうこともあります。そのため、わたしたちは、中長期的な改革や目標のもと遂行する日々の業務と並行して、「いま、できること」をスピード感をもって考案・実行しなければなりません。また、このウイルスはいまだ謎に包まれ、対策面に関しては様々な意見があり、判断が難しいことが多々あると思います。しかし、先々のことを見通して「これを機に変える」と捉えることで、ピンチをチャンスに切り替えることができると考えています。

相手の立場になって考える

相手の立場になって物事を考え、迷ったら直接聞いてみると答えが浮かび上がってくる。このことを、これまで諸先輩から学びました。この教えを胸に、わたしは今春、15年在籍した教務部から社会連携推進室 卒業生・南水会連携推進課に異動しました。当課では、毎年卒業生向け冊子「Alumni」を発行しています。異動早々、新たな部署での初仕事は、予定していた「Alumni」オリンピック・パラリンピック特集号を開催延期に伴い短期間で見直すことでした。

オリパラに代わって何を特集するか。あるとき、親交のあった新社会人卒業生から、「大学の卒業式も無く、入社式もオンラインでまだ会社には1度しか行けず、全然実感がわきません。区切りが本当に必要ですね。」という切実な話を聞きました。実は、わたし自身も、前部署で学生にとって人生の思い出となる「卒業式」を挙行することができなかったことを痛恨の極みとして引きずっていました。

そこで、7千人の卒業生の力の源になってもらいたい、そして先輩卒業生に彼らを応援していただけたらという想いで、コロナ禍でがんばる新社会人卒業生の今を取り上げる企画を構想しました。完成した紙面には、逆風の中で始まった社会人生活を奮闘する卒業生の姿と未来に向けた彼らの決意が綴られています (<https://www.toyo.ac.jp/site/alumni/2020/>)。ぜひ皆さまにも読んでいただけたら嬉しいです。また、あわせて、ホームカミングデーで「オンライン卒業式」や「オンラインゼミ交流会」を企画し、多くの教職員のみなさまのご協力により開催することができました。ありがとうございました。



そして、コロナ禍でこれまでのような学生生活を送ることができない在学生にもエールを送りたい。そんな一心で、著名な卒業生による学生への「応援動画リレー」も企画しました。この企画は、卒業生アスリートや俳優と行ったオンライン食事会の場で、「私に協力できることがあれば教えてください」という心温まる言葉から生まれました。名立たるスポーツ界・芸能界で活躍する方々が、「私が今の状況の新入生なら」「私が今好きなスポーツが出来ないなら」「私が今進路を決めるときなら」と、学生の今の状況に寄り添い、勇気・元気・希望を与えてくれる存在として、ボランティアで心の籠ったメッセージを届けてくださいました。



さらに、キャンパス入構規制直後、当課には多くのご父母から大学に対するご意見が寄せられていました。学生対応部署が一丸となり構築した「Web父母懇談会」では、大学の情報を一元的に発信することで、8千人以上の閲覧の中、質問は26件。ご父母のみなさまに大学側の想いが伝わったのではないかと思います結果でした。

そして、リーダーを務めさせていただいた学生への「特別修学支援金」給付業務では、特別編成チーム総勢100名の職員の「いち早く学生に給付したい」思いが団結し、学生が申請しやすいシステムの構築から迅速な申請処理方法の確立に至るまで、サブリーダーとともに全員で協力し、1か月で3万人の学生へ給付することができました。

after コロナに向けて

コロナ禍での対応を通じて、教職員が話し合いを重ね、教育・研究機関として学生に対して愛情をもって迅速に行動することで、学生や卒業生、ご父母に対して大学の思いが伝わることを改めて実感しました。

ご想像の通り、感染拡大防止のため、その対応方法のほとんどがオンラインによるものでした。世界では、AI等、急速に情報化が進んでいます。積極的に新しい情報の伝達・管理手段を導入し、その効果を検証することは、今後も続くコロナ対策や、この先新たに発生するかもしれない何かに対応する際に、大学の底力として発揮するのではないのでしょうか。また、時代の変化とともに難局が訪れ、学生との向き合い方もその変化に合わせて柔軟に対応するため、大学全体を一元化したシステムの構築が急務と考えています。

今後も、人の想いに寄り添い、学生だけでなくご父母や卒業生が安心して大学に対して愛情を注いでくださる環境づくりに取り組んでいきます。

【2】FD・SDに係るお知らせ（各部署・学内外の研究会より）

質保証フォーラムの開催について（大学評価支援室）

本学における自己点検・評価活動及び大学運営全般に係る質保証に関する理解を深め合う機会として、「質保証フォーラム」を開催いたします。

認証評価の受審も控え、全学的なSDの取り組みとして開催いたしますので、ぜひ多くの教職員の皆さまにご参加いただきたく、何卒よろしくお願いいたします。

1. 日時 2020年12月11日（金） 14：00-17：00
2. 会場 125記念ホール
※着席時の間隔を空ける、手指のアルコール消毒を徹底するなど、
新型コロナウイルス感染症対策に十分に留意して、開催いたします。
3. 参加対象 本学教職員の皆様

学部長・研究科長、学科長・専攻長、大学評価統括本部全学委員会部会に
属する委員会の委員長、全学自己点検・評価活動推進委員会の委員、
事務局の各部長、課長の皆様はぜひご参加をお願いいたします。

4. 開催方法 「2. 会場」のほか、Web会議システムでの参加も可能とします。
5. 内容 添付ポスターをご確認ください。
6. 出席について

以下の参加申込URLから、登録をお願いいたします。

<https://forms.gle/gGSCiB8PW1Jt7yALA>

7. 本件に関する問い合わせ

大学評価支援室 新山・佐藤・石井

内線：7035 メール：mlhyoka@toyo.jp

詳しくはこちら：

<https://garoon-t.garoon.toyo.ac.jp/v2/cgi-bin/toyo/grn.cgi/bulletin/view?cid=21&aid=17571>（ガルーン）



また「質保証フォーラム」の開催に先立ちまして、

『東洋大学の教育の質保証パンフレット』を、先日、皆様にお配りいたしました。
本フォーラムにおいても、本学の質保証に係る取り組み等について講演がありますが、
ぜひこのパンフレットもご高覧ください。

「留意事項」

新型コロナウイルス感染症対策のため、当日の会場参加人数について、
制限させていただく予定です。

事前の参加申込のない方が当日会場にいらっしゃった場合は、
webによるご参加をお願いすることとなります。

予めご理解のほど、よろしくお願いいたします。

【3】 高等教育政策動向等

文部科学省

新卒者等の採用維持・促進について、萩生田大臣が坂本一億総活躍担当大臣、田村厚生労働大臣、長坂経済産業副大臣とともに、経済4団体
に対して要請（2020/10/27）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2020/20201027.html

大学教育のデジタルイニシアティブ（Scheem-D）公式ウェブサイトオープン（2020/11/12）

<https://scheemd.mext.go.jp/>

令和2年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（10月1日現在）公表（2020/11/17）

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/11/1422624_00003.htm

科学技術・学術政策研究所

知識結合に基づく新規性評価に関する研究 公表（2020/11/6）

<https://www.nistep.go.jp/archives/45979>

コロナ禍を経た科学技術の未来（速報版）公表（2020/11/24）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46169>

サイエンスマップ2018 公表（2020/11/25）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46077>

『博士人材追跡調査』第3次報告書 公表（2020/11/27）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46053>

文化庁

「日本語教育の参照枠」一次報告 公表（2020/11/20）

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92664101.html

大学改革支援・学位授与機構

「学位に付記する専攻分野の名称」の調査結果として、学位の表記データ 掲載（2020/11/17）

<https://www.niad.ac.jp/publication/gakui/meishou.html>

首相官邸

教育再生実行会議 高等教育ワーキング・グループ（2020/11/18）

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kyouikusaiei/jikkoukaigi_wg/kaigi2.html

日本学生支援機構

平成30年度学生生活調査報告 公表（2020/10/30）

https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/2018.html

全国大学生生活協同組合連合会

「2020年度保護者に聞く新入生調査」概要報告 公表（2020/11/5）

<https://www.univcoop.or.jp/press/fresh/report.html>

Quacquarelli Symonds

QS Asia University Rankings 2021 発表（2020/11/25）

650大学中、日本は105大学がランクイン。

本学は401-450（昨年と同ランク）にランクインしました。

<https://www.topuniversities.com/university-rankings-articles/asian-university-rankings/top-universities-asia-2021>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 LINK

◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）

◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）

◆高等教育関連図書のご案内

貸出申込フォーム

◆本ニュースレターへの投稿

【5】 あとがき

2018年9月ニュースレター創刊以来初めての

職員によるリレー連載企画「大学運営の今」をスタートしました。

職員がどんな気持ちで一つひとつの業務に向き合っているのか、

その姿勢や思いを知る機会となれば幸いです。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク : <https://forms.gle/rqXRu9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.12, 通算第49号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2020年12月15日 Vol.3, No.12 (通算第49号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE
※レターをお読みになった後、ぜひ [読者アンケート](#) にご協力ください。
※前回に引き続き、mlfddsd@toyo.jpに代わって、mlfdjimu@toyo.jpからお送りしております。

- 【1】シリーズ5 | 大学運営の今
第2回 コロナを経験して思う、わたしたちが目指すべき学生支援 (笠原 隆)
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】LINK
- 【4】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今 第2回 コロナを経験して思う、わたしたちが目指すべき学生支援 笠原 隆 (学生部学生支援課)

コロナ禍で見えなくなったもの、見えてきたもの

コロナ禍で見えなくなったものは学生の顔ではないでしょうか。授業と同様に、学生部の奨学金業務でも対面での対応ができなくなりました。説明会や窓口での質問、出願受付では、学生の様子を伺いながら理解度や気持ちを推し量り、言葉を補っての対応が不可欠ですが、それができないもどかしさ。他部署の窓口でも、先生方も同じ思いをされていることと思います。

逆にコロナ禍で見えてきたのは、教職員の人間性や志かもしれません。奨学金業務は、ホームページやメール、ToyoNet-ACE等の電子媒体と、郵送での対応に変更し、新たな奨学金の制度設立や国の実施する支援への対応にも追われ、すべてが新規業務・追加案件の様相となりました。当課単独で解決できる問題は少なく、一方で十分な時間をかけて他課と意見交換や調整することままならない危機的な状況の中で、残念ながら、学生を置き去りにした保身のためのセクショナリズムにあちこちで遭遇しました。そして、そういった側面が自分の中にも確固として存在していることも思い知りました。しかし、そんな中でも、自らの労を顧みず前向きな策を示し、率先して行動し、協力を申し出てくれる存在もあり、今後、頼りにすべきは誰か、誰を支え共に進んでいくべきか知った思いです。自分自身、醜い腹の底をさらさぬよう、日々必死で隠蔽に、いや、業務に励んでおります。

わかりやすい奨学金制度を

コロナ禍に対応する奨学金として、寄付を原資とする本学のコロナ対策特別奨学金「RIBBON」の実施にあたっておりますが、学生の置かれた状況や困窮度は千差万別です。学生の「困っている」を測るためのできるだけ明確でわかりやすい尺度が必要であり、そこが奨学金の肝と言えるのかもしれません。支援を受けられるにしろ、受けられないにしろ、学生自身の納得感に関わってきます。奨学金「RIBBON」では、春学期には世帯の減収を、秋学期には非自発的な失職を尺度として支援をすることにしました。みなさんの寄付が学生への大きな支援になっています。

2020年4月、国の修学支援新制度の開始も、学生にとっては大きな支援であり、これに伴って本学の奨学金制度も支援バランスを整える必要が生じています。大きな制度変更となりますが、ここでも学生が納得できるわかりやすさを念頭に制度見直しを進めています。

アフターコロナ、目指すべき学生支援

アフターコロナにおいて、本学が目指すべき学生支援でも、学生や父母の納得感がポイントになると考えています。

現在の本学の支援は、例えるならショッピングモールの専門店街のような状況です。キャンパス内に担当部署が並んでいるだけで連携は希薄と言わざるを得ません。学生や父母が求めているのは、「東洋大学」として一体の連携した支援です。例えば、家庭の事情で学費の工面に苦慮する学生が、財務課に電話して学費の納入期限の延長について確認し、教務課の窓口で休学の費用や要件を確認し、就職・キャリア支援課のアドバイスを受け、卒論の進捗を先生に相談した上で学生支援課へ奨学金の相談に来たとします。学生のこの行動を踏まえて対応できるかできないか、同じ提案しかできないとしても、かける言葉の選択も変わってくるでしょうし、対応を受けた学生の納得感には雲泥の差が生じます。学生への支援状況を部署間や教職員間で横断的に共有できる言わば「学生カルテ」のような仕組みがほしいものです。

アフターコロナがいつになるのか今は想像もつきませんが、その日が近づいていることを信じて。来年はきっといい年だ！

【2】高等教育政策動向等

日本私立大学協会附置私学高等教育研究所

私学高等教育研究叢書『コロナ禍の私立大学』刊行（2020年11月）

日本私立大学協会附置私学高等教育研究所が7月22日～8月19日にわたり実施した「新型コロナウイルス感染症に伴う大学経営管理上の対応に関する調査」の結果が掲載されています。

[リンク](#)

内閣府

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合開催（2020/12/10）

競争的研究費に係る事務負担軽減について協議されました。

[リンク](#)

大学入試センター

令和3年度大学入学共通テストの志願者数等について（2020/12/08）

[リンク](#)

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】LINK

◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）

◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）

◆高等教育関連図書のご案内

[貸出申込フォーム](#)

◆本ニュースレターへの投稿

【4】あとがき

「学生カルテ」と聞いて、大学病院の電子カルテを思い出しました。

たとえば主治医が変わっても、同時に複数の診療科を受診しても、

だれとお話ししても会話がスムーズで、

色んなところに振り回されないような気がしませんか？

医療現場は役割とその専門性が明確であり、

また、日頃からコミュニケーションも密に取っていらっしゃると思うのですが、

「チーム医療」を実現するために、患者への連携したサポート体制の裏には、

電子カルテも一役買っているように感じています。

◆みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRu9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
 - ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.13, 通算第50号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年1月19日 Vol.3, No.13 (通算第50号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE
※レターをお読みになった後、ぜひ [読者アンケート](#) にご協力ください。
※引き続き、mlfdsd@toyo.jpに代わって、mlfdjimu@toyo.jpからお送りしております。

- 【1】シリーズ5 | 大学運営の今
第3回 コロナ禍の貴重な経験を通じて (青山 敦史)
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】LINK
- 【4】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今 第3回 コロナ禍の貴重な経験を通じて 青山 敦史 (情報システム部)

振り返り

今年度は、これまでないスピード感と柔軟かつ臨機応変な対応が求められました。毎年恒例2020年の漢字は「密」でした。ね。「ああ、やはり」という感想ですが、我々にとっては、11月に発表された新語大賞に選ばれた言葉の方が合ってるなあと感じた年でした。それは、「びえん」です。この意味わかりますか？「小声で泣きまねをするときの言葉」「困ったり、思い通りにならなかったりして、ちょっと悲しい気分を表す言葉」だそうです。なんとなく伝わりますよね。皆さんも「びえん」と思わずつぶやきたくなった年だったのではないのでしょうか。そんな中、あらためて学生、保護者、社会から大学の活動（本質）が問われた年になったと言えるでしょう。

収穫

対面授業一辺倒だったものが一気に非対面（オンライン）に変わったことで、情報システム課には、学生、保護者、教員、職員からメール、問合せフォーム、電話などを通じて様々な問合せが集中、殺到しました。中には情報システム課では答えられない授業運営に関するものもありましたが、多くは各自がICT活用スキルを身に付けることで解決できるであろう事だったと言えます。双方が対応に苦労を重ねましたが、非対面（オンライン）の良い点が認識でき、そこに教育の高度化の可能性を見いだせたこと。さらに、対面の重要性（本質）を再認識させられたことは大学のあり方を考える上で収穫だったでしょう。ピンチをチャンスに変えましょう。新たな畑（学修・教育環境）をしっかりと耕し（整え）、収穫した種をまき、育て、立派な果実を実らせて、学生に食べてもらい、東洋大学で大きく育ててもらえるようにしたいものです。

耕す畑（東洋大学版デジタルトランスフォーメーション（DX））

平成から令和変わった今、IT転換期だと言えます。昭和はOA化（オフィスオートメーション）が進展、平成は、ワールドワイドウェブ（インターネット）とパソコンが広く普及し、デジタル化＝デジタルイゼーション（Digitization）が進んだ時代でした。終盤にはクラウドコンピューティングが現れ、そしてIoT、ビッグデータ、AIといった新しい技術が身近になるのが令和の時代で、デジタルイゼーション（Digitization）からデジタルライゼーション（Digitalization）の波が押し寄せています。その波に乗るためにはデジタルトランスフォーメーション（DX）に取り組む（新たな畑を耕す）ことが求められます。これは単なるデジタル化による効率化ではありません。DXでは、皆がICT活用スキルを高めることは大切ですが、その本質は、我々がICT活用スキルをもって“何を果たすか、学生に何をもたらすか”にあります。ICTだけでは何ももたらしません。ICTを活用し、真に学生に向き合う大学に変わることができた時、東洋大学版デジタルトランスフォーメーションが果たせたと言えるでしょう。「学生ひとりひとりの成長を約束するために」これがDXの合言葉（本質）ではないでしょうか。

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

新型コロナウイルス感染症関連

大学等における新型コロナウイルス感染症対策の徹底と学生の学修機会の確保について(周知) (2020/12/23)

大学等における後期等の授業の実施状況に関する調査 (2020/12/23)

コロナ禍の中で学生の理解・納得を得るための大学の工夫例 (2020/12/23)

大学等における新型コロナウイルス感染症対策の徹底と学生の学修機会の確保について(周知) (2021/01/05)

新型コロナウイルス感染症のまん延防止のための取組について(周知)(大学等向け) (2021/01/08)

新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言を踏まえた大学等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について(周知) (2021/01/08)

新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象区域の拡大を踏まえた大学等における新型コロナウイルス感染症への対応に関する留意事項について(周知) (2021/01/14)

令和2年度文部科学省第3次補正予算(案) (2020/12/16)

https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420672.htm

令和3年度文部科学省予算(案) (2020/12/22)

https://www.mext.go.jp/a_menu/yosan/r01/1420672_00002.htm

私立大学等の令和元年度入学者に係る学生納付金等調査結果 公表 (2020/12/25)

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/1412031_00002.htm

令和2年度学校基本調査 結果の概要公表 (2020/12/25)

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00003.htm

令和2年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査(12月1日現在) 結果公表 (2021/01/15)

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/11/1422624_00004.htm

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」公募 (2021/01/15)

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sankangaku/1413155_00006.htm

文化庁

授業目的公衆送信補償金の額の認可について (2020/12/18)

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/92728101.html>

日本学生支援機構

「大学等における学生支援の取組状況に関する調査(令和元年度(2019年度))」結果公表 (2020/12/16)

<https://www.jasso.go.jp/about/information/press/jp20121601.html>

新型コロナウイルス感染症予防対策に係る大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生への取組事例 公表 (2021/01/08)

https://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/chosa_kenkyu/chosa/2020.html

日本学術会議

梶田会長が、井上内閣府特命担当大臣(科学技術政策)に「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて(中間報告)」を手交 (2020/12/16)

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kanji/pdf25/siryo305-tyukanhoukoku.pdf>

著作物の教育利用に関する関係者フォーラム

「改正著作権法第35条運用指針(令和3(2021)年度版)」を公表 (2020/12/24)

<https://forum.sartras.or.jp/info/005/>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyoy.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES (大学改革支援・学位授与機構)

・海外学術動向ポータルサイト (日本学術振興会)

【3】 LINK

- ◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）
- ◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

【4】 あとがき

新年最初のニュースレターをご覧いただき、ありがとうございました。
本年もニュースレターをご愛読のほどよろしくお願いいたします。

今年は丑年ですね。

「牛も千里、馬も千里」ということわざがありますが、
これは巧拙遅速の違いはあっても、たどり着く場所は同じという意味だそうです。
緊急事態宣言が発令され、しばらく難しい局面が続きますが、
丑年にふさわしく、**"学生ひとりひとりの成長を約束するために"** 着実に歩みを進めていきたいと思います。
本年も高等教育推進センター、そしてニュースレターをどうぞよろしくお願いいたします。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。
最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター
高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
E-mail: mlfdjimu@toyo.jp
HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>
ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
 - ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
 - ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。
- © 2018-2020 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.14, 通算第51号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年2月2日 Vol.3, No.14 (通算第51号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE
※レターをお読みになった後、ぜひ [読者アンケート](#) にご協力ください。
※mlfdsd@toyo.jpに代わって、mlfdjimu@toyo.jpからお送りしております。

- 【1】シリーズ5 | 大学運営の今
第4回 見えない敵 (COVID-19) と戦い続けた1年間 (笠原 昌江)
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】LINK
- 【4】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今 第4回 見えない敵 (COVID-19) と戦い続けた1年間 笠原 昌江 (エクステンション課)

コロナ禍における「他者のために自己を磨き、活動の中で奮闘する」学生の育成

社会貢献センター (ボランティア支援室含む) は、創立者井上円了の理念である「他者のために自己を磨き、活動の中で奮闘する」学生の育成を目指し、事業を展開しています。

センターでは、まず4～5月に新入生向けに「ボランティア活動 初めの一步」となる企画を用意し、学生にとっての社会貢献活動のスタートとして位置づけています。その後も継続的にそして段階的に活動ができるような企画を実施し、活動の支援を続けています。学生達はこれらの多様な経験をすることにより、人間として一回り大きく成長します。人との出会いは、人生を変えることがあるともいわれていますが、活動を通じ学生は次第に他者のために自己を磨き、社会に貢献できる人材に育っていきます。

しかしながら、コロナ禍による今年1年間は、社会貢献活動の本質である現場での体験がほとんど行えませんでした。さらに、学生は授業において対面で集うことも困難となり、特に新入生にとっては学生間のつながりを築けないまま時間が経過し、孤独感を深めていく状況となりました。

このような状況下で、学生のために社会貢献センターとして何ができるのかをずっと考えていた時に、私は以前、井上円了リーダー哲学塾 (本学の授業で哲学を持ったリーダー育成を目的としている) の講義で学んだ「知覚動考は“ともかくうごこう”とも読める」ということを思い出しました。それ以降、社会貢献センター長、委員の先生方、ボランティアコーディネーターを中心として、被災地スタディーツアーやSDGsに関する講座などを実施し、オンラインで学生達とつながることを年間懸念に続けてきました。ボランティア支援室のオンライン事業は、授業とのコラボも含めると計50回以上となり、社会貢献活動が出来ない学生のためのオンライン相談窓口も開設しました。オンラインにはオンラインの良さがあり、これまでのやり方では繋がるのが難しかった他キャンパスの学生も各種企画に参加できるようになり、学生から「今後もオンライン企画を続けてほしい」といった声がかかるなど、新たな可能性につながりました。

Hands to Hands —みんなでのりこえるコロナ禍活動

ボランティア支援室では、「Hands to Hands —みんなでのりこえるコロナ禍活動—」として、食料品の寄贈を通じて「学生・教職員がみんなで助け合い、コロナ禍を乗り越える」活動を行いました。これはホームページ等を通じて支援物資を募り困っている学生に配るというのですが、全国各地の卒業生 (校友会等)、教職員、学生、保護者 (雨水会)、大学生協のほか、本学関係者以外の学外団体からも持参・宅配便で800件10,000点以上の支援物資が届けられました。これらの支援物資を受け取った学生に、感謝のメッセージを書いてもらいましたが、メッセージには、コロナの影響を大きく受けアルバイト等の減少から起こる経済的危機感や、「大学に来られない・外に出られない」という精神的危機感の両方が綴られている一方で、「今回の支援は経済的、精神的両方の支えとなり、感謝している」とのコメントも多く寄せられました。厳しい状況下でも、多くの人が東洋大生を支えているという「人と人との繋がりを感じる心温まる活動」になりました。詳しくは[こちら](#)

<https://www.toyo.ac.jp/social-partnership/csc/volunteer/foodbank/First-report/>



①ボランティア支援室様子



②「寄贈者からのメッセージ」
を貼り付けるボランティア学生



③他キャンパス学生用 梱包一式



④「受取者からのメッセージ」掲示

アフターコロナ・ウィズコロナの時代の社会貢献活動

この1年は、大学全体が、COVID-19という見えない敵と戦った、非常に厳しい1年でした。今後すぐにコロナが収束するとは考えられません。withコロナの日常を送りながら、どのように大学を動かしていくか、そして社会貢献活動をどのように再開していくかは、各大学とも非常に難しい問題だと思います。この1年間ステイホームを続けてきた学生を、再び活動の場へ呼び戻すことは至難の業です。今まで少しずつ活動を通じて培ったボランティアマインドが、スタート地点に戻ってしまったかもしれません。また、1からのスタートです。しかしながら、社会貢献センターは、学生達に大学生になった喜び、自分で考え行動することの重要性、そして多くの体験をすることで今まで見たことのない風景が広がることの楽しさを地道に伝えていきます。学生達が卒業して社会で活躍するとき、学生時代に培った社会貢献の意義を忘れず「誰一人取り残すことのない世界」を実現するために奮闘してくれることを願っています。

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

中央教育審議会「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」を取りまとめ（2021/01/26）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20210126.html

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

大学等における新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するための取組の徹底について（周知）（2021/01/29）

https://www.mext.go.jp/content/20210129-mxt_koukou01-000004520_01.pdf

令和元年度 大学等における産学連携等実施状況（2021/01/29）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/1413730_00010.htm

科学技術・学術政策研究所

「民間企業の研究活動に関する調査2020」（速報）公表（2021/01/29）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46590>

採用と大学教育の未来に関する産学協議会

採用と大学教育の未来に関する産学協議会ウェブサイト公開（2021/01/20）

<https://www.sangakukyogikai.org/>

大学入試センター

「令和3年度大学入学共通テスト（1月16日・17日）追試験の受験許可事由別の内訳人数」、「体調不良者の受験状況」及び「無症状の濃厚接触者の受験状況」（2021/01/27）

<https://www.dnc.ac.jp/albums/abm.php?f=abm00040208.pdf&n=%E8%BF%BD%E8%A9%A6%E3%83%BB%E4%BD%93%E8%AA%BF%E4%B8%8D%E8%89%AF%E3%83%BB%E6%BF%83%E5%8E%9A%E6%8E%A5%E8%A7%A6.pdf>

日本学術会議

日本学術会議幹事会声明「日本学術会議会員任命問題の解決を求めます」（2021/01/28）

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kanji/pdf25/siryos307-ninmei.pdf>

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）

・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）

・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【3】 LINK

◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）

◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）

◆高等教育関連図書のご案内

貸出申込フォーム

◆本ニュースレターへの投稿

【4】 あとがき

昨日から一般入試が始まりました。

コロナ禍で勉強に励んだ受験生と

4月に東洋大生として再会できることを楽しみに、

身の引き締まる思いで業務に取り組んでいます。

今日は節分。そして、明日は立春で、暦の上では春を迎えます。

まだ春とは名ばかりの風の寒さです。

時節柄、どうぞご自愛ください。

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRu9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.15, 通算第52号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年3月9日 Vol.3, No.15 (通算第52号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE
※レターをお読みになった後、ぜひ [読者アンケート](#) にご協力ください。
※mlfddsd@toyo.jpに代わり、mlfdjimu@toyo.jpからお送りしております。

- 【1】シリーズ5 | 大学運営の今
第5回 ICTを活用したコロナ対策とこれからのキャンパス運営 (渥美 元康)
- 【2】高等教育政策動向等
- 【3】LINK
- 【4】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今 第5回 ICTを活用したコロナ対策とこれからのキャンパス運営 渥美 元康 (赤羽台事務部赤羽台事務課)

ICT活用の基盤

私が仕事をしている情報連携学部、赤羽台キャンパスは、もともと、教員、学生、職員のいずれもがICTを活用して教育研究、学習、業務を進めていくことを前提として設計されています。そのため、今回の新型コロナウイルス感染症拡大によるオンラインへの移行は、比較的やりやすい環境だったと言えると思います。

オンライン講義については、学部が4月当初から主体的に方針やガイドラインを作り、教員同士で授業方法をブラッシュアップしたり、学生に向けたガイダンスや指導を実施していました。また、学生はひとり1台のPCを持っていることが前提なので、我々職員は、それらを支える環境整備のほか、PCやネットワーク環境が揃わない新入生の個別対応などが業務の中心でした。

業務についても、従来から、できるかぎり紙を使わないという方針で、Webを使った資料共有や、Slackを活用しての教職員のリアルタイムのやりとりなどをしていましたので、大きな混乱なくテレワークに移行することができたのではないかと考えています。

一方、その中で最も神経を使い、考え続けなければならなかったのは、コロナによってこれまでの日常が変わっていく中でも、いかに教育研究の質や、学生や教員への支援の質を低下させないか、また、これを契機に変革していけるかはどこなのか、ということでした。

オンラインでできること、できないこと

まずオンラインについて言えば、あらためて考えてみると、オンラインでもよいこと、もしくは、場所と時間が限定されづらいため、オンラインの方が合理的であることはたくさんありました。

例えば、学生の履修や成績の相談、キャリア相談や学生生活の相談、リメディアル教育の個別指導などは、対面のみで実施するよりも学生の利便性ははるかに向上しました。

また、オンラインが広く普及したことによって、在住地域を問わない父母への説明会や、学生と父母と大学との三者面談などが容易にできるようになりましたし、遠方の志願者への説明、相談対応や、推薦入試の合格者への学習指導もこれまでより簡単にできるようになりました。

さらに、企業と学生とを直接つなぐ説明会なども、授業と同じ仕組みを利用して実施できるようになりましたし、これまで企業や社会人向けに行っていたリカレント教育では、むしろオンラインの方が歓迎され、実績が伸びたケースもあります。

一方、オンラインのみでは対応できない部分もあります。学部としては、特にコンピュータ・サイエンスや数学の分野において学生の学習成果を適切に測定するためには、やはり対面での試験が必要不可欠だということになりましたし、語学教育や実験・実習、プレゼンテーションやディベート、卒業論文の指導などは、対面の方が効果的であるという声が教員から上がりました。

また、諸々の事情で、キャンパスでなければ学習することができない学生や、教職員と対面で相談できないかという学生もいました。

1回目の緊急事態宣言が明けてからは、そういった教育研究や学生のニーズに、いかにきめ細かく対応していけるかというところに専念しました。

学部では、試験の際に学生ひとりひとりの座席を指定し、入退構に必要なQRコードを一斉送信できるシステムや、授業期間中、各教員がその日に入構させる学生を前日までに登録し、登校者数の把握や実際の入退構と連動させて管理できるシステムなど、必要な仕組みをいくつも開発しました。

また我々も、登校する学生の健康管理について、体調不良や感染、濃厚接触などの状況を、各授業担当教員や医務室と共有する仕組みを作っ

たり、教室の座席を減らしたために複数会場となった各試験において、Slackを活用して、科目担当教員と試験監督者との連携や試験本部業務を非対面、リアルタイムで実施したり、密をさけるための時差退出などを行ったりしました。

これらのことは、学部主導でアジャイル方式（仕様→開発→テスト→運用のサイクルを細かく回し、システムの質を上げていく開発手法）で行ったため、状況が変わったり、新しい案件が発生したりするたびに協議をして、いろいろな仕組みややり方を考えたり、それをこまめに変えていく、そんな1年となりました。

これからのこと。学生たち

こうした1年の中で、一番大切にこころがけてきたのは、ただ対面をできるだけオンラインにし、キャンパスでの密を避けるというだけではなく、コロナ禍への対応の中に、高等教育機関として、学部の理念や教育方針、考え方などをどう織り込んでいくのかということでした。

ICTを駆使してこの状況にどう前向きに対応するのか、そこを考えていくというのはまさに情報連携学部の命題そのものですし、Webによって、学生や父母、教員とのコミュニケーションの機会は増え、直接話したり、意見を集めたりすることがやりやすくなりました。

また、日々刻々と変わる状況に、いかに迅速に、柔軟に対応することができるかというのも大きなポイントでした。業者を入れて、見積り合わせや業者選定、稟議、校正などのプロセスを経るやり方では、数か月かけてできあがった頃にはもう状況が変わっている可能性がありますし、その後のさらなる変化にも自分自身で臨機応変に対応することができません。

奇しくもコロナ禍によってICTを活用できる基盤が整ったのですから、学部の教育研究や学生のニーズにきめ細かく、リアルタイムに対応していけるように、身の回りにあるICTを自分で主体的に使うことで、短期間でコストをかけずに実施したり、不要な部分を捨ててコンパクトかつシンプルにしていくことができることを実感しました。

特にうれしかったのは、学生の中にも、積極的にICTを活用したり、自分たちで何ができるかを考え、実行する学生たちが出てきてくれたことです。

学部では、オンライン授業での質疑応答や理解度把握のため、Slackで授業ごとのチャンネルを作りましたが、そこでは、学生の質問に教員が答えるだけではなく、学生同士が教えあったり、意見を交わしたりしていたほか、実習や卒業研究のテーマに沿って、他の学生にアンケートを実施したり、自分たちが開発したアプリを紹介して感想を求めたりする学生もいました。

また、オンラインによる新入生歓迎イベントや大学祭も、サークルや実行委員会が中心となって、学生たちが主体的に実施しました。業者に委託するのではなく、プラットフォーム作りからコンテンツ作成、動画や映像の配信まで、すべて自分たちの手でゼロから作り上げていたもので、ときには失敗したり、スムーズにできないこともありましたが、そのつど改善や工夫を繰り返し、最後まで自分たちでやりぬいていました。

さらに、コロナ対策でも、学部で勉強したことを活かし、出身地の富山県や石川県で、自らオープンソースを活用し、「新型コロナウイルス感染症対策サイト」を制作、運営するような学生も出てきました。

もちろんこの1年の中で、至らなかつた点や、よりよい対応ができなかつた点も多数ありますが、この先、仮にコロナ禍が収まったとしても、ただ日常を元の形に戻していくのではなく、この貴重な経験を活かし、今後もICTをより積極的に活用して、業務改革や、教育研究や学生に目を向けたキャンパス運営を行っていく。そのことで、大学での専門分野を活かしてタフに活動できる学生を育て、大学の価値を高めていくことが、コロナ禍以降の大学にとって重要になってくるように感じています。

*

▼第4回INIAD-FES プレスリリース

「東洋大学情報連携学部にて独自のシステムを用いてオンライン学園祭を開催します！」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000068814.html>

▼富山県新型コロナウイルス感染症対策サイト

<https://stopcovid19-toyama.netlify.app/>

▼石川県新型コロナウイルス感染症対策サイト

<https://stopcovid19.pref.ishikawa.jp/>

▼「情報連携学部の学生が学びを生かし社会貢献。富山県公認の感染症対策サイトを制作・運営」『東洋大学報』第259号, p6.

https://www.toyo.ac.jp/-/media/Images/Toyo/about/gakuhou2/2020/259/No259_p04-07_ashx?la=ja-JP&hash=E66252E8B2A7BF3F7185D0E4E5DEE962E43D8A92

【2】高等教育政策動向等

文部科学省

COVID-19関連

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00016.html

▼前号以降に周知・依頼された情報

- ・ 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言に伴う留意事項等について（周知）（2021/02/05）
- ・ 「新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律」及び「新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備に関する政令」の公布について（周知）（2021/02/16）
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた2021年度卒業・修了予定者等の就職・採用活動に関する要請について（2021/02/19）
- ・ 大学等における感染対策の対応状況について（全体）（2021/02/26）
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針の変更等について（周知）（2021/03/01）
- ・ 令和3年度の大学等における授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策等に係る留意事項について（周知）（2021/03/04）

- ・ 経済的に困難な学生等に対するきめ細かな支援について（依頼）（2021/03/05）
- ・ 経済的に困難な学生を支援するための大学独自の支援事例（2021/03/05）

令和3年度入学者選抜について（2021/01/29）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1412102_00003.htm

若手の自由で挑戦的な研究を、最長10年間支援する「創発的研究支援事業」第1期生252名を採択（2021/02/02）

https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20210202.html

「法学未修者教育の充実について 第10期の議論のまとめ」公表（2021/02/03）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houka/1388525_00001.htm

（第10期）地域科学技術イノベーション・エコシステムの構築に向けた方策について（最終まとめ）（2021/02/03）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu16/010/houkoku/1414442_00001.htm

大学教育のデジタル化・イニシアティブ（スキームD）ピッチ・アクターの決定について（2021/02/05）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sankangaku/1422343_00004.htm

「教育と研究を両輪とする高等教育の在り方について～教育研究機能の高度化を支える教職員と組織マネジメント～」（審議まとめ）公表（2021/02/09）

大学分科会において取りまとめられました。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00002.html

「我が国の学術情報流通における課題への対応について」（審議まとめ）公表（2021/02/12）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu29/001/mext_00650.html

大学等における求人公募に係る申請手続きのオンライン化等の推進について（2021/02/12）

https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/mext_00021.html

魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の特例的な定員増について（2021/03/02）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00003.html

大学入学者選抜改革推進委託事業（平成31年～令和2年実施分）「電子調査書の普及と一般選抜においても電子調査書が効果的に評価できる環境整備及び調査書における評価の在り方の調査研究（調査書の電子化に関する調査研究）」公表（2021/03/05）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1397824_00001.htm

「スーパーグローバル大学創成支援事業」（平成26年度採択）の中間評価（第2回）公表（2021/03/05）

本学は、第2回中間評価において、前回の中間評価に続きA評価を受けました。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1401770_00002.htm

科学技術・学術政策研究所

「博士課程の教育プログラムへの満足度等に関する調査－2020年における博士人材データベース（JGRAD）ウェブアンケート調査－」公表（2021/02/12）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46670>

「プレプリントの利活用と認識に関する調査」公表（2021/02/12）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46661>

「特許発明の奨励は大学の基礎研究を阻害するのか？」公表（2021/02/16）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46645>

「論文・特許のテキストデータを使った科学と技術の連関分析」公表（2021/02/22）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46755>

「博士人材の年齢別人材流動モデルの構築と試行的な将来予測」公表（2021/02/26）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46806>

「新型コロナウイルス感染症等による日本の科学技術への影響と科学者・技術者の貢献－科学技術専門家ネットワークアンケートによる東日本大震災時との比較－」公表（2021/03/05）

<https://www.nistep.go.jp/archives/46824>

日本学生支援機構

「外国人留学生のための就活ガイド2022」（日本語版）刊行（2021/02/18）

https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/job/guide.html

内閣府

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合 開催（2021/03/04）

「世界と伍する研究大学専門調査会」が設置されます。
<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20210304.html>

日本学術会議

日本学術会議幹事会声明「新型コロナウイルス感染症対策の検討について」公表（2021/02/09）

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-kanji-2.pdf>

大学基準協会

大学評価及び短期大学認証評価に係る各種指針の一部変更について（2021/02/25）

https://www.juaa.or.jp/news/detail_729.html

私立大学情報教育協会

「コロナ禍の今だから確認しておきたい情報セキュリティ（リンク集）」掲載（2020/12/24）

<http://www.juce.jp/secslide/sem14.html>

機関誌「大学教育と情報」2020年度No.3 掲載（2021/01/28）

<http://www.juce.jp/LINK/journal/index.html>

日本経済団体連合会

「大学等が実施するリカレント教育に関するアンケート調査」結果報告 公表（2021/02/16）

<https://www.keidanren.or.jp/policy/2021/017.html?v=p>

QS Quacquarelli Symonds社

QS World University Rankings By Subject 2021公表（2021/03/03）

<https://www.topuniversities.com/subject-rankings/2021>

日本語での情報は、日本地区QSオフィシャルパートナーの株式会社KEIアドバンスによるプレスリリースをご覧ください。
「2021年版 科目別（研究分野別）QS世界大学ランキング - QS World University Ranking by Subject 2021-発表」
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000051856.html>

全国大学生生活協同組合連合会

第56回学生生活実態調査 概要報告 公表（2021/03/08）

https://www.univcoop.or.jp/news_2/news_detail_1847.html

リクルート進学総研

カレッジマネジメント Vol.227 Mar.-Apr. 2021「ニューノーマルの学生支援」刊行（2021/03/05）

http://souken.shingakunet.com/college_m/

就職みらい研究所

『就職白書2021』公表（2021/02/16）

https://data.recruitcareer.co.jp/white_paper_article/20210216001/

マイナビ

マイナビアスリートキャリア・UNIVAS「運動部学生の就職に関する意識調査」発表（2021/03/04）

https://www.mynavi.jp/news/2021/03/post_29976.html

「マイナビ2022年卒公務員イメージ調査」発表（2021/03/04）

https://www.mynavi.jp/news/2021/03/post_29955.html

「マイナビ2022年卒大学生広報活動開始前の活動調査」発表（2021/03/08）

https://www.mynavi.jp/news/2021/03/post_30003.html

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

[3] LINK

- ◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）
- ◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

[4] あとがき

3月になりました。例年ですと、卒業・入学シーズンということで、街の看板に、桜を彩ったものが目立つ時期でもありました。

2月下旬～3月上旬に開花する河津桜は、ちらほら花開く姿を見かけます。これからはニュースなどで、ソメイヨシノの開花宣言が報じられることでしょう。

少しずつ春の装いを感じ始めたころですが、すぐに4月以降のことを考えていかなければなりません。

2021年度は、2020年度の経験を活かした授業、留学、学生生活支援、キャリア支援を展開して、新入生または進級生に実りある大学生活を過ごしてほしいと願うばかりです。

これから開花する桜を見て、2020年度の耐え忍んだ日々を思い返し、また新たな心持ちで、2021年度を迎えたいと思います。

--

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjim@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

- ◆このメールは本学教職員にお届けしています。
- ◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。
ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。
- ◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

東洋大学高等教育推進センターニュースレター (Vol.3, No.16, 通算第53号)

東洋大学高等教育推進センターニュースレター 2021年3月23日 Vol.3, No.16 (通算第53号)

高等教育推進センターは、本学教職員に高等教育に関する情報を届けるため、メールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を本学全専任教職員にお送りしています。
※購読を中止する場合はメール末尾記載の手続きをお願いいたします。
※ニュースレターの発行趣旨、運用ガイドライン、バックナンバーは[こちら](#)※ToyoNet-ACE
※レターをお読みになった後、ぜひ [読者アンケート](#) にご協力ください。
※mlfddsd@toyo.jpに代わり、mlfdjimu@toyo.jpからお送りしております。

- 【1】シリーズ5 | 大学運営の今
第6回 コロナ禍における新たな国際交流の可能性 (八町 慶子)
- 【2】高等教育推進センターからのお知らせ
- 【3】高等教育政策動向等
- 【4】LINK
- 【5】あとがき

【1】シリーズ5 | 大学運営の今 第6回 コロナ禍における新たな国際交流の可能性 八町 慶子 (国際部国際課)

コロナ禍が留学に与えた影響

2020年の年始より中国国内で新型コロナウイルスの感染が拡大し、2月には中国へ交換留学中の学生に帰国勧告を行いました。その後、世界的に感染が急拡大し、3月中旬までにすべての国に留学中の学生に対して帰国勧告を行いました。それに加え、出発を控えていた学生を含めると計225名の学生の留学が中止となりました。

留学期間をあと少しで満了する学生、留学を開始したばかりの学生、数日後に出発予定であった学生がいる中で、本学の留学中止という判断に学生及び保護者からも様々な意見が寄せられ、その中には留学継続を望む声も少なくありませんでした。国際課および部局間留学を実施していた各課の担当職員は、安全第一とはいえ、学生がこれまでに留学準備に費やしてきた時間や努力を間近で見てただけに、留学中止の決定を通知するのは大変辛い対応であったと思います。

これまでも特定の地域の情勢悪化等により、大学が留学中止を決定したことはありましたが、これほど大規模かつ予測不能な状況を誰も経験したことがなく、留学中止に至るまでの判断は大変難しいものでした。外務省の感染症危険レベルを一つの目安としていましたが、あらゆる情報が錯綜する中で、必ずしもこの危険レベルが各国の最新状況を反映していたわけではなく、どのタイミングで帰国勧告を出すべきなのか迷う場面も多くありました。学生を海外へ派遣するにあたり、ガイドラインの見直し等、日頃から危機管理に備えることに加え、状況に応じて臨機応変に対応することの重要性を改めて実感しました。

本学の学生の海外派遣だけでなく、交換留学生の受入についても停止状態が続いています。日本国内での水際対策（検疫の強化や受入機関による入国後の健康管理等）も強化されたことから、2020年12月に本学での交換留学生受入のガイドラインを一部変更し、2021年度春学期からの交換留学生を受け入れる準備を進めてきましたが、年明けに発出された緊急事態宣言の延長により、受入ができなくなりました。これに伴い、希望する学生には本学での授業をオンラインで履修できるよう準備をしていますが、学生からは来日が叶わないことをとても残念がる多くの声が届いています。彼らも本学の学生と同じように、日本で勉強するために入念な準備をしてきたことを考えると非常に残念に感じています。

国際交流における今後の展望

コロナ禍によって、これまで定期的に行っていた留学による国際交流が停止し、その代替としてオンラインプログラムが急速に普及してきました。国際教育センターでも、国際学生ミーティングをはじめとした協定校の学生との交流プログラム等を実施しています。また春季休暇期間には、これまでに実施していた短期海外研修「[Diversity Voyage](#)」「[語学セミナー](#)」をオンラインで実施し、142名の学生が参加しました。

既存の渡航型プログラムをオンラインで実施することに対する不安はありましたが、参加学生のアンケート（※3月18日時点集計途中結果）によると、参加学生の80%以上の学生が「参加プログラムに満足した」「またオンラインプログラムに参加してみたい」と回答していることや、学生のコメントの節々から、海外と繋がることの喜びを読み取ることができました。実際の留学ができない状況においても、外国語能力の向上や異文化交流への意欲を持つ学生には一定の効果を得られたのではないかと感じています。一方、95%の学生が「今後実際に渡航する留学

プログラムに参加したい」と回答しており、オンラインプログラムは留学の代替とはならず、やはり渡航留学を1日でも早く再開させたいという思いも一層強まりました。

未だ物理的な往来は停止されていますが、オンラインプログラムは国際交流、国際教育における新たなプラットフォーム創出のチャンスであるとも捉えています。これまで留学を経済的、身体的、時間的な理由で断念せざるを得なかった学生も含め、より汎用性のあるオンラインでの教育機会を提供すると同時に、留学に行きたくても叶わない学生に対して、国際課職員として何ができるかを一丸となって考えていきたいと思っています。

【2】高等教育推進センターからのお知らせ

TOYO FD・SD Channel を開設しました

高等教育推進センターでは、体系的な研修プログラムの一環として、「東洋大学FD・SDチャンネル（TOYO FD・SD Channel）」を開設いたしました。お忙しいなかの10分間、息抜きも兼ねて、ご視聴いただければ大変うれしく思います。視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020



● ラインナップ

- 00【授業運営】オンラインを生かした授業をするための3つのポイント～FD・SDチャンネルの開設に寄せて～
- 01【授業運営】東洋大学における非対面授業の運営について
- 02【授業運営】非対面授業で留意すべき個人情報・プライバシー・肖像権
- 03【授業運営】オンラインでの初年次講義科目運営における工夫
- 04【授業運営】オンライン下での1年生の仲間づくりと基礎ゼミナール
- 05【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守①法令の理解
- 06【学生支援】障がい学生支援に関する法令遵守②理念の変遷・法令違反の効果
- 07【学生支援】大学における合理的配慮の理解
- 08【学生支援】大学における合理的配慮の実践
- 09【授業運営】Create an Online Class in 5 Easy Steps
- 10【授業運営】5 Tips for Teaching Online Language Classes
- 11【学生支援】様々なことに挑戦する原動力とは？（留学生×学長座談会）
- 12【授業運営】英語による授業運営のポイント
- 13【授業運営】スポーツ系実習科目での試みーエアロビクス指導法ー
- 14【ICT活用】リアルタイム授業をとめないWebex Meetingsの安定利用

● 今週公開予定

- ・【授業運営】オンライン授業設計のヒント～講義科目を例に～
- ・【授業運営】演習をとまなう理系科目のオンライン実施例
- ・【授業運営】これで安心！改正著作権法のポイント
- ・【ICT活用】これでわかる！東洋大学のLMSと授業サポート：「ToyoNet-ACE」とヘルプデスク

視聴はこちらから ▶https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_4999020

2020年度授業評価アンケートの結果表配布について

2020年度は非対面授業の実施により、従来と設問を大幅に変更して、授業評価アンケートを実施いたしました。そのため、アンケートの集計に時間をいただいておりますが、来週頃ToyoNet-ACEの「高等教育推進センター」コースを通じて、先生方に集計結果表を配布いたします。なお、学部別、学科別の集計については、例年通り各学部担当教務課にお送りいたしますので、各学部・学科のFD活動にご活用ください。

【3】高等教育政策動向等

文部科学省

「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」実施機関の決定（2021/3/11）

本学は、取組①「学修者本位の教育の実現」に採択されました。

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/sankangaku/1413155_00008.htm

参考リンク：「"大学教育DX"の採択校発表―トレンドは『個別最適化』『個別支援』」Between情報サイト（2021/3/17）

<http://between.shinken-ad.co.jp/univ/2021/03/DX-gakusyusya.html>

専門士・高度専門士の称号が付与できる課程の認定等（令和2年度）について（2021/3/12）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/senshuu/1412546_00003.htm

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）（2021/3/16）

参考資料が追加掲載されました。

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議 中間まとめ 公表（2021/3/17）

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/157/toushin/mext_00002.html

令和2年度大学等卒業予定者の就職内定状況調査（2月1日現在）公表（2021/3/19）

大学の就職内定率は89.5%（前年同期比2.8ポイント低下）。

このうち国公立大学の就職内定率は、92.3%（同1.2ポイント低下）、私立大学は、88.6%（同3.3ポイント低下）。

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/11/1422624_00005.htm

文化庁

「日本語教育の参照枠」二次報告 公表（2021/3/12）

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92882601.html

「新しい「公用文作成の要領」に向けて（報告）」公表（2021/3/12）

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92882602.html

「障害」の表記に関する国語分科会の考え方について 公表（2021/3/12）

https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/92882603.html

農林水産省

産学官連携による食品安全専門人材育成研究会「食品安全マネジメント基礎講座に係る標準的なカリキュラム」公表（2021/3/9）

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/koudou/jinzai_ikusei_1.html

日本私立大学連盟

「加盟大学財務状況の推移（平成12年度～令和元年度）」公表（2021/3/9）

https://www.shidaiaren.or.jp/topics_details/id=3110

国立大学協会

「国立大学法人におけるコストの「見える化」検討について（最終まとめ）」公表（2021/3/16）

<https://www.janu.jp/news/teigen/20210316-wnew-viscostssummary.html>

私学事業団

「補助金の配分基準等」が更新されました（2021/3/12）

https://www.shigaku.go.jp/s_haibunkijun.htm

「学校法人の経営改善等のためのハンドブック」が更新されました（2021/3/18）

https://www.shigaku.go.jp/s_center_menu.htm

「令和2年度 私立大学等経常費補助金交付状況の概要」が掲載されました（2021/3/19）

日本経済団体連合会

「Society 5.0時代の学びⅡ」公表（2021/3/16）

<http://www.keidanren.or.jp/policy/2021/027.html>

マイナビ

「マイナビ 2022年卒大学生のライフスタイル調査〈今の自分と未来編〉～就活生の今と、思い描く未来のイメージ～」を発表（2021/3/11）

https://www.mynavi.jp/news/2021/03/post_30111.html

「マイナビ2022年卒 企業新卒採用予定調査」を発表（2021/3/17）

https://www.mynavi.jp/news/2021/03/post_30211.html

◆「高等教育政策動向等一覧等」のアーカイブは[こちら](#)

※アーカイブでは、上記以外の教育関連全般の政策動向等もご紹介しています。

※閲覧は@toyo.jpのアカウントを持つ教職員に限定しています。

◆海外については、下記のwebサイトをご確認ください。

- ・高等教育質保証の海外動向発信サイト QA UPDATES（大学改革支援・学位授与機構）
- ・海外学術動向ポータルサイト（日本学術振興会）
- ・新型コロナウイルスをめぐる海外の大学団体等の特設ページ/新型コロナウイルスをめぐる海外大学等の動向（ニュース一覧）（広島大学 教授学習支援リエゾンセンター）

【4】 LINK

- ◆学外FD・SD研修会情報（随時更新中）
- ◆English Support Service（ESS）（オンラインで実施中）
- ◆高等教育関連図書のご案内
貸出申込フォーム
- ◆本ニュースレターへの投稿

【5】 あとがき

桜が満開を迎えるなか、本日、日本武道館にて学位記授与式・卒業式が挙行されました。

1年を振り返りますと、なんといっても新型コロナウイルス感染症との闘いに象徴された年でした。

学生は大学に来ることもままならず、異例のキャンパスライフを過ごすことを余儀なくされ、様々な想いのなかでこの日を迎えたことと思います。

我々教職員も、大学そのものの在り方や、学生の学びを止めないためにすべきことを自問自答する毎日だったように思います。

卒業生たちの晴れ姿を見て、「コロナ禍で得た経験を活かし、これまで以上に学生の声に耳を傾け、学生の成長を支えていきたい」と意を強くしました。

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業（修了）おめでとう！

*

高等教育推進委員会高等教育研究部会の角谷昌則（生命科学科）です。いつも当『ニュースレター』をご愛顧いただき、誠に有難うございます。

2018年9月の創刊以来この『ニュースレター』の制作に携わって参りましたが、本年度をもちまして高等教育推進委員会の任を離れることとなりました。これまで『ニュースレター』にさまざまな記事をご提供くださった教職員の皆さま、そして毎号の発行作業にご尽力されたスタッフの皆さまに厚く御礼申し上げます。

新年度からは新しい制作体制の下で、一層充実した紙面が展開されることでしょう。これからもご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

*

高等教育推進センターの運営委員会にあたる高等教育推進委員会も、来年度で第3期を迎えます。

角谷先生には、第1期から高等教育研究部会長として、委員会及び部会運営に大変ご尽力いただきました。

このニュースレターは、角谷先生のもと部会で1年弱検討を重ね、ゼロからつくりあげられたものです。

この場をお借りして、ニュースレターを築いてくださった角谷先生に、事務局一同、心よりお礼を申し上げます。

*

●みなさまの声をお寄せください

レターをお読みになった後、ぜひ読者アンケートにご協力ください。

最短10秒で回答が完了します。

リンク：<https://forms.gle/rqXRU9X7R7xx3DMM9>

企画

高等教育推進センター

高等教育研究部会

発行元

東洋大学 高等教育推進センター

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

E-mail: mlfdjimu@toyo.jp

HP: <http://www.toyo.ac.jp/site/fd/>

ToyoNet-ACE: https://www.ace.toyo.ac.jp/ct/course_1263429

◆このメールは本学教職員にお届けしています。

◆このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。

ご返信いただいてもお答えできませんのでご了承ください。

◆このメールの再配信、および掲載された記事の無断転載を禁じます。

© 2018-2021 東洋大学高等教育推進センター

東洋大学 FD・SD 活動報告書（2020 年度）

発 行 東洋大学高等教育推進センター

発行日 2021 年 4 月

編 集 東洋大学高等教育推進支援室

〒112-8606

東京都文京区白山 2-28-20

TEL: 03-3945-7253 / FAX: 03-3945-7238

Mail: mlfdjimu@toyo.jp